云。(巷說云。沒レ水者不レ知二其數一。今度數千人死。上古猶不レ聞云々。)言語道斷之次第也。抑敗軍之子細者。赤松與レ堺二合二同意一。浦上掃部頭依レ爲二親敵一。此次可レ擊之由計之處。已以露顯。仍軍中不レ調之處。今日從レ堺四國衆攻來。赤松其外明石等從二陣中一直棚切懸之間。常桓。浦上等雖レ爲二數千人一。敗北了云々。赤松心中不定之由。世皆稱レ之云々。八千人許死去。於レ堺實檢首五百云々。午後風聞云。播州之儀。常桓敗軍。已落居云々。言語道斷之儀也。於二今度一者可レ遂二本意一條。無二其疑一之處。赤松與レ堺同意。仍不日如レ此敗北云々。天下彌無二可レ賴事一。不レ足レ言事也。

伊勢系圖云。貞能。伊勢守貞陸三子。貞俊養子。又七。七郎右衛門。享祿四六四於二天王寺合戰一討死。

細川兩家記云。六月四日に三好方初て諸勢打出。天王寺。木津。今宮へとりかけ其日責くづす。常桓方和泉守護殿。伊丹兵庫助國扶。河原林日向守。藥師寺三郎左衛門。波々伯部兵庫助討死也。此外中島の野里川へ入て死する也。同播磨衆に浦上掃部。島村彈正初て三百餘人討死也。此外五千餘人野里川へ入て水におぼれて死也。以上七千餘人死するといふ也。誠に〳〵川を死人にてうめてあたかも塚のごとく見ゆる。むかしも今も末代もかゝるためしはよもあらじと人々申也。

足利季世記云。享祿四年六月四日三好方の諸勢打出。天王寺。木津。今宮へ取カゝケル。高國衆モ爰ヲ先途ト防ケルニ。一番勢浦上小勢故カケマケ。浦上掃部助打死ス。同手ノ島村彈正ハ無念ナリトテ。敵ト引組テ野里川ニ飛入テ死ケルカ。其淵ヨリ武者ノ顏甲ニアル蟹出來テ今有リ。所ノモノハ島村蟹ト是ヲ云。

赤松記云。かくて浦上三ヶ國の勢を催し。享祿三年常桓の御供申。既に攝津國多聲山をはじめ。伊丹の城其外攻おとして悉くしたがへ。直にみやこへはのぼらず候て。阿波衆へ取向天王寺へ陣を取。然る所に御屋形樣内々阿波衆より内通ある。此時親の敵浦上を御うちあるべき調略にて。堺へ人質を取出事相濟。後卷可レ被レ成に定まり。面むきは浦上に御見つぎのために御上りと披露し。明石修理亮先陣にて御出張あり。浦上陣には國衆も浦上も屋形の御上りに力を得。滿足無二申計一候。然るに御屋形御心替にて阿波方に御合力と雜說有。諸陣以の外さはぎ噪無二是非一候。屋形の御陣は四の宮六大寺と申寺にて候。浦上衆切かゝり來ると雜說あり。とかく六大寺に御座候ては。一日も御抱難レ被レ成候とて。俄に神尾の寺へ陣替。然れども浦上は先出仕申候て樣躰を爲レ奉レ見。一身にて御禮に參候。互の用心不レ及レ申候。然れども色に不レ出。常のごとく出仕し。扨我陣へ歸り候。天王寺いよ〳〵騷ぎむざと陣衆崩。大坂の前渡邊のわたりにて船をのり沈め。又に橋より落。馬に乘ながらむざと川に乘入〳〵しづみ果候。たま〳〵殘しもの。又野里のわたりにて悉入水しうたれ候。浦上も渡邊河にて沈み果ける。又浦上六郎左衛門。同内藏助兩人は。先の日より尼崎へ陣をあらためて居。是は跡よりの御加勢破れ候間。御屋形へ降參いたし成歸るべきとて。神の尾下武庫川迄打出候。則御馬廻り衆。同明石修理かけ合。武庫河原にて打果候。享祿四年六月四日浦上滅亡候。屋形は則御歸陣被レ成。阿賀の道場に御座候。

興福寺略年代記云。享祿四年辛卯從二寅年一攝州數度有二合戰一。卯六月四日天王寺陣破了。子細者。浦上掃部助悉皆常桓取立出陣也。然ニ浦上ハ赤松親ヲ生害サセ申ノ間親ノ敵也。於レ國雖二調法一不レ成間。以レ次西國衆申合ウラガヘリ畢。然間不レ及二合戰一陣破了。赤松二郎ハ四宮ニ陣取。六千人許。浦上常桓衆生害云々。渡邊ノ川ヘ皆以落入了。頭ハ堺ニ八百許有レ之云々。常桓尼崎京屋ト云所ニ忍テ有二御座一。三好山城打入率二生捕一。同八日卯刻御腹被レ召了。御辭世歌御發句アリ。其外伊勢又七。和泉守護以下皆以討死。浦上ハ舟ニテ退ト云云。雖レ然川ニ入死去云々。

大日本傳皇代記云。享祿四年六月四日。浦上殿。其外備前。美作衆。攝州サノヂト河一万餘討死。同八日細川高國於二尼崎一御生害。

五日。丁亥浦上氏族被レ誅。

細川兩家記云。落行勢共。いまだ尼崎にあるよし風聞なれば。三好山城守同あくる五日に迫かけ申けるに。浦上同名内藏助。同六郎左衛門生瀨口へ落行所を。赤松殿御馬廻衆波合候て腹切られける。其外ちり〳〵に成行也。赤松殿年來の御本意とて御歸國也。

六日。戊子東山新城自燒。

二水記云。巳半刻。阿野少將可レ登二勝軍一也。仍暇乞了。河崎邊馳過之程足輕衆已以出張。聖護院。岡崎等在家燒レ之。吉田其外近邊村々早以燒之。阿野少將恐怖此事也。然而無事登山云々。午前。東山新城(蓮武田城也。近日近江衆新構レ之。數千間懸二小屋一了。)已以燒之。此後勝軍悉以燒拂之。各從二山道一沒落云々。言語同斷不可說之躰也。

八日。庚寅細川常桓入道於二尼崎一自殺。

二水記云。常桓今暁於二尼崎京屋一切腹云々。不便。言語道斷之儀也。運命至極之故歟。只一人切腹。被官一人無レ之云々。無念之次第歟。三好山城守令二勢妙一云々。一日一夜及二酒宴。常桓進退貴賤令二褒美一云々。腹十文字切レ之。强性奇特之由褒二美之一云々。可レ惜可レ哀。今度常桓心中□□更以非レ爲二逆□願望一。只寺社本所領如レ形可申□□爲二大願一云々。末世武

士此心中。誠以難レ有之事也。雖レ然神明佛陀不レ得二冥助一。是併運命之所レ盤也。公家門跡又可二斷絶一之基哉。可レ嘆可レ嘲。當年四十八歳也。年齡尚以可レ惜云々。浦上播部頭運分遁二武畧一之處。如レ斯不思議出來。是又不便之題目也。入水死去云云。多分爲二實説一歟。尚以不便之事也。島村令二討死一云々。

（子者討死。親者沒レ水云々。）

細川系圖云。高國。六郎。右京大夫。武藏守。法名道永。後改二常桓一。道號松岳。三友院。實民部少輔政春子也。政元養レ之。任二管領一。後剃髮。享祿四年六月八日與二其族晴元一於二攝州天王寺一合戰。高國敗北。於二尼崎一自害。

細川兩家記云。然に常桓何方へも落行給はずして。尼崎町京屋に忍て御座有る。三好山城守へ人告申ければ。則取籠境へ注進申ければ。早々御腹めさせ候へとの御返事ありければ。同六月八日寅刻に。尼崎大物の內廣德寺にて御腹めされけり。方々へ御歌共遊ばし遣はされける。

なしといひ又ありといふ冒の葉や法の眞の心成らん。

（道樂）大道物（御所樂）今一度と思ひこしあらましは只いたづらにこそ。

（能登の姉上へ）給に寫し石を作りし海山を後の迄もめかれずぞ見ん。

（現世者へ）此浦の波より高くうき名のみ世々に絶せずゆぬべき哉。

（京極へ）世中に迷ふてふ事なきものを迷ひといへる冒の葉は何。

夕立の空だのめなるやどりかな。

後に宗碩百韻獨吟有。此御短册は住持と山城守を召出て。種種御物語ども候て。是を相屆候てたび候へと仰られ。其後御行水有て御腹めされける。山城守を初めて皆々涙をながしけるなり。其後御うたども。山城守よりかたく〳〵へ屆申さるる也。常桓かやうに御なりの上は。細川の御家は一かたに納りたるやうに。上下諸人おもひ申候處に。末世のしるし覽のわざにてやありけむ。晴元御前衆可竹軒。三好神五郎。木澤左京亮相談して。三好筑前守元長事晴元へより〳〵あしく申さるゝと也。然ば元長御勘氣かうぶる也。然といへども。讃州御等閑なき間ぐるしからず。

東寺過去帳云。細川右京大夫入道常桓。享祿四年六月八日。於二尼崎道場一被二切腹一了。四十八才。

足利季世記云。高國先年ハ毎度江州へ下リ。佐々木ヲ頼ミ逃ヲ開キ玉フ。今度ハ京ノ六郎元ハ佐々木殿ノ聟ニケイヤクハ其儀モナシ。佐々木殿ニモ背カレ玉フ故ニ。カク亡ビ玉フトゾ聞エシ。御年今年四十八歳トカヤ。弓馬ノ禮法ヲ亂サレ。萬絶タル跡ヲ興シ。スタレタル道ヲ尋玉ヒ。和歌ノ奥儀ヲ知リ玉ヘバ。公家武家トモニ惜ミ申ス。中ニモ慈悲深シテ物ニ感シ。上下ヲキラハズ賞翫アル事多シ。今度攝州ヘヒソカニ落玉セシ時。人丸ノ塚ヲ尋玉ヘバ。アル土民承リテ。



ホノ〴〵ト明石ノ浦ノ朝霧ト詠メシ人ハ此塚ノ中

ト申シケレバ。才覺アリトテ。御太刀白ザヤ卷ヲタビ召仕レケリ。カノ土民忝ト申。頓テ一族催シアマタ御供申。今度合戰打死シケルト聞エシ。

追悼集云。享祿四年辛卯六月初八日。前右京兆桓公大禪定門於二津陽尼崎之光德精廬一附木。人衆憂レク。特吾公渡州大守粗奏追悼之餘。就二于當院一。進二轉淨財一營二辨供佛一。齋僧之儀一七日。其山野永正庚辰來命。董二京城大心之席一。知十歳。于レ朝于レ暮。環筵座レ花。羽觴醉レ月。其會盟也。今遂爲二香火緣一。于レ茲桓公臨レ憂。有二一首之詠歌一。可レ謂二武門達士一矣。正當今日。至二散筵一。叩依レ知レ之。唱二擧一句一。其辭云。

景堂

正當二六月一去何レ之。桑字年華倏忽移。道レ有道レ無端的底。黃頭碧眼不二會知一。

明叔

沒後生前人仰レ之。丈夫意氣不レ能レ移。千年一遇韓京兆。吟佛才名天下知。

廿九日。辛亥彗星出現。

二水記云。此三四日。彗星出二現于丑方一。其光五尺許云々。占文。天子御慎以外也。又大兵亂云々。今度數千人打死。落居之處。又何事哉。恐怖此事也。

皇年代略記云。同六月廿九。彗星出二現于艮一。

公卿補任云。六月廿七日ヨリ彗星出現。（寅方。後乾方。數日。）

七月小

十八日。庚年於二關東一。古河左馬頭政氏卒。

關東管領記云。四年七月十八日。前古河御所源政氏朝臣御病惱頻ニ起リ。夜ニ入御逝去。葬送ノ後。御諡號甘棠院殿。

古河系圖云。政氏。從四位下。左馬頭。號二甘棠院道山吉長一。享祿四年七月十八日逝去。

廿四日。丙子細川右馬頭尹賢於二攝州一自殺。

二水記云。風聞。今晚右馬頭於二攝州之渡一生害云々。木澤兼打取云々。不便之事也。

細川系圖云。尹賢。右馬助政賢子。右馬頭。法名光公。號二江月桂芳院一。實安房守之甥也。娶二政國孫女一爲レ妻。以レ故繼二政賢家督一。列二公方末座一。賜レ食。某年七月廿四日於二河內國平堅一自殺。

八月大

廿日。辛丑細川晴元出二張攝州中島一。

細川兩家記云。木澤左京亮我主の總州を背申ければ。また總州は曲事と思召諸勢催され。木澤城飯盛攻させられけるに。

三好遠江守へ合力に參りければ。飯盛城難儀におよび候處に。細川の晴元は木澤をひいきあり。同八月廿日に可竹軒など談合あり。攝津國中島三寶寺迄御馬をよせられければ。飯盛のよせ衆散々に成也。百人計討死する也。既に總州は御あれむこ也。三好は數代御内人。殊に度々の忠節をいたづらになされ。今參りの木澤をかやうに思召ける事只事ならず。三寶寺より富田庄へ御上洛候處を。讃州より色〳〵押留られて堺へ御歸候也。然ば國中靜ならず。

二水記廿二日條云。堺衆六郎與三彦九郎二兩方相分互籠城。可レ及二大變一云々。奇異也。此元來三好木澤依二不安事一起云々。

是月。將軍家移二座長光寺一。

長享年後記内兵亂記云。八月。相公至二長光寺一下向。

九月小

二日。癸丑此日。於二關東一。上杉憲政代二同氏憲廣一爲二管領一。

喜連川判鑑云。九月二日。山内上杉四郎憲政憲廣二代テ管領職トナル。憲廣晴直ト改ラル。宮原ノ祖ナリ。

十月大

廿日。庚子依二賀茂社領事一。給二御書於彼社人一。○此頃。於二播州一。有二浦上族蜂起風聞一。

古文書畝

山城國賀茂社領境内所々散在地事。任二代々之下知旨一。仍領掌不レ可レ可二相違一狀如レ件。

享祿四年十月廿日　御判

當社氏人中

二水記云。聞。幡州浦上蜂起。赤松已以令二沒落一。及二難儀一。今度之因果案之内也。

十一月大

廿四日。甲戌於二東寺一。有二近年戰死廻向一。

東寺過去帳云。四年十一月廿四日。當年諸國在々所々合戰時。討死死亡等不レ知二其數一。依レ之發□□爲レ回二合彼亡靈一。今日別而(結衆私願。)被レ執二行一座講演一。有緣無緣法界衆生被レ訪了。○又云。當年(——四辛卯。)中於二諸國(山城。丹波。加賀。和泉。河内。攝津。播磨。備前。美作。越中。)在々所々。細川方赤松方合戰時死亡。其外土民等(一向衆。)討死軍衆不レ知二幾千万數一。依レ之爲レ被二廻向一入レ之。凡於二攝津國兵庫尼崎天王寺一死亡輩。浦上播部助。島村以下。沒レ河衆一万餘人云々。



# 後鑑卷之二百九十八

義晴將軍記第十二起二天文元年正月一訖二十二月一

天文元年壬辰七月改元

正月大

十五日。甲子月蝕。

御湯殿上日記云。月蝕にて御所つゝみあり。

十九日。戊辰西岡放火。

二水記云。後聞。三好今日西岡邊放火云々。

廿日。己巳兩軍矢合。

二水記云。午刻。三好徒黨出張。一原勢已以陣二革堂一云々。仍爲二見物一密々馳二走下京一。柳本城攻レ之。三好山城等群勢。從二四方一攻レ之云々。雜レ然無二指合戰一。今日且矢合云々。少時引退了。

廿二日。辛未三好山城守一秀陷二三條城一。

二水記云。早旦。下京時聲及二數度一了。風聞云。急速合戰。諸口同時攻入。隨分雖二防戰一。四國衆多勢也。仍即時攻破。柳本打死。木島等以下悉以死云々。纔一時之間落居。希有之事也。四國强勢可レ恐々々。三好然訴事破。柳本彈正於二洛中洛外一無念之次第有レ之。已當柳木神二郎者。彈正息(四十五歟。)代也。十九歳云々。是又不便之事也。武士之身有二何樂一哉。

細川兩家記云。三好山城守一秀大將にて。逸見。市原。森飛驒。鹽田若狹等都合三千餘騎にて京へ上り。柳本甚次郎三條に楯籠也。前のいらんにより。享祿五年壬辰正月廿二日早朝に押寄。柳本甚次郎。同内の木島以下腹きりぬ。此外五十人計討死なり。これしかしながら伊丹彌三郎方とぶらいのためと申也。

廿三日。壬申三好元長切レ髻。以謝二細川晴元一。

二水記云。風聞云。三好筑前守於レ堺生害云々。仍京中衆馳下。昨今之間今又一變。奇異事也云々。後聞。生害之事不レ然也。細川六郎依二柳本生害之儀一。令二折檻一之間。讃州。彦九郎爲二成敗一切二木島一。其外被官人八十人許同切レ之云々。堺儀毋事不調之躰也。

足利季世記云。右京太夫晴元ト三好筑前守元長主從ノ間。讒言ノ者アリ其中惡クナリ。元長ハ畠山上總介義宣。丹波ノ波多野。大和衆ト申通シ堺南庄ニ楯籠ル。サヽナガラ晴元ヘ申ソケノ爲ニ出家シテ法名海運ト號シ。代々晴元ヘ忠功。今又アヤマリナキ旨。晴元ノ弟讃岐守ヲ以テ申ソケアリテ。切リ玉フモトドリテモ惜シ玉ヘバ。晴元ニ讒者アマタアリ。更ニ實モト思ハルヽ事モナカリケレバ云々。

二月大

三月小

三日。壬子細川讃岐守持隆下ニ向阿波。

二水記十三日條云。巻脱云。堺事讃州與二六郎一義絶。仍下國。然間三好進退如何。多分可レ及二取合一云々。奇異爲レ体也。細川兩家記云。讃州も御屋形へ御述懐あつて。同三月三日に河波へ御下國なり。然ば物云ひ取しきり。堺の大小路の木戸共指て。双方かよひなかりけり。

六日。乙卯連歌師宗長歿。

大德寺過去帳云。久雅宗長庵主。(連歌師宗長。享祿五壬辰三月六日。)

實隆公記廿四日條云。宗長去六日入滅之由。商人等申レ之云云。

梅庵古雅傳云。宗長法師能二連歌一。宗祇門弟。號二柴屋一。詠草曰。駿州人。島田云處也。入二新筑波一。一名宗春。

十九日。戊辰伏見邦高親王薨。

公卿補任云。三月十九日入道式部宮邦高親王薨給。

廿三日。壬申依二聖誕辰一献二物内裡一。

御湯殿上日記云。けふの御たん生日に。御くわんじゆどもまいる。いつも武家より參る。まなどもかいかう物ともに。てんそう申つけて。けふより五十兩餘りまいる。

四月大

四日。壬午内裡懺法自二此日一始。

御湯殿上日記云。御せんぼうかうはじまる云々。○六日條云。けふはまた昨日におなじ。又このたびは世もまだしづかならず。武家ぶけもなきによりて御けいこもなし。山ぐにの物どもはいかたの物どもにおほせられて。れき〳〵とまいりて御けいこを申されども。いさゝかの物そうなる事もなくてめてたし〳〵。

五月小

十九日。丁卯從二此日一畠山上總介義宣攻二飯盛城一。

細川兩家記云。五月十九日より總州諸勢催候て。木澤城飯盛をまた攻させられける。又三好遠江守合力に打立。大和國主も立て責られければ。既にはや城難儀に及候間。木澤左京亮可竹軒談合にて屋形へ申され。晴元より山科光教寺を御頼ありければ同心あり。則振州大坂へ下向有。近國の門徒へ相觸させられければ。三万計馳集る也。

廿一日。己巳此日。於二關東一。千葉介勝胤卒。

千葉系圖云。勝胤。千葉介孝胤子。千葉介。享祿五年五月廿一日卒。六十三。法名常哉。其阿彌陀佛。有二三家老一。原。鳴矢木。木内也。

此月。於二鎭西一。探題澁川滿長與二少貳資元一約盟。以謀二大内義隆一。

鎭西要略云。天文元年大内介義隆管二領山陰山陽兩道十餘州一。且欲レ幷二領九州一。而先靡二筑紫侯伯一。儲二來聘一也有レ年。大友修理太夫義鑑嗣二豐府之嫡統一。領二四箇國一。於二鎭西一振レ威。與二義隆一相義絶。少貳肥前守資元固親レ與二大友一同心。探題澁川右衛門尉滿長使二坊所刑部少輔聘一於少貳館一。資元許レ之。與二探題一會盟。五月也。

六月小

五日。壬午本願寺上人光教遁二去攝州一。（雜說）

御湯殿上日記云。けふ山しなの本願寺。世にざうせつあるとてつのくにのかたへいぬる。うつゝなし〳〵。

十五日。壬辰畠山勢解二飯盛圍一。高屋城落居。

細川兩家記云。六月十五日に先々飯盛の後卷有ければ。寄手の河内衆。大和衆ちり〳〵に成にける。總州方宮田を初て數人討死之。三好遠江守兄弟耶等以下討死す。以上二百餘人死之といふ。同日則高屋城へ取懸ければ此城も落る之。總州は石川の道場へ御のきあり。忍て御座候を尋申。御腹めさせたり。あはれなる次第共之。

二條寺主家記云。六月十五日。河州土一揆蜂起。

十七日。甲午畠山上總介義宣自殺。

東寺過去帳云。畠山右衛門督。享祿五(壬辰)六月生害了。

二條寺主家記云。十七日。畠山義高御自害。

廿日。丁酉三好筑前守元長自殺。義維主令レ移二四條道場一。

細川兩家記云。三好方へとりかけられべきにて候へば。同十九日の夕に元長我女中を呼出申されけるは。今度合戰に腹をきるべき事一定なれば。御身は嫡子千熊丸をつれ候て。阿波へ下らせ給ひて。爰許のありさまども讃州へ申させ給へ。もしこゝもとめて度ば。明年の春の比かならずむかひ下申べし。とく〳〵舟へのり給へ。いとま申てさらばとて踏らせ給へば。夜はほの〴〵と明にけり。然ば廿日に成也。和泉。河内。津の國。三か所の一揆はせ集り。十万計にて筑前守陣所南庄へ取懸たり。たのまれたる南庄より諸勢引入ければ。合戰にも及ばずこゝにては腹を切。かしこにては討死するほどに。筑前守大寺にてはいかゞと。顯本寺へ取こもられける。又御所樣も四條の寺より顯本寺へ御成ありけれ共。四方

より攻入ほどに。筑前守を初て同名山城守。鹽田若狭守。同息二人。加波丹波守父子。此外諸侍共廿餘人腹切ぬ。又御所侍上杉方初て八人腹きりぬ。凡討死七十餘人之。一揆も三十餘人討死する之。既に御所樣も御腹めさるゝ處に。晴元より人を遣はされ刀をうばひとる。前に御座候つる四條の道場へうつし申されける之。抑晴元より筑前守を失はるゝ事は。尾張國長田のぜんじやうが引事に申つる命之爲にことならずと。人々申ける之。

二條寺主家記云。十九日。三好筑前於二和泉堺一生害。

阿州三好系圖云。元長。薩摩守。父號二孫長一。執權五年。永祿五年五月二十日於二和泉國堺顯本寺一自害。法雲菩室。

## 七月大

### 十二日。戊午 從二將軍家一。被レ奏二改元事於內裡一。

御湯殿上日記云。あふみのぶけよりかいげんの事左中辨して申さるゝ。いまのおりふしさんしのかたゝくおほしめしながら。まづおほせつけらるべきよし御へんの事申さるゝ。

### 十七日。癸亥 南都興福寺炎上。

二水記云。風聞云。南都興福寺爲二一揆一回祿云々。後聞。奈良一揆令二蜂起一。興福寺中悉以放火了。但伽藍其外兩門跡。又十ケ所許無事也。其餘僧坊院家。百家一日燒亡。言語道斷云々。

公卿補任云。七月十七日。南都興福寺坊中以下悉滅亡。一揆所作也云々。周章々々。但伽藍共無難。

二條寺主家記云。十日曉。奈良中一揆令二蜂起一。寺僧悉以沒落。早朝。菩提院方。惠心院。阿彌陀院以下燒拂了。十七日未刻。寺中燒失悉以燒了。觀音院。清淨院。南角院。瓦坊者殘置壞取了。三藏以下切破。一切經并法事道具。悉以取散。一時頓滅。同春日社へ込入。藏并五ケ屋以下悉打破。神物皆取。其外闕立社家住屋破却了。前代未聞也。寺僧兩人殺云々。雖レ然伽藍ハ無二燒失一。此段歎之中之悅也。

### 廿九日。乙亥 改二元天文一。

二水記云。今日改元定也。(依二連年兵亂一。爲二江州武家一被二申請一。公人下行等被二仰付一了。)仰云。改二享祿五年一爲二天文元年一。任レ例令レ作二詔書一。

御湯殿上日記云。廿九日改元あり。上卿帥大納言。三條大納言。宵大納言。宵中納言。新宰相中將也。奉行左中辨。關白も御祇候也。天文さしたる難なきにつきて定らる。

## 八月小

### 二日。戊寅 細川晴元與二本願寺門徒一合戰。

二水記三日條云。巷說云。本願寺與二六郎一此間不快。昨日已以卒二諸軍勢一回レ堺。雖レ然六郎方理運之合戰也。一揆數百人打死云々。去月六郎爲二合力一。三好一黨悉以追討。今日又與二六郎一相戰。不定世界。天魔之所爲也。凡於二所々一一揆打死云云。雖レ然諸國充滿之衆也。仍不滅猶及二合戰一云々。如二風聞一者。天下可レ爲二一揆之世一云々。漸如レ然歟。末世之爲レ躰可レ嘆。

### 四日。庚辰 木澤左京亮長政討二散一揆一。

足利季世記云。八月改元有テ天文ニ移ル。此年一揆起リテ晴元衆ト本願寺門徒等ト中アシクナリ。同八月四日晴元衆ト木澤左京亮衆ヘ。一揆方ヨリ路次ニテ喧花シカケ。合戰ニ及ベントス。依レ之則其日ニ堺ノ東淺香ノ道場ト云門徒寺ヲ初メテ近鄕放火スル。門徒衆大ニイカリ。大和。河內。和泉。攝津一揆ヲカタラヒ蜂起シ。明ル五日堺ヘ押寄晴元ヲ攻ケルヲ。木澤左京亮長政何程ノ事ノ有ベキトテ自身切テ出狼藉ナリ。雜人バラアマスマシト防戰ヒ。散々ニケチラシケレバ。一揆共打負。蛛ノ子ヲ散スヤウニ。十方ヘ引退ク。手合ノ軍ニ打勝テ。木澤ハ氣色バウテ歸リケレドモ。所々ノ一揆蜂起シテ。晴元ノ雜儀ニ及ビケリ。同日攝州ニ一揆オコリ。池田ノ城ヘ取カケ責ケレドモ。不レ叶シテアツカヒヲ成テ歸陣スル。

祇園執行日記云。堺ニテ聰明殿本願寺ト取合レ候テ。アマタ一揆ウタレ候由。

### 七日。癸未 僧徒蠭起。

二水記云。六條本國寺。今日柳本徒黨。其外京中町人等相卒打廻有レ之。其勢三四千人云々。惣別爲二一向衆一。今度法華衆可二發向一之由有二風聞一。仍本國寺用害馳走。奇異事也。○十日條云。堺合戰。多分一向宗敗軍云々。○十一日條云。洛外一向黨悉以燒拂云々。○十五日條云。早朝本願寺衆出張。清水寺。清閑寺山上燒レ籠。五條邊茶屋一兩屋燒レ之。暫而引歸云々。

祇園執行日記云。七日。山村京ノ上下ノ一揆ヲ引具メ打マハリシ候。○九日。山科破二滋野殿ノ御ウヘ保津ヨリ此方御落候トテ罷候。御座ハ山本二郎四郎所ニ御入候。○十日。今夜奈良夜中ノ前ヨリ今日一日燒ケ候。今日。山村打マハリシ候テ。所々ノ一向門徒ノ寺ヲヤキ候。又山科ノ中モ打マハリシ候由。○十二日。下京上京ノ日蓮宗野伏共打マハリ心ニ勢道イシ。野伏頓テ引候。

### 九日。丙酉 南都燒亡。

興福寺略年代記云。八月九日寺僧衆出張。一揆皆以日中ヨリ落失了。奈良不レ殘二一宇一。被二燒拂一了。高畠許殘了。

皇年代略記云。天文元八九。南都民屋若干燒亡。

### 十六日。壬辰 一向僧徒與二法華僧徒一合戰。

二水記云。早旦。又本願寺衆打出如二昨日一。今日及二合戰一。京勢一万人許云々。本願寺衆四五千歟。京勢多分法華衆云々。有レ興事共也。於二鹿谷一。一向衆數輩打死。敗北了。午時。京勢打歸了。京中爲二恐怖一事。且安堵也。後聞。本願寺衆隨分之者打死了。上下百餘人云々。○十九日條云。後聞。今日一向衆出張。於二西岡一塞レ之。京勢少々合力及二合戰一。一揆衆又敗軍。數百人打死。多分又入水死云々。於二所々一諸國打死。無益之興行也。

祇園執行日記云。十六日。山科ヨリ將軍塚マデ足輕カケ。又狼炬アゲ候。○十七日。山科ヨリ東山ヲ打マハリシ候處。彼ノ京ノ者共懸付候テ。花山ノ上ニテ軍候處。山科ノ一向宗共崩候テ。百二三十人討死候由。シカ〳〵不レ知候。都ノ方ハ無二沙汰一候間不レ知候。

廿三日。己亥　京勢發二向山科一。○大和越智勢與二一揆一合戰。

二水記云。今朝。京中諸勢馳集。可レ發二向山科本願寺一云々。從二江州一同合レ手。京勢三四萬人云々。多分法華衆云々。武士之衆小勢也。則圍二本願寺四方一。有二矢軍一。不レ及二指合戰一云云。

二條寺主家記云。一揆越智高取城爲レ攻。七月廿日被レ懸了。八日ニ寄衆崩了。奈良衆皆以吉野ヘ落云々。八月廿三日出張シ。吐田ニテ越智衆ト合戰。一揆數百人被レ打了。頭共南都ヘ上セラレ被レ梟者也。從二越智一被レ上頭十一。奥村支善。中市雁金屋。スハガラ。願了。カサヽギ又七。與五郎入道。圓覺父子。室院ノ新九郎。油ウリ與七。タカマノ賢丞。其外八百人計。又此頃江州ニモ土一揆多死云々。

廿四日。庚子　六角定頼及法花僧徒燒二山科本願寺一。

二水記云。早旦合戰。巳刻許攻落之。數十人打死。則燒レ寺。其外所在之在家不レ殘二一屋一。時燒失。其烟如レ蓋天。時刻到來。奇異也。抑本願寺者。及二四五代一富貴誇レ榮。尤寺中廣大無邊。莊殿只如二佛國一云々。在家又不レ異二洛中一也。居住之者各富貴。仍家々皆二隨分之美服一云々。今日一時滅亡。併天道也。可レ思々々。晩頭京勢歸洛。甲乙人每レ手有二取物財寶一。誠如レ山歟。奢者不レ久之謂也。

足利季世記云。カヽリシカバ近江ノ六角殿定頼ハ晴元ノ男ナレバ。山科ノ本願寺ヘ押寄攻ラルヽ。長原太郎左衛門。進藤山城守。馬淵源左衛門。横山等先陣ニスヽミケル。門徒ハ諸檀那共命ヲ彌陀ノ名號ニカケ。爰ヲ先途ト防ギ戰フ處ニ。イツモ此門徒ト中ノ惡キ京ノ法華衆廿一箇寺并檀那相儲シ。本國寺。本能寺。妙顯寺以下不レ殘打立寄手ニ加ハリ。既手ニ入カヘ〳〵攻ケレバ。同八月廿四日貴落シテ。一宇モ不レ殘燒拂。此寺久敷諸門徒ノカツガウシケル所ニテ。財寶如レ山ニ滿々タリ。富貴ノ下ニハ久敷居ルベカラス。今一時ノケムリト燒上ル。僧尼悉ク被レ討ケル。賊ニ無慙ノ事ドモ也。上人命ハカラ〳〵ニヲ落玉フ。

長享年後記內兵亂記云。八月廿四日。山科本願寺燒敗。

廿六日。壬寅　自二此日一彗星出現。

公卿補任云。八月廿六日ヨリ彗星出二現東方一。至二十月十四日一。

九月小

廿八日。癸酉　山崎合戰。

二水記云。巷說云。堺儀依二不道一不二證聞一。尾坂未二攻落一。如二何之一。此間於二山崎邊一。與二一揆一合戰有レ之。藥師寺備後守小勢也。仍京勢少々合力。雖レ然一揆猛勢恐怖也云々。町人日々打二集會之鐘一。上京革堂鐘。下京六角堂也。終夜終日砧レ耳。末世之爲レ躰不レ足レ言者歟。○廿八日條云。傳聞。山崎陣京衆多分打死。柳本餘黨大遲打死了。藥師寺備後守。一宮伊岐守等□引退云々。依レ之京衆又合力相儲。以外物恐也。○廿九日條云。風說云。堺儀一揆衆數百人打死云々。又京勢聊安堵了。午前法華衆又卒二京衆一出陣云々。

祇園執行日記云。廿六日打明ヨリ又六角堂鐘撞候。何事共不レ知。今夜山崎ソ彼方ヤヶ候ツル。殘リ候法花町人共。寅寺ノアタリ迄打マハリシ候。廿八日山崎ニ合戰候テ。朝打明ニ京勢崩候トミエ。實程ニキコエ候。山崎ノ彼方皆崩候テ。イマダ山崎ナバ持候由キコエ候。此崩候時。柳本ガ中山ナドヽ云シ者。其外ヤウニ死候ゲニ候。又實程ヨリ京ノ法花宗共鳥羽ノアタリ迄打マハリシ候。爰ニ七時ニ歸候。時聲アゲ候。廿九日又朝トクヨリ。京ノ法花共鳥羽ノ彼方迄打マハリシ。頓テ歸候。

十月大

廿日。甲午　給二御奉書於近江衆一。

二水記云。今日。所々秋稅取納。有二物恐一。及レ昏。四方時聲及二度々一。不レ如二其故一。江州奉公衆出洛。以二御奉書旨一成敗云々。風聞云。堺武家近日御出奔。御落所不二證聞一。尾坂一向衆不レ及二指合戰一歟。但又城中猛勢仍不レ得レ攻歟。巷說又云。房州八郎(常桓舍弟也。)近日從二若州一赴二丹州一。波多野同意。率二諸勢一可二上洛一云々。天下躰亂若レ麻。不可說也。

足利季世記云。十月。南都ノ方ザマヘ一揆オコリ。僧房ヘ取カケ放火ス。則僧房ヨリ町屋ヘナシヨセ。悉ク拂テ燒失フ。

祇園執行日記云。誰ナラン武邊ノ者此中郷ナ取候トテ騒動シ。又吉田トカヤラ將軍ヘ取懸候トテ。此邊カラモ將軍ヘ合力ニ行候ヘバ。早引候由申候。地下ノ者京ノ者共合力シ候ゲ

ニ候。夜貝鐘ナリ候。廿一日四間ヘ立候。曉ヨリ貝鐘ナラシ候。廿三日還幸。過シ夜ノ八ノ時分ニ京ヤケ候。

十一月大

五日。己酉　大内左京太夫義隆叙ニ正五位下一。兼ニ周防介一。

御湯殿上日記云。大内左京大夫すわうの介けん國の事。おなじく正五位下を申。勅許。

歴名土代云。正五位下多々良義隆。同元十廿九。同日周防介。

八日。壬子　就ニ梶井宮所領事一。自ニ内裡一有下被ニ仰下一旨。

御湯殿上日記云。かぢ井殿なるゆきつれさか本に久しく地行の所あるを。山法師常光院といふものぶけにつきて。なさゆるよし申につきて。ぶけへふみいださるゝ。頭辨とり申。

十九日。癸亥　依ニ山科七郷事一。自ニ内裡一給ニ御書一。

御湯殿上日記云。山しな七がうの事ぶけへ文いださるゝ。

十二月小

三日。丁丑　就ニ加賀國事一。奉行人傳ニ仰於本願寺雜掌一。○此日。於ニ武藏江戸一。上杉藤王丸自殺。

伊勢家書藏

加賀國石河郡所々散在等事。當知行之處。非分顯及ニ違亂一云々。太不レ可レ然。早退ニ其妨一。可レ被レ全ニ所務福松代一旨。可レ被レ相ニ觸名主百姓等一由。被ニ仰出一候也。仍執達如レ件。

天文元年十二月三日　散位判

本願寺雜掌

上杉系圖云。藤王丸。治部少輔朝良子。父汲日生。母長尾修理亮女。天文元年十二月三日於ニ江戸一生害。十五歲。

十日。甲申　洛中騷擾。

二水記云。今日。依ニ德政儀一有ニ物忩事一。京衆。土藏衆。上下二万人許相卒。一揆張本之在所（四京ウヅマサ。北山。）令ニ放火一云々。○廿二日條云。和泉堺北庄（十五六日事歟。可レ尋。）大涯燒亡。南庄三分一燒云々。財寶可レ惜。燒死數百人云々。

廿三日。丁酉　攝州富田落城。一向門徒多敗死。

二水記云。風說云。一同衆トンダ城落レ之。悉令ニ放火一云々。

足利季世記云。十二月廿三日。攝州上郡衆一味同心シテ。富田道場ヲ初所々ノ門徒衆ヲ不レ殘燒拂フ。同日池田衆伊丹衆一味シテ。攝州下ノ郡中ノ道場不レ殘皆放火ス。一向宗ノ僧俗一一ニ誅伐ス。然レドモ此門徒學文ト云事ナク。僧俗一向ノ文盲ノ愚人ナレバ。カヨウニ一揆ヲ起シ。本願寺上人ノ爲ニ味方ト成テ討ルヽ事。誠ニ成佛往生ト悅ビ。彌一揆ヲ起ス事增リケル。

是歲。大内義隆出レ兵。大征ニ九州一。

鎭西要畧云。大内義隆欲下道ニ討少貳一。大友以下不順之輩一井領中鎭西。將ニ合國兵數萬一而發ニ向于九州一。至ニ長府一爲レ陣。長臣陶安房守入道々麒爲ニ義隆代一。將レ發ニ向于筑前一。鳴加賀守隆重向ニ于豐前一。（或記曰。鳴隆重者守護代。而在ニ豐前一。）兩手軍勢渡レ海而累殿ニ來于豐筑部一。而其兵五萬餘騎也云々。豐前之規矩。田河。紀井。長野。熊谷等相從。筑前杉豐後守興連。（或記隆連。）原田。秋月。山鹿。麻生。宗像。志摩。院内太宰屬ニ義隆一。於レ是少貳大友方人之城砦咸沒落。冬十月陶道麒入ニ太宰府一。杉隆連至ニ宗像一。與ニ大友一相ニ鬪於多々良濱一。大友軍敗而去ニ立花城一。杉隆連（興連之子。）乘レ勝至ニ博多宮崎一。原田隆種會ニ隆連於生松原一。於レ是糟谷。早良。那珂。三笠。怡土。志摩等諸郡土咸來伏。十一月十日陶安房守道麒至ニ秋月一。而相戰。少二大友先駈馬場。横岳。宗。姉川奮擊而討ニ取大内衆之宗徒者五十餘人一。至ニ玖珠一。追ニ討焉一。所ニ討取一六百餘人也。中國軍實。豐田。右田。鳴將監等討死之首也。（大友家臣分捕多也。）陶道麒雖レ欲レ救ニ星野親忠一。少貳大友之軍絕ニ其途一。不レ得レ已而夜須郡爲レ屯。今歲事莫矣。

# 後鑑卷之二百九十九

義晴將軍記第十三　起ニ天文二年正月一記ニ十二月一

天文二年癸巳

正月大

二日。乙巳　一揆等攻ニ尼崎城一。

細川兩家記云。天文二年癸巳正月二日に又一揆おこり。尼崎。大物に松井越前守栖籠間。おしよせて數人討とるなり。いよ〳〵一揆起ル。

五日。戊申　一色式部少輔晴具叙ニ從五位下一。

歴名土代云。從五位下。源晴具。同正五。（一色式部少輔）

十一日。甲寅　細川尹隆叙ニ從五位下一。任ニ陸奥守一。

歴名土代云。從五位下。源尹隆。同二正十一。同日陸奥守。本尹經。（細川）

二月大

八日。辛巳　此夜流星。

皇年代略記云。二二八諸星半天流動。落ニ于陸一。

十日。癸未　一揆圍ニ細川晴元堺家一。晴元遁ニ走淡州一。

細川兩家記云。同二月十日に一揆衆起り。細川殿堺の御座所

〈取懸。大内衆數人討取間。御屋形は忍て淡州へ御渡海也。然ば一揆衆悦事申ばかりなし。

足利季世記云。二月十日に一揆オコリ堺へ押寄。細川京兆晴元ヲ責奉ル。餓ノコトナレバ人數スクナクシテ。御馬廻衆數多打死シテ。叶ハジトヤ思ハレケン。晴元ハ淡州へ渡リ玉ヒケル。一揆ドモ堺ヲ責落シ悦ブ事限ナシ。ヤガテ一揆ドモ堺南庄へ入寄ル。

廿日。癸巳依二歳首及官途事一。給二御書於河野一族一。

御内書引付哉

爲二始之禮一。太刀一腰。(長光。)鷹眼二千疋到來。目出候。猶定賴可レ申也。

二月廿日

河野太郎どのへ

就二官途之儀望申一。任二彈正少弼一候處。爲レ禮太刀一腰。(吉光。)青銅二千疋到來。喜入候。仍太刀一振(家行。)遣之候。猶定賴可レ申也。

二月廿日

河野太郎どのへ

爲二始之禮一。太刀一腰。(國重。)鳥目二千疋到來候畢。神妙候。猶定賴可レ申候也。

二月廿日

河野六郎どのへ

晦日。癸卯就二堺津合戰事一。給二御書於細川六郎及其族人一。

御内書引付哉

今度於二堺津一合戰。不慮次第候。仍相二催四國淡州一。至二于攝州一。早速遣發肝要候。猶常興可レ申候也。

二月晦日

六郎どのへ

今度於二堺津一不慮之合戰。無二是非一候。仍相二談六郎一。不レ移二時日一。令二遣發一。忠節肝要候。猶常興可レ申候也。

二月廿日

細川彦九郎どのへ

今度於二堺津一合戰。不慮之次第候。就レ其對二彦九郎一。內書遣之候。急度相二談之一。可レ抽二忠節一。事肝要候。猶常興可レ申候也。

二月廿日

細川彈九郎どのへ

三月大

五日。戊申一揆等攻二伊丹城一。

細川兩家記云。三月五日に一揆衆おこり伊丹の城へとり懸。らうかといふ物を一町あまりづゝ二通りこしらへ。寅夜の境なく。尼女まで集り掘をうめければ。難儀に及ぶ云々。

十一日。甲寅依二細川六郎出張一。給二御書於攝州諸將一。

御内書引付哉

堺津合戰之後。尚以相踏。向後可レ令二軍忠一旨。被二聞食一。乞。言上之趣。尤無二比類一。次六郎出張時節。聊不レ可レ有二油斷一。就レ其彌抽二粉骨一者。可レ爲二神妙一。猶常興可レ申候也

三月十一日

寺町三郎左衛門入道どのへ

伊丹左近將監どのへ

池田筑後守どのへ

芥川中務丞どのへ

御文言同前。

廿九日。壬申木澤左京亮長政率二法花僧徒一援二伊丹城一。一向僧徒敗走。

細川兩家記云。同廿九日に木津左京亮調議して。京中法華衆相かたらひ後卷に下る。合戰あり。後卷衆切かちて。一揆衆五百ばかり切捨也。下郡中村之里々悉放火する程に。たゞちやうやのとし。

足利季世記云。廿九日木澤左京亮例ノ法華宗ヘ相フレ。廿一箇寺ノ勢ヲ相語ラヒ。伊丹ノ後詰ニ責來リ。門徒衆ヘ切リカカル。此勢一ヤウニ法華經ヲ旗ノ面ニ大文字ニ書テ。指ツレテ攻來ル。一揆衆ヲタリ合テ責戰フ。城中ヨリモ突テ出ル。兩方ノ敵ニ一向一揆不レ叶。悉ク打負五百人打死シテ。方方ニ分テ引退ク。攝州下郡中ノ村々里々ヲ此次デニ不殘燒拂フ。

是春。於二鎮西一。大内義隆臣陶安房入道々麒攻二鎮西諸城一。

鎮西要略云。二年正月。大内之介義隆之代將陶安房守入道道麒。至二上筑後三原。取二三原御井地郡一。二月中旬攻二久留米城一。而下二豐饒美作守鑑連入道永源一。永源奔二于肥前一。暫偶居于西島一。其後復至二筑後一。入二城島城一也。陶道麒至二筑前一。而陣二毛見嶽一。菊肆郡士相從。筑紫左馬頭惟門下二勝尾城一。於レ是乎宗筑後守降參。授二鏡山城一也。少貳衆在二筑州一者悉引退。(或記云。少二和平而引陣。)大内義隆致二親書一。而相二誘肥前州伯千葉竜造寺等一。登二揭千葉喜胤一。授二屋形號一。且以二小城佐嘉杵島三郡一。封二喜胤一也。皆是所レ賜二勅宣一也。陶道麒攻二綾部城一。或語二少貳資元一曰。大友義鑑雖レ親二交於當家一。而實非レ欲レ與二少貳家一也。所下以先結二親於當家一。并レ兵退二治大内一。而后欲レ奪乞其國中也云々。亦其形粗見也。因レ是少貳疎二大友一

將ニ義絶ニ矣。大友風ニ聞之。數陳ニ謝無ニ其意。且通ニ神文ニ而詛レ之。亦說曰。夫少弐與ニ大友。尊氏將軍以來。世之舊好九州之兩雄也。奚今更挿ニ異心ニ哉云々。

四月小

晦日。甲戌京勢歸陣。

祇園執行日記云。今日先度津國ヘ立候ツル京衆皆歸陣也。利運ニテ候ゲニ候。

六日。己卯細川晴元入ニ攝州池田城ニ。

足利季世記云。カクテ攝津ノ一揆共大方治リシカバ。晴元淡州ヨリ歸リ玉ヒ。堺ニ安座アルベキトテ。同四月六日池田ノ城ヘ入リ玉フ。

九日。壬午東寺僧徒合戰。

東寺過去帳云。當年(天文二)四月九日。當所與ニ吉祥院ニ及ニ合戰ニ之時。打死士卒數聖。其外當年於ニ諸國(丹波。攝津。山城。河内。播磨。近江。)等ニ在々所々於ニ戰場ニ。合ニ死亡ニ軍卒等數千人。

十三日。丙戌大雷。雨レ霰。

祇園執行日記云。八—前程ヨリ天氣ヨク候ニ雷鳴候。又常ニ替リ大ナル木想子ノ樣ナル霰フリ候。其後雨ニ交フリ候。雷シタ、カニ鳴候。人ナモ取ツルゲニ候。

廿九日。壬寅一向僧徒保ニ大坂城ニ。

足利季世記云。堺ニハ本願寺門徒衆上人ヲ初メ籠リケルナ。同廿九日晴元衆攻ケル。門徒衆モ手ギハノ合戰シケレドモ不レ叶。堺ヲ落テ大坂ヘ引籠ル。

五月大

五日。丁未三好。木澤及法花僧等攻ニ大坂城ニ。

足利季世記云。晴元衆三好。木澤左京亮京ノ廿一箇ノ法華宗一味同心シテ。同年五月五日ヨリ大坂ヲ責フル丶。城ハ攝州第一ノ名城ナリ。コモル兵ドモハ何レモ近國他國ノ諸門徒。一向ニ阿陀彌名號ヲ心ニカケ。命ヲ塵芥程ニ輕ンジ防戰ヒケレバ。寄手モ攻アグンデ見エニケル。

十二日。甲寅依ニ北畠中將獻物ニ給ニ御書ニ。

御内書引付載

爲ニ當年之祝儀ニ。太刀一腰。馬一疋到來候。悅喜候狀如レ件。

五月十二日

北畠中將殿

十三日。乙卯就ニ獻物ニ給ニ御書於土岐次郎ニ。

御内書引付載

爲レ禮太刀一腰。(久吉。)馬一疋。(鴇毛。印雀目結。)背銅三千疋到來候訖。喜入候。仍太刀一振(國友。)遣候也。

五月十三日

土岐次郎どのへ

廿二日。甲子依ニ祇園會事ニ。奉行人傳ニ仰於彼社執行ニ。

祇園社記載

祇園社會事。雖レ無ニ日吉社祭禮ニ。任ニ去明應九年并永正三年御成敗之旨ニ。來六月弐日。可レ被ニ執行ニ之由。被ニ仰出ニ候也。仍執達如レ件。

天文二五月廿二日　　堯運判　晴秀判

當社執行玉蓮丸殿

六月小

五日。丁丑給ニ御書於赤澤藏人ニ。賞ニ其戰功ニ。

御内書引付載

波多野取懸之處。一身にて相踏之趣。粉骨之段。神妙候。猶定賴可レ申候也。

六月五日

赤澤藏人どのへ

六日。戊寅奉行人傳ニ祇園會延引事於彼執行ニ。

祇園社記載

明日祇園會事。先可レ被ニ延引ニ候由。爲ニ山門ニ申入候段。佐佐木彈正少弼被ニ申上ニ候旨候間。如レ斯被ニ仰出ニ候。恐々謹言。

天文二六月六日　　堯運判

當社執行玉蓮丸殿

祇園會事。先例旨被ニ申上ニ候條。式日可レ被ニ執行ニ候段。雖レ被レ成ニ奉書ニ。就ニ日吉祭禮相延ニ。爲ニ山門ニ申ニ子細ニ候間。先神事之儀可レ被ニ延引ニ。且被レ遂ニ糺明ニ。可レ被ニ仰付ニ候由。被ニ仰出ニ候也。仍執達如レ件。

天文二六月八日　　堯運判　晴秀判

當社執行玉蓮丸殿

十二日。甲申依ニ獻物ニ給ニ御書於細川六郎ニ。

御内書引付載

爲ニ始之禮ニ。太刀一腰。(兼吉。)馬一疋。(鴇毛。印雀目結。)靈眼萬疋到來。自出候。仍太刀一振(國吉。)遣之候。猶定賴可レ申候也。

六月十二日

六郎どのへ

十八日。庚寅藥師寺備後守戰死。

長享年後記內兵亂記云。上野玄蕃頭至二高雄畑一着陣。六月十八日。藥師寺備後。其外法華衆陣立攻二玄蕃一。玄蕃得二勝利一。藥師寺備後於二仁和寺一戰死。

祇園執行日記云。京ニ殘リ候法花宗又ハ京殘候武士共交候テ。八郎衆モ出候テ軍候。京衆崩候。又三百許死候由申候。シカシカト不レ知候。京迄崩候。京迄ハ八郎衆候ハズ。此崩攝津國守護代藥師寺備後死申也。今日近江モ來也。

廿日。壬辰三好木澤與二一向僧徒一和睦開陣。

祇園執行日記云。廿二日今日大坂ヘ以前立候ツル法花宗。京ノ武士共。大坂ト和睦トヤライト候テ。ソロ〳〵早上リ候由。今日京少靜リ候。

足利季世記云。上人ヨリ使僧ヲ出シアツカヒニナリ。同月廿日ニ晴元モ。三好。木澤。法華宗ドモニ歸陣シケルトナリ。

七月小

六日。丁未大山合戰。

雜々書札云。天文二年七月六日(申刻。)於二大山一討捕首注文之事。

首一前河左衛門。

首一名字不レ知。

首一冤三次右衛門。

討捨不レ知レ數。

廿五日。丙辰依二周防國香積寺爲一十刹列一。給二御書於鹿苑院一。○又給二御書於細川六郎一。

御內書引付載

周防國香積寺十刹事。如レ望可レ被レ任旨。可レ被二仰下一候也。恐惶謹言。

七月廿五日　義晴御判

鹿苑院侍者御中

度々申遣候香川。內藤。長鹽。上京。其外雜之事。急度令二敵免一候者可レ然候。猶定賴井高信。國秀可レ申候也。

七月廿五日

六郎どのへ

廿七日。戊辰此日。於二關東一。里見上總介實堯戰死。

里見系圖云。實堯。刑部大輔成義子。左衛門督。上總介。兄義通ト俱ニ所々ヘ働テ勇猛ヲ勵ス。總州各々ヲ攻落シ。居城其後眞里谷ニ移住ス。永正十五年ノ春義通薨逝シ。其子義豐幼少ナレバ。成長ノ間房總ヲ守ル。(中略)其後太郎義豐成長シ。其早ク讓ヲ得ザル事ヲ憤ルト云共。實堯邪欲ノ意ナキ故彼逆心ヲ計ズ。一族ニテ長臣大多喜ノ城主正木大膳時綱入道了慈齋ヲ伴ヒ。總州金谷ヲ出稻村城ニ到義豐ニ謁ス。義豐兼テ逆意ナレバ討手士卒ヲ進ム。實堯不慮ノ事ナレ共稱ク働。眞先ニ進タル松田左衛門佐豐成。其弟平磯某。安西六郎豐綱。其外一人都合四人。手ノ下ニ切伏タレ共。大勢累來。實堯。正木入道戰死ス。供奉ノ面々悉討死ス。于レ時天文二年癸巳七月七日。實堯五十歲。法號延命院殿一翁正源居士。

正木系圖云。時綱。三浦荒次郎義意子。彌次郎。三浦敗走時年尙幼。家臣扶レ之逃二安房正木郷河名一。依二安西氏一居。時里見義豐主二房州一。其臣安西。金鞠。丸。東條四氏。各據二其采邑一。有二反逆之志一。以レ故義豐待二時綱一甚厚。因以二時綱一爲二家臣一。改二三浦一稱二正木氏一。(中略)以二義豐之甥權七義堯一爲二女婿一。居二西上總金屋城一。時有二稙谷石見者一。(天津城主。)諫曰。時綱欲レ使二義堯主一于房州一。宜二速誅一。義豐信レ之。而事未レ遂。先レ是時綱義岡之戰被レ創。天文二年創發。卒二于山之城一。法名古山正範。

八月大

十一日。辛巳三好伊賀守討二破下郡一揆。

足利季世記云。八月十一日下郡一揆ドモ蜂起シ。ミソノヘ出張シケルヲ。三好伊賀守馳向テ散々ニ攻テケチラス。

十四日。甲申依レ献二神馬一。給二御書於朝倉孝景一。

御內書引付載

太神宮擬神馬事。被レ仰之處。早速到來。尤以神妙候。猶貞忠可レ申候也。

八月十四日　朝倉彈正左衛門入道どのへ

九月小

六日。丙午河原林及一揆等入二越水城一。

細川兩家記云。同九月六日河原林一揆衆同意して越水城へ忍入。三好方篠原衆を八人討取。則城をとるなり。

十二日。壬子此日。故法住院將軍贈官位宣下也。

足利季世記云。中國豐後國守大友修理太夫義鑑上洛シ。三條西殿ニ屬シ申テ。當公方御父故義澄公ヘ贈官贈位ヲ申沙汰ス。大名小名多シトイヘドモ。亂世ノ中ナレバ。諸人カクトモ思ヨラズ。徒ニ月日ヲ送リケルニ。アツパレ忠臣カナト申シケル。則チ勅許アリ。同九月十二日彼御墓ヘ太政大臣從一位ヲ贈ラル。魂イカニウレシク思召ケン。御身ハ空ク江州岡山ノ土ニ埋マレ玉ヘドモ。御子孫ノ德ニヨリカク贈官贈位

ニ及ケルコソ目出ケレ。
足利系圖云。義澄。天文二年九月十二日贈太政大臣豐後國大友修理大夫義鑑申沙汰云々。

十六日。丙辰　依ニ献物一給ニ御書於大内左京太夫義隆。

御内書引付戚
太刀一腰。(國綱。)金襴一端。盃一枚到來。喜入候。仍太刀一振(後國。)遣之候。猶常興可レ申候也。
九月十六日
大内左京太夫どのへ

廿日。庚申　依ニ先考贈官事建言一。給ニ御書於大友修理太夫義鑑。

御内書引付戚
法住院殿御贈官之儀申調候。尤被ニ感思食一候訖。仍腰物。(正宗。)太刀(基光。)遣之候。猶高信可レ申候也。
九月廿日
大友修理大夫どのへ

廿三日。癸亥　三好伊賀守等攻ニ越水城一。々兵遁走。

細川兩家記云。同廿三日に又三好伊賀守。同久助。池田衆。伊丹衆相談。越水へとりかけ責られければ。河原林衆侘言して。あくる廿四日に中島へ引く。

廿九日。己巳　安藝毛利元就叙ニ從五位下一。任ニ右馬頭一。

歴名土代云。從五位下。(藤州毛利)江元就。天文二九廿九。同日右馬頭。
毛利家譜云。天文二年癸巳九月廿五日。元就叙ニ從五位下一。同廿日六任ニ右馬頭一。

十月小

八日。丁丑　此曉。流星如レ雨。

足利季世記云。八日ノ曉ニ滿天諸星悉ク動搖シテヒラメキ流テ。海陸ヘ石ノゴトク碎テ落散ケル。其聲尤チヒタヾシ。古今未曾有ノ天變ナリ。如何樣此上ニモ何ヤウノ事カ出來テ。天地モ打返シ國モ滅スベキ先ヒヤウカト。諸人驚キ歎キケル。
高代寺日記云。十月八日曉ニ。星半天ニ過。流動シ海陸ニ落ル。
公卿補任云。十月八日夜曉。星降如レ雨云々。南四方。

廿四日。癸巳　渡ニ御伊勢守貞忠亭一。

大館常興記云。奉行衆はもと〳〵は御通に不レ參候由。今は無ニ其儀一候。然處今度天文二十月廿四日號ニ御厩一。伊勢守貞忠申レ之。先年御宿坊長光寺大仙坊へ御成御座候。其時公家。大名。外樣御伴。申次諸衆。番方已下皆御通在レ之。然處貞忠被レ申事には。餘所にての義者不レ存候。私於ニ申沙汰一者。右筆方之衆被レ參間敷由被レ申候。終に御通に不レ參候。御次のせこには出候也。上の御酌は藤兵衛督役にて候。又御次の酌は伊勢守。同加は五郎也。又御成の時分は午刻。遲御子刻云々。江州桑實寺御座候時云々。



十二月大

九日。丁丑　此日。第一皇子親王宣下。

皇年代略記云。正親町院。諱方仁。後奈良院第一皇子。母吉德門院。參議賢房卿女。永正十六年五月廿九日誕生。天文二年十二月九日爲ニ親王一。

廿二日。庚寅　方仁親王御元服。

皇年代略記云。同年十二月廿二日御元服。(加冠關白尹房公。理髮頭中將公叙朝臣。)
公卿補任云。同廿二日。方仁親王御元服也。加冠准三宮。(尹房公。二條殿。)理髮頭中將公叙朝臣。親王家々司兼秀朝臣。源通爲朝臣。季遠朝臣。光康。惟房。職事隆重朝臣。言繼朝臣。永綱等也。

廿六日。甲午　梅宮炎上。

御湯殿上日記。三年閏正月三日條云。梅のみやしはすの廿六日にゑんじやうのよし申。
皇年代略記云。十二月。梅宮回祿。

# 後鑑卷之三百

義晴將軍記第十四　起ニ天文三年正月一訖ニ十二月一

天文三年甲午

正月小

廿六日。甲子　廣田社炎上。

御湯殿上日記。閏正月三日條云。ひろたのやしろ。正月の廿六日にゑんじやうのよし申。
公卿補任云。正月廿六日四宮廣田社一宇燒失。

廿九日。丁卯　伊勢月讀宮炎上。

皇年代略記云。同三正晦。月讀宮炎燒。
(按ニ長曆一。是月小盡。本書作ニ晦日一誤。今定爲ニ廿九日一。)

閏正月大

六日。癸酉依二献物一。給二御書於大友修理太夫義鑑一。

御内書引付載

御服太刀遣候處。爲レ禮太刀。(守綱。)刀一腰。(宗近。)具足一領到來。喜入候。猶高信可レ申候也。

閏正月六日

大友修理太夫どのへ

廿八日。乙未依二歳首進献一。給二御書於河野六郎一。

御内書引付載

爲レ禮。太刀一腰。青銅三千疋到來。目出候。猶定頼可レ申候也。

閏正月廿八日

河野六郎どのへ

二月大

三月小

十八日。乙酉就二新年献物一。給二御書於土岐次郎一。

御内書引付載

爲二當年祝儀一。太刀一腰。(國重。)馬一疋(背毛。)到來候訖。喜入候也。

三月十八日

土岐次郎どのへ

是月。諸國疫病。

高代寺日記云。三月天下疫病。

皇年代畧記云。春夏天下疫病。死人不レ可レ勝レ計。

公卿補任云。春夏疫病流布。病死數不レ知二其數一云々。

關東管領記云。天文三年ノ春ヨリ夏ニ至テ。關東大ニ疫癘ス。死亡之者多シ。

四月大

六日。壬寅此日。於二關東一。里見太郎義豐戰死。

里見系圖云。義豐。刑部少輔義通子。太郎。母里見十郎成頼女。幼少ニシテ父ニ後レ。叔父實堯國政ヲ執行。義豐成長スト云共。讓國ノ事須臾猶豫ス。義豐ハ房州稲村ニ在城シ其遲滯ヲ憤ル。叔父實堯ハ總州金谷ニ居城セシガ。老臣正木大膳大夫時綱入道了慈齊ヲ誘ヒ稲村ヘ來ル。義豐士卒ヲスヽメ實堯并正木入道ヲ討誅陶ヲ散ズ。實堯ノ嫡子梶七義堯型ル天文二年ノ初夏兵ヲ起シ。總州ヨリ寄來ル。義豐軍兵ヲ催シ防戰ノ奇策ヲ運シ。中里入道正端ヲ軍長トメ出張シ。兩陣挑戰ス。寄手猛勢ニテ競進ム。味方四度路ニ成。中里入道戰死。士卒散亂シ。大將太郎義豐犬懸ニテ討死。時ニ天文三年甲午四月六日。往歳十九。法號高岩院長義居士。○又云。實次。刑部少輔義通四子。中里備中守。剃髪號二正端一。成義。義通ニ從テ戰功有。老年ニ及ヒ太郎義豐一味ニ依義堯ト戰ヒ。天文三年甲午四月四日戰死。

十四日。庚戌依二歳首献物一。給二御書於北畠中將晴具一。

御内書引付載

爲二當年之祝儀一。太刀一腰。馬一疋到來候畢。悦喜之狀如レ件。

四月十日

北畠中將殿

是月。被レ還二附公卿領邑一。

高代寺日記云。四月公家衆ノ領如レ元附ラル。

五月小

九日。乙亥依二献物一。給二御書并太刀於大内左京太夫義隆一。

御内書引付載

爲二當年之祝儀一。太刀一腰。(元重。)青銅二千疋到來。喜入候。仍太刀一振(守家。)遣之也。

五月九日

大内左京太夫どのへ

六月大

八日。癸卯於二江州一。被レ迎二御臺所一。有二御婚儀一。

或記云。天文三甲午六月八日江州於二桑實一。御臺樣むかへに御祝目六。八日初日。一二重(一對。)瓶子(一具。)御座數に面を外へ向て。御祝よりさきに立申。ならみ立申候。然共今はならみなきによつて。御手ながに御立候。一番に一式三献并御手懸參。さて御かたくち參。此祝にはかたくちなく候間。てうしの口を包てまいらする。御くはへは不レ參候。一分供御參。御まいりつれの如く。但わたいりは參らず候。代々鯛を用。御參者の献立。初献。やき鳥。めん鳥。を鳥の別足二ツ。御かい參。下もりにも鳥をもり。鶴足ふたつの別足に在レ之。いつも白五種。かめのこう。かわたてあり。けづり物は。のし。するめ。いりこ。まるあわび。かつうほ。此五色をもる也。ざうに。やまいも。もちい。まるあわび。いりこ。かつうほ中にもる。御はしの代。みみかはらけ。二献かずのこ。すかしほびき。こうき。三献ふなのこし。つる。むしあわび。以上三献參。

九日。甲辰有二御祝儀一。

或記云。九日。(二日メ。)時刻同前。一式三献。并御手懸。御

參者初献。からすみ。くまひきふな。二献はくきよかん。(ふき。しらも。)たへ物。だら。花ゆき。三献。きざみはむ。くちら。いもこみ。以上三献まいる。

十日。乙巳御色直祝。

或記云。十日。時刻同前。御色なをし。一式三献并御手懸。同月に。餅六すのおり。四がくの折。あしはさん足。かわたては。じろく。くれない。もちは。上はしろきもちいゝ。下はあかきもちいゝ。一ぜんに二ツづゝのもちいらる也。數はもり次第也。初献。にさうしきそく。くれない。さうに。(まへのごとく。御はしの代。みみかはしけ。)五種。(まへの)と同前。但かわたては。紅白なり。)二献。かまぼこ。(つはめ口紅。)鯛。かいあわび。三献。さちん鯛。子鯉。(御色なをしより。鯉を用る也。)三献。へつかん。(こわうのほそびき。とつさゝの。)そへ物。うづらの羽もり。兩の羽がい。足きん大かくこ。あしを打てもる。五献。さしみ。せいこ。まきずるめ。以上五献參。一三ケ日の御いはひあがり候て。後上らう御けざんにて。御さかづき。光友拜領仕候。御臺樽より御れりぬき一かされ拜領候。當座は御折紙にて。翌日に代にて三百疋被下候。一御手水は伊勢因幡守。同肥前守。同名次郎。同孫次郎。此二人伊勢守殿中御駈。一六角殿御ふぼしにて御參。御色直には四郎殿父子御參。十合十荷御進上之。御一献參。一御祝料三ケ日之分。貳拾貫文納。此御要脚は御局より下行。御局は宮内卿殿計也。御祝儀時極候之殿原ども雨木興次。同新左衛門。屋部田又七。茶原與介。同與三左衛門宗幸。御中間者。孫四郎。次郎左衛門。右御祝之次第如レ此也。爲二期年一書留者也。大永元年十二月廿六日。

十七日。壬子依二去春献物一。給二御書於大内左京大夫義隆一。

御内書引付載

爲二當年之祝儀一。太刀一腰。(久家。)鷹眼三千匹到來。目出候。仍太刀一振(國家。)遣候也。

六月十七日(去年御禮也。大與披露也。)

大内左京大夫どのへ

廿九日。甲子着二御坂本一。

長享年後戡内兵亂記云。六月廿九日。義晴公至二坂本一進發。

七月小

五日。庚午謝二御一字一献物。仍給二御書於畠山治部大輔一。

御内書引付載

爲二字之禮一。太刀一腰。馬一疋到來。悦入候。仍太刀一振遣之候。猶常與可レ申候也。

七月五日

畠山治部大輔どのへ

廿日。乙酉武田大膳大夫元光賀二御渡海一献物。仍給二御書一。○木澤三好等攻二西山谷山城一。○此日。豐後國合戰。

御内書引付載

至二坂本一渡海之處。爲レ禮太刀一腰。馬一疋(鹿毛。)到來。喜入候。猶常與可レ申候也。

七月廿日

武田大膳太夫入道どのへ

長享年後戡内兵亂記云。七月廿日。木澤左京。三好甚五郎四山谷山城國之。西芳寺。地藏院。最勝寺等炎上云々。

武州文書載

大内左京大夫義隆

袖判

去七月廿日。於二豐後國玖珠郡一合戰之時。兄康次討死。誠忠節無二比類一。不便亦無レ極者也。爰所帶事。雖レ不レ帶二讓狀一。任二存日猶子約諾之由一。申請之旨令二裁許一事。偏賞二忠儀一之故也者。守二先例一。阿川乙若丸全領知。可レ抽二勳功一之狀如レ件。



天文三年九月三日

廿八日。癸巳被レ賞二出陣一。給二御書于木澤左京亮長政一。

御内書引付載

今度出陣尤神妙。彌急度令二馳走一。不レ移二時日一。可二退治一事肝要候。爲レ其種綱差上候。猶貞忠可レ申候也。

七月廿八日

木澤左京亮どのへ

八月大

十日。甲辰大雨。

享年代略記云。八十。大雨洪水。

公卿補任云。八月三日大風雨。洪水流屋雨損。谷城落居云々。

十一日。己巳攝州中島合戰。

細川兩家記云。八月十一日に三好伊賀守。同久助。本願寺一味して。御屋形晴元へ御敵して掠橋城へ取入櫓籠に。晴元方伊丹衆取出。北中島といふ處にて合戰あり。伊丹衆まけて。同名馬場を初て十餘人討死也。

十六日。庚戌依二家督献物一。給二御書於畠山左京大夫一。

御内書引付載

爲二家督之禮一太刀一腰。馬一疋。(河鹿毛。印鹿笛目結。)賀眼万疋到來。目出候。猶高信可レ申候也。

八月十六日　　畠山左京太夫どのへ

廿一日。乙卯依二御入洛一。給二御書於武田大膳太夫元光一。

御内書引付載

就二入洛之儀一。差二下糧康一候。然者父子之間一人在京。尤可レ爲二神妙一候。猶高信可レ申候也。

八月廿一日　　武田大膳大夫入道どのへ

廿八日。壬戌細川聰明丸參洛。

二條寺主家記云。聰明殿八月廿八日上洛。相國寺陣取了。

九月小

三日。丁卯將軍家御入洛。以二建仁寺一爲二御座所一。

二條寺主家記云。九月三日。公方從二江州一御上洛。建仁寺御座。六角息四郎殿御供云々。

四日。戊辰御臺所御上洛。

二條寺主家記云。御臺所次日上洛云々。

六日。庚午被レ引二神馬於伊勢神宮一。

神宮引付載

一太神宮御神馬一疋(鴾毛。印雀目結。)可二奉進一之由。所レ被二仰下一也。仍執達如レ件。

天文三年九月六日　　伊勢守

太神宮御師

廿七日。辛卯二階堂重泰叙二從五位下一。任二左衛門尉一。

二階堂藤重泰。天文三九廿七。同日左衛門尉。

十月大

二日。乙未宗像氏男叙二從五位下一。任二近江守一。改二姓多々良一。

歴名土代云。從五位下宗像氏男。天文三十二。同日近江權守。改二姓多々良朝臣一。號二黒川一。

廿日。癸丑攝州合戰。

細川兩家記云。十月廿日伊丹。池田衆。三好神五郎相談。伊賀守。久助へ取懸られける。然ば伊賀守。久助。潮江庄四の田中にて合戰あり。一揆衆も取出。伊賀守。久助陣所へくはゝる。然し伊賀守。久助切かちて。伊丹衆。神五郎衆六十計討死也。此已後兩人を伊丹と水澤左京亮扱ひにて。晴元へ召返され候けり。一はこれも大坂に契約ども相定によつて也。

十一月小

二日。乙丑依二醍醐寺領事一。奉行人傳二仰于三寶院雜掌一。

醍寺文書纂載

山城國醍醐寺領醍醐郷小野炭山所々散在等事。任二當知行之旨一。彌可レ被二全領知一之由。所レ被二仰下一也。仍執達如レ件。

天文三年十一月二日　　散位判

前肥前守判

三寶院御門跡雜掌

十一日。甲戌賀二御入洛一。献物。依給二御書於朝倉彈正左衛門孝景一。

御内書引付載。

爲二入洛之祝儀一。太刀一腰。馬一疋。(鹿毛。)青蚨三千疋到來。目出候。仍太刀遣之候。猶貞忠可レ申候也。

十一月十一日　　朝倉彈正左衛門どのへ

十五日。戊寅依二吉田平野兩社爭論事一。自二將軍家一。被レ執二申吉田兼右一。依有二勅許一。

御ゆどのゝ上日記云。吉田兼右と平野兼永と。しんだうさうろんの事。吉田はまてのこうぢ中なごんとり申。平野は頭辨申しさいは。兼永はかれ俱に神道をならひて。平野の一流は存ぜぬものにてあるを。このたび大内左京大夫國より人をさしのぼせ。かれ永にてん授の事をのぞむとなり。是を吉田兼右さゝゆる事にて。三もん一たうまであり。吉田には兼國とて平野元祖の者に。神道はしにかぎる。もしこれを遂書せば。一流をあらためらるべきとかきたる狀あり。人名法要集にも正親にかぎるとあり。申所理なきにてはあらず。しかれども平野に。此神道は先祖にしるまじきよしを度々申に。山名常熙と實圓法印といふ者二人まて傳授したるせうせき。かれ右けざむに入る也。しかれば又所存申所もことはりなり。ことに吉田より平野は庶流のよし。嘉祿六年のりんじにみえたるよしゞさて支證の物をけざんにいるゝに。左衛門佐信成とかきたるものにて。職事中にはなき名なり。しかればほう書にてあるうへ。かたゞ御ふしんにおぼしめして。御しあんの所へ。武家より右大辨宰相して。吉田につけらるゝやうにと申さるゝにつきて。そのぶん御こゝろえのよしを。

十六日に申さるゝ。されどもこゝにしるす也。

十六日。己卯被レ申二請吉田家綸旨事一。無二勅許一。

御湯殿上日記云。武家にて吉田兼右に。りんじをなさるゝやうにと申さるゝ。されども公事のうへには。ほう書かたゞ〻あながちりうんともおぼしめさぬ間。なされ難きよしを。御返事に申さるゝよし〳〵。

廿一日。甲申九條内府稙通公出二奔攝州一。

公卿補任云。前内大臣正二位藤稙通。十一月廿一日辭二兩職一。（未拜賀。出二奔攝州一云々。）

十二月大

十四日。丙午依二理性院知行事一。被レ遣二御書於兩傳奏一。

御内書引付載

就二理性院知行之儀一。勅書旨謹拜見。先以畏存候。則應二勅裁一。御請申候。仍御太刀一腰令二進上一之段。宜レ被二申入一之狀如レ件。

十二月十四日　義晴

兩傳奏中

是月。大内義隆與二少貳資元一講和。

鎮四要略云。十二月大將軍義隆在二陣太宰府一。使二波多隆岐守相一語于龍造寺一日。夫義隆非二私用一干戈一也。蒙二朝家之命一。而爲レ治二九州之逆亂一也。少貳若下レ城。欲レ圖二平均一。則天下之大幸。靜謐之義則也。强守レ城勵レ兵。則是朝敵人也。被二一天之誅伐一。而自滅殆乎。大友義鑑以二此儀一已屬二無事化一也。卿等也老侯也。謹聽レ之云々。於レ是少二貳元謂二衆臣一曰。夫大内氏讎レ我也。匪二一朝一旦之事一。父祖累代之讎敵也。是故我自二弱冠初一。及二知命之今一。不レ安レ席。不レ甘レ食。勞々涕々而至二此時一哉。今幸遇二義隆出來一也。碎二身於鐵石一。曝二屍於戰場一。是我本懷也。兼以爲必命窮二於此時一也。而今聞。强守强防。則朝家敵者也。我不幸之。朝家與レ我途絶。無レ據二於上聞一。以二逆臣之稱一死。則累祖之瑕瑾。子孫之永煩也。不レ如下應二平均之儒一而期中後日之謀上。和平已調。資元下二盛福寺城一。冬極月晦日也。



# 後鑑卷之三百一

義晴將軍記第十五起二天文四年正月一訖二十二月一

天文四年乙未

正月小

五日。丁卯美物内献。

天聽集六日條云。自二武家一美物五重進上。昨日事也。

七日。己巳給二新年御書於細川六郎一。

御内書引付載

新年之嘉慶漸雖二事舊候一。更不レ可レ有二際限一候。祝詞猶期レ面候也。

正月七日

六郎どのへ

十一日。癸酉豐樂門院崩。

公卿補任云。正月十一日。女院（豐樂門院。）崩御。同十二日院號定之。

女后名字抄云。豐樂門院藤子。（天文四正十一。）後柏原妃。後奈良御母。贈左大臣教秀公女。

女院記云。豐樂院。贈左大臣藤教秀卿第四女。今上國母。

天聽集云。今日院號定也。後聽。准后昨夜初夜時分。何ノ勞モ無テ御シンナリテ。眠ラル、如二御往生ト云々。

十三日。乙亥廣橋兼秀卿注二進豐樂門院崩御事一。

往古御内書案載

豐樂門院樣御事。賞札遍。則具致二披露一候處。鱗恩貪候旨。被レ得二其意一。可レ被二申入一之由候。宜レ得二御意一候。恐惶謹言。

正月十三日　晴光

廣橋殿

十四日。丙子大風雨。

天聽集云。今夜大雨大風。終夜不レ休。

十八日。庚辰御即位延引。

天聽集云。萬里小路中納言大典侍シテ。大内左京大夫當年御即位惣用進上。然ドモ女院御事指合。然間先當年延引之由也。

二月大

七日。戊戌被レ進二御香資一。

天聽集八日條云。昨日自二武家一香奠千匹進上。

十九日。庚戌於二般舟院一有二女院御供養一。

天聽集云。今日。於二般舟院一有二經供養一云々。下行未レ下。言

語道斷。此度自二武家一一向無二進物一故也。

三月小

朔日。壬戌武田元光献二白絲於内裡。一

天聽集云。武田入道大膳太夫白糸進上。

二日。癸亥北畠親泰叙二正五位下。一

歴名土代云。正五位下。源親泰。天文四三二。

五日。丙寅被レ進二鷹捉鳥於内裡。一

天聽集云。自二武家一鷹鳥三(雉ナリ。)被レ進。

四月大

三日。癸巳依二新年献物一。給二御書於朝倉孝景。一

御内書引付載

爲二當年之祝儀一。太刀一腰。背銅三千疋到來。喜入候。仍太刀一振(國長。)遣之候也。

四月三日

朝倉彈正左衛門どのへ

八日。戊戌故義植將軍贈官位宣下也。

高代寺日記云。四月。去ル八日。前義植ニ太政大臣從一位ヲ贈ラル。

公卿家傳云。義植。天文四年四月八日贈太政大臣從一位。

天聽集云。其後陣儀始。惠林院贈太政大臣從一位也。過分事也。

九日。己亥謝二贈官位一。被レ献二太刀於内裡。一

天聽集云。從二武家一。昨日惠林院贈官。祝着之由被レ申。而白太刀被レ進。

廿二日。壬子仍二塗輿御免一。朝倉孝景献物。依給二御書。一

就二塗輿御免之儀一。太刀一腰。馬一疋。(黒毛。印雀目結。)畠眼萬疋到來。悦入候。仍太刀遣之候。尚貞忠可レ申候也。

四月廿二日

朝倉彈正左衛門入道どのへ

高代寺日記云。四月義晴内書ヲ朝倉孝景ニ賜テ。塗輿ニ乘ルコトヲ聽タマフ。是ハ朽木ヨリ歸京ノ后。參内毎ニ朝倉萬事能勤故ナリ。且軍忠旁以ナリ。

五月大

九日。己巳就二卜部家相論事一。有レ被レ奏二内裡一旨。

天聽集云。今日。自二遣造院一武家有二書狀一。兼永與二兼右一神道相論之事。去年以二執奏一御心得之所。宜而明之由被二仰出一。武家失二面目一之由。書狀也。然間返答相心得之由仰之也。近比比與々々。



六月小

五日。乙未細川陸奥守尹隆叙二從四位下。一

歴名土代云。從四位下。細川陸奥守源尹隆。天文四六五。元從五位下。

天聽集八日條云。從四位下源尹隆。元從五位下也。雖レ然武家者如レ此云々。自二武家一被レ申由。兼秀朝臣申。勅許。

十二日。壬寅僧徒合戰。

天聽集十三日條云。昨日。尾坂本顯寺有二合戰一。一揆五六百人打死之由。大概一向衆此時滅亡也。

廿一日。辛亥細川晴元傳二命於觀世四郎男。一

大館書狀案戴

御用之子細候。急度可レ令二參上一之旨。可二申下一候由。被二仰出一候。爲レ其染レ筆候。猶富森左京亮可レ申也。

天文四　六月廿一日　晴元

觀世四郎男

七月大

五日。甲子此日。大和筒井順興卒。

二條寺主家記云。七月五日戊刻。筒井順與法師死去。五十二歳。息藤松殿十三歳。

筒井家記云。天文四年七月二日ニ。順興四十二歳ニテ筒井城ニ卒ス。同十日ニ圓征寺ニ葬レリ云々。

六日。乙丑從二内裡一。給二御太刀於波多野太藤丸。一

天聽集云。波多野子太藤丸(五歳。)此間上洛。依二御料所御代官一。御太刀一腰(銘國永。)給之。

廿三日。壬午依二觀世大夫九州下向一。令レ作レ所レ給二大内介一御書。上

大館典狀案戴

觀世大夫。同四郎等。九州罷下候。宜レ被二存知一候段。對二大内左京大夫一。可レ被レ成二御下知一候由候也。恐々謹言。

天文四　七日廿三日

飯尾中務大夫殿

八月小

朔日。庚寅御憑進献如レ例。

天聽集云。自二武家一。御太刀一腰。(銘備州長船。)御馬(栗毛。)被レ進。使頭辨也。

御湯殿上日記云。ぶけよりとさらばかりに。御むま。御たちまいる。御たる。もちたちこ。ぶけよりの御むま。ないし所へまいらせらるゝ。○二日。ぶけ〳〵御返し十てう。御こうばこ。

しろ御たちまいる。

十四日。癸卯 仍二義澄將軍廿五年忌一。渡二御相國寺一。

天聽集云。今日。法住院廿五年也。爲二燒香一。武家相國寺へ被レ出云々。

九月大

朔日。己未 初雁內献。

天聽集云。自二武家一。初雁被レ進。

九日。丁卯 木澤左京亮長政出軍。

長享年後畿內兵亂記云。九月九日。木澤左京亮以二人數一發向。

三日。辛酉 將軍家御上洛。渡二御南禪寺一。○大內義隆献二日花門修理料一。「日花門修理之祈願本引用書圖」

或記云。九月三日。公方樣南禪寺江御上候。

長享以後畿內兵亂記云。四年。將軍自二坂本一南禪寺江被レ移二御座一。佐々木四郎被二供奉一。細川六郎建仁寺江被二供奉一。

六日。甲子 美物內獻。○武田元光獻二初雁一。

天聽集云。自二武家一。美物被レ進。武田大膳大夫入道初雁進上。

廿一日。己卯 武田大內俱獻二物於內裡一。

天聽集云。武田椎一折進上。大內左京大夫當年爲二御禮一。御太刀。(銘定吉。)御馬代三百疋進上。

廿三日。辛巳 被レ獻二庭砂於內裡一。

天聽集廿四日條云。昨日。自二武家一。庭之砂車六兩被レ進。

廿七日。乙酉 土佐國司藤原房基叙二正五位下一。

歷名土代云。正五位下。藤房基。同四九廿七。(越階。)

廿八日。丙戌 細川六郎上洛。

或記云。廿八日。六郎殿建仁寺へ御上候也。

十月小

八日。丙申 此日。於二關東一。古河左兵衛佐高基卒。

喜連川判鑑云。天文四十月八日。左兵衛佐高基逝去。號二千光院殿高山貴公一。

古河系圖云。高基。從四位下。左馬頭。天文四年六月八日卒。號二潛光院高山貴公一。

關東管領記云。四年十月八日。古河御所源高基御病死。號二潛光院殿一。是近年父子御不快及二合戰一。希有ノ惡事也。其御子晴氏朝臣家督御相續アリ。古河御所ニ御住居。是ヲ關東ノ公方ト稱シ。諸家奉二崇敬一。是北條氏綱ノ壻也。

十一日。己卯 從レ內頒二賜玄猪餅一。



御湯殿上日記云。ぶけへのげんてうまいる。御使くわんじゆ寺。

十一月大

朔日。戊午 被レ命二御產所役人一。○朝倉入道獻二萬匹於內裡一。

御產所日記云。天文四年十一月一日。(戊午)御產所總奉行。任二先例一。二階堂中務大輔有泰被二仰出一。則御請申入云々。御產所吉方并御着帶日次。有春朝臣勘進申。來十七日被レ相二定之一。役者以二先例一可二相觸一之由。被二仰出一了。

御產目　伊勢肥前守盛正。懸二鳴弦一。
鳴弦　海老名次郎頼重。
右筆　松田丹後守晴秀。
御祈禱奉行　千秋左近太夫將監晴季。
陰陽　有春朝臣。
醫師　安倍大膳亮貞家。
御引出物并御湯具。胞衣藏。具足調進。沼田三郎左衛門尉。
御祝方　大草三郎光友。
御產所之事　佐々木彈正少弼被レ勤レ之。

天聽集云。自二越前朝倉一万匹進上。右大辨宰相披露也。

十七日。甲戌 御臺所有二着帶御祝一。

公廣記云。天文四年(乙未)十一月十七日。御着帶之御祝於二南禪寺一參。一式三獻并御手懸參。御要脚三百疋御下行。

御產所日記云。十七日(甲戌)午刻。御着帶在二御祝一。聖護院殿御參。御帶從二御產樣御乳人一請二取之一。聖護院殿御前持參之一。於二御對面所一在二御加持一。御服ヲ中出。左京太夫殿御局渡レ之。御身固在レ之。有春朝臣參勤。御加持御身固之後。頓而左京太夫殿御局渡レ之。其後在二御祝一。三ツ御盃。先有春拜領。次大草三郎光友被レ下。次松田丹後守晴秀被レ下。別有春朝臣御盃拜領。雖レ無二先例一。依二所望一被レ下レ之。御祝式三獻。御二御所參。大草調二進之一。其後上樣於二次間一在二御酒一。數巡。各伺候衆被レ下。御酒半役者并伺候之衆。金御太刀進上。無二御對面一。以二書立一申次披二露之一。伊勢肥前守盛正今日依二吉日一。中二出御撫物一。翌日御誕生迄爲二御加持一。聖護院殿持參中處。早長谷還御云々。御產所御事始。御作事奉行結城左衛門尉。

十九日。丙子 被レ課二御產所費用於諸國一。

御產所日記云。十九日。就二御產所御祝方御用途之儀一。被レ成二御下知一國々。細川右京太夫殿。河內。能州。若州。越前等也。

御下知。

御產御祝要脚事。來年二月以前。任二先例一。可レ被レ致二其沙汰一之由。被二仰出一候也。仍執達如レ件。

天文四年十二月十九日

前丹後守晴秀
中務大輔有泰

諸國同前。但細川。河内折紙也。

廿四日。辛巳伊勢守貞忠卒。

伊勢系圖云。貞忠。伊勢守貞陸子。(始貞霽。)七郎。備中守。伊勢守。兵庫助。從四位上。殿中總奉行。御厩別當。寂蓮院。道號大盛。法名常陸。天文四十一廿四卒。

十二月小

五日。辛卯此日。於尾張國守山。清康主逝去。

武德大成記云。清康君武威愛惠。日ニ著レ月ニ盛ニシテ。兒童走卒モ其勇ヲ唱ヘズト云コトナシ。遠近稱シテ安城三郎殿ト云。甲州ノ武田信虎使ヲ來シテ盟約ヲ成ス。濃州ノ諸將志ヲ通者多ク。尾州守山ノ城主織田信秀ヲ叛テ我ニ歸降ス。清康君オモヘラク。先織田氏ヲ討テ尾州ヲ平ゲ濃州ヲ收メ。江州ニ克テ兵ヲ京畿ニシメサントテ。精騎一萬ヲ率ヒテ。岡崎ヲ發シテ岩崎ニ至リ。明日守山ニ陣ドリ。日々ニ尾州ノ村里ヲ放火シテ。信秀ヲオビキ出サント計タマフ。信秀敢テ兵ヲ出サズ。固ク清洲ノ城ヲ守ル。是時信定ハ上野ノ城ニアリ。虛病シテ來ラズ。故ニ軍中ニ狐疑ノ者多シ。(中略)軍中ニ流言アリ。安倍大藏信定トムツマジ。密ニ信定ヲ陣中ニ喚テ。守山ノ城主ト約シテ反逆ヲハカル。早クイマシメズンバ後ノ禍ハカラレジト云フ。是時大藏恩祿既ニ重シ。頗ル國政ニ預レリ。故ニ國家ノ安危ヲ己ガ任トス。意ニ思ヘラク。信定遂ニ貳心アラバ。禍蕭牆ニ起リテ外ノ侮來ルベシトテ。信定ニ使ヲ遣シ和睦ノ計ヒヲナサント。大藏ガ權勢ヲ妬ム者浮言ヲイヒ出シテ人々疑ヒタリ。大藏コレヲ聞テ。其子彌七郎ニ告テ云。頃日軍中ニ流言アリ。其由ヲ尋ヌルニ。實ニ我身ニ係レリ。我飽マデ君恩ニ浴メ。寵祿已ニ重ケレバ。邪佞ノ者イミネタンデ。此リ言ヲ云ヒウゴカス。想フニ我君ハ我誠ヲシロシメサン。然レドモ衆口ハ金ヲ鑠シ積毀骨ヲ消ストイヘバ。讒言ヲバ懼ルベシ。スヽンデ君ニ怨ントスレバ。自身ノ云ヒワケナリガタシ。シリゾヒテ讒者ト死ナント欲スレバ。衆口紛々トシテ一人ヲ敵ニトリガタシ。進退維谷レリ。我若シ不意ニ殺サレナバ。汝ハ身ヲ山林ニ潛メテ。時ヲ待テ上ニ怨ヘ。我躍ナキヲ明スベシ。若下情上ニ達セズンバ。汝モ亦死トモ悔ナカルベシ。汝ガ我ニ孝行ハ是ニスグルモノナシ。汝ハ君ニ近侍スル者ナレバカクハ云キカスレ。汝内ニ怨ルコトナカレ。外ニ色アルヿナカレ。汝誦ンデ我言ヲ守レト云。彌七郎父ガ言ヲ聞テ。日夜ニ憂思テ飲食モ安カラズ。一日君ノ側ニ侍リシガ。馬ノハナルヽ事アリテ軍中騷動甚シ。彌七郎ハ我父ノ殺サレタリト思ヒテ。御後ヨリチカシ率ル。(其刀ハ千子村正ガ作ナリ。)植村新六郎榮安即時ニ彌七郎ヲ誅ス。時ニ天文四年十二月五日也。清康君雄武世ニ絕テ向所敵ナシ。士ヲ撫民ヲ惠ンデ。常ニ四方ヲ兼并スルノ志アリ。此時尾濃ノ敵ヲ平ゲ京洛ニ壓ヲ清メバ。一統ノ治日ヲ計ヘテ待ベキニ。不慮ノ禍ニカヽラセタタマフ。世コゾリテ惜ミケリ。

十三日。庚子二階堂有泰官途事御執奏。

天聽集云。自ニ武家ニ以ニ寛治ニ被レ申。中務大輔。山城守藤原有泰勅許。二階堂。

廿八日。乙卯於ニ禁中ニ。有ヲ大内義隆任ニ太宰大貳ニ議。

天聽集廿二日條云。大内左京太夫内々太宰大貳望之由申。今度日花門被ニ取立ニ惣用万匹進上。爲ニ其賞ニ可ニ申請ニ之由也。○廿七日條云。大内左京大夫太宰大貳勅許。○廿八日條云。大内太宰大貳之事。旁以不レ可レ然之間。昨日出所之女房奉書取返事也。

此歲。大旱。○定ニ申次衆七人ニ。

二條寺主家記云。四年。大旱魃也。不レ植不レ刈。二月十二日雨下。以後者不レ降者也。

若狹記云。四年二月十七日ヨリ六月廿九日迄。雨不レ降。依テ多田ガ嶽ニ於テ雨請數度アリ。初不レ降。後フル。

高代寺日記云。此年。公方申次七人ヲ定ム。朽木其一ナリ。

## 後鑑卷之三百二

義晴將軍記第十六起ニ天文五年正記ニ十二月ニ

天文五年丙申正月大

七日。癸亥給ニ新春御書於細川右京兆晴元ニ。

大館御内書案云。爲ニ御吉書ニ。右京兆ヘ御内書被レ成候。御賀例也。御使毎年伊勢守。但當年代替未出仕無レ之條。同名六郎左衛門尉參勤云々。

明年之吉慶。珍重々々。不レ可レ有ニ盡期ニ候。猶期ニ面顏之時ニ候也。

正月七日　御判

右京太夫どのへ

此御案文。常興可レ致ニ調進ニ旨。春阿於爲ニ御使ニ被ニ仰下ニ間。則令ニ書進上ニ也。毎年御自筆。御料紙引合。御立文也云云。

十四日。庚午伊勢國災。
河崎氏神宮年代記云。正月十四日油田ヨリ火出テ。館岡田悉燒。廿日觸穢。

十七日。癸酉武田太郎晴信叙ニ從五位下一。
歷名土代云。從五位下。源晴信。(甲州武田信虎子。)同五正十七。
武田系圖云。晴信。大永元辛巳生。童名勝千代。天文四年十二月日首服。號二太郎一。同五年正月十七日叙爵。信濃守。大膳大夫。

廿日。丙子二階堂中務大輔有泰叙ニ從四位下一。
歷名土代云。從四位下。藤原有泰。(二階堂中務大輔)同五正廿。

廿一日。丁丑御臺所令レ遷ニ御產所一給。
公廣記四月廿六日條云。御產屋江正月廿一日午刻ニ御移。

廿三日。己卯朝倉宗淳捧ニ御產用脚請文一。
御產所日記云。從ニ越前一御下知返事云々。彼狀云。
御產所御祝儀御用脚事。任ニ先例一可ニ其沙汰一由。御奉書拜見候。尤以目出存候。委細堤小三郎可レ申候。恐々謹言。
正月廿三日　二階堂中務大輔

松田丹後守殿

廿六日。壬午御臺所御成。
御產所日記云。廿六日戊刻。御臺樣御產所江御成。始御身ガタメアリ。御祝アリ。三ツ御盃マイル。於ニ次間一御酒各被レ下。終伊勢肥前守鳥ナウタフ。御役者御太刀金進上。

二月小

廿一日。丁未渡ニ御御產所一。
御產所日記云。廿一日。御臺樣御產所江御成。尤珍重珍重。役者悉伺候。各烏帽子著ニ上下一。以下今日伺候衆。佐々木民部少輔。伊勢肥前守。海老名二郎。同興七。上樣御供衆安東平次郎。本郷治部少輔。同三郎。千秋左近將監。大草三郎。沼田三郎左衛門尉。小林民部少輔。松田丹後守。大膳亮。役者外海老名備中守。細川伊豆守。

廿六日。壬子今上御即位。木澤左京亮長政候ニ勤辻固役一。
皇年代略記云。後奈良院。天文五年二月廿六日即位。
大日本傳皇代記云。天文五年。今上皇帝二月廿六日即位。大澤左京亮辻堅。御供物大內殿ヨリ進上。
高代寺日記云。二月廿六日御即位禮行ル。公武[欠]□故ニ十年延引タリ。今年即位料大內介義隆調獻タリ。



廿九日。乙卯佐々木彈正少弼定賴獻物。
御產所日記云。廿九日。御臺樣。佐々木彈正少弼五種十荷進上。今度御產所後者各被レ召。被レ下ニ盃酒一數巡。女中各伺候。余參上。各及レ暮也退出。

三月大

三日。戊午於ニ五條一有ニ諍鬪事一。
殿功徑年記云。三月三日。於ニ五條一公方衆喧嘩。一色打死。大館左衛門佐及ニ恥辱一。

十日。乙丑若君降誕。是爲ニ光源院義輝公一。
足利家官位記云。義輝。天文五年三月十日於ニ東山南禪寺一御誕生。
御產所日記云。三月九日。御產所參上。御氣付タルヨシ有レ之。二階堂竹刀二ツ進上。○十日。今朝御產所ヘ伺レ召參上。御氣付治定。二階堂內々諸役者相觸ベキ由被ニ仰出一。聖護院殿御加持アリ。戌刻。若君樣御誕生アリ。御胞衣緒公方樣被ニ申次一。御初夜御祝アリ。大草調ニ進之一。三御盃參。佐々木彈正少弼代同民部少輔被ニ亭主一。先御盃頂戴。其外役人御盃。大膳亮悉拜領。御初夜御祝。細川右京大夫申沙汰。雜掌料千疋。但依ニ御勘略一五百疋大草方ヘ下行云々。
公廣記云。天文五年(丙申)三月十日御誕生。子刻。則御祝儀。一式三獻。井御手懸參。御座ありて。鼠子刻に御成あり。御祝は公方樣御臺樣御たかがたへ參。

十二日。丁卯三夜御祝。
御產所日記云。十二日。御產所ヘ參上。於ニ殿中一役者伺候衆。外樣。御供衆。中次。詰衆。公家少々御太刀進上。若公樣御禮。於ニ次間二階堂奉。有泰請ニ取之一。其後各進上。三夜御祝在之。畠山修理大夫申沙汰。雜掌料千疋進上。但依ニ御勘略一五百疋大草方ヘ下行之。三ツ御盃參。各拜ニ領之一。
公廣記云。十二日戊刻。三夜之御ゆわゐ。一式三獻井御手懸。初獻やき鳥。別足。龜足白。ざうに。みゝかはらけ。はし五しゆ。(かめのこう。かわたて。白。)二獻そぎはむ。御すい物。鯛。からすみ。三獻。さかな。ます。御すい物。せいこ。くさひき。以上三獻參。御成在レ之。

十四日。己巳五夜御祝。又御湯始。
御產所日記云。十四日。御產所被ニ參上一。從ニ御臺樣一外樣。御供衆。御部屋衆。中次。詰衆。一ツ被レ下ニ大御酒一數巡。ウタイアリ。戌刻。五夜御祝參。
公廣記云。同十四日戊刻。五夜之御祝。御湯はじめ。一式三獻井御手懸。同鳥子。(四角折。かわたて。白。上のとりのこの數五。)以上。

十五日。庚午七夜御祝。

御産所日記云。十五日辰刻。御産湯在二御祝一。三御盃參。公方樣御成。役者御太刀進上。(金。)御湯之御加持聖護院殿。

公廣記云。同十五日辰刻。七夜之御祝。　一式三献并御手懸。二番七分二。供御御まいり。十六式。御だい二用。然者御まつりのもりやう。かはらけ。供御之樣躰。饗之ごとくこしらへ申候。　神献。やき鳥。別足之鶴足。白。ざうに。みゝかはらけ。はし　五種。(かめのこう。かわたて。白。)　二献。わかすい物。鯛のさめ。(こうもり)。　三献。まきするめ。すい物。ゑび。けづり物。以上。御成在レ之。

十六日。辛未後七夜御祝。御色直。

御産所日記云。十六日辰刻。半井兵庫頭御胞衣賦申。伊勢兵庫助同道御祝アリ。御胞衣如二先例一。先伊勢兵庫助洗。其後小林洗。同酉刻御成アリ。各以下御酒。御謠アリ。同戌刻。七夜御祝。式三献。雑掌料五百匹。武田大膳大夫申沙汰。大草調進。御祝之後又在二御酒一。子刻還御。役者各御太刀(金。)進上。各拜領。(金。)

公廣記云。同十六日戌刻。後七日御祝之御色直。　一式三献并御手懸。同島子。(數七。四角之折。かわたて。白。紅。御てうしの口包み月。)以上。御成在レ之。

十七日。壬申今川修理大夫氏輝卒。其弟僧還俗襲レ家。稱二義元一。

足利季世記云。天文五年丙申。駿河國今川氏輝廿四ニテ早世ス。家督相續ノ息男ナクシテ舍弟二人アリ。一人ハ花倉寺ノ住持ニ定ム。律僧ナリ。其弟善德寺ノ住持ニ定ム。禪僧也。此兩人同年ニテ十九歳ナリ。此中ヲ一人還俗シテ家督ナツガシメント諸家老評定ス。花倉ノ母ハ福島上總介ガ女ノ腹ニテ。外祖福島ノ一類是ヲ立ントス。善德寺ノ母ハ氏輝ト一腹ニテ。中御門大納言ノ女ノ腹ニテ本妻ノ子ナレバ。是ヲ立ントス。其上善德寺ハ器量骨柄モヨシトテ。今川家瀬名陸奥守(貞世)類リニ望ミシカバ。殘ル家老一同シテ。善德寺ヲ還俗シテ義元ト號シ。頓テ花倉ヘトリカクル。花倉ハ外祖福島上總ト遠州高天神ノ城ニ籠リケルヲ。義元方押寄攻シ。花倉モ福島モ生害シ。殘ル勢甲州ヘ落ケルヲ。武田又今川方シテ。不殘打取ケル由注進ス。

今川系圖云。氏輝。修理大夫氏親子。五郎。母中御門大納言宣胤女。天文五年丙申三月十七日卒。臨濟寺殿用山道玄。廿四歳。依レ無二實子一。讓二與義元一。○又云。花倉主。修理大夫氏親二子。氏輝弟。氏輝依二遺言一。義元令レ相二續家督一。因レ茲雖レ及二合戰一。終令二敗北一。於二駿州花倉一討死。年廿歳。幼而出家。爲二律宗一。名其眞。住二山西花倉遍照院一。又天文五年六月十日。因二誅反一被レ誅。



十八日。癸酉給二御内書於畠山修理入道一。

御内書案云。能州畠山匠作五御内書二通。

爲二酒冬四品禮一。太刀一腰。馬一疋。背銅千疋到來。目出候。猶常與可レ申候也。

三月十八日　　御判

畠山修理大夫入道どのへ

爲二落髮禮一。太刀一腰。馬一疋。背銅千疋到來。被二聞召一訖。猶常與可レ申候也。

三月十八日　　御判

畠山修理大夫入道どのへ

廿六日。辛巳被レ引二神馬於神宮一。○攝州中島合戰。

神馬引付載

石清水八幡宮。御神馬一疋(鶴毛。)可二奉進一之由。所レ被二仰下一也。仍執達如レ件。

天文五年三月廿六日　　石清水八幡宮御師

細川兩家記云。三月廿六日に中島の一揆衆。富田中務一味して。西難波に伊賀守久助兩人の人數楯籠を賣落なり。長屋岸元腹切ぬ。四十計討死す。然ば伊丹衆楯籠次屋の城もあくるこ。同樣椋橋城伊賀守も明るなり。然ば木澤左京亮をたのみ。信貴城へこされけるこ。

廿七日。壬午着衣始御祝。

御産所日記云。廿七日。御産所參上。未刻御着衣被レ始之御祝儀。至二御産所一。御成在レ之。役者。御供衆。御部屋衆。中次。詰衆。御太刀進上。(金。)

公廣記云。同廿七日未刻。御着衣之御祝。御うぶゝ御めしぞめこ。　一式三献。御てがけは不レ參候。初献わかゑび。ふなもり。御すい物。鯛。　二献。とつさかまんぢう。白だうふ。御そへ物。さしくらげ。小ざらきそく。紅。白。けづり物。御すい物。ひしほ。わり。以上三献。御成在レ之。

是月。武田晴信使上洛。奉レ謝レ給二御字一。

武田系圖云。同三月。萬松院殿給二諱字一。

高代寺日記云。六月。信玄使上着。去ル三月元服字賜事ヲ禮ス。十六才。

甲陽軍鑑云。勝千代殿十六歳の三月甲府へ勅使たつて。甲州武田源信濃守大膳大夫と被レ成させ給ふ。又公方萬松院義晴公より上野中務少輔御使者として。晴と云字を下さる。晴信公と云々。

四月小

九日。甲午若君剃髮御祝。

御産所日記云。四月九日。御産所へ參上。午刻剃髮御祝在レ之。後御式三献。大草調進。役者井御供奉御衆御太刀(金。)進上。御祝。後御酒。數巡。御酌ニテ被レ下。御諧アリ。

公廣記云。卯月九日午刻。御剃髮之御ゆはゐ。　一式三献井御手懸參。

十一日。丙申依ニ若公降誕一被レ納ニ御太刀於多田院一。

多田院文書歟

就ニ若公樣御誕生一。御太刀一腰(持。)御奉納之。可レ被レ致ニ御祈禱精誠一者也。仍狀如レ件。

天文五年卯月十一日　　中務大輔有泰判

多田院

十三日。戊戌依ニ御産所儀一。給ニ御書於佐々木彈正少弼定賴一。

御内書案云。佐々木霜臺へ御内書。御使晴光云々。

就ニ今度産所儀一。無事令レ勤之段。尤被ニ喜思召一候。仍太刀一腰。馬一疋遣之。猶晴光可レ申候也。

卯月十三日

佐々木彈正少弼どのへ

十四日。己亥給ニ御内書於北畠晴具及多田院一。

御内書案云。伊勢國司北畠中將殿へ。御内書兩通。

就ニ年始之儀一。太刀一腰。馬一疋到來訖。目出候。猶常與可レ申之狀如レ件。

卯月十四日　　御判

北畠中將殿

卯月十四日　　御判

多田院へ御内書。

當寺事。由緒異ニ于他一之上者。彌可レ被レ抽ニ懇祈一之段肝要候。隨而滿仲實殿造替之儀。各令ニ馳走一相調之者。可レ爲ニ神妙一候也。

卯月十四日　　御判

多田院

廿日。乙巳依レ献ニ芍藥一。給ニ御書於蔭涼軒一。

御内書案云。蔭涼軒へ御内書。

從ニ鹿苑院一芍藥給候。令ニ祝着一候由。宜レ被レ申候也。恐々謹言。

卯月廿日　　御判

蔭涼軒

廿六日。辛亥遷ニ徒新造御所一。○御臺所還ニ御自ニ御産所一。○就ニ若公御童名事一。被レ進ニ劍馬於石清水八幡宮一。

大館書狀案云。卯月廿六日(天文五。)御移徒。(御新造。)戌刻。一若公樣從ニ御産所一御成始。同前。仍御祝。式三献巳下參。一御供衆巳下。今夜祗候之人數。御太刀(金。)二振宛進上之。一御太刀(金。)二振藤宰相殿。一同藤兵衛佐殿。(就若公樣御童名院池上之)一同藤有春朝臣。右御禮同前。一御太刀一(腰吉久。)大館伊與入道。(調進之)一御太刀一腰。御馬一疋。同。(拜領之)一若公樣御成始御祝。式三献。大草三郎。(調進之)一御移徒御祝。下津屋三郎左衛門。

公廣記云。同廿六日戌刻。本御所へ御移之御祝。同今度立申御殿江御移候。御はその御殿にて參ゑ。式三献計參。一御産屋江正月廿一日午刻ニ御移。一御祝料者八度ニ參拾壹貫文御下行。一諸役者へ御れりぬき一重宛御拜領。代にて參拾貫文給。

御内書案云。就ニ若公樣御童名儀一。善法寺へ御吉書御内書。

爲ニ菊幢長久所禱一。太刀一腰。(吉久。)馬一疋。石清水八幡宮令ニ寄進一之訖。彌可レ抽ニ精誠一之狀如レ件。

卯月廿六日　　御判

善法寺

五月大

八日。壬戌被レ署ニ南禪寺奉加帳御判一。

御内書案云。南禪寺長老被レ申鐘。可レ被ニ相調一之間。御奉加帳御判事。(今日五月八日被レ出レ之。)以ニ左衛門佐一申入之。如レ此也。

征夷大將軍　御判　御位署如レ此。

十六日。庚午大内左京太夫義隆上洛。任ニ太宰大貳一。依レ献ニ御即位料足一也。

公卿補任云。多々良義隆。故從三位義興男。永正四一誕生。同一一叙爵。同一一左京太夫。享祿二十二廿三從五上。天文元十廿九正五下。同日周防介。同三四廿從四下。同五五十六太宰大貳。同十二月廿八日左兵衛佐。(大貳如レ元。)

高代寺日記云。天文五年三月大内上洛。三十四才。義興ガ長男タリ。

廿三日。丁丑傳ニ御書於三寶院一。令レ請ニ其用木一。

御内書案云。三寶院御門跡江被レ成ニ御内書一。彼御境内用木御所望之。以ニ荒川治部少輔一被ニ御出一之。

雖二不レ寄レ思儀候。御境内用木所望候。被二仰付一給之候者。一段可レ爲二喜悦一候。猶常興可レ申候也。恐々謹言。

五月廿三日　義—御判

三寶院殿

右御使狩野左京亮氏武也。常興可レ致二副狀一之旨。同以二兆川禮部一被二仰下一之也。

廿四日。戊寅給二御書於畠山修理太夫一。

御内書案云。畠山修理太夫入道へ御内書被レ成之。伊勢兵庫助貞孝以二治部少輔一被二申請一之云々。

分國能州町野庄事。大永七年以來無二其沙汰一云々。早可レ令二進納一儀。可レ爲二肝要一。猶常興可レ申也。

五月廿四日　御判

畠山修理太夫入道殿

六月小

朔日。乙酉依レ献二大鷹一。給二御書於三條亞相公賴卿一。

御内書案云。三條大納言家（轉法輪相國御息也。）へ被レ成二進御内書一云々。

沼間小三郎所持大鷹到來。自愛不レ斜候。宜可レ加二芳言一事本望候。猶兩人可レ申候也。恐々謹言。

六月一日　御諱御判

三條大納言殿

右御使左衛門佐。細川豆州兩人云々。

十三日。丁酉發遣給二能州畠山一御書二通。○被レ薦二劍馬於愛宕社一。

御内書案云。同十三日。能州へ御内書兩通被レ成之。御日付十日也。以二左衛門佐一被レ下レ之。

爲二菊幢丸誕生之祝儀一。太刀一腰。馬一疋（河原毛。印兩目結。）到來。目出候。太刀一振遣之候。猶常興可レ申候也。

六月十日　御判

畠山修理太夫入道殿

就二四品口宣加判之儀一。爲レ禮。太刀一腰。青銅三千疋到來。悦喜候。猶常興可レ申候也。

六月十日　御判

畠山修理太夫どのへ

御太刀はぬりかなぐ。目ぬききりの丸二。ならびやきつけ。こんのいとにて被レ卷候。帶取紫足。あいもゑぎのどんす也。二尺八寸計也。黑しりざや。

大餘書狀案載

爲二若公樣御所禮一あたこ社御太刀一腰。（持。）御神馬一疋（青毛。）可二引進一之由。被二仰下一候。彌可レ被レ抽二懇祈一之段。可レ爲二珍重一之狀如レ件。

天文五年六月十三日　左衛門佐判

長床法印御坊

十六日。庚子廣橋中納言兼秀卿奉レ勅下二向周防一。

公卿補任云。中納言從三位兼秀。六月十六日爲二勅使一進發。同廿三日下二向周防國大内左京太夫多々良義隆朝臣館一。同十二月廿五日上洛。

十八日。壬寅依二年始献物一。給二御書于畠山入道一。

御内書案云。畠山匠作へ御内書。

爲二年始之祝儀。太刀一腰。白鳥。海鼠腸到來。目出候。猶常興可レ申候也。

六月十八日　御判

畠山修理太夫入道どのへ

右以二治部太輔一被レ出レ之。同十九日也。昨日以二治部太輔一依二申入一之也。

廿九日。癸丑給二御内書於畠山小次郎一。

御内書案云。畠山小次郎殿へ御内書。

就二菊幢丸誕生之儀一。太刀一腰。馬一疋到來。喜入候。猶常興可レ申候也。

六月廿九日　御判

畠山小次郎どのへ

此御禮。木澤左京亮以二森澤神右衛門尉一申上之也。七月二日被レ出レ之也。自二佐方一給レ之。

七月大

二日。乙卯依二僧徒騷擾一。被レ命二警衛於武田朝倉一家。

御内書案云。武田大膳太夫入道方へ御内書。

就下山門與二日蓮宗一鉢播儀。警固事差上之者。尤可レ爲二肝要一候。爲レ其下二信泰一候。猶高信可レ申候也。

七月二日　御判

武田大膳太夫入道殿

就下山門與二日蓮宗一鉢播儀。警固事差上之者。尤可レ爲二肝要一候。委細貞孝可レ申候也。

七月二日　御判

朝倉彈正左衛門入道殿

三日。丙辰山名彈正少弼致豐卒。

山名系圖云。致豐。彈正少弼政豐子。但馬因幡二州守護。天文五年七月三日卒。年六十五。號二栖鳳院一。法名芳心宗傳。

廿一日。甲戌依二北畠晴具落髮一。被レ遣二御書及太刀一。

御内書案云。北畠殿伊勢國司へ御内書。
就下被二落髪一之儀上。太刀一腰。長絁五千本到來。悦喜候。委曲常興可レ申候也。
七月廿一日　御判
北畠殿

廿三日。丙子佐々木定頼及僧徒出二兵於諸所一。
二條寺主家記云。二月之頃。於二京都叡山花王院一。阿彌陀經之談義有レ之。日蓮宗ニ杉本ト云者。談義之坐江望テ不審ヲ立。一句以二非道一致二詰儀一間。被二問尋一ト云ヘドモ。頗與二耻辱一間。山内ニ聞レ之。大衆怒テ花王院山上ヲ追出云々。依レ之江州少弼殿。其外四ヶ本寺觸催。六月廿三日京都押寄。東山ニハ六角衆三萬計ニテ陣取。白川ヨリ北勝軍地蔵ノ上迄ハ。叡山衆本寺末寺。都合其勢三萬餘騎。其ヨリ北ノ方ハ三井寺ノ衆三千餘騎ニ陣取。

廿四日。丁丑此日以後。山徒日蓮宗徒合戰。
二條寺主家記云。廿四日五日九合戰。

廿七日。庚辰蓮徒沒落。諸寺焚燼無レ遺。○正三位卜部兼永戰死。
足利季世記云。三好一家繁昌ノ折ヲ得テ。カノ檀那法華宗アマリニチガリ。大勢ヲ引卒シテ他宗ノ寺ヲ燒キ。其外度々大軍ヲ催シナドシテ。カヨウニ狼藉ドモアレバ。天台ノ宗ナバ權實雜亂トソシリテ。ナイガシロニスルヨシ聞エケレバ。山門ノ衆徒。今三好滅亡ナリ。ヨキ時分ナリト一同ニ會議會合シテ。京ノ法華宗ヲ退治ノ爲ニ。末寺末山ヲ催シ三千餘人。天文五年丙申七月廿六日ヨリ攻カヽリ。二十一箇寺不レ殘火ヲ放ツ。法華宗モ檀徒ヲカタラヒ。爰ヲ先途ト防ギケレドモ不レ叶シテ。所々ニテ一千餘人打死ス。寺々モ同廿七日マデニ皆燒失ケリ。此時洛中過半ヤケニケル。
二條寺主家記云。廿七日曉。日蓮衆沒落。三條口ヨリ初テ下京ハ悉以燒失。上京三分一程燒了。
公卿補任云。七月廿六日。爲二日蓮黨發向一。自二山門一出張。同廿七日。日蓮黨沒落。洛中過半燒亡。○又云。正三位卜兼永。神祇大副。三月一日任二丹波權守一。七月廿七日。自二山門一日蓮黨發向之時横死。
東寺過去帳云。當年。(天文五七月廿七日。)從二山門一日蓮黨就二退治一。彼黨類并道俗男女等生害數千人。
長享年後幾内兵亂記云。七月廿三日。自二叡山一日蓮黨爲二退治一。佐々木定頼人數等軍二于東山一。同廿七日落居。下京悉火。同廿八日。上京并醫願寺火。

廿九日。壬午給二御書於武田入道一。○木澤。三好等擊二破一向僧徒一。
御内書案云。武田大膳太夫入道方へ御内書。
其國雜說有レ之由風聞。事實候後哉。尤以驚入候。爲レ其差二下之助一候。次京都早速靜謐候條。可二心安一候。猶高信可レ申候也。
七月廿九日　御判
武田太夫入道どのへ
足利季世記云。七月廿九日。木澤左京亮。三好伊賀守。同名神五郎一味同心シテ大坂ヘ發向ス。中島マデ攻入ケレバ。一揆衆門徒馳向ヒ攻戰フ。一揆ハ皆步武者ニ駒馬ニテカケチラサレ。八百人マデ打レケレバ。一揆ドモ散々ニナリ。所々城ドモ皆明テ落行ケル。
二條寺主家記云。廿九日未時。長谷寺燒。秋山亂入。而自二樓門上一悉燒了。

八月大

朔日。甲申御憑献物如レ例。
貞親以來傳授献
御劔　一腰。(國光。)
御馬　一匹。(鶴毛。印雀目結。)
已上。
是は從二公方樣一。蔡裡江入朔に御進上之也。伊勢六郎左衛門尉貞順御使なり。若公樣御同前也。天文五年八月朔日。

十四日。丁酉渡二御法住鹿苑兩院一。○就二警固事一。給二御書於佐々木定頼一。
大館書狀案云。八月十四日御成。(巳刻。御板輿。)法住院御佛事御聽聞。其後御燒香。一直渡二御鹿苑院一。仍御點心參。一獻在レ之。申沙汰之。蔭涼軒。一御香合。一引合十帖(御成御禮。)同進上之。一御相伴。相國寺。崇壽院。飛鳥井殿。藤宰相殿。六郎殿。蔭涼軒。一還御申刻。
御内書案云。佐々木彈正少弼方へ御内書。
警固事。同者申二付之一。於二差上一者。外聞可レ然覺候。爲レ其差二下光兼一候。猶植綱可レ申候也。
八月十三日　御判
佐々木彈正少弼殿

十六日。己亥此日。於二關東一。宇都宮下野守與綱卒。
宇都宮系圖云。與綱。從四位。侍從。下野守。母上杉兵部少輔女。實正綱二男。成綱別腹。爲二忠綱養子一繼レ跡。天文五年丙申八月十六日廿三歳卒。法名長順。

十九日。壬寅於二清水寺一。被レ行二水陸會一。○被レ遣二御内書於本願寺一。
相國寺記云。八月十九日。大將軍命二五岳僧衆一。就二于東山清

水寺一殿二永陸會。于レ時燒香鹿死院梅叔和尚。首唱子建四堂。(詩壽寅。)其回向文云。大日本國山城州大功德主征夷大將軍源義晴。特生二慈心一。援二濟難苦一云々。

長享年後戡內兵亂記云。八月十七日。於二清水寺一大施食。

御內書案云。本願寺へ內々御內書。

進退歩。連々無二疎略一之段被レ申趣。被二聞召分一訖。猶內々局可レ有二傳語一候也。

八月十九日　御判

本願寺殿

廿七日。庚戌御判改吉書。○給二御書於伊勢國司一。

伊勢家書狀

一神事。

右神之爲レ神以二人之祭禮一。人之爲レ人以二神之加被一。因レ茲守二式目一。專二如在禮奠一。限二永代一。爲二不朽勤行一爲。

一農桑事。

右國者。以レ民爲レ基。民以レ農爲レ天。各勵二池溝堰之功一。宜レ致二稻穀紬絹備一矣。

一乃貢事。

右諸國之濟物。任二土貢賦一。早守二每年之所當一。可レ致二合期之進納一爲。

御內書案云。伊勢國司北畠殿へ御內書。

大神宮月讀社遷宮料。急度被二申付一者。尤以可レ然候。猶常興可レ申狀如レ件。

八月廿七日　御判

北畠殿

右鑾今日より御判形をかへられ候。仍御吉書は。今朝辰刻治部河內守罰進させられ候也。

廿九日。壬子細川八郎晴國於二天王寺一自殺。

細川兩家記云。三宅出羽守大坂本願寺一味にて。細川八郎殿晴國と申を呼入申とい〈共。世上此分に成行間。同八月廿九日夜半に晴國御兄弟を境津へ落申由申候て。天王寺にて御腹めさせけると也。我は又晴元へ歸參也。然ば細川の行流一旦相果かと。皆人申候也。

九月小

十日。癸亥就二參洛事一。給二御書於佐々木定賴一。

御內書案云。佐々木少彌方へ之御內書事。

參洛之事。當月中遂二其節一者肝要候。若不レ然者。入洛儀可レ令二延引一候。爲レ其差二下藤宰相一之條。可レ有二演說一候。猶植綱可レ申候也。

九月十日　御判

佐々木彈正少弼どのへ

廿四日。丁丑以二永景西堂一爲二眞如寺住持職一。

伊勢家書戰

眞如寺住持職事。任二先例一可レ被二執務一之狀如レ件。

天文五年九月廿四日　權大納言御判

永景西堂

此月。於二鎭西一。少貳資元爲二陶道麒所一攻自殺。

鎭西要略云。陶入道道麒在二肥前一。不レ卻。但是所四以欲三討下少貳上而立レ功。雪二奚津山敗軍之恥一也。倡二干葉。松浦。多久。後藤等一而追二討少貳資元一。逆黨蜂起圍二多久城一。九月四日前太宰少貳藤原朝臣資元自殺。卒年四十八。法名心月本了大居士。牌稱二太宰都督司馬少卿前三州太守一。或曰。資元病死也。又曰。城主多久氏逆心進二自害一。蓋資元有二兒女二三子一。冬尙之弟。皆幼稚兒也。茜冬資元沒落之時。措二諧於福滿寺一而去。於レ是資元臨レ死時。謂二於隨身之臣久保。平原。今泉三輩一云。汝等勿三敢殉二於我死一。速歸二佐嘉一。代二資元一而養二育幼少等一云々。三子者押レ淚相謂云。臣等自レ幼隨逐而不レ苦二艱難一。力勉而至レ此。幸遇二此時一殉死。豈得レ歸耶。當レ殉二於御遠行一。而友與共相誼。資元加二諷諫一。相看云。夫君臣之爲レ道也。殉レ死也易守レ生也難。汝等三輩者。我累代之舊臣也。我不レ賴二汝等一亦賴レ誰乎。雖レ曰三汝等死二於義一。而我不レ肯レ之也。然而强欲レ殉二死于茲一。須レ任二其意一云々。三臣屈伏。押二落淚一而去。至二福滿寺一。養二育資元之兒女一。新少貳冬尙在二蒐池城一。被レ捕二於小田資光一。蓋冬尙免レ誅。依二大友義鑑之歎息一也。

十月大

閏十月小

十一月大

廿九日。庚戌被レ遣二御書於朝倉宗淳入道一。

御內書案云。朝倉入道方へ御內書事。

內存之趣。尤被二聞食一訖。彌忠功可レ爲二神妙一。猶常興。晴光可レ申候也。

十一月廿九日　御判

朝倉彈正左衛門入道殿

十二月小

此月。明主命レ使。請二我邦人禁レ掠二其邊海一。

續善隣國寶記云。大明副使蔣承奉二欽差督察總制提督一。浙江等處軍務各衙門爲因。近年以來。日本各島小民。假以二貢夷一爲レ名。屢犯二中國邊境一。却二掠居民一。奉レ旨議二行浙江等處承宣布政使司一。轉行二本職一。親詣二貴國一面議等。因奉二此帶問一。後士

蔣海胡節志李所陳桂。自二前年十一月十一日一來至二五島一。由二松浦一。博多一。已往二豐後大友氏一。會晤。即蒙三遍行二禁制一。各島賊徒。備有二回文一。發レ船遣二德陽首座等一。進レ表貢レ物。所在發行。爾島禁賊御書見在。特行備レ禮。就差二通事矣四郎一。前詣接二遞爾一。即當下體二貴國之政條一。懲二部民之横行一。分二投遣人一。殿加二禁制一。不丙レ許小民私出二海洋一。侵乙擾中國甲。傳二邊境一。寧靜。實賴不レ生。共享二和平之福一。史册書レ美。光傳二百世一。豈不レ快哉。否則奸商島民。扇搏不レ已。蔗類益繁。據二海島一。窺レ隙竊發。恐非二貴國之利一。如二昔年安南國陳氏之俗一。可レ鑒矣。今特移レ文。併知レ非二特爲一中國一也。惟深體而速行レ之。希即回文。須至者。

右　者

日本國對馬島

嘉靖參拾五年拾壹月初三日

是年。若狹國本福寺搬建。

若狹記云。五年。芦原本福寺立。

# 後鑑卷之三百三

義晴將軍記第十七起二天文六年正月一訖二十二月一

天文六年丁酉

正月大

六日。丙戌大内義隆叙二從四位上一。同氏隆豐叙二從五位下一。

公卿補任云。多々良義隆。同六正六從四上。同七三八周防介。同六月日兵部權大輔。（去レ佐。大貳加レ元。）

歷名土代云。從五位下。多々良隆豐。同六正六。（大内治部少輔）猶非遂使如レ元。廿七歲。

八日。戊子陶隆房等叙爵。

歷名土代云。從五位下多々良隆房（陶）。同六正八。同日中務權大輔。十七歲。同十四八十七。尾張守多々良持長（陶兵部卿）。同六正八。四十一歲。平與重。同六正八。六十一歲。同八六一。民部大輔藤（式イ）（杉三河守）

（相國中務大臣）武任。同六正八。中務大亟如レ元。同十七廿二日。近江守。同廿四日。五十二出家。

十一日。辛卯二星合。

公卿補任云。正月十一日二星合。

二月小



朔日。辛亥千秋晴秀叙二從五位上一。任二刑部少輔一。

歷名土代云。藤晴秀。天文六二一。同日刑部少輔。

十七日。丁巳依二大神宮領事一。給二御書於伊勢祭主一。

伊勢家書載。

太神宮領事。任二先例一。可二進濟一之旨。可レ相二觸名主沙汰人等一之狀如レ件。

天文六年二月十七日　御名

祭主殿

廿六日。丙子依二六條八幡宮造營事一。奉行人傳二仰於成就院一。

集古文書載

六條八幡宮社頭事。就二造營之儀一。本願寺成就院被二仰付一之上者。諸國并洛中洛外諸邊度々以二奉加一。社頭可レ令二造營一之由。所レ被二仰下一也。仍執達如レ件。

天文六年二月廿六日　散位判

前河内守判

成就院

三月小

十日。己丑若君誕辰御祝。

高代寺日記云。三月十二。若公誕生日祝アリ。コレ去申生。母ハ近衛通公姫ナリ。

廿一日。庚子依二若公御祈一。被レ進二劍馬於神宮一。

神馬引付載

爲二若君樣御祈禱一。御太刀一腰。御馬一疋可二奉進一之由。所レ被二仰下一也。依執達如レ件。

天文六年三月廿一日

大神宮御神馬一疋（背毛。印從目結。）可二奉進一之由。所レ被二仰下也一。仍執達如レ件。

天文六年三月廿六日　伊勢守

太神宮御師

四月大

廿日。戊辰此日。於二關東一。上杉修理大夫朝興卒。

喜連川判鑑云。四月二十日扇谷上杉朝興卒ス。子息五郎朝定家ヲ繼ケ。

關東管領記云。同六年三月下旬上杉修理太夫朝興入道重病ヲ受。四月廿日於二河越城一卒去ス。遺言ニ。一度北條氏綱ヲ討亡シ。先收ノ耻辱ヲ雪クベシト云々。嫡子五郎朝定今年十三歲。家督ヲ繼トイヘドモ微弱タルニ依テ。朝興ノ舍弟左近太夫朝成ヲ後見トシ。當家ノ老臣三田荻谷等相談シテ政事

ヲ沙汰ス。武州神大寺ノ古城ヲ取立楯籠テ。氏綱ヲ攻ント企ツ。氏綱近年ノ軍ニ打勝。又朝興ノ死ニ乘ジテ猶河越ヲ攻ント議ス。

上杉系圖云。朝興。治部少輔朝良子。修理太夫。五郎。藤王丸名代。實朝寧子。天文六年丁酉卯月廿七日於二河越一死。五十。法名道興。

廿六日。甲戌伊藤修理大夫義祐叙二從四位下一。

歷名土代云。從四位下。源義祐。日向御屋修理大夫天文六四廿六。

日向記畧云。天文五年七月祐清公御遐俗アリテ。佐土原ノ城ニ入玉フ。六年四月從五位下叙セラル。時ニ御年二十五歲ナリ。八月將軍義晴公ヨリ諱ノ字ヲ賜リケレバ。義祐ト改玉フ。

五月小

廿二日。庚子被レ謝二歲首献物一。給二御書於能州畠山入道一。

大館御內書案云。畠山匠作ヨリ年始爲二御祝儀一。御太刀(持。)白鳥一。海鼠腸百桶進上之。御佳例也。仍御內書被レ成之。爲二年始之祝儀一。太刀一腰。白鳥。海鼠腸到來。目出候。猶常與可レ申候也。

五月廿二日　御判

畠山修理太夫入道殿

六月大

廿三日。庚午北畠具教叙二從五位下一。任二侍從一。

歷名土代云。從五位下。源具教。(伊勢國司。晴具御男。)天文六六廿三。同廿六日侍從。

七月大

是月。於二關東一。北條氏綱與二上杉朝定一合戰。

關東管領記云。同年七月十一日。北條氏綱武州發向。軍率行松田。志水。石卷。朝倉。足輕大將井波。橋本。多目。荒川。彼是都合七千餘人。武藏野ノ北方河越城五十餘町相隔テ。三木ト云所ヘ出張シ。河越ノ城主上杉朝定ヨリ。大將伯父左近太夫朝成并曾我丹波守等貳千餘騎ヲ卒シ。武上ノ面々三木表出向ヒ。合戰數刻ニ及ブ。上杉方古市小太郎等勇力ヲ勵シ相働トイヘドモ朝成一戰ニ討負退ク。相州ノ住人平岩隼人正重吉トイフ者。朝成ヲ追懸組テ落。終ニ朝成ヲ生捕。其餘上杉方討ル、者不レ知二其數一。北條方軍兵多勢相懷テ河越ノ城ニ擬寄。其威勢アタリカタキ故。彼城主扇谷上杉朝定ヲ始。各落失テ松山城ニ籠ル。此城ハ河越ノ北方廿餘町相隔テ。上杉ノ老臣難波田彈正入道ガ楯籠ル處也。今日北條氏綱河越ニ寄來ル所。城兵退散ニ依テ。入替リ城代ヲ仕置シ。惣軍喜悅萬歲ヲ唱フ。抑此川越ノ城ハ太田持資入道々灌草創ノ地。往昔在五中將業平詠二田面雁一。入間郡三吉野ノ里是也。同七月十八日氏綱大軍ヲ卒シ。川越ヲ出テ松山ノ城ヘ寄押ス。松山城主難波田父子城ヲ出テ合戰ス。先懸軍難波田聊難レ得二勝利一。後途ノ合戰北條方悉ク打勝。難波田敗北。此時上杉五郎朝定幼稚ニシテ松山ノ城ニ殘リ居タリ。難波田是ヲ守護セン爲ニ。殘ヲ纏テ松山城ヘ逃入畢。又于レ時相州ノ住人山中主膳ハ。難波田ガ舊友ニテ北條方ニ在。追駈難波田一テ詠吟之。

アシカラジョカレ迚社戰カハメ何ト難波田ノ崩レ行覽。

是大和物語難波女ノ歌醜案ト云々。難波田則チ引二返駒口一順レ跡答之。

君ヲ置テアダシ心ヲ吾レモタバ末ノ松山ナミモ越ナン。

是古今集ノ古歌也。當意即妙ノ趣向。贈答トモニ世ニ賞二吟之一。今日氏綱合戰難レ被レ得二勝利一。諸勢悉ク疲勞ス。因レ茲懷テ不レ攻二松山城一。放二火町屋近邊一。引二入川越城一。終ニ治レ兵歸二陣相州一。

八月小

朔日。戊申細川晴元叙二從五位下一。任二右京大夫一。

歷名土代云。從五位下。源晴元。細川同六八一。同日右京大夫。

廿二日。己巳山名誠通叙二從五位下一。任二左馬助一。

歷名土代云。從五位下源誠通。山名(因幡守護。)同六八廿二。同日左馬助。

九月大

十日。丙戌依二來春新禮拜講料事一。奉行人傳二仰於右京兆代一。

伊勢家書載

來年三月日吉十禪師新禮拜講料丹波國役百貫文事。依二差定申一。若公樣被レ付□□乞。早十二月中。可レ被レ致二其沙汰一之由。所レ被二仰下一也。仍執達如レ件。

天文六年九月十日　下野守　丹後守

右京兆代

晦日。丙午大館晴光傳二仰於朝倉孝景一。

大館書狀案跋　天文六十月八日隔之

芳扎拜見申候。從二御臺樣一。長夜又殿御母儀江御服御給之。誠以御面目至。珍重候。仍御禮御申候段。委細加治左京亮ニ被レ仰候旨。令二披露一之處。能々相心得可レ令レ申由。被二仰出一候。猶岸彦五郎可レ被レ申候。恐々謹言。

九月廿日　左衞門佐晴光

謹上朝倉彈正左衛門入道殿

# 後鑑卷之三百四

義晴將軍記第十八上起三天文七年正月一訖二九月一

天文七年戊戌　正月小

朔日。丙子細川右京大夫晴元。伊勢守貞孝出仕奉賀。

親俊日記云。貴殿御出仕。御烏帽子。細川殿御出仕。御供藥師寺與一。長盛又二郎。御流如二例年一。扇各拜領。親俊扇進上。上樣へ親俊懸二御目一。御盞拜領。

二日。丁丑晴元出仕如レ昨。

親俊日記云。細川殿御出仕。御供香西。柳本。昨日之御禮に兩種二荷進上。かな目錄にてまいる。

四日。己卯和歌御會始。○觀世太夫賜レ服。

親俊日記云。公方樣御歌始。觀世太夫。同四郎御服拜領。侍雜司。公人何も酒飲。來る十日御參內事相觸了。十三日。若公樣大御所樣へ御一献被レ申付て。悉御供衆御美物可レ有二進納一之由。以二公人一相觸了。

七日。壬午晴元出仕。又給二新春御吉書一如レ例。

親俊日記云。細川殿御出仕。波多野。柳本御供。公方樣御內書如二例年一。

八日。癸未武田元光獻二美物一。○被レ進二美物於近衛家一。

親俊日記云。武田殿御美物進納。御同朋衆近衛殿へ御美物まいらする。

十日。乙酉御參內。○蜷川道運入道奉謁。

親俊日記云。御參內。(巳刻。)御供大館左衛門佐殿。細川三郎四郎殿。初而御供被レ加レ召云々。御同朋歟阿。是も初也。御出奉行。松田丹後守。諏訪神左衛門。御物忌阿。貞孝若公樣預被レ申。仍無二御供一也。遲御申刻。道運御出仕。御對面。扇進上。盞拜領。扇給。同筥三郎左衛門尉御扇拜領。

十二日。丁亥近衛植家公。青蓮院宮來二謁府亭一。

親俊日記云。近衛殿。青蓮院殿公方樣へ渡御。淨花院御出仕。

十三日。戊子若公奉レ饗二將軍家一。觀世太夫作レ伎。纏二頭御服一。

親俊日記云。大御所樣へ。若公樣御一献御申。御供衆以下。御美物可レ有二御進納一之由。以二公人一相觸。私へ納申。御末下津屋かた(波之。細川殿如二恒例一橘饗御樣御進上。俄依二不例一無二出頭一也。觀世大夫。同四郎。同甚六。同小四郎召レ之。御盞樣御服太夫に被レ下レ之。

十四日。己丑長野宮內太輔進二呈美物一。

親俊日記云。長野宮內大輔御美物進納。海老三百。(俱百具鮑也。)如レ此加レ雜云々。

十五日。庚寅細川晴元出仕。

親俊日記云。細川殿御出仕。三献まいる。又三郎出仕。三献。式部。親俊御相伴。初献。御腰物。御太刀拜領。御太刀。御馬又三郎進上。

十九日。甲午荒神代官及丹波衆奉レ謁。各有二献物一。

親俊日記云。荒神御代官參。伊勢肥前守自二貴殿一したて被レ申候。一丹波衆上洛。高屋將監百疋。公文分也。爲二代官役一。三十疋。御鏡菱疋。上樣御方四面也。扇二本。遣二公文代官兩分一也。御兩所へ十疋づゝ。

廿日。乙未丹波衆謁二伊勢守一。

親俊日記云。丹波衆貴殿懸二御目一。御料所申次。淵田新介。同與三左衛門尉兩人定レ之。

廿七日。壬寅御臺所自二上池院家一還向。

親俊日記云。上樣上池院より御歸。

二月大

朔日。乙巳伊勢守出仕。

親俊日記云。貴殿御出仕。鍛冶屋雜作。公方樣御厩者罷通處ヲ赤土懸之。仍曲事之旨被二仰出一之。細川殿御被官糧々條言御申之。

三日。丁未前月廿六日。命二木澤長政一。誅二大和人戒重將監一。依賞二木澤功勞一。

親俊日記云。大和國戒重將監對二興福寺一緩怠之間。木澤被二仰付一。去廿六日生害之旨。寺門注進之。爲二褒美一。木澤かた貴殿□□遣之。

八日。壬子大內介義隆代使謁二伊勢守直孝一。

親俊日記云。自二大內殿一爲二御使一。田樂連阿上洛。貴殿へ朝鮮松實まいらせらる。連阿。了戒鴈股五枚進上。

十三日。丁巳細川晴元亭猿樂興行。

親俊日記云。細川殿にて觀世太夫能アリ。貴殿御出。

十六日。庚申此日。於二四條道場一。配二賦往生札一。

親俊日記云。於二四條道場一。六十万疋定往生札賦之。

十七日。辛酉細川右馬頭晴賢參洛。

親俊日記云。細川右馬頭殿去年以來在國。山崎迄貫殿御下向。則御上洛。

廿六日。庚午近衛種家公參二謁府亭一。爲レ覽二御所庭梅一也。

親俊日記云。公方樣庭梅被二御覽一。近衛殿御出。觀世四郎祇候。貫殿依二御虫氣一無二御祇候一。

卅日。甲戌上池院下二向尾州一。

親俊日記云。上池院尾張國へ下向。

三月小

朔日。乙亥細川右典厩出仕。

親俊日記云。御料所事。細川殿へ細川刑部少輔殿。海老名殿兩人。右馬頭殿御出仕被二仰出一。

三日。丁丑細川晴元及晴賢出仕。

親俊日記云。細川殿御出仕。右馬頭殿御出仕。

五日。己卯晴元下二向山崎一。爲二築城一也。

親俊日記云。田上永正興二香山彦三郎一相論事。兩奉行（松豐。

田上永正興二香山彦三郎一地子相論之事。具令二披露一之處。三問三答之趣。雖二事多一。香山出帶沽券狀非二正判一之旨。慥指申之間。於レ無二證判一者。可レ致レ成二御下知一。□□□恐恐。

三月廿三日　親俊

松田豐前守殿

諏方神左衛門殿

御宿所

一淵田三郎左衛門尉宿にて。喧嘩之事在レ之。

廿六日。庚子府亭申樂興行。

親俊日記云。公方樣御能アリ。觀世太夫。細川殿。同播磨殿。貫殿□不例已後御出仕。くれは。たむら。かきつば。たかなは。小神曾我。舍利。玉かづら。東坡居士。相生。上池院尾州上洛付而。矢ノ根給之。

是月。於二甲州一。武田晴信追二出其父信虎一。自立。

甲陽軍鑑云。天文七年戊戌正月元日に。信虎公子息晴信公に御盃をつかはされず。次男次郎殿へ御盃つかはさるゝ。さありて正月廿日に。板垣信形をもつて。信虎公より嫡子晴信公へ仰つかはさる。其旨は。太郎殿事。駿河義元の肝入をもつて。信濃守大膳太夫晴信と名乘申され候間。此上ながら義元



聞□。）披露。細川殿山崎へ城被レ拵云々。

八日。壬午細川五郎上洛。

親俊日記云。細川播磨守殿御息五郎殿御上洛。

九日。癸未御臺所渡二御上池院家一。

親俊日記云。上池院へ上樣御出。

十六日。庚寅就二金剛大夫勸進能一。觀世四郎役脇事有二御免許一。○議二先皇御法會要脚事一。

親俊日記云。於二坂本一。金剛大夫勸進能在レ之。觀世四郎脇之事。自二江州一依レ被レ申レ之。則以二綠阿一伺二上意一。御同心。此旨□遣レ之。一道逝參宮御下向。一來月七日。先皇樣御十三年に候之間。御懺法講御座候。三萬疋にて相調候。俱當年新禮拜講御勸之間雖レ調候。然者爲二御香錢一。万疋進納在度之由被二仰出一。仍執事代へ親俊□向。

廿日。甲午可レ引二神馬於日吉社一。旨被レ命。

親俊日記云。日吉新禮拜講。當年若公樣被レ勸之間。御馬一疋可レ被レ率之由。以二松丹一被二仰出一之。

廿三日。丁酉議二田上。香山地子相論事一。○於二淵田三郎左門尉亭一。有二喧嘩一。

親俊日記載

へ付そへ。萬事異見を受。心のいたるものゝ機作法もしろしめされ候樣にとの儀なり。晴信公御返事には。ともかくも信虎公御意次第と仰らるゝ。重て飯富兵部御使にて信虎公仰らるゝ趣は。當三月より駿河へ晴信御越ありて。一兩年も駿府におゐて。萬學文し給へとあれば。ゆく〳〵次郎殿を惣領にして。嫡子太郎殿を永く甲府へ返しなさるまじとの模樣なり。これ晴信公十八歳の御時也。同年戊の三月九日に。信虎駿河へ御座候。晴信は三月すゑに。駿河より一左右次第越給へとて。晴信公を甘利備前に預け。次郎殿を御館の御留守にをき給ふ。信虎公駿河へ御座故。晴信衆内々支度也。然る所に板垣信形。飯富兵部兩人を晴信公御賴あり。信虎公甲府を御立ありて。九日目十七日に逆心也。殊に駿河義元内通し給ふゆへ。少も手間どる事なし。信虎公御供の侍衆みな妻子を人質にとり給へば。信虎公を捨申。御供の侍衆みな甲州へ歸る也。

妙法寺記云。天文十。此年六月十四日ニ。武田大夫殿樣親ノ信虎ヲ駿河國へ押越申候。餘リニ惡行を被レ成候間。加樣被レ食候。去程ニ地下侍出家男女共。喜被二滿足一候事無レ限。信虎出家被レ成候而。駿河に御座候。

（案。晴信追二信虎一。軍鑑爲二七年一。妙法寺記爲二十年一。未レ知二孰是一。（今按妙法寺記可從）

四月小

朔日。甲辰地下借物事被ㇾ命。

親俊日記云。來七日。爲二御用一地下へ御借物之事。御小□て□□候由被ㇾ仰□候へ共。今日貴殿御申よりて。如二恕次一申二付之一。左京大夫殿御局よりなり。執事代へ以二河村一遣之。

四日。丁未主上懺法御覽。

親俊日記云。大裏樣御懺法見物也。

五日。戊申進二献萬匹於内裡一。○拜禮勤仕人々進二御太刀一。○晴元出仕。

親俊日記云。地下人万疋御引替申之。仍大裏樣御進上。一拜禮講被ㇾ勤ㇾ之。各御太刀。兩御所樣へ進上之。細川殿御出仕。一先皇樣爲二御十三回忌一。眞如堂御開帳。

七日。庚戌大舘左衛門佐晴光下二向越前一。

親俊日記云。大館左衛門越前へ下向。

十日。癸丑細川右典厩進二献鷹鳥一。

親俊日記云。細川右典厩鷹鳥御進上。御盞まいる。今度近衛殿被ㇾ參。河原毛御拜領之。

廿一日。甲子若君御色直也。

親俊日記云。一若公樣御色直。貴殿御出仕之。御方御料人。

坂本へ被ㇾ下之。

廿四日。丁卯細川晴元亭申樂張行。

親俊日記云。細川殿能あり。

廿八日。辛未被ㇾ返二下地下人借物一。○給二御書於佐佐木定賴一。

親俊日記云。今度地下人御借物万疋。被二返下一之由被ㇾ仰。則以二河村一依田執事代一。御倉へ案内申之。

大館御内書案云。卯月廿八日。佐々木少彌方へ御内書。

今度至二佐保山一進發儀。無二心元一覺候間。可二申遣一候所。先日注進候段。尤可ㇾ然候。其後定彌如二本意一候。爲ㇾ其差二下等孝藏主一候條。猶可二演說一候也。

卯月廿八日　御判

佐々木彈正少弼どのへ

廿九日。壬申日向守護伊東六郎謝ㇾ賜二御字一献ㇾ物。

親俊日記云。日向伊東六郎爲二御禮一三百匹公方樣へ進上。義御字初申之。貴殿へ五千疋進之。

五月大

五日。丁丑伊勢守及晴元晴賢出仕。○伊勢守進二献菖蒲刀一。



親俊日記云。貴殿御出仕。細川殿。典厩。播磨守殿御出仕。一若君樣御菖蒲刀御太刀。貴殿御進上。中島仕ㇾ之。

六日。戊寅地下人奉ㇾ謝二借錢返濟一。進二物伊勢守一。

親俊日記云。上京地下人。今度上意御借錢則御返辨。依二御取合一參候。仍御樽五荷三種(鯛五。鱧一折。昆布一折)貴殿へ進之。親俊へ三荷代到來。三十疋。

七日。己卯今宮祭。○地下人進物如ㇾ昨。

親俊日記云。今宮御祭禮。於二行願寺前一喧嘩アリ。鱧テ無事。一下京地下人。如二昨日一五荷五種(鯉五。同。同。)進之。

九日。辛巳今宮祭還向。

親俊日記云。今宮還幸。於二内野一見二物之一。

十七日。己丑丹州御料所事。自二波多野一言上。

親俊日記云。御料所井料之事。池田新介爲ㇾ使。波多野かたより來。以二見參一返事申遣。

一御料所丹州桐野河内村之内。供御米押領分事。度々被二仰出一之處。殿重御請雖二被ㇾ申之一候。于ㇾ今同篇之儀。一向無二正躰一候。幸唯今波多野荒木在京仕候間。急度可ㇾ被二仰付一。然於ㇾ不ㇾ被ㇾ渡者。供御可ㇾ及二闕如一候。更以不ㇾ可ㇾ成二緩怠一候旨。御披露所ㇾ仰候。恐々。

五月十七日　親俊

飯中大

松對馬

一御料所之事。佛地院へ荒木押領分記遣之。

十九日。辛卯細川右典厩献二松簟一。

親俊日記云。細典厩より五松茸一折御進上。

廿三日。乙未江州高山城落居。

親俊日記云。今朝六時分。北江高山城落居注進在ㇾ之。

六月小

朔日。癸卯細川晴元及典厩等出仕。

親俊日記云。細川殿。典厩。和泉守護殿御出仕。

四日。丙午江州諸城落居。

親俊日記云。江州堀ヵ城カマノヘノ城落居候由。注進在ㇾ之。

七日。己酉萬匹下行。造二營御所一。

親俊日記云。自二公方樣一万匹御下行にて。御造作御殿事。

十三日。乙卯江州山徒進二献島鴨一。

親俊日記云。江州山徒島鴨公方樣へ進上之。

十五日。丁巳奥州探題大崎。及九州南條彌三郎献物。

親俊日記云。奥州探題大崎殿より御狀アリ。黄金二兩。大窪雅樂允黄金一兩。大崎殿□(使歟)者宮松竹千世以二太刀一御禮申候。一九州南條彌三郎二十疋持來候。

七月大

二日。癸酉朝倉宗淳謝二御相伴衆一献物。仍給二御書於彼父子一。被レ下二御劍一。

御内書案云。七月一日。越前朝倉入道方へ之御内書可レ致二調進一由。以二左衛門佐晴光一被二仰下一候間如レ此。日付明日二日仰云々。

就下召二加相伴衆一儀。爲レ禮太刀一腰。(行平。)刀一。(秋廣。)香合一。(剔紅。)盆一。(堆紅。)馬一疋。(河原毛。印雀目結。)青銅十万疋到來。神妙。仍太刀一振(吉久。)遣之。猶晴光可レ申候也。

七月二日　御判

朝倉彈正左衛門入道どのへ

就二宗淳相伴衆儀一。爲レ禮太刀一腰。(正恒。)馬一疋(河原毛。)到來。目出候。仍太刀一振(包永。)遣之候。猶晴光可レ申候也。

七月二日　御判

朝倉長夜叉どのへ

就二相伴衆儀一。菊幢方江爲レ禮太刀一腰。(行平。)馬一疋(鞦毛。)到來。目出候。猶晴光可レ申候也。

七月二日　御判

朝倉彈正左衛門入道どのへ

就二宗淳相伴衆儀一。菊幢方江爲レ禮。太刀一腰。(景秀。)馬一疋(鞦毛。印雀目結。)到來。目出候。猶晴光可レ申候也。

七月二日　御判

朝倉長夜叉どのへ

太刀一腰(鬼切。)到來。名劍無二比類一候。尤神妙。仍太刀一振(正恒。)遣之。猶晴光可レ申候也。

七月二日　御判

朝倉彈正左衛門入道どのへ

三日。甲戌給二御書於畠山修理大夫一。

御内書案云。畠山匠作年始御禮に付て。御内書如二例年一可レ被レ成レ之。可レ令二調進一候由。宮内卿殿御局を以被二仰下一候間。則調進上仕候也。

爲二年始禮一。太刀一腰。白鳥一。海鼠腸百桶到來。目出候。猶常興可レ申候也。

六月廿五日　御判

畠山修理大夫入道どのへ

七日。戊寅細川晴元出仕。

親俊日記云。細川殿御出仕。

八日。己卯給二御書於吉良家一。令二謝二歲首献物一。○若君生見玉御祝。○此日。雷震落二柳原一。

御内書案云。吉良殿年始御禮被レ申に付て。被レ成二御内書一候間。可レ致二調進一候由。以二治部大輔晴忠一被二仰下一候條。則調進上仕候。

爲二年始祝儀一。太刀一腰。勝栗五箱。白鳥一。鯉扣五桶到來。喜入候狀如レ件。

七月八日　御諱御判

吉良殿

親俊日記云。若公樣御生見玉。御一献アリ。大雷鳴。落云云。柳原キヤウシヤ寺盤若林。一大崎殿御返事。常直三人江波レ之。御對面。御扇二本被レ遣之。別帝注レ之。

十五日。丙戌依二若州雜說一。給二御書於武田大膳大夫及永元寺一。

御内書案云。就二若州雜說之儀一。武田光綠へ被レ成二御内書一。爲二御使一。可レ被レ指二下本郷治部少輔一。仍御内書可レ致二調進一之旨。以二攝州一被二仰下一之間。則調レ之進上仕也。

於二分國一雜說之由其聞候。無二心元一被二思食一候。每篇無事可レ爲二肝要一。爲レ其差二下晴泰一候間。可二演說一候也。

七月十六日　御判

武田大膳大夫入道どのへ

若州事。永元寺へも被レ成二御内書一。可レ被レ成二意見一事。肝要之趣可レ被レ仰候間。可レ致二調進一由。重而以二攝津守一被二仰下一。則令二調進一也。

於二若州一雜說旨風聞。無二心元一覺候。每篇被レ加二意見一。無事可レ爲二肝要一。爲レ其差二下晴泰一候間。可レ令二演說一候。猶常興可レ申候也。恐惶敬白。

七月十六日　御判

永元寺

十七日。戊子依二三上兵庫頭經實知行事一。給二御書於尼子父子一。○赤松政村遁二走淡路一。

御内書案云。三上兵庫頭經實知行分因州岩井庄事。可二渡付一之段。對二守護一可レ加二意見一之旨。尼子父子方へ被レ成二御内書一。べき也。可レ致二調進一旨。以二日行事一被二仰下一之。明日ハ御德日之間。今日可レ被レ成二御判一條。今日中二可レ認之由仰也云々。仍則令二調進一之。

三上兵庫頭經實知行分因幡國岩井庄事。速可二渡付一之段。對二守護一急度加二意見一者。尤可レ爲二神妙一。猶委曲常興可レ申候也。

七月十七日　御判

佐々木尼子伊豫守どのへ
佐々木尼子民部少輔どのへ
兩通御文言同前也。
親俊日記廿一日條云。播州赤松殿高砂沒落之由風聞アリ。尼子出張治定云々。
赤松記云。其後天文七年小鹽山に屋形御座のとき。雲州尼子政久は山名兵庫頭□(のヲ)たるによつて。但州より當國へ亂入候。弘岡どのをはじめ國衆少々尼子に一味し。小鹽を御ふまへがたく候て。小鹽に御留守居をき。高砂の梶原駿河がまへに御座候處。同七月十七日に小寺明石逆心のいろを立て。高砂表へ大人數をみだし懸候時分に候へば。高砂にも御座候事不レ叶。淡路へ御のきあり。

廿七日。戊戌　大友八郎謝レ賜二御字一献物。因給二御書一。
武家儀條々哉
爲二字禮一太刀一腰。(國友。)馬一匹到來。目出候。猶晴光可レ申候也。
天文七
七月廿七日　大友八郎どのへ　御判

廿八日。己亥　若州粟屋右京亮沒落由注進。
親俊日記云。若州より注進。粟屋右京亮石田庄沒落云々。粟屋監物打死。

八月小

朔日。壬寅　細川晴元出仕。
親俊日記云。細川殿御出仕。波多野備前一人供也。

二日。癸卯　波多野備前守饗二細川晴元一。
親俊日記云。細川殿へ御一献。波多野申沙汰。觀世能アリ。

廿六日。丁卯　畠山彌九郎謝二家督一献物。仍給二御書一。
御内書案云。畠山彌九郎殿へ御内書。
爲二家督禮一太刀一腰。馬一疋。(鵜毛。印雀目結。鑒眼三千疋到來記。目出候。仍太刀一振(貞乘。)遣之候。獨晴光可レ申候也。
八月廿六日　御判　畠山彌九郎どのへ

九月大



朔日。辛未　公武拜賀。○依二六條八幡宮修理一。議下進二馬代一事上。○此日。於二濃州一。持是院妙全卒。
大館日記云。今朝參賀衆勸修寺殿。藤宰相殿。其外御供衆細川典厩。伊勢守以下少々。其外申次衆以下出仕也云々。若公樣御對面有之云々。　一日行事。豆州より各へ折紙在レ之。東山無量壽院大工職事。從二彼院一以二諏方若狹守一言上。四十餘年已來。無二相違一大工たる處。今度持佛堂造營砌に相二支之一無レ謂。所詮御下知可レ被二成下一旨被レ申レ之。就レ其檀那一行以下證跡共於レ帶之。各御存分可レ承之由被レ申レ之。仍無儀存候。可レ被レ成二御下知一哉之趣申レ之也。(奏者富森左京亮。)
一日行事(豆州。)へ以二折紙一申候。六條八幡宮御修理事。治部河内守申之段。先日各談合申之。仍御馬代一疋分。御倉に可レ有二御座一候。べちに御足付御ざなく候はゞ。先これを可レ被レ參歟旨。宮内卿御局へ尋申候處。いかにも可レ然候。御祈禱に候間。其分無二御別儀一之由御返事也。仍治部河内守方より。御倉正實方へ直申候て。可二請取申一之由可二申遣一候。當日行事。自然儀御心得。可二自出一旨申レ之也。
船田前記云。持是院。諦者妙全。權大僧都。岱宗全公大和尚。天文七年九月一日逝。

二日。壬申　定朝倉賜物事。
大館日記云。越前朝倉方へ。公方樣より八朔進物爲二御返一。御太刀一腰(持。)被レ下之由承及也。進物は。御太刀。御練貫三重。(代千疋。)御馬一疋(代五百疋。)進上之云々。仍御返御太刀の外。今一種被レ出候哉之由。不審申候へば。去年御馬を相副候處。只御太刀計にて御座候由。彼雜掌申て。御馬をば不二請取申一候。先々此分にて御座候由申けると云々。さては勢州被二申次一候時。其分にて候けると存候也。　一六條八幡宮且御修理事。不レ依二多少一。先以早々被二仰付一候樣にと。先日治部河内守被レ申之間。各申談候。然に八朔右京兆進上御馬代一疋分。いまだ御倉に御座候由候間。昨日宮内卿御局へ其分得二御意一候。尤可レ然旨御返事候間。早々直に正實方へ被二申合一。被二請取一之。社家へ被レ渡候て可レ然存候旨。只今以二愚札一治河方へ申遣也。

三日。癸酉　諏訪信濃守言上公人奉行事。
大館日記云。諏方信濃守來入。公人奉行事。内々可レ令二言上一之由被レ申レ之。自然於二御尋一者。意得所レ仰候旨。被レ申之也。

四日。甲戌　曇華院被レ申二請大聖院代香事一。
大館日記云。曇華院殿御申候。御年被レ寄候て。御行步不レ叶により。御燒香にも無二御出一御ハ候間。大しやう院殿御けさ

の結ゝもかへ被レ申て。御せう香をもさせ被レ申度候。御内儀は被二御申合。上意一段たるべき旨御申也。是又内々御談合也。此御儀被レ伺二御申旨。御入寺無二別儀一御事と存候よし各申レ之。是手日記に加二證名一申也。大しやう院殿は。近衛殿姫君にて御座候云々。御寺一向依二御不弁。近衛殿に御座候云云。

八日。戊寅就二城州段錢事一。給二御書於右京兆一。○伊勢守就二若州事一有二言上旨一。○三上に庫頭經實御太刀進上。奉レ謝二領知事一。

大館日記六日條云。攝州(元造朝臣。)より各へ折紙在レ之。岡御所より御申候。御近邊御知行へ。右京兆より今度反錢之事被レ相二懸之一につきて。御下知之儀攝津守方へ被レ仰レ之。然間御當知行之段。攝州存候事候間。奉行方へ賦可レ遣レ之哉由被レ申之間。然ば無二別儀一存候由申之也。○八日條云。早朝に日行事(豆州。)來臨。就二反錢之儀一。右京兆へ之可レ被レ成二御内書一。只今常與可レ致二調進一候由。被二仰出一之。御案文被レ出之。仍豆州待せ申て。則書進上申也。

城州段錢之儀。無二其謂一候。殊諸奉公之輩知行分。尤以不レ可レ然。所詮堅可二停止一旨。可レ被二下知一候。猶晴廣高助可レ申候也。

九月八日

右京大夫どのへ

一日行事豆州より。各へ以二折紙一承候。伊勢守方より若州に知行分に。方々少々申合言上候。題屋右京亮丹波國へ罷越。右京兆被官、、、、相頼候て。若州へ可二亂入一候由申候間。右京兆(爲二上意一)被レ立二御使一。堅可レ加二制止一候上之旨被二仰出一候はゞ。可二畏存一候。武田も定可レ被二忝存一候由。被二申上一候について御談合之由承候間。尤同心申候。一御太刀一腰(持。)三上兵庫頭經實進二上之一。今度知行分(因州岩井庄。)事に。尼子父子方へ被レ成二御内書一。因州守護に堅加二意見一。可二去渡一事。可レ爲二神妙一趣。被二仰出一候。忝畏存候。仍尼子かたより因州へ申遣候。定不レ可レ有二異儀一候哉。先以御禮に御太刀進上之旨申之。書狀有レ之。仍以二宮内卿御局一申入之。一内々被レ仰旨。宮御局より承候。尼子上洛之儀いかゞ云々。年内ははゞ無二餘日一間。來春可レ致二參洛一にて候。(中略)尼子伊豫守は隠居分にて候。公事論など孫民部少輔相計分にて候。明年春出張前に民部少輔へ。自然は御詞をも被レ加候はゞ可レ然奉レ存候由。内々三上書狀に有レ之。國之趣御尋につきて。此内狀を宮内卿殿迄爲二御披見一進入申也。

九日。己卯菊節參賀。

大館日記云。今朝。參賀御人數。藤宰相殿。烏丸殿。飛鳥井少將殿。右京大夫殿。細川播州。同名奥州。(御供衆細川典厩。)伊勢守。朽木民部少輔已下出仕也云々。御對面。大御所樣。若公樣。御出座也云々。中次番朽木民部少輔云々。

十五日。乙酉小坂山城守依二家督及知行事一捧二申文一。

大館日記云。小坂山城守申同名熊滿丸(勢田忌事也。)家督井知行分所々散在事。綸旨殿重也。被レ下二御下知一者。可二忝存一旨。捧二證文一申レ之。仍日行事(荒治。)以二折紙一各被レ申間。證文通無二別儀一存候由申之也。

十八日。戊子仍二安威兵部少輔敷地事一。給二御書於細川播磨守一。

御内書案云。以二日行事一(荒川禮部。)被二仰出一。安威兵部少輔申敷地仙名分事。細川播州へ御内書可レ被レ遣之云々。

安威兵部少輔光脩申敷地仙名分事。爲二亂明一。相番二問二答處一。三寶院門跡遣二背下知一之條。任二先例一。申二付光脩一之問。存二知其旨一。急度相調之者。可レ爲二神妙一。猶高助可レ申候也。

九月十七日　御判

細川播磨守どのへ

廿日。庚寅就二城州炭山庄事一。有二衆議旨一。

大館日記云。六角霜臺被レ申候城州炭山庄并役所一ヶ所事。不レ被二立入一。是非大名に御下知被レ成候者。可二忝存一候旨。及二度々言上一。可レ爲二如何一哉事。此儀如レ此わりなく六角申につきては。可レ被レ成二御下知一と存候。三寶院殿へは如レ此候。非二御等閑一之旨。可レ被レ仰哉と。各申レ之。

廿四日。甲午令レ議二内裡警固事一。

大館日記云。明日(廿五。)禁裏樣にて猿樂させられ候。御警固之事御申候。何之仁躰に可レ被二仰付一候哉。各存分可レ有二言上一之趣。被二仰出一之云々。仍攝州事書に。右京兆へ可レ被二仰出一歟。不レ然者御近所之事間。伊勢守に可レ被二仰付一哉之由被レ申之。

廿五日。乙未禁中有二申樂一。

親俊日記云。禁中御能あり。爲二上意一。俄御警固之事被二仰出一之。若衆申付罷出云々。

大館日記云。太神宮一社奉幣御儀につきて。衛士致二猥藉一ては可レ爲二曲事一。禁裏樣以二女房奉書一。傳奏へ被レ仰レ之。彼ゑじは東坊城殿被官人候間。坊城家へ堅被二仰出一て可レ然候哉。又同右京兆へも被二仰出一。何も被レ立二御使一可レ然歟之由。折紙に在レ之。將又當日北殿御警固之事。京兆へ可レ被二仰付一哉旨同在レ之。

廿六日。丙申畠山修理太夫献二劍馬一。奉レ賀二若公降誕一。

大館日記云。能州畠山匠作より。書狀兩通。（去六月廿五日日付也。）并遊佐豐後守副狀到來。從二彌三郎方一取二次之一。もたせ給ひ使（ひのくち也。）在レ之。若君樣御誕生御禮として。御太刀。（持。）御馬進上之。同公方樣へも如レ此進上之。仍御太刀二ふり在レ之。則宮內卿御局へ申入候て申入候也。（使者富左也。）雖而御馬御代也。則六百疋（二疋之分。）御倉へ納申候也。

廿九日。己亥渡二御細川右京兆晴元亭一。

伊勢貞久武雜記云。天文七年九月廿九日。細川殿江御成。献立。初献。（くしの物。かめのかう。）雜煮。二献。（熨斗海月。）すゞき。三献。まんぢう。（添肴筏。）四献。（こさしだい。）ゑい。五献。冷麥。（添物なま鳥。）六献。あい一物。七献。やうかん。八献。（こんきり。うほの子。）鯉。九献。はく魚かん。十献。（卷するめ。鮎のすし。）ひしほ煮。十一献。（からすみ。いか。みつあへ。）十二献。（はひ。酒ひて。）十三献。（くま引。鱈。）鯛。十四献。（ちん。かきあへ。かも。）十五献。（きつり物。あひひしほ。）ふる。

卅日。庚子春日御師献二卷數一。河原院同前。○給二八朔返物於能州一。

大館日記云。御卷數二合。（御巻樣）兩御所樣へ。春日社御師。刑部少輔進上之。同三枝。三御所樣へ。河原院より進上之。一能州畠山匠作へ。八朔御返目錄書狀相副渡遣之。今朝彼使取て來候間如レ此也。取次富佐也。御返三種也。御太刀。（宇多國宗。ぬりかなぐ。金ぶくりん。）御香合一。（珪璋。）御盃一枚。（堆朱。御もん靈芙蓉。）如レ此也。此御盃はむかし慈照院殿樣御代始。唐より十枚まいらるゝ其內也云々。

# 後鑑卷之三百五

義晴將軍記第十八下起二天文七年十月一記二十二月一

天文七年戊戌

十月大

二日。壬寅大內恒持叙二從位下一。

歷名土代云。從五位下多々良恒持。（大內周防介）天文七十二。（三十五歲。）

十一日。辛亥細川晴元子息出仕。

親俊日記云。細川殿御實子御出仕。



十五日。乙卯三好高畠等追二敵兵一散レ之。

親俊日記云。スイ坂敵出張。三好甚五郎。高畠兄弟罷向追拂。頸八打取。○十九日條云。ヤキ城實衆。手負數多在レ之。○廿五日條云。四條津百姓等與二中路被官人一對決。又西京服部與二古市藤左衛門一對決。

廿五日。乙丑細川晴元伊勢守詣二清光院一。

親俊日記云。細川殿。貴殿清光院へ御出。細川殿自二貴殿一太皷被レ遣之。

是月。於二關東下總國鴻臺一。北條氏康與二小弓義明一合戰。義明敗死。

東亂記云。小弓御所義明ノ威勢廣大ニ成シカバ。元來侘ル人ニテ。關東ヲ對治シテ。惣領家ヲ指越關東ノ長者ト成ベシト企玉フ由聞エケレバ。古河殿ヨリ氏綱ヲ內々御賴ミアリテ。小弓殿對治アル可トゝ。氏綱モ義明ノ威勢強ケレバ。我爲迄モ惡カリナント兼テ思ハレケレバ。則御請被レ申。分國ノ勢ヲ合小弓ヘ發向ノ用意アリシ處ニ。八州諸家傾ケ申ケルハ。義明ト申バ近代無双ノ名大將ニテ。公方ノ御跡ヲモ總玉フベキ人ナレバ。御對治ハ如何アラン。只和平ニナサレテ。末末ハ御所ニ取立。鎌倉ニスヘ被レ申候ヘト侍ケレ共。氏綱終ニ不レ用。已ニ打立ト聞エケレバ。義明聞召テ。急ギ中途ニ馳向テ防ゲトテ。御舍弟其賴ト御息小弓ノ曹司ヲ先馳ノ大將トメ。里見義弘ヲ副將軍ニ定メ。房州兩總州ノ軍ヲ催シ。同國鶴ノ臺ニ陣ヲ張リ。市川ヲ前ニ當テ待懸タリ。此國府臺ノ城ト申ハ。上代景行天皇ノ御宇ニ。日本武尊東夷征伐ノ爲ニ關東ヘ御下向有テ。御叛ノ時此河ノ淺深ヲ不レ知メ渡リカネ玉フ處ニ。鶴ノ島一ツ飛來リテ。河ノ淵踏ヲメ此國府ノ臺ニ上リ。羽ヲタレテ尊ニ向ヒ奉ル。日本武尊大ニ感シ玉ヒ。則汝ニ此山ヲトラスベシ。永代此山ノ主タルベシト宣命アリシ後ニ。鶴食多住シ故ニ。鶴ノ臺ト付ル成ベシ。近國無双ノ城郭ゝ。去ル文明十一年七月十五日上杉ノ家臣太田道灌ガ臼井ノ城ヲ攻シ時。初テ城ニ取立ケル也。義明モ御馬ヲ被レ出敵遲シト待玉フ。去程ニ氏綱ハ天文六年十月四日小田原ヲ打立。江戶ノ城ニ着キ着到ヲ付玉ヘバ。方々ヨリ大勢馳加テ二万餘騎トゾ記ケル。評定アルベシトテ。諸勢大將ノ前ニ集ル。或ハ敵ハ要害ニ懸リ。大勢ニテシカモ案內者ナレバ。少延引メ被レ貴バ敵コラヘカネテ進マンカ。其時打圍ンデ亡スベシト云モアリ。或ハ小弓殿ヨリ關東中ヘ御教書ヲ被レ成。御加勢ヲ被レ召候間。猶豫ノ評定セバ。皆々御請申テハユヽシキ大事ナレバ。只急ニ攻落シ然ルベシト云。評議兩遍ニ分タル處ニ。根來金石齋末座ヨリ進出デ申ケルハ。兵書ニ天之時ハ地ノ利ニシカズ。地ノ利ハ人ノ和ニシカズト見ヘタリ。

然ニ今小弓殿ノ行跡ヲ聞ニ。自身之武勇ニ慢シテ威勢ヲ募リ。惡日吉日ヲ不レ撰。無理ニ懸テ天ヲ不レ恐。是其將ノ不レ好所ニ非ズヤ。二ニハ惣領家ヲ指越無禮振舞。關東ノ公方トナラント御企。天ノ惡ム所ニ非ズヤ。三ニハ甘里谷入道怨閑隨分扶佐シ申ケルニ。御勘氣ヲ蒙リテ頓テ死ニケル。是恩ヲ仇ニ報ズル尉遲難シ。甘里谷入道亡魂恨ヲナスト聞候ソヤ。是皆天理ヲ背キ私ノ侈リ也。亡ビ玉フベキ時至リヌ。タトヘバ今度要害ニ籠リ玉フトモ。御運盡ヌル上ハ。明日押寄ラレンニ。一定味方ノ御勝軍成ベシ。猶豫ノ評定不レ可レ然ト申ケレバ。大將大ニヨロコビ。金石ヲ近フ召シ。銀劔一振。黑馬ノ逸物ニ御紋ノ鞍置テ賜リ。明日ノ軍ニ先懸ノ敵ヲ攻落シ候ヘトゾ仰ケル。去程ニ明日五日ノ朝合戰ト定リシカバ。先陣ハ宵ヨリ川ノ端ニ忍ビヨリ。明ナバ松戸ヲ越ント。堤ノ下ニゾヒカヘタル。夜已ニ明ケレバ。小田原勢川端ニ打望ム。一陣ハ箱根殿ヲ初メトシテ松田。志水。狩野。笠原。二陣ハ遠山。山中。多目。荒川。金石齋已下ノ兵。雲霞ノ如ク押寄ル。小弓勢ノ先陣椎津。村上。堀江。鹿島已下。川端ニヒカヘテ待懸タリシガ。物見ノ兵ヲ御旗本ヲ參セテ申ケルハ。敵已ニ川ヲ越候。其勢雲霞ノ如シ。二三万ト見エ候。味方ノ御勢ニテ。常ノ如ク對揚ノ御合戰叶フベカラズ。小ヲ以テ大ヲ討事叶難シ。今只急ニ御旗ヲ動シ。川中ニテ勝負ヲ決スルカ。味方引樣ニモテナシ。敵ノ先陣半半越ナン時。急ニ拉ギ川ヘ追ハメ候ハバ。必御味方ノ勝ナルベシト委細申遣ケレバ。諸軍此儀可レ然ト云處ニ。義明聞シ召シ大ニ笑ヒ玉ヒ。合戰ノ例ニテ。一足モ引バ虎モ鼠ト成リ。一足モ進メバ鼠モ虎ト成ルト云リ。引マネセンニ敵ニ利ヲ付ル端ナルベシ。其上勢ノ多少ニ依ベカラズ。兵ノ剛臆ニ依ルベシ。氏綱ガ武勇我片手ニヤ及ベキ。何程ノ事カアルベキ。川ヲ渡ラセ近々ト引寄。我手ニ懸テ氏綱ヲ討取テ。後ニ東國ヲ安々ト治ムベシ。歳月ノ本望爰ニアリ。氏綱ナノガスベカラズト扇ヲ打振リ玉フ。運ノ盡ヌル淺間敷サ。タトヘテ云ハン方モナシ。小田原ノ先陣一度ニ颯ト馬ヲ打入テ。弓ノ本弭ウラ弭取逆ヘテ。匹馬ニ流ヲセキ上テ向フノ岸ニゾ懸上ル。椎津隼人佑。鹿島郡司以下散々ニ懸合。命ヲ惜マズ亂合テ鑓ヲ合。切ツ突ツ火ヲ散シテ戰ケガ。懸立ラレテ引退ク處ニ。里見義弘。逸見山城以下强弓精兵ヲ揃ヘ。喚叫テ射立ケレ共。小田原勢事トモセズ進ミケルガ。兩方ヨリ射ル矢ニ先陣數百人痛手負テ進兼タリ。是ヲ見テ先手大將小弓御曹司。御所ノ御弟基頼喚テ切テ懸リ玉フ。氏綱御覽ジテ。爰ニ深入スルハ先手ノ大將ノ旗ト見ルゾ。入立テ討取ヤ者共ト下知シ玉ヘバ。伊東。朝倉。桑原。石巻ノ一人當千ノ兵共兩方ヨリ取巻テ散々ニ攻ケレバ。大將ノ馬ノ平頭ニ太刀切レ犬居ニ伏バ。下立テ戰シガ。脇ノ下。内甲吹返ノハヅレニ所突レ。氣ツカレ力タユミテ終ニ討死シ玉ヒケル。逸見入道義明ノ御前ニ來テ申シケルハ。今朝ノ軍ニ味方ノ軍兵其ノ數不レ知討死仕リヌ。其上先手ノ大將御馬驗モ見エズ候。若剋テ御通リカ。又御討死カト存候。如何樣味方ノ負軍ナルベシ。コヽヲ落テ重テ兵ヲ催メ。今日ノ耻ヲ雪メント云ケレバ。義明大ニ怒テ。如何樣味方ノ兵ドモ臆病ニテコソ負ツラン。イデ〳〵義明先懸ノ强勢ノ程汝等ニ知ラセントテ。眞先懸テ打テ出ヅ。其日ノ裝束ニハ。赤地ノ錦ノ直垂ニ。桐ノ下金物打タル唐綾ナドシノ鎧キテ。來國行三尺二寸ノ面影ト云太刀。二尺七寸赤銅作ノ重代ノ御太刀ニ振ハキテ。法成寺ノ大長刀ヲクキ短ニトリ。鬼月毛ト云名馬ニ御紋ノ梨地ノ鞍置テ紅ノ大總カケ。白泡カマセ唯一シュンニ進テカケタマヘバ。佐々木少府次郎以下馬廻廿四騎。馬ノ鼻ヲ揃テ懸出々リ。義明ノ御馬ハ奥州ノ葛西殿ヨリ六郡一ノ名馬トテ去年進ゼラレタリケル三ノ戸立ノ早馬カケ足ノ逸物ナリ。主ハ元來究寛ノ乘手ニテ。人ヨリ一ダン計先立テ敵軍ヘカケ入。鎧ノ鼻ヘサハルヲ幸ニ踏倒シ切落ス。是ヲ大將ト見テンケレバ。前後ヨリ取籠我討取ント攻ケレ共。元來馬强ナル打物ノ達者ナレバ。自武勇ノ人ニスケレタルヲ憑テ。軍立大早リニ。逸ル敵ヲ追立々々テ切テ落シ。味方ノ兵モ續カザルニ。大勢ノ中ニカケ入リケル。小田原勢ノ中ニ安藤ト云者。洗皮ノ黑キ鎧ニ鍍銀ノ冑ニ鍬形打テキタリケルガ。大太刀拔テサシカザシ。義明ヲ目ニカケ近々トヨリケル處ヲ。義明御覽ジテ。弓手ノ方ヘ下リ立テ開打ニシト、打。冑ノ鍬ノ鍔ヲカケズ切テ首ヲ丁ト打落シ。餘ル太刀ニテ左ニカヽル敵ヲ拂フ。其双胸ヲ冷シ。敵敢テ不ニ近付一ケレバ。トアル間ニ打上リ。樫ク味方ヲ待玉ヒ。鎧ニ餘ル血ヲ笠符ニテ押拭ヒ。息ヲ休メテオハシマス。義弘已下ノ兵ドモハ。大將ノ行エモ不レ知氏綱ノ旗本ト懸合ケルガ。五十騎バカリニ打ナサレ。東ノ山ギハヘスヂカイニ落行キケレハ。皈リ來リテ義明ヲ助ントスル兵スクナシ。爰ニ小田原勢ノ中ニ。八州無双ノ强弓ト聞エケル横井神助ト云者。其比三浦ノ城代ナリケレバ。初メ房州勢ト戰ヒ。手者多ク討レ不レ安思ヒ。義明トカケ合ケルニ。先駈ノ兵義明ニ懸立ラレ。魚鱗ニモ不レ進鶴翼ニモ不レ圓。辟易メ見エケル間。イヤ〳〵此敵ヲ唯討取ントセバ。勢ノミ損ジテ討チモラシナン。射テ落サントテ馬ヨリ飛下リ。笠符ヲカクシ畔ヲツタヒ藪ヲカタドリ近付寄テ。三人張ニ十三束アスル、計ニ引シボリ。コレハ三浦ノ守護代横井神助ト申者ニテ候。請テ御覽ゼヨト云モハタサズ丁ト射ル。義明ノ梔檀ノ板ヲカケズ射通シ。矢先三寸アマリ射貫ケレバ。サシモノ猛將ナレドモ目クレ。太刀ヲ杖ニツキ立スクミニコソ死玉フ。横井羽盡ヲタヽキ矢叫シ。敵ノ大將ヲバ射

留メタルヅト呼リケル所ニ。御所ノ御馬廻リ三騎馳來リ。神助ヲ討取ント切テカヽル。神助カ同心小林平左衛門ト云モノカケ來リ。馬ヨリ飛下リ敵一騎切テヲトシ。二人ヲ追散シケル間ニ。神助馬ニ打乘打ツレテコソ切合ケレ。其間ニ松田彌次郎筋違ニ馬ヲ馳懸テ。一太刀打テアテタヲシ。義明ノ首ヲバ取テケリ。サシモノ大將ナレドモ。逃盡テヤミ〳〵ト討レ玉フ。佐々木四郎。逸見八郎。佐野藤三郎。町野十郎以下御馬廻リ深入シテ戰ヒケルカ。大將ノ討死ト聞テ。今ハ誰カ爲ニカ軍ヲスベキ。大將ノ死骸ヲ枕トシテ自害スルヨリ。外ノ事非ヅド馳行處ニ。逸見山城入道右ノヒヂヲ切レ。鎧ニ立矢少々折カケ馳來テ申ケルハ。各自害シ玉フ處武士之本意也。然レドモ小弓ニ殘シヲキ玉ヒシ若君達ヲバ誰カハ隱シ申ベキ。定テヤミ〳〵ト生捕申テ。名將ノ御一路ヲ四天ノ刄ニカケ申サンコトロヲシカルベシ。歎テモアマリアリ。此度命ヲ全シ君達ヲ落シ申シ。謀ヲナシ時節ヲ見合。先君ノ恨ヲ報ジ玉ハヾ。君モ嬉シク思召ベシト理ヲ盡シテ申ケレバ。此人々一同ニ申ケルハ。口ヲシキ事ヲ宣フ物哉。爰ヲ遁レ二度誰ニ面ヲ合スベキ。唯自害セント行處ニ。山城頂テ申ケルハ。是ハ各ノ誤リ也。死ヲ一途ニ定ルハ近フシテ安シ。謀ヲ萬代ニ殘スハ遠フシテ難シト云リ。唯トクトク進メラレテ。此人人小弓ヘ返リ。若君ヲ御供申シ。御寶物ヲトリ御殿ニ火ヲカケ。房州ヘコソ落行ケレ。角テ山城守ハ主從二騎。義明ノ御死骸ノ邊ニテ馬ヨリ飛下リ。是ハ日比鬼神ノヤウニ申ツル鎌東ノ將軍源義明ノ御内ノ侍逸見山城守ト云者也。小田原方ニ我ト思ハン者アラバ。押寄テ首ヲトレト聲ヲ上テ招キケレバ。小田原ノ住人山中修理亮ト名乘テ近々ト寄ケレバ。山城馳寄テ御邊ハ氏綱ノ家人カ。我首取テ高名ニセヨトテ討テカヽル。山城カ郎等主ヲ討セジト馳双ル所ニ。修理亮カ郎等餘多馳來テ取籠ケレバ。終ニ山城守修理亮ニ首ヲバ取レニケリ。彼義明朝臣ハ久ク兩總州ニ振二逆威一。諸人龍蛇之毒ヲ恐レ。万民虎狼ノ害ヲ歎シニ。忽ニ被レ亡テ一跡永ク絶シカバ。氏綱ノ武功之程感セヌ人ハナカリケリ。

喜連川判鑑云。七年十月四日。小弓御所義明逆心ノ企アリ。因レ茲御退治トシテ。北條家小弓ヘ發向。同九日於二鶴藍一合戰。子息御曹子井基朝討死。義明ハ氏綱カ家來横井山城守カ矢ニアタッテ被レ討。其外公達房州ヘ落居。

鴻巣合戰前記云。抑下總國こふのだい御戰の年號をかんがふるに。天文六年十月上旬の比とかや。まことに御所樣御滅亡の由來をくわしく尋ぬるに。かの君は清和天皇の御すゑ政氏將軍の次男。高基樣の御舍弟。義明とぞ申けゝ。兄弟の御中不和にならせ給ひて。みちのく御一見とぞ聞えける。爰に上總國の守護代にたけだのふんそう眞里谷三河守。千葉の御内に原の次郎と所領をあらそふこと年久し。依レ之三河守陸奥へ使者をたて。義明の御發向を申なし。彼原の次郎がたて籠る小弓の城へおしよせ。三とせの間に攻落し。義明の御座をおゆみにこそたて申。房州上總兩國の侍共ふた心なく。かの君を守護し奉る本なり。かの將軍は弓矢を好ませ給へば。房州上總兩國の軍兵をうごかし。原の次郎が家の子高城越前父子を御退治あり。同下野守父子を御追放あつて。其後程なくして原の次郎をせめころしたまひて。御心中に思召けるやうは。丸にむかつて弓矢を取者あるべからず。はたしては關東の將軍にならむ事。なにのうたがひあるべしと思召るゝに。こゝに北條の新九郎氏綱と申て當世の弓矢取なり。かの氏綱心中に思はれけるやうは。扨も父にて候者關東へ亂入相州に旗をあげ。自にむかつて申されけるやうは。いつか關東を討滅し九郎に官をすゝめつゝ。鎌倉に御所を立見まほしさよと宣ひし。今みづからが代となつて。武藏の國を討亡し。やがて關東を我手にいれむと存ずるに。義明のいきをひにおそるゝ事の無念さよ。されば古人の言葉にも。しやくくわくの身をつゞむるものべんがためと聞時は。かの君に我身をつゞめまいらせて。時節の風を待てほろぼし申て。其後は八州に我身をのべん事は一定也。まづあやつり申せやとて。金銀しゆぎよくを調て。かはりゞに使者をたて。こむばう申せどその甲斐なし。北條思はれけるやうは。りやくにかゝらぬ歟をば。直にはだへを打合て。勝負を決せむとぞいかられける。好事門を出ざれども惡事千里をはしるとかや。この事小弓につげきこえ。そのぎにてあるならば。中途に地利をかまへ置。おそひきたる所を唯一きりとおぼしめし。よきちはいづくにやあるらんと御尋れありければ。かしら人々申あげられける。所多しと申ども。とれ川ながれのすゑいちかはと申ゆんてにあたつてこふの臺と申山あり。かの山と申は。むかし日本武の王子東のゑびすを御たいぢの後。御上洛のおりふしかの山に休みゐて。鹿のあさゝふかさを見玉ふに。いづくともなく鴻と申鳥ひとつ飛來て。川の淺瀨をふみそめて。尋にみせたてまつりしかば。みことあまりの御よろこびに。かの鳥にむかつて汝に此山をいたすも也と宣へば。此鳥勅を請て常に此山にすみける。見る人これをなづけてこふのだいとは申なり。此山はあふぎのやつの御内に。太田の道灌がうすいの城にむかつてかへ地にとるとかや。鹿の河をたよりとしてむかふる敵を待給へば。房州上總下總三ケ國のにんふにて。三日三夜にきづかせ。御所樣の御舍弟元賴の若君をさし添申。三か國の侍共に仰付られ給ひて。よせ來る北條をまたせ給ふぞゆゝしき。去間北條殿はこのよしを打聞て。關東の諸侍の御請を申さぬ先に。い

そぎ勝負を決せむと。十月四日に小田原を打立て。五日と申辰の刻に。武藏國にきこえたる江戸の城に着給ふ。ちやくとうさせて見給へば。二万八千餘騎とかや。さる間氏綱はきむこくさいと申て。日來はれごろそだちなり。當家にしゆくゑん深ふして。弓矢を取て一度不覺の名をとらず。かのきむこくを北條殿の御前に召出し。いかにきんこく承れ。今度御所勢にはせむかひ。是非に勝負を決すべし。汝先がけ仕り。目ざましき軍申せやとて。春ごまのすぐれけるをきむこく給る。なのめによろこびて氏綱に申けるは。御當家のひやうぎと申は。くんしん一つにあつまりて吉凶をえらび給へば。かけひきともに不覺なし。御所方の弓矢と申は。君の心ひとつにして御評談もましまされば。くむしんの心調はざれば。少しのおくれまし□□弓矢なをとる事あらじ。いかさま此入道が先がけ仕り。見參にまいらんとて御前を立けるは。老武者とは申せども驚くまだかのごとく也。去間北條殿は夜半にまぎれて淺艸川をうち越。おほつの宿をばまだ夜深きに通り過。敵をまつどの堤にて。評議のやうこそおもしろけれ。氏綱は床机に腰をかけ御休にてましまず。氏康を始として諸侍をまねきよせ。下知せられけるやうは。扨もみづから關東へみだれ入。世をたもつ事は三十餘年。それ我朝は神國也。神は非禮を請給はず。さだめてほんそうかへさるべし。乍レ去或神書には。神ひとりたつべからず。人のうやまふに依て威光をますとうけたまはれば。たとへ源氏の氏神なりとも。伊豆箱根三島をはじめ奉り若宮までもさいこうし。ゆみやをいのりたてまつり。神は正直の頭にやどらせ給へば。けふの軍になどかしるしのなかるらむ。うけ給はれば義明はぬのしゝ武者とやらむにて。むかふばかりをやぶらるべし。その義にてあるならば。おうほうの人數を左右へおし分候て。御所方のつはものをまむ中にとりこめて。新手をいれかへせむならば。たとへ四王羅刹のいきほひにてましますとも。終には討取申すべし。先弓手の大將には。はこれ殿はじめとして。まつだ。おいし。しみづ。かの。笠原に申付。扨めての大將には。とほ山。きんこく。山中。をばた。ため。あら川。其外侍ども御旗本を目懸。我等父子はまん中にひかひつつ。敵味方がうおくを見物せむ。とし月の一戰はけふにすぎたる事あらじ。はやうつ立と下知せらるゝ。軍兵どもはこれを聞。かゝりだいこをはやめつゝ。まつどの川を越ければ。御所陣のうちよりも。しぬづ。むらかみ。ほりを。かしまを始として五十騎ばかり。さかみだいにうちあげて。敵の人數を見合る。いそぎ御陣へ參りきみに申上るやう。北條人數を見申に。一二万にもすぎぬらん。かの川をこすならば。御一戰はおぼつかなし。河をこしたるやつばらが。一二千もや候ら



む。軍心のなきさきに御人數をつかはされ。うしろのかはへおひ立て給はゞ。むかひにそなへる旗本もいきほひをうしなひ申つゝ。定てたいさむ申べしとなの〳〵申上ければ。御所樣さこし召。軍の勝負は人數の多少によらず。天道のまつり事をまつとなり。とし頃北條にはたをあはさぬゆへにより。關東さだかならず。此度御退治なされて八州をしづめべし。だふん〳〵と川をこさせ申あげよと宣へば。御前外ざまの人々はあきれたる風情なり。去間氏綱はいそぎ川をとりこして。惣手を左右へおし分て。父子の人々はまん中にひかへつゝ。御所ぜいを待たるありさまは。いまだ時にはあられども。立田あそびのには鳥のともを待がごとく也。去間御所さまは。此由を御らむじて。三が國のぐむびやうをそう手さきにそなへさせ。北條にさしむかふ。半時ばかりは言葉たゝかひ。其後はやいくさ。事おはればはやたちうちになりければ。互に合する時のこゑしゆらだうようになかりけり。本よりも北條はかれてだんずる事なれば。三日月なりにをしよせて。御所勢の旗をまん中に立籠て。ひみづになれとせめたりけり。三ケ國のつはものどもはきみを敵にへだてられ。弓引まてもなかりけり。かゝりける處におほぎみをはじめたてまつり。御舍弟元頼わかぎみ兩三人は。馬よりおりたゝせ給ひて。四方よりもよせくる軍兵を東西へはらひ給へば。さつと引たる其跡は。さむのみだせるごとくなり。おしかへしおしもどし七十三度におよぶまで。あら手をいれかへせめ申せば。さしもにがうなるきみだちも。よはりはてさせ給ひける。わかぎみ宣ひけるは。いかに元頼きこしめせ。丸は大事の手をおひたり。腹をめさんとのたまへば。元頼聞しめし。當家に腹をきる事は。ひとつ子細候なり。北條がたうになにのしたがひ候べき。旗本にみだれ入氏綱とさしちがひ。しゆらのあひてに仕給へと。きつていらせ給ひけり。北條はこれを見て。きみだちにてましますぞ。のがし申事なかれと。なぎなたをとられけり。御前の侍にいしまき。くわばら。大同寺。伊藤。あさくらをはじめとして。こゝを專度とたゝかひければ。痛はしやきみはこゝろはたけぐましませども。御手はおほくおひ給ふ。御身もつきはて終にはうたれ給ひけり。かゝりける所におほ御所さまは。北條を御目にかけ其ひまを見給ふに。たけ七尺におよびたるをのこ。くろかはおどしの腹卷に。半月うつたるむしや一人。五尺三寸ぬき持て大音あげてよばゝるやう。北條殿の御内にあむどうと申者は。をそれにて候へども。御所さまの御あひてにまいりあはむと言捨御まへにはせ來る。義明は御らんじて。やさしきものゝ振舞やとしばらくあひしらひて。かぶとのまん中ふたつにさつと打たまへば。あしたの露ときえにけり。敵兵はこれを

見て。おそれをなして近付かず。大ぜいの中よりよこ非神助と名乘て。三人ばかりに十三束取てからりとうちつがひ。半時たもつてはなしけり。このやがはしりわたつて。御運のつきたる所にや。御所樣のめされたる御きせながのあまり。うらかくばかりたちたりけり。さしもにがうなる君なれども。御こゝろもみだれつゝ。兩眼を見出し給ひて。北條が旗本をはつたとにらませ給ひて。七尺三寸の御劍をつゝにつかせ給ひて。立死にこそうせ給ふ。然とは申せどもあたりに近づくものはなし。かゝりける所に相州の住人松田彌次郎と名乘て。三尺一寸ぬき持て御前にはせきたる。御きせながのあたりを二刀うかゞひ申せば。本よりたましゐさり給へば。弓手へかつばとつとまろび給ふ。松田此よし見まいらせ。御くびを給はりけり。かのきみの御さいごは。目をおどろかすばかりなり。

十一月大

三日。癸酉仍北野祠官事。給御書於右京兆。○丹州八木城攻有死傷者。

御內書案云。右京兆御內書事。

北野社祠宮遊麴坊禪養成敗事。被仰之處。堅被申付候由。被開召記。尤神妙。猶晴廣。高助可申候也。

十一月三日　右京太夫どのへ

親俊日記云。丹州三木城實。人數損云々。

四日。甲戌若君御髮置供御事。令議合伊勢守。

親俊日記云。來廿三日。若君樣御カミ置御祝言により。供御可參之由。飯尾中務太輔。松田對馬守兩人爲御使。貴殿へ參。御對面。御盃マイル。其返事。今日。貞周親俊談合仕。返事申記。御祝言候間。當日ニハ可進納。以後事ハ兩御料所調次第。可申付之由返事。對馬宿へ罷向申畢。

六日。丙子給御鷹鶴於細川典厩。

親俊日記云。公方樣御鷹鶴取。典厩へ可被參之由被仰付。御使祐阿。則河井鶴モタセ典厩へマイル。

八日。庚寅給御書於武田大膳入道。依其料所事也。

御內書案云。武田光綠入道へ御內書。

料所若州宮川保事。堅令下知者肝要候。次安賀庄儀。是又能々可申付候段。彌可爲神妙。仍恭斗下光泰候間。可條々演說候也。

十一月八日　御判

武田大膳大夫入道どのへ

九日。己卯紫野碩長老奉謁。

親俊日記云。紫野入院碩長老。公方樣へ御禮被申候。御對面次第。五山難准長老之由御沙汰アリテ。鹿苑院被申尋之。如常御樣マデ可被送候由御申。終日被相待。及晩御對面。

十日。庚辰丹州八木落城。

親俊日記云。丹州八木城沒落。夜七時分。　小川殿より一荷兩種到來。產所忌明云々。

十五日。乙酉依御髮置。有被仰出旨。

親俊日記云。若公樣御カミ置儀ニ。兩奉行(松對。飯中太。)被仰出事アリ。

十九日。己丑供御米調進。

親俊日記云。供御米調之。當月より御兩所樣進納之。○廿二日條云。兩御所樣供御米進納。一月黑米二石ニテ可參云々。

廿日。庚寅大友修理太夫義鑑獻物。仍給御書。

御內書案云。大友修理太夫方へ之御內書。

今度上使參洛。謂狀旨。尤以神妙。彌早可抽忠功事肝要候。謹而爲禮。太刀一腰。(國友。)刀一。(秋廣。)腹卷一領。(茶糸。)馬一疋到來候段。被開召記。仍太刀一振(正恒。)



遣之。猶高信可傳語候也。

十月四日　御判

大友修理太夫どのへ

菊隨方江太刀一腰。(員乘。)段子二段(各淺黃。)到來。日出候。猶高信可申候也。

十月四日　御判

大友修理太夫どのへ

黃金百兩到來。尤神妙。猶晴光可申候也。

十月四日

大友修理太夫どのへ

大鷹一本到來。尤自愛不斜候。猶高信可申也。

十月四日　御判

大友壇法師どのへ

廿一日。辛卯給御書於慈照寺。

御內書案云。慈照寺殿へ御內書。御日付ハ昨日吉日に候間。其分可致調進候由。綠阿爲御使被仰下。

對寶寺貞久書狀披見候。種々無疎畧一通。殊可致忠節之趣申候段。尤神妙。宜被加芳言事肝要候也。謹言。

十月廿日　御判

慈照寺殿

廿二日。壬辰此日。宍戸安藝守元源卒。

宍戸系圖云。元源。初稱二雅樂一後號二安藝守一。安藝守元家子。自二永正六年一至二天文七年一。治レ家凡三十年。十一月廿二日沒。法名一更道清。

廿三日。癸巳若公髮置御祝。

親俊日記云。若公樣御髮置。(巳刻。)自二貴殿一御服マイル。(織物紅地。鎧甲。浮文ツブ桐一重。)桂地藏院御服拜領。(スイ物。桐鳳凰。)

御内書案云。粟田口天王へ。御太刀御馬。可レ被レ參云々。(若公樣今日御髮置。御祝儀也。千秋万歲。珍重々々。)

粟田口天王。

御太刀　一腰。

御馬　一疋。

右御寄進如レ件。

天文七年十一月廿三日

廿六日。丙申松田八郎左衛門尉奉二御使一。下二向越前一。仍給二御書於朝倉宗淳入道一。

御内書案云。爲二御使一。松田左衛門尉秀以越前(罷下也。仍御内書。

今度武田中務少輔信孝至二若州一亂入。不レ可レ然候旨被レ仰處。則加二制止一無事。尤神妙。彌得二其意一。令二意見一者肝要候。猶晴光可レ申。仍差二下秀以一候間。可二演說一候也。

十一月八日　御判

朝倉彈正左衛門入道どのへ

廿九日。己亥諸人參賀。献二御太刀一。

親俊日記云。御所樣惣御太刀參。細川殿。典厩。播磨守殿。貴殿御出頭。御一献アリ。

晦日。庚子江州觀音寺献二歲暮卷數一。○就二御料所事一。茨木長隆送二書於蜷川親俊一。

親俊日記載

公方樣爲二歲暮之御祈禱一。御卷數被レ遣候旨。令二披露一云云。次同一合。相子二籠送給候。本望候。

十一月晦日　觀音寺御返報

一御料所桐野河内村事。汝多野在京候間。尙々堅被二申付一候。定不レ可レ有二別儀一候。殊自二今度御祝言一。兩御所樣(供御御參事候間。此間體万可二相替一間。就レ其彼在所名主百姓等。年々恣號二祖免一。供御米以下雜濫之條。以二屋形中間一。可レ有二御催促一之由尤候。則貴殿(御禮之旨。令二披露一候處。申付候而可二差下一之由候間。御用次第二可レ承候。恐々謹言。

十一月晦日　長隆(裏書)茨木伊賀守

蜷川新右衛門殿　御所

十二月小

朔日。辛丑伊勢守出仕。

親俊日記云。貴殿御出仕。

二日。壬寅蘆名遠江守謝二受領一献物。仍給二御書一。

○就二若君御服事一。奉行人有二議定旨一。

御内書案云。以二晴光一被二仰下一。蘆名受領御禮申上之。仍御内書事致二調進一候。

爲二受領禮一。太刀一腰。(吉眞。)黃金十兩到來。被二聞食一訖。猶晴光可レ申候也。

十二月二日　御判

蘆名遠江守どのへ

親俊日記云。若公樣御服。正月より可レ被レ參之由。飯尾中務務太夫(貞廣。)被二仰出一之。重而御存分御申。返事遲々間。親俊以二書狀一。樣躰尋遣之。則致二披露一。御返事可レ申[illegible]候。

十四日。甲寅右田隆量。野田隆方。杉伯耆守重矩共叙二從五位下一。

(右田)歷名土代云。從五位下多々良隆量。同七十二十四。(野田)多々良隆方。同七十二十四。(杉伯耆守)平重矩。同七十二十四。

十五日。乙卯自二舉田祠官一献二歲抄卷數一。○蒲生伊賀入道奉謁。

親俊日記云。舉田八幡宮より。歲暮御卷數。公方樣。貴殿各一合。一蒲生伊賀入道出頭。御對面。

廿日。庚申歲暮献物如レ例旨。公人傳二於諸家一。

親俊日記云。歲暮御美物。諸家(如二例年一。以二公人一觸レ之。

廿九日。己巳明春十日御參內旨被二仰出一。

親俊日記云。來十日御參內之由。被二仰出一之。



# 後鑑卷之三百六

義晴將軍記第十九上(起二天文八年正月一訖二六月一)

天文八年己亥

正月大

朔日。庚午右京兆以下出仕拜賀。

親俊日記云。小朝拜御座云々。貴殿御出頭。(御烏帽子。)則如二例年一各御流アリ。御扇□□之。親俊御扇進上。嘉例也。上様御□□堤三郎兵衛。兩人ばかり。一細川殿御出仕。御供藥師寺。長盛。柳本。

二日。辛未御乘馬始。

俊親日記云。貴殿御出頭。(御烏帽子。)御乘馬始。如二例年。貴殿御沓尻懸御進上之。細川殿御出頭。

三日。壬申伊勢守出仕。

俊親日記云。貴殿御出仕。細川殿御出仕。於二殿中一□參之。

四日。癸酉御謠初。觀世大夫。同四郎。如レ例賜レ服。

親俊日記云。貴殿御出仕如二例年一。殿中御謠初。觀世太夫。同四郎祗候。何モ御服(織筋。)拜領之。其以後大館左衛門佐殿へ。貴殿。藤宰相殿。細川右典厩御出。スヴウ。カタギヌ。ヌキアリ。

五日。甲戌御齒固祝。伊勢守及諏訪信濃守賜二御服一。○大内介義隆叙二正四位下一。

親俊日記云。御ハかタメ。(辰刻。)貴殿御ウラウチ。御祝奉行諏訪信濃守。六角民部丞調進之。御中老モハカマ御著之由。貴殿。諏信御服拜領之。

歷名土代云。正四位下多々良義隆。(卅三歳。)同八正五。同九三廿四伊與介。

六日。乙亥野洲井修理謁二伊勢守一。

親俊日記云。野洲井修理御屋形へ。如二例年一。一荷兩種進上。御對面之。御肩衣袴被レ下之。

七日。丙子公武參賀。○給二新春御吉書於右京兆一。

大館書狀案云。正月七日(天文八。)公家。大名。外様。(國持。)御供衆。申次已下出仕。仍御對面。御盃同前。一御太刀一腰(金。)右京大夫殿。一御太刀一腰(金。)同。一御太刀一腰(吉長。)右京大夫殿。

親俊日記云。公方樣御吉書如二例年一。貴殿。細川殿へ御出。年甫嘉慶雖二事舊候一。更不レ可レ有二際限一候。祝詞猶期レ面候也。

正月七日　判計

右京大夫どのへ

八日。丁丑爲二御方違一渡二御庭田家一。

親俊日記云。公方樣御方違。庭田殿。御供大館左衛門佐。柳本良孝。

九日。戊寅還二御從一庭田家一。

親俊日記云。御方違還御。曉。十三日若公樣。大御所樣(如二去年一御申在之。御供衆以二公人一。御美物可レ有二御進上一之由賜之了。高屋將監上洛。爲二公文役禮一百疋。扇一本遣之。爲二代官役禮一三十疋。又扇一本遣之也。

十一日。庚辰御作事始。

親俊日記云。公方樣如二例年一御作事始云々。

十二日。辛巳御參内。

親俊日記云。御參内。(午刻。)御供細川右馬頭殿。(或御袴御供御禮)柳本殿貞孝。御出奉行諏訪信州。松田丹州。

大館書狀案云。十二日御太刀一腰。(行秀。)御馬一疋。(或御袴御供御禮)近衛殿一御折十合。御樽十荷。北政所殿。御使進藤筑後守。仍御對面在レ之。一御太刀一腰。(持。)(始而懇御目御禮)進藤筑後守。

十三日。壬午若君奉レ饗二將軍家一。

親俊日記云。大御所樣(若公樣御目出事御申在レ之。(觀世太夫座。右召具祗候。)

十四日。癸未諸家進獻。○三好孫次郎範長參洛。

親俊日記云。御臺樣(御美物進納之。近衛殿。同朋衆同前。與力衆。大工同前。(河村有林。同民部。同彦左衛門。淵田與三左衛門。同三郎左衛門。筐親子。野洲井。並木。巽阿。樂阿。淵田新介。)三好孫二郎上洛之。人數二千五百計。江州永原上洛。

十五日。甲申右京兆及伊勢守出仕。

親俊日記云。細川殿。御供三好孫二郎。長盛。芥川。貴殿御出仕。同方々御禮被レ出之。

十六日。乙酉正實坊謁二伊勢守一。

親俊日記云。貴殿(御倉正實坊同見祗候如二例年一。三荷三種。御盞まいり。北野社人牛王持來。

十八日。丁亥本願寺獻物。

親俊日記云。公方樣(本願寺十合十荷進上之。今日。於二御前一(或殿樣)一被レ下之由。而貴殿御出頭。

十九日。戊子細川播磨守元常役二御代使一。

親俊日記云。御代官參。細川播磨守殿騎一人。

廿五日。甲午三好孫次郎饗二細川右京兆一。申樂興行。

親俊日記云。細川殿(三好孫二郎一献申之。其付而觀世能可レ在之處。觀世四郎與二同又二郎一。脇之儀二爲二上意一。大夫ニ被二仰出一事在之。大夫俄不二罷出一。觀世小二郎能仕之由候。貴殿御出。

廿六日。乙未御沙汰始。

親俊日記云。當所御沙汰初。執事以二太刀一。頭人江禮被レ申之。貴殿御上參。以二其次一。奉行衆。公人奉行諏方信濃守。（一束矢根。三平持來。）治部河内守。（兩種一荷。）執事代松丹州。（兩種一荷。）松田對馬守（兩種一荷。）各持來。食在レ之。

二月小

朔日。庚子伊勢守出仕。

親俊日記云。貴殿御出仕。

三日。壬寅御作事始談合。

親俊日記云公方樣御作事之始在レ之。同貴殿御作事之事談合在レ之。

四日。癸卯御發句始。

親俊日記云。公方樣御發句。御前御會。

玉椿ちぎる八千世のひかりかな。

四方にくもらぬ春のしづけさ。

つもりぬる雪も小枝も年越て。

細川殿（公方樣御發句。

梅を折櫻をかざす都かな。

大館入道殿常興
細尾州元常

廿日。己未細川右京兆於二勢州亭一饗讌。

親俊日記云。細川殿貴殿（當年御禮二御出。當代始之間。以二事次一二獻被レ參之。相伴衆藤宰相殿。典厩。和泉守護。細川豆州父子。飯川彦九郎。朽木父子。御同名衆。因州。肥州。六郎左衛門。秋庭。小川。大庭。（小注泉。）七獻參之。其外湯漬。自二太夫殿一御馬太刀被二持來一之。初獻二同御馬太刀被レ參之。五獻メニ御腰物。御太刀（小鍛冶。）被レ參之。七獻二御鎧（大因幡殿御作。）被レ參之。自二大夫殿一御腰物。御太刀。觀世大夫御折紙被レ遣之。

廿一日。庚申御方違。渡二御庭田家一。

親俊日記云。公方樣御方違。庭田殿御一獻御申之。

三月大

三日。辛未勢州出仕。

親俊日記云。貴殿御出仕。於二殿中一藤宰相殿。上池院。民部卿。祐乘坊御同道。夕食アリ。親俊ばかり相伴。其以後大館左衛門佐殿被レ參之。攝津守殿。安東平次郎。御末高橋。御臺松井。餓能アリ。クレハ。タカホ。唐船。セイ願寺。松虫。シヤウシヤウ。左衛門佐殿太刀被レ參之。又太刀被レ遣之。

十日。戊寅殿中御一獻。

親俊日記云。殿中御一獻。貴殿御出仕也。

十七日。乙酉兩御所鎮守御成。

親俊日記云。公方樣鎮守へ御成。若公樣同前。

十九日。丁亥右京兆女子誕生。被レ遣二御使一。

親俊日記云。細川殿御產。姫君御誕生。公方樣爲二御使一。貴殿御出也。

廿三日。辛卯殿中申樂。伊勢守申沙汰之。

親俊日記云。貴殿御能申沙汰。公方衆。當方衆相交。其外觀世太夫。同四郎。寶生太夫祗候。十八番アリ。其內太夫三番。寶生三番仕之。三人江御折紙被レ下之。貴殿御服御拜領之。

四月小

朔日。己亥勢州。右京兆出仕。○觀世太夫被レ下二御酒一。

親俊日記云。貴殿御出仕。細川殿御出仕之。觀世太夫。四郎祗候。御酒下さるゝ。

四日。壬寅仍二義植將軍十七周忌一御成。

親俊日記云。惠林院殿十七年忌。御成。（細川典厩。大館左衛門殿。貞孝。祐阿。）御辻堅儀俄被二仰出一之。各參勤之。

八日。丙午新御鎮守遷坐。

親俊日記云。公方樣新鎮守御遷坐。吉田神主調之。夜六時分ヨリ八時分終之。御成在之。

十一日。己酉仍二鎮守遷坐一御成。

親俊日記十日條云。明日御鎮守八幡（御成付而。細川右馬頭殿。大館左衛門佐殿兩人可レ有二御供御參一候由。如レ例以二折紙一相觸了。○十一日條云。御成。（辰刻。）

廿日。戊午伊勢守參二會細川元常家一。

親俊日記云。細川播州（貴殿御出。ウタイ衆被二召具一之。

廿五日。癸亥渡二御庭田家一。

親俊日記云。御成。（庭田殿（。）大館左衛門殿。上野與三郎殿。貞孝。

廿六日。甲子寢殿上棟。

親俊日記云。公方樣御殿棟上。御成在レ之。（午刻。）貴殿棟上。（同刻。）

廿九日。丁卯依二獻物一。給二御書於畠山彌九郎一。

御內書案云。畠山彌九郎殿（御內書。

就二作事之儀一。樽一万到來。神妙。猶晴光可レ申候也。

卯月廿九日　御判

畠山彌九郎どの（

五月小

朔日。戊辰伊勢守出仕。○細川元常會二宴勢州家一。

○右京兆賀茂競馬見物。
親俊日記云。貴殿御出仕。細川播磨殿貴殿（御出。御酒アリ。榮雅鮮新期詠被レ參之。自二播州一太刀被レ參之。一賀茂競馬見物之。細川殿。同典厩御出。

三日。庚午女房等石山參詣。
親俊日記云。女房衆石山ヘ參詣。

五日。壬申右京兆。勢州奉レ賀二蒲節一。
親俊日記云。細川殿御出仕。供波多野。池田。貴殿御出仕。於二殿中一。大夫殿（細川殿）ヘ一まいらせらるゝ。競馬見物。

六日。癸酉謝二歳首献物一。給二御書於北畠晴具卿一。
御内書案云。北畠殿（御内書。
爲二年始祝儀一。太刀一腰。馬一疋到來。喜悦候。猶常興可レ申狀如レ件。
五月六日　御判
北畠殿

七日。甲戌今宮祭。
親俊日記云。今宮御祭禮。

九日。丙子今宮還向。
親俊日記云。今宮還向。喧嘩在レ之。柴野近所也。

十五日。壬午御臺所念佛被レ行。
親俊日記云。上樣ダン抹寬念佛御申之。四殿同之。

六月大

朔日。丁酉出仕如レ例。○御臺所昨夜御產。姬君降誕。
大館日記云。今朝出仕衆如二例式一云々。一御臺樣（昨夕。）御產御平安。姬君樣御誕生也。千秋万歳珍重候。
親俊日記云。貴殿御出仕云々。細川殿御出頭云々。

二日。戊戌畠山修理大夫義總賀二年始及歳暮一献物。○河州代官職被レ附二三好一事有二議定一。
大館日記云。能州畠山匠作より。爲二年始御禮一。御太刀一腰。（持。）白鳥一。海鼠腸百桶進上之。爲二諸冬歳暮御禮一。鹿二。鹽曳五尺。海鼠腸五十桶進上之。一河州十七ヶ所（御料所。）御代官職事。以二三好孫二郎總望一。被二仰付一候て可レ然存候趣。内々佐方迄以二悪札一申入之。

六日。壬寅渡二御庭田家一。依二御方違一也。
大館日記云。今夜御方違御二成庭田殿一。（亭同前云云。）

七日。癸卯祇園會。
大館日記云。祇園會在之。



九日。乙巳調二進粟田口天王祭御進物目錄一。
大館日記云。明後日（十一。）粟田口天王祭禮也。爲二御代官一。一色式部少輔殿可レ被レ參候。如二已前一。御進物之御目錄可レ令二調進一云々。
粟田口天王宮。
御太刀　一腰。（持。）
御馬　一疋。
以上。
右御寄進如レ件。
天文八年六月十一日

十日。丙午被レ命二築地事於細川典厩一。
親俊日記云。公方樣御築地。典厩可レ被レ築之由被二仰出一之。在二先例一云々。雖レ被二仰出一。忠而典厩ハ先例無レ之。其上不辨之間難レ調間。迷惑由御返事。御使細川豆州。

十五日。辛亥大内恒持叙二從五位上一。
歷名土代云。從五位上。多々良恒持。（改二晴持一。）同八六十五。同月周防權介。十六歳。同九九五左兵衛佐。同十七廿三左衛門佐。

十六日。壬子依二歳首献物一。給二御書於畠山修理大夫義總一。
御内書案云。畠山匠作（能登守護。）ヘ。
爲二年始之禮一。太刀一腰。白鳥。海鼠腸到來。目出候。猶常興可レ申候也。
六月十六日　御判
畠山修理大夫入道どのへ

廿日。丙辰佐々木彈少弼定賴進二献甘瓜一。
大館日記云。一籠瓜爲二御賀例一。六角霜臺進上之。

廿二日。戊午龍造寺胤久任二大和守一。
鎮西要略云。六月廿二日。龍造寺民部大輔胤久拜二勅宣一。任二大和守一。（從五位下。）奉宣藏人頭右大弁惟房也。上卿甘露寺大納言也云々。蓋是因二大内義隆之吹擧一也。

廿五日。辛酉富小路石見守献二妙香圓一。
大館日記云。富小路藏人（石見守。）方より。例年之妙香圓（箱入符付申。）進上之。御簾樣ヘも同（べちに箱入也。）進上之。

廿八日。甲子觀世四郎還レ自二伊勢一。持二參國司返章一。
大館日記云。觀世四郎伊勢國より上洛云々。國司よりの返札（卯月十四日日付也。）もち來也。

廿九日。乙丑大村民部大夫參二謁伊勢守一。
夫義總一。

親俊日記云。大村民部大夫貴殿へ御禮まいる。御太刀。御馬。ザウニ三献まいる。大村伊豫守。同太郎左衛門。同彌十郎被二召出一之。相伴仕也。ノシ付ノ刀進之。又刀。太刀被レ遣之。(刀ハ國光。太刀國俊。)

晦日。丙寅頒二給御書於諸家一。○河原院例二献卷數一。

御内書案紙

就二大覺寺門跡瀧頂一下向之處。令二馳走一之山。尤神妙。猶晴光可レ申候也。

六月晦日　　御判

朝倉彈正左衛門入道どのへ

爲二御伽行一御下向之由。珍重候。無二御油斷一可レ被レ遂二其節一事肝要候。猶期二面談時一候。恐々謹言。

六月晦日　　義一

大覺寺僧正御房

於二自然儀一者。可レ抽二忠功一之段。先年被レ仰之處。則請狀殿重。尤以神妙。悅入候。仍差二下國家一大鷹一本遣之候。猶晴光。元親可レ申候也。

六月晦日　　御判

北條左京大夫どのへ

於二自然儀一者。可レ抽二忠節一段。對二氏綱一被レ仰之處。請狀殿重。悅入候。仍大鷹一本遣之旨。演說肝要候。猶晴光。

國家可レ申候也。

六月晦日　　御判

小笠原兵部少輔どのへ

對二北條新九郎康綱一。巢鷗一本遣之候趣。演說肝要候。次從二奥州一到來馬預置候由。尤以喜覺候。猶晴光。國家可レ申候也。

六月晦日

小笠原兵部少輔どのへ

大館日記云。御卷數三枝(公方樣。若公樣。御臺樣。)河原院より進上之。申次(當番荒川禮部。)以二折帋一申入之。○閏六月四日條云。北條左京大夫方へ御鷹(大鷹云々。)被二下遣一候。小林民部少輔可二差下一候間。北條方へ御内書。小笠原兵部少輔方へ之御内書。可レ令二調進一候由被二仰出一。御案文以レ佐被二仰下一候間。則調進申也。

閏六月小

朔日。丁卯勢州出仕。○就二筑前河上事一。給二御書於大内介義隆一。

大館日記云。今朝參賀衆例式御儀云々。一六角四郎今度祝儀。(去月十八日よめむかへ。能州匠作息女云々。)依御折御樽被レ下レ之。可レ然候由候間。下行之事。先以二宮内卿御局一御引替云々。

親俊日記云。貴殿御出仕。大村民部大輔方へ罷向。

筑前國河上事　御内書。

料所筑前國河上事。如二先々一急度申付之者。尤可レ爲二神妙一。委曲猶貞孝可レ申候也。

六月廿一日

大内太宰大貳どのへ

三日。己巳大村民部大輔純前奉二謁兩御所一。献二剣馬一。○外郎侍二薰衣香一。

親俊日記云。大村民部大輔純前公方樣へ御禮。御太刀一腰。(國宗。)御馬一疋代万疋。於二御座敷一御對面。御劍拜領仕之。則又御太刀一腰。(菊一文字。)御馬進上之。若公樣へ御馬。太刀進上之。御對面云々。薰衣香。外郎進上之。毎年之御儀也。近年能州ニ在國。此間上洛仕候。今日致二持參一候。

五日。辛未河村彦左衛門奉二北條御使一。

大館日記云。河村彦左衛門爲二御使一北條殿へ下之。

十一日。丁丑細川晴元出仕。

大館日記云。右京兆出仕云々。夜前御使被レ遣之御禮云々。

十三日。己卯三好一黨蜂起。洛中騷擾。依レ之給二御書于諸人一。

親俊日記云。三好同名扱破。既京中騷動付而。三好孫次郎かたへ被レ成二御内書一。攝州同意之輩。伊丹次郎。池田筑後守。柳本孫七郎。三宅出羽守。芥川豐後守。木澤左京亮かたへ可レ加二意見一之由。何へも被二成下一之訖。御内書河村有林調進之。

大館日記云。右京兆女中衆世上雜說により[illegible]被レ申旨。以二茨木伊賀守一。伊勢守。海老名兩所へ。案内被二申入一之由。海老備より内々承之也。此儀三好事也。地下など以外さはがしく在云々。三好孫二郎かたへ被レ成二御内書一。出張可レ令二延引一由被レ仰。其外木澤左京亮。柳本以下。別而可レ加二意見一之段。同被レ成二御内書一候。○十四日條云。池田筑後守。伊丹次郎。三宅出羽守。芥河豐後守。此人數へも御内書。別而對二三好孫二郎一。可レ加二意見一之由被二仰下一。

就二今度同名中諍論之儀一。對二右京大夫一。以二定賴一被二仰扱一子細在レ之上者。出張先令二延引一者。尤可レ爲二神妙一。猶局悅首坐。常與可レ申候也。

閏六月十三日　　御判

三好孫次郎どのへ

十五日。辛巳榮林菲言上三好孫次郎素意。

大館日記云。及レ晩八幡之榮林菲參上云々。子細者。三好孫次

耶かたより芥河豊後守かたへ。以二書狀一。今度儀更以奉レ對二上意樣一非二疎畧一候。其段可レ然樣。可レ預二御申一由申之間。芥河かたよりさうりん菴へ御上洛候て。此分預二御申一者可二畏存一之由申により。如レ此也。依三芥兩人書狀。以レ佐さうりん菴被レ備二上聞一之處。神妙之由被二仰出一之云々。一清光院殿今夜八瀨へ御歸也。明日御臺樣可レ有二渡御一。內々就レ其也云云。

十六日。壬午若公及御臺所避二于一揆一。令レ遷二八瀨一給。

親俊日記云。若公樣御臺樣八瀨へ御出也。御供衆大館左衞門殿。朽木殿。貞孝。

大館日記云。御臺樣。若公樣早朝(卯刻)に八瀨へ御成。先以清光院に御逗留分也。御供衆は佐。(御劔役。)朽木民部少輔。伊勢守三騎也。其外御詰衆以下。御こしぞへに被二參勤一也。御こし三てふ御ざあり云々。一公方樣ははたと此まゝ御座肝要也。此分六角霜臺內々意見被レ申によりて。如レ此御儀也。

十七日。癸未細川右京兆避二于退高雄一。○伊勢守避二于北白河一。

親俊日記云。細川殿高雄へ御ノキ。貴殿[illegible]北白川へ御出云々。

大館日記云。右京兆夜前龍安寺へ被二取退一之由。今朝其沙汰在之。一從二桑林菴一注進在レ之。一昨日被二仰出一旨。芥河。三好伊賀守等儲申屈候。忝存候由申旨。具被レ申之。佐方へ桑林菴書狀也。

十八日。甲申野依二郎左衞門奉二御使一。向二京兆退所一。○被レ命レ給二諸家一御內書事。

親俊日記云。高雄細川殿へ。野依二郎左衞門爲二御使一被レ遣之。爲二上意一御使アリ。御內書內々にて。御一献。貴殿よりまいらせらるゝ。

大館日記云。昨夕夜に入て。晴光方より折紙在レ之。此砌別而可レ被レ致二馳走一事。可レ爲二肝要一之趣。能州。越前へ以二書狀一可二申下一由被二仰出一候。朝倉方へは晴光かたより可二申下一。武田方へは伊勢守方より可レ被二申下一にて[illegible]州畠山匠作へは常與かたより可二申下一由候也。

廿日。丙戌細川右馬頭出仕。

親俊日記云。典厩御祗候。殿中御談合。御遊まいる。

廿一日。丁亥奥州大崎義直贈二書於伊勢守一。

親俊日記云。奥州大崎殿御狀アリ。去年常直聖人上洛。三十疋持來之。



廿二日。戊子依二三好扱事一。僧徒等奉二上意一向二高雄一。○伊勢守修二大崎答書一。

親俊日記云。三好同名中爲二御扱一。從二上意一。慶雲院ヤウ四堂。江州よりハモン首座。高雄へ罷向云々。

大崎殿へ御返事。

尊翰之趣。具以拜見仕候。尤畏存候。仍京都時宜無二別子細一候。但就二細川右京兆內輪之儀一。近日不慮之忿劇令二出來一候。於二上意一者。堅固御座之御事候間。御心安可レ被二思食一候。去年も如二申入一候。自然相當之儀被二示下一候者。聊不レ可レ存二疎畧一候。此旨宜レ預二披露一候。恐々。

六月廿二日　貞孝

大館雅樂允殿

從二貴殿一被レ對伊勢守御書[illegible]御副狀之旨申聞候畢。尤以令二畏存一之由。何も御報申入候。誠其後御無音絲。無二御心元一存候處。恩問祝着至候由。貴殿へ得二其意一可二申達一候旨申候。就中御一家鉢楯未レ休之由候。彌以御苦勞之段奉レ察候。急度被二相調一之。上意へ御禮御申。可二自出一候。京都も此一兩年漸靜謐之樣二候處。又不慮儀令二出來一。洛中其外瓶丹兩國忿劇無二是非一候。委細者。常直聖人可レ有二演說一候。尙以自然相當之儀。可二示預一候。此等之趣。連々御取合[illegible]畏入候。恐々謹言。

閏六月廿二日　大館雅樂允殿御返報

廿五日。辛卯依二刧賊公行一。有レ被二仰出一旨。

親俊日記云。鄕人罷出。住來剝取間。爲二上意一被二仰出一之。付而三好柳本かたへ。貴殿より御[illegible]被レ遣之。○廿六日條云。昨日御[illegible]御返事。三好柳本在レ之。左樣狼藉當年堅申付候。猶以爲二御近所一。可レ有二御成敗一之旨申。

廿七日。癸巳大村純前謁二伊勢守一。

親俊日記云。大村民部大輔貴殿へまいる。

廿八日。甲午聖興寺奉謁。

大館日記云。興聖寺昨日八瀨へ參。若公樣へ御禮申入。懸二御目一云々。今日此方へ來入。依公方樣へ以二高信一御禮申上。懸二御目一云々。殊被レ加二御詞一候。忝存候由申之。

廿九日。乙未春日御師卷數献上。○佐々木定賴献二甘瓜一。

大館日記云。御卷數一合。春日社御師(刑部少輔師清。)進上之。一同一枝。河原院每月進上之。一御佳例三籠瓜并十籠瓜。六角霜臺進上之。

# 後鑑卷之三百七

義晴將軍記第十九下起天文八年七月訖十二月

天文八年己丙、

七月大

朔日。丙申出仕如レ例。○此日。島津三郎左衛門尉忠幸卒。

親俊日記云。貴殿御出頭云々。及レ晩八瀨御參云々。細川右馬頭殿御出仕也。

大館日記云。今朝參賀衆如レ常。但右京兆ハ去月至二高雄山一出陣。仍播州同前云々。(内輪三好事也。)○二日條云。從二畠山右金吾一(在氏。)書狀。今度右京兆至二高雄一被二取退一候。然に堅固に被レ居二御座一により。京都無事珍重之趣被レ申之云云。六角霜臺より佳例三十籠進上之。

島津系圖云。忠幸。相摸守友久子。三郎左衛門尉。相摸守。剃髮號二一瓢一。天文八年七月朔日卒。法名大年寺道登。

三日。戊戌肥前國有馬太郎賢純申二請官途事一。

親俊日記云。有馬太郎御禮申度之由。先爲二御案内一。周桂。大村民部大輔貴殿へまいる。御酒アリ。

大館日記云。桑宿齋周桂來入。大村民部大輔内々申。九州(肥前國。)有馬申御字并官途之事。望申上度存候。可レ爲二如何一哉。大村此段申聞。可レ令二下國一由。以二周桂一申候間。尤可レ然存候趣。令二返答一之也。

六日。辛丑六角定賴献二甘瓜一。

大館日記云。瓜五十籠。六角方進上之。依披露狀々。以二宮内卿御局一申入之也。

七日。壬寅若君及御臺所自二八瀨一還御。○諸人献二草花一。

親俊日記云。若君樣爲二御祝儀一□□(御成。貴殿爲二御迎一御參之。於二路次一。河崎祭禮御見物之。御輿被レ立之。未明途中アヤシキ者在レ之。彼者召籠。

大館日記云。七夕之草花如二例年一。六角霜臺進上之。一今朝未明に御臺樣若公樣還御也。明日御祝儀によりて也。御供は御劍朽木民部少輔。伊勢守。三騎。孝阿同御供也云々。將又御部屋衆以下詰衆已下。各御輿副に被二參勤一云々。一今朝五番衆。進二上草花一。番頭(佐より。)以二水藤一進上之也。五番如レ此ふだを被レ付也。毎年五ヶ番進上候儀也。

八日。癸卯若公生見玉御祝。○御臺所出二御八瀨一。○有馬修理大夫賢純献物。奉レ謝二代始及賜字官途一。



親俊日記云。若公樣御生見玉。及レ晩御臺樣八瀨へ御出之。御供衆大館左衛門佐殿。朽木民部少輔殿。祐阿。御臺樣御走衆方十人被レ參之。蜷川八郎三郎。三上與次郎。堤三郎兵衛。服部。東郷。横川。野依。河井。古市。河村。一肥前國有馬御禮申之。(賢純。)初而御禮。御太刀一腰。(國長。)御馬一疋代。御字申請之御禮。御太刀一腰。(友安。)御馬一疋。沈香廿斤。官途修理大夫御禮。黄金三十兩。盆一枚。(堆紅。)五千疋。大村民部大夫爲二雜掌一殿中へ祗候也。御對面。御臺拜領之。殊御肴被レ下之。御腰物。(正宗九寸。)御太刀一腰(宗吉。)進上之。被レ副二御詞一。十盞嗚之。

大館日記七日條云。周桂。大村同道來入。九州有馬進上物被レ見也云々。御代始并御字被二申請一。又官途。三いろの御禮也。御代始御禮は。御馬。御太刀。(銘物也。)御字御禮。御馬。御太刀。(二水。又銘物。)沈香。(廿斤。)六百兩。官途御禮。黄金三十兩。御盆一枚(堆紅。)也。但内々大村被レ申。此外に五千疋以二調法一可二進上一云々。然者御代始の御禮たるべく哉。○八日條云。九州之有馬今日御代始御禮。御字御禮。官途御禮進上之。大村民部少輔爲レ代持參云々。大民に御盃被レ下之云云。仍太刀進上之。申次勢州。御盃御酌佐云々。

十日。乙巳姫君渡二御八瀨一。

大館日記云。宮内卿御局より御使(島羽彌九郎。)給候て。今夕姫君樣八瀨御成候。上野殿へ被レ仰て。殿原二人。中間三人可レ被レ參候。常興かたよりも此分申付て。人五人進上申候由承候間。則申付候。

十二日。丁未六角定賴献レ瓜。

大館日記云。六角霜臺より百籠瓜。爲二御佳例一進上之。

十四日。己酉三好神五郎以下出張。

親俊日記云。從二高雄一。三好神五郎其外波多野馬廻衆。妙心寺四京出張持之。自二山崎一三好伊賀向。大明神より四井川金乘寺出持之。柳本。高畠與十郎。岩神々祗官出持之。終日野伏ばかりにて相引。左右方及レ晩引之。一條德政札一起預ヶ置之訖。三好。柳本列形云々。内々以二布施下野守一。柳本申事在レ之。然者貴殿有二御存分一。無二御披露一云々。

十五日。庚戌有馬賢純献二劍馬於若公一。○奥州南部彦三郎申二請御字一。

親俊日記云。有馬若公樣へ御禮申入度之由。重而使僧申レ之。御太刀御馬進上之。

大館日記云。攝州より常興と豆州兩人へ折紙。奥州南部彦三郎御禮申上。御字之事申候。無二別儀一被二思食一。乍レ去存分可二申上一候由。被二仰出一之云々。尤無二別儀一。御事興存候。もともとより南部事承候。御馬など進上候て一段覽見候。いかにも

可レ然奉レ存候旨。書付て言上仕候也。

十九日。申寅有馬軍童丸申二請御字事一献物。

親俊日記云。肥前國有馬子息軍童丸。大村民部爲二申沙汰一。御字事申レ之。鉛金一端。段子二端。御太刀。御馬進上之。貴殿へ段子一端。(萠黄。)私へ沈香。白革。(三枚。)

廿日。乙卯伊勢守贈二書於松浦肥前守許一。

親俊日記云。

今度大村民部大輔事。在洛中細々令二對談一候。然處彼仁被レ申旨候條。乍二卒爾一以二書札一申候。殊先年蜷川道運入道永々其方に滯留候。□□御懇候。□□次太刀一腰進之候。猶□□□□□□□□□□□。

七月十九日　貞孝

松浦肥前守殿

進レ之候

廿二日。丁巳赤松左京大夫政村以二使僧一有二言上旨一。○給二御書於有馬修理大夫賢純一。

親俊日記云。赤松殿近年國爲二錯亂一之條。御禮不二申入一候。內々被レ伺二御氣色一。於レ無二別儀一者。則御禮可二申入一。但如何之由。先使僧但光寺。(建仁寺僧。)三淵摂部助殿御同道。寒參遣まいる。國より別所大藏少輔副狀。私へ融軒雜汲備前守書狀到來云々。一肥前國有馬殿へ御內書御返事。大村民部大輔に貴殿被二相渡一之。

字之事。依二望申一被レ下之旨。仍太刀一腰。(友安。)沈香廿斤。馬一疋到來候。太刀一振遣之。猶貞孝可レ申候也。

七月

有馬修理大夫どのへ

官途之事。被レ任二修理大夫一旨。仍黃金三十兩。盃一枚。青銅五千疋到來。被二悦思食一候。猶貞孝可レ申候也。

七月

有馬修理大夫どのへ

貴殿御自筆也。

廿三日。戊午伊勢守貞孝贈二書於赤松別所兩家一。○自二右京兆一申二請德政事一。

親俊日記云。

公方樣江御禮可レ被二申入一之趣。御狀之旨達二上聞一候處可レ被二聞食入一之由。被二仰出一候旨。先以珍重候。則御申之段可レ爲二肝要一候。如レ仰速々不レ存二疎畧一子細。今以不二相替一可二申承一事。寒長悦之至候。委曲自二三淵摂部助方一可レ被二申進一候。恐々。

七月廿三日　伊賀守貞孝

謹上　赤松左京大夫殿



公方樣へ御禮御申事。以二政村一貴札之旨。內々致二披露一候處。委細被レ成二御意得一候由。被二仰出一候。尤目出候。然者早速可レ被二申入一事簡要候。誠果代申遣候由。令二御知一候。不二相替一可二申承一候儀。可レ爲二本望一候。殊其方前々無二御等閑一之由候。相應之儀不レ可レ有二疎意一候。御報令レ申候。宜レ被二執申一候。恐々。

七月廿三日

別所大藏少輔殿

御返報

一細川殿より茨木爲二御使一。除二洛中洛外一。四國面ばかり。德政可レ遣候由。貴殿へ御案內。則御披露。江州有二御談合一。御返事可レ在之由候。茨木伊賀。德政高札不案內條。懇望之條。大かた申遣之。

廿四日。己未奥州赤荻伊豆守上洛謁二伊勢守一。○細川陸奥守賜レ暇。

親俊日記云。奥州笠置同名赤荻伊豆守貴殿へ御禮にまいる。御太刀一腰。御馬一疋。小鳥羽十尻進之。

大館日記云。細奥州より書狀在レ之。京兆在陣二付て。可レ有二出陣一候。父子間一人御暇之事。被二申入一之處。息三郎四郎事は。御供衆分にて被二召仕一事候間。奥州に御暇被レ下候由。被二仰出一候間。明日可レ有二出陣一にて候。自然心へ所レ仰候旨被レ申之也。

廿五日。庚申被レ命二上下京諸士一。德政停止。○右京兆移二陣嵯峨一。○被レ命二給二尼子一御書於大館晴光。上

親俊日記云。上下京諸土倉今度德政之儀付而。御停止之旨被二仰付一。以二政所公人一。開闔雜色令二相觸一之。先以忝存候由申。先御五荷三種ヅヽ上進之。私へ三十疋ヅヽ到來候。一細川殿高雄より至二嵯峨角倉一御陣替云々。

大館日記云。爲二御使一本郷常陸介來臨。子細者。妙安せいだう(大知院僧也。)長々至二雲州一在國候。早々上洛候樣にと。相國寺より被レ申之間。可レ加二意見一旨。尼子伊豫守方へ被レ成二御內書一候。依副狀可レ仕候旨。被二仰出一之儀也。

廿七日。壬戌細川典厩出陣。

親俊日記云。典厩御陣立之。見物。

大館日記云。細川右典厩今朝未明に出陣云々。右京兆今日陣替よりて也云々。

廿八日。癸亥山崎敵退散。仍蜷川親俊奉二御使一。向二右京兆陣一。

親俊日記云。山崎敵退散付而。上意爲二御使一。京兆へ□□□□親俊馬上にて。

大館日記云。鹿苑院光臨。六角方より京兆へ重而以二使僧一被レ扱候。三好間事。彼使僧今日下向候由にて。鹿苑院へ今朝參候。依其樣々御物語也。京兆御返事候て。同前分云々。三好方聖西岡に陣取翠は被レ退之云々。

晦日。乙丑河原院卷數献上。

大館日記云。河原院より御卷數一枝進上之。清法師より取次之被レ申候也。仍則申次當番(本常。)申入之也。若公樣。御臺樣は八瀨に御座候。すぐに進上候哉。一八瀨より荒刑部。佐(加判。)兩人より。御内談衆へ折紙在レ之。日行事被レ申之。子細者。今度勝隆寺井山崎敵退散之條。若公樣還御之儀。此砌可レ然奉レ存候。其段佐々木少弼方へ被二仰遣一候て。還御可二目出一候。爲二御内談衆一。御申沙汰可レ然存候旨被レ申之。尤と存候由。恐老は申之。攝州以下も其趣也。

八月小

朔日。丙寅從二御兩所一被レ献二劍馬一於内裡一。○大御所方違御成。

親俊日記云。貴殿御出仕。墨面五枚。俵十進上之。禁裏樣へ大御所樣より。御太刀一腰。御馬一疋。(何毛にてもあれ。毛付は鞦毛被レ遊候由。傳奏被レ仰云々。)若公樣同前。公方樣御方違御成。御供畠山上野介殿。貴殿。

二日。丁卯於二鎮西一。龍造寺大和守胤久卒。

鎮西要畧云。八月三日。從五位下大和守龍造寺胤久卒。法名長鑑久公。號二泰長院殿一。嫡子新次郎胤榮嗣レ家。立二龍造寺惣領職一。

三日。戊辰就二去晦日諍鬪事一。有二被レ議旨一。

親俊日記云。去晦日。室町土御門三福寺地子錢未進爲二福促一。大館兵庫殿中間罷越。立料申懸之。六十錢事爲二御法一間。一貫二百文可レ取之由云々。存外なる申事不レ及二覺悟一。亭主難レ申之。種々惡口。家具携罷出候間。其町人出合打擲仕候。其旨被レ入二上意御耳一。彼宿亭當方被官人堤三郎兵衛(申次。)爲二此方一。如二御法一可二成敗一之由御申。御代々御判被二成下一之。當方被官人爲二上意一不レ可レ有二御成敗一之由。三管領同前也。右筆がた〳〵御尋候處。近年事不二存知一之申之。然者御判證文等被二御覽一度之由。細川伊豆守。本郷常陸之介兩人して被二仰出一之。只今則可レ備二上覽一之處。此一亂以來。山迄預ケ置候間。向後召寄可レ懸二御目一云々。其外證例多之。常德院殿江州御動座之時。鳥羽田中事。木村民部事。近年北白川井口跡事。爲二此方一不レ及二御成敗一。被二仰出一申付候者也。只今事。先開闔申合。可レ致二成敗一云々。

八日。癸酉武田元光入道參洛。

親俊日記云。武田入道殿爲二獻樂養性一。鞍馬まで御上洛。爲二御見舞一貴殿御出也。御太刀。(吉宗。)御腰物(正弘。)被レ遣之。又自二武田殿一御太刀。(國行。)御腰物(則光。)被二返參一之。御馬。太刀。十荷十合被レ持之。及二深更一御歸洛。

十一日。丙子一條大納言房通卿自二土佐國一上洛。

公卿補任云。藤房通。七月十一日自二土州一御上洛。

十三日。戊寅若君自二八瀨一還御。

親俊日記云。若公樣自二八瀨一御還御。及二深更一大雨也。

十四日。己卯細川播磨守元常下二向坂本一。

親俊日記云。細川播州坂本へ下向。

十五日。庚辰女房衆御靈旅所參詣。

親俊日記云。女房衆御靈御旅所參詣云々。

十六日。辛巳大雨洪水。

長享年後記内兵亂記云。八月十六日大洪水。

箇井家記云。八年八月十七日。京和州大雨大洪水ス。筒井城邊也。又爾り。

十八日。癸未御靈祭。

親俊日記云。御靈祭禮。公方御門役勤之。

十九日。甲申朝倉宗淳依二義滿公筆蹟及感狀一。又尊氏公壽像進覽一賜二御感書一。○女房祇園參詣。

御内書案云。祐阿爲二御使一被二仰出一。今度大覺寺御門跡越前より御上洛候時。從二朝倉入道方一。鹿苑院殿樣御自筆之物(一幅。)并御感狀(七通案文。)備二上覽一之。將又等持院殿樣軍陣御影。(一幅。青地錦御直垂。淺黃系御鎧。廿四さしたる御矢。重藤御弓。大クワガタ打タル御甲。栗毛ナル御馬ニ食ル。フサカケフル。御アランヲ也。御影ノ上ニホウケウ院殿樣御判被レ居之。)同懸二御目一候。此御影ナバ致二進上一之由申レ之云々。仍御内書兩通可レ被二成下一之。御案文可レ致二調進一之由被二仰下一候。何も被二持下一。拜見させられ候也。隨而案文則令レ調進上也。

鹿苑院殿御自筆一幅并代々戰功感狀等披見候訖。尤以無二比類一候。彌忠節可レ爲二神妙一。猶晴光可レ申候也。

八月十九日　御判

朝倉彈正左衛門入道どのへ

等持院殿御畫像一幅到來。一段喜入候。猶晴光可レ申候也。

八月十九日　御判

朝倉彈正左衛門入道どのへ

親俊日記云。女房衆祇園濟水へ參詣。大□上池院へ御出也。

廿三日。戊子伊勢守依渡海。六角霜臺有贈物。
親俊日記云。貴殿へ佐々木彈正少弼殿。坂本へ渡海に付。御馬。太刀。十荷十合被持之。大御酒アリ。又貴殿御旅宿へ。(石川法藏院。)少弼殿御馬太刀にて御出云々。又御酒アリ。御腰物。太刀(國行。)被レ遣之。又御腰物太刀被レ添之。夜入御歸洛。申樂。同朋衆御折紙被レ下之。此□□同前云々。

廿四日。己丑被レ命德政下知事。
親俊日記云。德政之御下知之儀被仰出之。佐々木少弼殿へ御談合之處。可レ然之由候間。可申進之。
今度上下京地下人申德政停止之儀。佐々木霜臺御返事被申上候。然者可レ被レ成下御下知候。□□恐々。

八月廿四日　松田丹後守殿

九月大

朔日。乙未參賀如レ例。○左京大夫局御靈參詣。
親俊日記云。御靈へ參詣之。左京大夫殿御局まいり。御酒給之。殿中御談合。
大館日記云。今朝參賀。公家衆少々。御供衆以下云々。

三日。丁酉就阿州儀。給御書於佐々木定賴。
大館日記云。今日佐々木少弼方へ之御內書。御案文被レ出之。如レ此可調進之由上意也。
就阿州之儀。對定賴長政。覺悟旨申停之趣旨上。完以被喜思召候。彌可レ令馳走之由。可申聞候。猶高助。種綱可レ申候也。

九月三日　佐々木彈正少弼殿へ

四日。戊戌上下京諸士奉レ謝德政停止。
親俊日記云。上下京土倉。今度德政停止之御下知。御禮罷下候。

五日。己亥右京兆女房等還レ從高雄。
大館日記云。右京兆之女中今日屋形へ御かへり云々。去閏六月北岩倉へ御退。世上依雜說也。然共屈無事之間如レ此云々。

六日。庚子東福寺申請賊徒制止事。
大館日記云。從東福寺以飯和一冒上。洛外德政事。右京兆より被申出之由。昨日注進候。就其寄事於左右。一揆共至三寺內。可亂入旨造惡之由。令迷惑候。仍隣郷へ被成御下知。爲事實者可レ被加御成敗候旨被仰候者。可恭存候云々。

九日。癸卯勢州出仕。奉レ賀菊節。
親俊日記云。貴殿御出仕。御退出以後。鵜殿へ御出也。

十日。甲辰赤松政村馳脚力。奉レ謝先回恩命。
親俊日記云。播州赤松殿より上意御禮遲々に付而。飛脚到來之。

十一日。乙巳給御內書於佐々木定賴。
大館日記云。六角霜臺へ被レ成御內書。
京都之儀。急度遂以參洛可相調事。尤可爲神妙候。猶兩人可レ申候也。

九月十一日　佐々木彈正少弼どのへ

十三日。丁未江州士人發向芥河。
親俊日記云。江州近邊。永原。今度無事扱罷越。芥河城可請取申候。人數八百計在レ之由候。

十五日。己酉方違御成。
親俊日記云。公方樣御方違。
大館日記云。今夜。御方違御成(如レ此間屋田家へ在レ之云々。)
今度京兆方。事々京都物忩。無御心元。奉レ存候由。從大內方。以飛脚。伊勢守方へ被申上之。仍可レ被レ成御內書候。然者阿州不相働樣。被相調候者。彌可爲神妙趣。被仰下御分也云々。

十六日。庚戌於御靈社奏神樂。
親俊日記云。御靈社江御神樂まいらする。

十九日。庚丑無量壽院申請安堵御下知。依レ之獻物。
親俊日記云。無量壽院安堵御下知被請申之。頭人御加判。扇にて御禮そと被申之。□十疋。

廿五日。己未畠山修理大夫八朔獻物。
大館日記云。能州畠山匠作より爲八朔御禮。御太刀(持。)并青銅五十疋進上之。(如例年。)

廿六日。庚申細川右京兆上洛。
親俊日記云。從山崎。細川殿御上洛。赤井一人御供。香西與山中一有申事。一人御供云々。兼日三人被レ定之。如レ此。

廿七日。辛酉伊勢守參會細川亭。
親俊日記云。貴殿細川殿へ御出也。

廿八日。壬戌右京兆出仕。○日向伊東義祐申請官途事。

親俊日記云。細川殿御出仕。供波多野。香四。
大館日記云。日向國伊藤望申官途彈正大弼一事。三條殿へ御尋之處。如此書狀(伊勢守方へ也。)被申之間。無二別儀一哉。
「但各へ又御尋之由候間。於二存分一者先日申入候訖云々。

十月大

朔日。乙丑右京兆勢州出仕。
親俊日記云。貴殿御出仕也。細川殿御出仕也。

三日。丁卯佐々木彈正少弼定賴上洛。
親俊日記二日條云。佐々木霜臺上洛付而京中寄宿事。櫛門被官不レ除レ之。雖レ然當方昵近衆除レ之。江州宿奉行田付兵庫。○三日條云。佐々木彈正少弼殿上洛。供アチチ。池田。下笠三騎。三雲。蒲生。本間。アチチ爲二警固一先上也。
長享年後記內兵亂記云。十月佐々木定賴上洛。於二方松一御成。定賴爲レ扱三好柳本出仕。十二月定賴下國。

四日。戊辰佐々木定賴出謁。
親俊日記云。少彈殿御出頭。

七日。辛未佐々木四郎上洛出仕。
親俊日記云。佐々木四郎殿上洛。供池田。種村。其外小倉。河合馬上。及レ晩御出仕也。

十日。甲戌右京兆亭招二請佐々木定賴一。
親俊日記云。細川殿へ佐々木彈正少弼殿父子喚之。貴殿モ御出。觀世大夫能アリ。脇四郎。

十五日。己卯佐々木四郎義賢叙二從五位下一。任二左京大夫一。
歷名土代云。從五位下。源義賢。同八十十五。同日左京大夫。十九歲。

十七日。辛巳被レ引二神馬於太神宮一。
親俊日記云。御神馬□狀御判申之。馬六角殿進上之。
太神宮御神馬一疋(背毛。)可二率進一之由。所レ被二仰下一也。
仍執達如レ件。
天文八年十月十五日
太神宮御師

十八日。壬午兩御所渡二御佐々木定賴亭一。
親俊日記云。佐々木彈正少弼殿へ御成。相國寺万松軒ニテ。御馬四佐々木能登被レ率之。觀世太夫御能仕也。神有月。田村。夕顏上。○廿四日條云。去十八日六角殿へ御成進物之次第。式三獻之時御禮。太刀一腰。(白。)御鎧一領。御弓。御征矢。御馬一疋。(河原毛。印雀目結。御鞍置。)初獻。御太刀一腰。(宗吉。)御馬一疋。三獻。御太刀一腰。(國房。)御小袖三重。引合十重。五獻。御太刀一腰。(長光。)七獻。御香合一。御盃一枚。十一獻。段子三端。(紫赤茶。)御盃一枚。九獻。御太刀一腰。(安信。)御花瓶一。(青磁。)御盃一枚。
十三獻。御太刀一腰。(有斗。)御腰物。(秋廣。)御劔拜領之時。御太刀一腰。(延房。)十五獻。御太刀一腰。(長光。)若公樣へ進物。式三獻。御太刀一腰。(國久。)御馬一疋。(河原毛。印雀目結。)初獻。御太刀一腰。(久光。)三獻。御太刀一腰。(來國光。)御腹卷一領。五獻。御香合一。御盃一枚。七獻。御太刀。(光忠。)九獻。紅一斤。御盃一枚。十一獻。御茶碗一。(青磁。)御盞一。御盃一枚。十三獻。御太刀一腰。(長光。)御腰物一腰。(來國次。)御劔拜領之時。御太刀一腰。(國守。)十五獻。御香爐一。御盃一枚。若公樣モ同時御成。(御四段。)御こし。(御すだれおろさるゝ。御ちの人御同輿。)大御所さまより御先へ御成。御走衆。御供衆如レ常。

廿一日。乙酉伊勢守會二宴佐々木左京大夫亭一。○佐佐木四郎任二左京兆一。
親俊日記云。貴殿佐々木左京大夫殿へ御出。四郎殿左京兆被レ任之。

廿二日。丙戌細川晴元會二讌定賴旅館一。
親俊日記云。佐々木霜臺へ細川殿相看。觀世大夫能仕也。

廿八日。壬辰就二八幡四郷德政事一。申二請京中七倉御下知事一。○備中國合戰。○細川讃岐守出二陣九州一。
親俊日記云。八幡四郷德政事付而。京中土倉御下知事申之。但如何之由。上意御伺之。御心得之由候間。賦松丹元遣之。
一於二備中國一阿波衆對二尼子一軍損之云々。
讃岐國大日記云。天文八年十月細川讃岐守率二阿讃兩州之兵士一。欲レ取二九州一出陣。同月二十八日合戰。細川氏軍士盡討死沒落。

十一月小

朔日。乙未右京兆及霜臺出仕。於二殿中一有二饗讌一。佐々木左京兆献レ鷹。○自二御臺所一。依二御尋問事一。曇花院捧二御返書一。
親俊日記云。細川殿。佐々木少彈殿御出仕之。殿中御臺まいる。貴殿御沈醉。佐々木左京兆より弟鷹まいらせらるゝ。高屋聽監上之。
曇花院殿貴東抄云。ぶけの御所一のだいより。どんげいゐん(曇花院)へ

どのへたづれ申されし御返事。
一こしのかなものゝ事。もとはずいぶんのが。七にて候つるが。いまはぶけんしだいになりゆき候へども。とがめも候はず候。大上ちふにて参候などに。九つにては入候はんずるかとおもひまいらせ候。こしのあしを。かな物にてつつみ候事。上さまならではときゝつれども。これもぶけんしだいにて候。
一ぬひ物とをしにては下まじく候。とく大じどのゝ上ちふは。かみさまはんぶんのやうに候つれども。とをしはめし候はず候つる。なにむきと申ほどのくらゐなくてはと。き候つる。
一ぬひのもゝうへに。をり物を御ゑりをりてめし候て。かいとりにもをり物めし候はんずるかの事。二をり物はいかがにて候。
一ぬひものゝ下にそめ物の事。たいがいをりすぢこうばいなどのたぐひにて候。はくの下にはそめ物にて候べく候。
一かはらのふのときは。けつこうにだにも候はゞ。きりはうは入候まじきよし仰出され候につきて。をり物のうへにぬひものとをし。又かいきりなどにしてめしたるにて候。
一小袖のたぐひにきりをめし候事。なにむきにてもゑめし候はず候。上さまばかりにて候。色々御たづれ候。みし世は久しき事にて候ほどに。御しんかう候まじく候。とうせいは。われまゝのやうにみおよび候。よろづのみちすたり申候まゝ。かやうの事ども大かたへきたり候。

天文八年霜月一日

一のだいどの御返事

二日。丙申 観音寺献二卷數一。○被レ進二神馬於春日社一。
親俊日記云。栗眞観音寺歳暮御所禱卷數。公方様。貴殿。私へ上之。貴殿柑子二籠。私へ柑子一籠。三十疋到來。貴殿返事上進之候。
公方様爲二歳暮之御所禱一。御卷數一合被レ進候間。令二披露一之。同一合并柑子二籠送給之。例年之儀本望候。□恐々。

霜月二日　貞孝

観音寺御返報

一春日社御神馬一疋(河原毛。印雀目結。)可二奉進一候由。所レ被二仰下一也。仍執達如レ件。

天文八年十月廿九日　伊勢守

春日社御師

三日。丁酉 北野上棟。
親俊日記云。北野棟上。(辰刻。)

五日。己亥 若君東山御成。
親俊日記云。若公様東山御成。御供大左。佐々民。貴殿。万阿。

七日。辛丑 被レ命二十五日一献事。
親俊日記云。來十五日。於二殿中一御一献御座候。公家衆。御供衆可レ有二御美物一之由。細川豆州もつて被二仰出一之。則以二公人一觸之。

九日。癸卯 被レ命二引二神馬於感神院新宮一事。
親俊日記云。感神院新宮御神馬一疋(河原毛。六角殿進上。)可二奉進一由。所レ被二仰出一也。

十一日。乙巳 三好孫次郎參洛。
親俊日記云。上下京德政停止之下知。賦百疋有申事到來候。三好孫次郎上洛。

十三日。丁未 右京兆亭招二請六角父子一。互有二引出物一。○此日。於二土州一。一條前右府房家公薨。
親俊日記云。佐々木彈正少弼殿。同左京大夫殿貴殿へ入御申之。父子共に根先へ被レ遣之。御太刀何も御持來。相伴衆藤宰相□□大館左衛門佐殿。上野與三郎殿。細川豆州。海老備中守殿。永田刑部少輔殿。飯川彦九郎殿。祐乗房。□□親俊。宵地。下笠。三雪。蒲生□□越前相伴。(御□兩人。)御湯漬時。相伴まいる。中樂觀世大夫。同四郎。彌石。宮益彌左衛門。大蔵新九郎。今春彦三郎。田樂才阿。初湯漬。其外七献まいる。矢立鴨。八島。采女。松山鏡。自然居士。杜若。綱。樓。猩々。役者次第。御簾上事。野依。東郷。御能初事。蠟燭持出事。堤。野依。少彌殿へ馬太刀まいらせらるゝ事。三上持出之。左京兆へ馬太刀□持出之。鞍六郎左衛門殿持出之。少彌殿ヨリ藤切打刀被レ遣之。□持出之。左京兆太刀腰物被レ遣之。又自二貴殿一太刀刀被レ進之。少彌殿太刀刀被レ進之。彼父子へ太刀禮申之。貞周□三上兩三人。
公卿補任云。前右大臣從一位藤房家。十一月十三日。於二土州一薨。

十五日。己酉 殿中一献。有レ能。
親俊日記云。於二殿中一御一献。御能アリ。細川殿。六角殿父子祇候之。御相伴近衛殿。飛鳥井殿。廣橋殿。烏丸殿。日野殿。藤宰相殿。御供衆。公家衆美物進上之。以二公人一相觸之訖。弓八幡。エビラ。江口。カンヤウ宮。櫻川。錦木。張良。○十六日條云。昨日御一献。五時まで御座候。御能十九番在レ之。

十七日。辛亥 兩御所御臺所渡二御近衛家一。
親俊日記云。近衛殿へ御成。御臺樣。兩君公樣。若公樣御供

大館左衛門佐殿。畠山上野介殿。上野典三郎殿。細川三郎四郎殿。貞孝。誠阿。大御所樣御供細川右馬頭殿。佐々木民部少輔殿。孝阿。弟若公樣御走□□衆祗候十人。堤。三上。野依。古市。(典七。)河村。(民部。)淵田。(土佐。)鈴木。關藤。(典三郎。)河田。(彌三郎。)林。(源二郎。)

十八日。壬子從二陽明家一還御。

親俊日記云。還御。八時分。

十九日。癸丑近衛家謝使進藤筑後守奉レ之。○赤松政村獻二物於兩御所一。

親俊日記云。近衛殿(爲二御使一御出也。)進藤筑後まいらるる。一從二少彌殿一狛修理爲二御使一まいる。一感神院新宮御神馬一疋。若公樣御社參云々。一赤松殿御禮御申也。

御禮之事。依二分國錯亂一。無沙汰迷惑之趣。申上候處。被二聞召分一旨。忝奉レ存候。仍只今以二使僧一。御太刀一腰。(友成。)御馬一疋。(鵜毛。印雀目結。)鳥目三千疋致二進上一候。宜レ令レ達二上聞一候。恐々謹言。

十月七日　政村

伊勢守殿

一若公樣御禮。御太刀一腰。(眞守。)御馬一疋。(青糟毛。印雀目結。)一御衆樣御禮。千疋。

廿日。甲寅八幡社家申二請德政事一。○赤松政村叙二從五位下一。任二左京大夫一。

親俊日記云。八幡德政之儀付而。重成二懸御下知一。自二社家一被二申請一候訖。

歷名土代云。從五位下。源晴政。(赤松)同八十一廿。同日左京大夫。

赤松再興記云。天文八年十一月廿一日赤松政村奏二上意一任二左京大夫一。賜二公方家一字一。而號二晴政一。

赤松記云。天文八年四月八日阿波衆御加勢あり。淡路の岩屋より舟にて。明石の人丸御上り候て。諸勢明石の城取詰候。しかれども和談にいたし降參中。明石御赦免。父子ともに御禮申上。則御陣をかへられ神吉の常樂寺に御陣を取。小寺はいまだ御敵にて御着と居申候。(中略)其後三木の城へ御座を被レ移。京都へ御官位の事被二仰達一候へば。左京大夫に補任被レ成。初は政村と申けるを。公方樣一字を給り晴政と御名乘被レ成候。

廿一日。乙卯伊勢守遷二移新亭一。

親俊日記云。貴殿御移徙。御太刀樽進上云々。

廿二日。丙辰勢州會二霜臺亭一。

親俊日記云。少弼殿へ。貴殿御出。七献まいる。段子盆被レ遣之。

廿八日。壬戌北野遷宮。

親俊日記云。北野今度御遷宮。

廿九日。癸亥霜臺父子參內。

親俊日記云。佐々木彈正少弼殿父子參內。爲二上意一。貴殿被二副參一之候。御劍御拜領之。於二庭上一御酒アリ。

十二月大

朔日。甲子勢州出仕。殿中有レ宴。

親俊日記云。貴殿御出頭。於二殿中一御酒アリ。

二日。乙丑北畠具種叙二從五位上一。

歷名土代云。從五位上。源具種。天文八十二二。元具房。

三日。丙寅兩御所渡二御右京兆亭一。

親俊日記云。細川殿へ(晴元。)御成。若公樣御供衆大館左衛門佐殿。上野典三郎殿。細川三郎四郎殿。大館治部少輔殿。貞孝。誠阿。大御所樣御供衆細川右馬頭殿。佐々木民部少輔殿。春阿。御能難波。頼政。定家。和布苅。遊行柳。三井寺。舟弁慶。伊勢貞助記云。晴元へ御成。進物之目錄。(天文八十二三。)大御所樣へ進上之分。

式三献

御太刀一腰。(白。)　御鎧一領。(白糸。)

御弓。征矢。　御馬一疋。(河原毛。印雀目結。)御鞍置之。

初献。

御太刀一腰。　御馬一疋。(青毛。印雀目結。)

三献。

御太刀一腰。　御小袖五重。(練貫引合。)

五献。

御太刀一腰。(行平。)

七献。

御太刀一腰。(助包。)　御給二幅一對。(牧溪筆。)　御盆一枚。(桂章。)

九献。

御太刀一腰。(國光。)　御香合一。(剔紅。)　御盆一枚。(堆朱。)

十一献。

御太刀一腰。(行光。)　段子三端。　御盆一枚。(堆朱。)

十三献。

御太刀一腰。(國行。)　御太刀一腰。(廣光。)

十五献。

紅一斤。　御盆一枚。(堆紅。)　御鎧拜領ノ御禮　御太刀一腰。(則宗。)

若公樣へ進上之分。
式三獻。
御太刀一腰。　御馬一疋。(鹿毛。印雀目結。)
初獻。
御太刀一腰。(國宗。)　御馬一疋。
三獻。
御太刀一腰。(國吉。)　御腹卷一領。(萠黃糸。)
五獻。
御香合一。　御盃一枚。(堆紅。花鳥。)
七獻。
御太刀一腰。(來國光。)
九獻。
御花瓶一。　御盃一枚。
十一獻。
御太刀一腰。(則直。)　紅一斤。　御盃一枚。(珪章。曲曲。)
十三獻。
御太刀一腰。(長光。)　御刀一腰。(宗近。)
十五獻。
御沈香一包。　御盃一枚。(珪章。花鳥。)　御太刀一腰。(國友。)

以上。
此分御進上也。
大館日記云。早朝爲二御使一祐阿來入。今日進物に。鹿のすと申御腰物。御重代也。井むかし御便所におかれ候御劍(きしん太夫。)可レ有二進上一候由云々。然者定りて被レ下候御劍之外に。御太刀可レ被レ遣候哉。如レ此御重代進上。神妙被二思食一候趣にての御事。いかゞ存候哉旨。被二尋下一候間。其御分尤候。可レ然奉レ存候由申入之也。　今日(未上刻。)京兆(御成。御興御乳人)先若公樣渡御云々。仍御供之事。　大館左衞門佐。(御守刀役)上野與三郎。　大館治部大輔。　細川三郎四郎。　伊豆守。　春阿。共に六騎也。御走衆六人。(きやはん。もゝひき。)　御小者六人。(同前)。　次二町計のちに。大御所樣渡御。(御輕役)細川右馬頭。佐々木民部少輔。　万阿。共に三騎也。御走衆。御小者同前。一女中衆。大上臈御方。(轉法輪殿御局。)御佐吾御局。宮內卿御局被レ參。御成より御さき。一時許御さき(參也。　一若公樣御走衆。飯川能登守。眞下。結城左衞門尉。杉原清四郎。大和彦二郎。　一大御所樣御走衆。安東平次郎。飯川彦九郎。本郷三郎。宇治大路。進士新二郎。海老名二郎。終夜御坐云云。

四日。丁卯從二右京兆一還御。
親俊日記云。還御。四時分。則右京兆祗候。



大館日記云。辰刻還御也。　一近衞殿大政所殿より伊豫の河野御相伴衆之事。及レ晚以レ佐蒙レ仰之。彼使僧(圓福寺。)一紙に先駈之趣國持之事など注申也。

六日。己巳伊勢守會二六角亭一。
親俊日記云。佐々木霜臺へ賞殿御出也。

七日。庚午殿中猿樂張行。
親俊日記云。殿中御能アリ。門役□より勸之。　高砂。田村。　佐々木少弼殿へ。御劍。御具足(同丸。)拜領之。(細川。)　荒川。前。太刀へ賞殿。)□左京大夫殿へ。御劍。御具足(同丸。)拜領之。役者同前。夜明候。少弼殿父子御屋形御女房衆へ御見參也。　一佐々木左京兆へ次々キリ御腰物。賞殿より被レ遣之。

十二日。乙亥殿中掃煤。○方違御成。○武田信豐叙二從五位下一任二伊豆守一
親俊日記云。スヽハキ。　公方樣御成。御方違。
歷名土代云。從五位下。若州武田元光男元信孫也源信豐。同八十二十二。同日伊豆守。

十二日。丙子被レ下二赤松御返書一。○自二譽田社一奉二卷數一。
親俊日記云。赤松殿御禮御返事。今日相渡候。被レ成二御內書一。乾。譽田八幡宮より歲暮御卷數。

十九日。壬午吉田有春有二勘進事一。
大館日記云。公方樣御なてゝめ。今日吉日。有春勘進之云々。

廿日。癸未伊勢國司献二海老一。○方違。渡二御庭田家一。○山門學頭献二卷數一。○節分一献。勢州沙汰之。
大館日記云。海老十籠。爲二歲暮祝儀一北畠殿より進上之。御賀例也。一今夜御方違。御二成庭田殿一云々。節分一献如二例年一。伊勢守申沙汰之云々。　御卷數山門南尾學頭代進上之。

廿五日。戊子攝津守中原元造申二請官途一。無二御許容一。
大館日記云。攝津守元造朝臣官途(修理大夫。)事。以二申狀一被レ申之。彼祖父之親朝臣此官也。仍其時之女房奉書。(後花園院宸筆也云々。)井口宣(慈照院殿樣御判被レ居之。)兩通被レ備二上覽一之。仍此分以二宮內卿局一伺申之也。仍則被二御申入一之處。於二樣躰一者委被二聞召一。訖。乍レ去被二思召一子細ある間。今ちと可下被二相待一申上由被二仰出一之云々。

廿六日。己巳池田筑後守毛氈鞍覆等事。有二衆議旨一。

大館日記云。京兆被官池田筑後守事。せんくらおふひ白きかさぶくろ御免之事望申。仍各御談合之處。如レ此引懸在レ之上者。御免可レ然候由。內談衆各被レ申之。

廿七日。庚寅外郎法眼献レ藥。

大館日記云。御藥(五種。)一包。(壓に居申也。)外郎法眼進上之。御賀例也。

廿九日。壬辰上池院謝二足袋御免一。贈二藥於伊勢守一。

親俊日記云。上池院民部卿殿足袋御免事。貴殿御申沙汰忝候由御禮まいる。牛黃四百粒御持參。三種調進之。

晦日。癸巳納錢方事。依二地下人申請一有二御免一。○畠山右衛門督歲暮献物。

親俊日記云。納錢方事。上下京地下人廿人捧二連判一致二加增一候二望申一。被二仰付一候訖。

洛中洛外酒屋土倉納錢執沙汰事。捧二貳十人連判一任二申請員數之旨一。被二仰付一候訖。於二御公用一者。毎月對二御倉正實一可二相渡一之旨。可レ被レ成二下御下知一[illegible]恐々。

十二月廿日　親俊

松田丹後守殿

大館日記云。畠山右衛門殿より兩御所樣へ。歲暮御禮として御太刀一腰(持。)進上之。次木左身にあてゝ。同御禮御太刀進上之。これは大御所樣計へ進上云々。

是月。島津陸奥守義久献二鐵炮一。

高代寺日記云。十二月島津義久鐵炮ヲ上ル。

鎭西要略云。今年為二舌船漂一泊於大隅種子島一。島主種島兵部丞時堯。同織部丞時正父子客二其船一。而加二懇情一。是爲レ傳二船人之所一持來一鐵炮之術也。其爲レ術。百發百中。千古未レ聞。如レ斯方術種島傳二之於薩摩守一。其後其術行二本朝一。

筒井家記云。抑鐵炮ノ根元ハ。人皇百五代後柏原帝文龜元年八月上旬ニ。南蠻ヨリ日本ニ渡來スルトイヘ𪜈。唯鐵炮筒計ニシテ。放術妙法ヲ傳ヘザリキ。其後十年ヲ經テ永正七年九月下旬ニ又數十挺ヲ渡シ來ス。是又前ニ同ジ。其後三十年ヲ經テ。百六代後奈良帝天文八年八月廿五日ニ。南蠻ノ賈人ノ大船一艘大隅國ノ種子島ニ漂着シ。碇ヲ四村赤尾木ノ湊ニ止ム。島津修理大夫義久ノ家臣種子島ノ主兵部蠻賈ノ長牟良叔舍ニ因テ。鐵炮ノ妙術技ヲ傳ヘタリ。其極秘ニ三法アリ。一曰。正レ心思無レ邪。二曰。直レ身正レ氣。三曰。眼精眇々是也。其後兵部時堯能鍛煉シテ。同年九月九日ニ鳥ヲ射初タリ。兵部從士ニ篠川小四郎朝煉夕磨ノ功ヲ盡シ百發百中ス。其後兵部丞大守修理大夫義久ニ呈ス。義久感心ノアマリニ。鐵炮五挺ヲ同年十二月二日ニ。公方義晴公ニ献ズ。其後紀州根來寺杉房覺春種子島ニ來リ。兵部亟ニ傳ヲ得タリ。其後兵部亟數多ノ鍛冶ヲ呼集メ。於二此島一雖二是作一。鎔鑄作事不レ能。堅ル九年九月下旬ニ再ビ蠻船ノ漂着。鍛匠一人來リ悉ク是ヲ傳フ。島ノ住鍛冶金兵衛清定練磨シテ。數千挺ヲ作リ九國ニ弘ム。時ニ堺ノ住橘屋又三郎張練シ。畿內東國ニ流布セシム。同十年春種子島ノ住松下五郎三郎鐵術習熟ノ者ニシテ。關八州ニ相傳ヘリ。纔三四年ノ間ニ日本ニ流布セリ。

(案。鐵炮事。又載二後十二年八月一。未レ詳二其始一。姑兩存之。)

是年。策彥和尙入唐。○日向國大風洪水。歲饑。

高代寺日記。九年條云。去年策彥大明ニ入。

日向記畧云。天文八年七月十一日大風洪水。八月四日ノ夜又大風洪水。九月六日大雪降シカバ。五穀不熟ニテ餓死スル者多シ。



# 後鑑卷三百八

## 義晴將軍記第二十上起二天文九年正月一訖三月一

天文九年庚子

正月大

朔日。甲午公武參賀。

大館日記云。今朝參賀御人數。公家飛鳥井殿。廣橋殿。烏丸殿。藤宰相殿。坊城殿。日野殿。日野町殿。大名右京太夫殿。細川播磨守。御供衆大館左衛門佐。畠山上野介。上野與三郎。伊勢守。佐々木朽木民部少輔。伊勢因幡守。此外申次已下如二例年一云々。　一御太刀(金。)右京兆被二進上一之。毎年儀。三職何も如レ此なり。五ヶ日進上候也。　一御盃如二例年一。　一大御所樣。若公樣何も御對面也。　一中次當番伊勢因幡守也云々。　一出仕衆各ゑぼし上下。此內朽木伊因兩人はかたぎぬこばかま也云々。不審。　一御屠一本。綠阿爲二御使一拜領之。老後面目至忝存候。毎年御儀也。仍綠阿歸參以後。則對二綠阿一以二書狀一忝旨存旨。可レ預二意得一之段申入之也。

二日。乙未參賀如レ昨。○若州宮川保公用進納。

大館日記云。參賀衆御對面同前云々。　一御料所若州宮川保御公用。(去年天文八年分。)且万疋進納之。吉田四郎兵衛尉

かたより書狀(舊冬廿六日日付也。)到來。次上使諏訪神左衛門尉書狀同在レ之。諏神左事者。皆濟之時可二罷上一之由にて。堅々加二催促一候半と理分馳走云々。明春可二歸參一旨申之。仍則此兩通宮內卿御局迄見參に入也。取次富森越後守也。隨而御要脚之內。四分一二千五百疋は此方拜領にて。かれて如下被二仰定一候上給置之。其外七千五百疋御局へ渡申之也。尤御意得候。目出思食候由。宮御局御返事也。次兩通書狀返給候也。一綿二わ宮內卿御局より拜領候由。以レ佐承之間。以二書狀一畏存候趣。委曲御禮申入之。此御なかば。舊冬大晦日越前朝倉進上之內也。各被レ下御儀也。

三日。丙申 參賀如レ例。令レ催二促宮川保公用未納分一。

大館日記云。參賀衆御對面同前云々。　一若州宮川御公用。昨日遲上之使。今日罷下由申之間。吉田方へ返札遣之。相殘分共早々可レ有二進納一候由旨堅申下之。昨日之儀取次富森越後守に申付之。まへ〳〵のもく出之。次諏神左へも返札具申下之也。

四日。丁酉 新賀如レ例。

大館日記云。參賀衆少々在レ之云々。

七日。庚子 諸人出仕。依二御腫物一。十日御參內延引事議定。

大館日記云。今朝出仕衆。御對面同前也云々。　一佐方より各へ折紙在レ之。來十日御參內之事。御足に御かぶれ出來候間。可レ有二御延引一事。可レ爲二如何一哉。隨而若公樣御代宮に。御參內あらせ御申あるべく候か。禁中御時宜ゆへ。御入ゐめなども御座あるべく候間。いかゞたるべき哉由。內々各御談合云々。仍愚意者。御延引更以不レ苦事也。もと〳〵も御延引候事勿論也。次若公樣御儀。いまだ御幼少の御事にて御座候間。御參內御座候はても。更にくるしからざる御事也。心へ候て。よく〳〵可レ被二奏聞申一旨。傳奏へ可レ被二仰出一御事。肝要に奉レ存候由申之也。

八日。辛丑 令レ剪二海石榴枝一。宛二卯杖用一。

大館日記云。御賀例御卯杖の爲に。さくろの木今朝佐かたより人を遣てきらせ候。例年之御事也。人數遣之。いづくにても可レ然より來候處のをきりとり申也。

九日。壬寅 衆議禁中御門役伯州作州知行事。

大館日記云。早朝に佐方より各折紙在レ之。明後日(十一日。)より。御門役事に。今日御內談如レ常可レ有之由候間。意得存旨申之也。此御門役事。正月十日迄可レ被二勤申一旨。舊冬小笠原民部少輔。進士美作守兩人に以二御門役奉行一(松對。)被二仰付一候。仍十一日より誰々可レ被二仰付一哉。御內談候歟。

一佐來入。今日所勞などの由候間。不レ及二御參會一候。仍以二手日記一申合候。然間明日より毋ケ日。細川播州に御門役被二仰付一候て可レ然候由。各存分也。仍其段加二稱名一者也。

一同又手日記。治部大輔知行分伯州星川庄事。以二請文一御下知事申之。無二別儀一由各被レ申候。(舊冬日付たるべき也。)

一同又手日記。兵庫頭知行分作州小吉野庄御下知事。是又無レ紛證文出帶之云々。(日付可レ爲二舊冬一。)

十日。癸卯 大館治部大輔晴忠下向伯州。○小林民部少輔知行事。命レ衆評議。

大館日記云。治部大輔。今日伯州へ下向。知行星川庄事可二申扱一ため。日數暇於申罷下云々。來四五日之間に可レ令二歸參一云々。　一日行事佐方より。各御供衆中へふれ折紙あり。明日(十一月一。)御普請始。未明に若黨一人づゝ未明に可レ被レ進之由候也。(去年のごとく。上に白きかたびら。こばかまたるべし云々。)仍加レ筆申也。　一佐方より又各へ(御內談衆也。)折紙在レ之。小林民部少輔知行分作州布施郷(宮永彌六跡。)事。先年明應六年法住院殿樣より小林に被二宛行一之知行無二相違一。近年は手に不レ入候間。只今尼子方へ御下知被二成下一候樣にと申之段。小民は爲二御使一東國へ下向之間。舍弟與五郎申上之間伺申處。各へ可二申談一之由被二仰出一候云々。仍御下知其外故伊勢貞宗朝臣書狀以下。れき〳〵の證狀共也。浦上がたより。公用遲上の書狀等など無紛也。然間無二別儀一存候由申之也。

十一日。甲辰 佐々木定賴獻二初鮒一。○御作事初。

大館日記云。佐々木遣臺より初鮒十(御賀例也。)今日進上之也。披露狀(今日之日付也。)并目錄相副之進上之。仍則以二宮內卿御局一令二披露一之。得二其意一可レ申由蒙レ仰也。　一今朝早朝に御普請始に。殿原一人進之也。御供衆中へ昨日被二相觸一。殿原一人づゝ被レ進之。如レ此也。

十二日。己巳 就二明日一獻一。美物獻上。○河原院捧二卷數一。○山田以下馬借捧二申狀一。

大館日記云。應一。荒卷五。明日(十三日。毎年。)若公樣御せち。御いんこんにつきて美物進上仕也。仍目錄折紙今朝申次當番豆州へ申入之。御披露也。私より申次迄の使者田原右京進也。仍美物なば下津屋方へ納申之也。一御卷數三枝。河原院より御三御所樣(進上之。以二御申次一申入之也。　一佐方より各へ折紙あり。山田山瀨下笠等之馬借等捧二申狀一旨上。四角見入公事米役事。天文七年御下知旨。(諏神書出。加判松豐也。案文出帶之。)成懸被二成下一者可二參存一云々。各御事書無二別儀一。此內荒治。御事書に。當春いまだ御沙汰始無レ之間。

酒冬之日付にて可レ被レ成候哉。尤其分に存候由申之也。一及レ晩佐方より承候。明日若公樣御一献に。必々祇候可二目出一由。宮内卿殿只今も被レ仰候。依二御氣色一如レ此承候趣承之也。添存候可レ令二參上一之由申之也。

十三日。丙午　御祈禱札献上。○被レ命二八幡代使於三淵掃部頭一。○若公御一献。

大館日記云。御祈禱御札。大般若經當院より給之。仍一段御祝着之由申之也。奏者田原右京進。一藤宰相殿へ御代宮參事被二仰出一候處。近日爲レ用候。八幡は十一日者はゞかり之由候間。いかゞ可レ仕哉旨被レ申候間。三淵掃部頭方へ被二仰出一候由承及候也。一今日若公樣御せち御一献につきて。愚老事年罷寄候間。めてたく可レ令二祇候一之由。御氣色之旨。宮内卿殿より承候間。令二參上一也。仍簾中にて御盃被レ下之。面目至添次第也。

十五日。戊申　衆二議毛氈鞍覆事一。

大館日記云。宮内卿御局より文在レ之。來十九日御代宮參。三淵掃部頭可レ被レ勤由にて候。就レ其もうせんくらおほいの事不レ苦候歟被二尋下一之。其外御部屋衆などはいかゞ候べき事候哉由。同被二仰下一候由承之。長而承之。三淵其分不レ若存候。總別諸大名たる各別。其外は御もんせられ候かたゝは其分にて候。御部屋衆も御もんの人を被二召加一事にて候間。もとゝもうせん其分にて御入候つる。此趣宜レ預二御申一由。御返事申之也。

十六日。己酉　祇園神主献二卷數一。○十市兵部少輔歳首献物。

大館日記云。祇園社大政所神主御卷數二枚。兩御所樣へ進上之。仍申次當番申之披露之也。一御太刀一腰。(持。)十市兵部少輔年始御禮として進上之。披露狀(十一日日付也。)雜掌(中井修理入道。)持參也。此御禮。則以二宮内卿殿一申入之也。宮内卿御局への使者田原也。

十七日。庚戌　八幡善法寺使賀二歳首一。

大館日記云。今日善法寺參賀。例年儀也。然に德政事に路次用心儀在レ之て。今日參上延引云々。此方へ祝儀使在レ之に。ついてながら如レ此被レ申之也。

二月小

朔日。甲子　出仕如レ例。○被レ命二初卯御連歌勤仕人人一。宗牧周桂二人始列二其席一。

大館日記云。今日出仕衆如レ常云々。一來四日初卯御連歌事。如二去年一於二殿中一可レ有二御座一也。仍去年參勤御人數。可二相觸申一由。以二宮内卿御局一被二仰下一候也。只今早及レ晩候間。明朝可二觸申一之也。一宗牧來入。四日初卯御連歌に被二召加一之候。添長存候旨申之。其後周桂も來入。同前。此兩人者去月被二仰出一之也。

二日。乙丑　傳二四日連歌於諸人一。命二下津屋一。用二意同朝供粥一。

大館日記云。明後日御連歌御人數相觸之。細川播州。奥州。豆州。同刑部少輔。摂津守。佐々木民部少輔。二階堂中務太輔。曾我上野介。飯川與四郎。小坂山城守。(誤正)安威兵部少輔。諏訪信濃守。治部河内守。松田丹後守。春阿。飯川彦九郎。三福寺。二位法印。正實。周桂。宗牧。此内二階堂。安威兩人御所勞云々。路又播州へは。昨夕以二書狀一申之也。佐民方へは。以二書狀一申之也。(今朝遣之也。)一早朝に下津屋三郎左衛門尉方へ以二使者一。(松本平兵衛尉。)明後日御連歌について。如二去年一其方にて。早朝御かゆ實御ときの事。定從二宮内卿御局一可レ被二仰合一候。御人數は去年の分にて御座候。無二御油斷一御用意可二目出一候旨申遣之也。御恐祝着之由被レ申之也。一初卯御連歌御人數書立所望之由。下津屋方内々被レ申之由候間。しるし遣也。十九人也。安威二階堂所勞にて不參之條。十九人分也。取次松平也。一摂州(日行事。)より各へ折紙あり。納錢方七百疋。地下取沙汰仕候内。諸下行候て三貫文餘相殘申也。三百疋。御第若公樣供御方へ。白川方へ可レ被二相渡一哉之由。宮内卿殿各御内談候云々。仍尤御事かけ候はぬやうに。御調可レ然存候由申之也。

三日。丙寅　令レ調二進連歌懐紙一。

大館日記云。明日初卯御連歌御懐紙かみ。(打くもり五。引合五。)御倉正實方より。一昨日調進之間。今朝執筆飯川彦九郎殿へ以二書狀一進之也。如二去年一御文窪被二申出一之。御調可二目出一由申也。留守にて奏者に申置之云々。使又五郎也。

四日。丁卯　初卯御連歌。命二大館晴光脇句一。○在富有春二人候一。若公御身固一。

大館日記云。早朝出仕申。今日初卯御連歌に。あとにても令二參上一候樣にと。昨日以二宮内卿殿一被二仰下一之。面目之至添次第也。仍行步難レ不二合期一候。致二祇候一也。一御連歌御人數。御發句御脇常興に可レ仕旨。かれて被二仰下一之旨申之也。第三。細川播州。(おもひざし申也。)三福寺。細川奥州。豆州。同刑部。摂州。朽氏。曾我上。小城。飯興。諏信。二位法印。春阿。周桂。宗牧。正實。治河。松丹。飯彦九(誤正)等也。一早朝於二下津屋方一御かゆ在レ之。ひる已後同御齋在レ之。一常興は行步依レ不二合期一。殿中へもたせられ候。はいぜん下津屋又二郎。春阿兩人也。一御連歌七の時分に相はて申候。其後御

食籠物にて御酒在レ之。御しやく同朋衆。次常興退出候時。宮内卿殿へ御禮申入候て罷歸也。　一今朝於二殿中一在宮卿。有春朝臣參會。御弟若公樣御誕生日にて。御身固の爲に兩人祇候云々。ついでに在宮卿語云。唐船當月六日可レ爲二歸朝一之由。於二九州一承及云々。

五日。戊辰松露一折。自二細川典厩一獻上。○尊勝院申二請寺領事一。

大館日記云。松露一折。(箱に入て。折に被二居申一。)細川右馬頭殿進上之。昨夕到來。早及二夜陰一候間。今朝書狀にて以二宮内卿殿一申入之。心(候て可レ申由蒙レ仰也。昨夕。典厩使者新田帶刀左衞門尉也。)參者石原也。　一今夕周桂來入。(御連歌以後也。)今日參上忝之由被レ申之也。　一豆州より。各へ折紙在之。尊勝院被レ申二城州日野郷法界寺領事一。京兆へ被レ立二御使一候へ共。未二一途一候間。先在所儀可二相拘一候旨。對二木澤左京亮一御下知申請之云々。茜冬日付にて被レ成候べき哉之由申之。尊勝院書狀は。豆州へ之狀也。仍尤其分無二別儀一候哉。但可レ爲二衆議一之由申之也。

六日。己巳衆二議鹿苑院公帖及近衞家亂妨人事一。

大館日記云。日行事(攝。)より各折紙在之。公帖事(鹿苑院。)書立在レ之。其段六角少弼より。海老備へ書狀にて被二執申一分也。可レ爲二如何一哉之由御尋之云々。いかにも御裁許可レ然存候由申之也。　一爲二御使一。祐阿來入。今日たう人近衞殿へ入間。御雜色など被レ遣之處。入江殿へにげ入。仕あまし候處。開園被官よく仕候て仕とめ。御身もきずをかうぶり候間。御ほうびあるべき事。かへりていかゞたるべく候哉。又可レ然哉否之事。被二尋下一之間。かやうの事はたれ〳〵によらず。時宜による御事也。今の分は。既仕あまし候處。よく仕とめ其身もきずかうぶり候間。御ほうび尤可レ然。向後のいさみにも可レ然令レ存候よし。御返事申上也。然者開園に可レ被二仰遣一候哉と存候由。祐阿まて申候處。開園は就二他事一。御時宜よろしからず候間。御ほうびにつきては。すゞに御太刀を可レ被レ下候分にて候よし承候也。

七日。庚午右京兆亭有二一種一瓶宴一。

大館日記云。右京兆にて。一種一へい在レ之て。觀世太夫猿樂有レ之云々。座敷之人數京兆。播州。奥州。佛地院。朽氏。細刑。藥師寺。秋庭。柳本相伴云々。

八日。辛未就二山門大工職。及肥前有馬請字事一。有二羣議旨一。

大館日記云。日行事(攝州。)并細豆州御兩人來臨。其外御内談衆は所勞云々。仍被二仰出一子細者。山門大かうだう造營大工事。棟梁衞門相續之處。坂本大工に。山門として申付之。既明日九日事始之由申候間。急度被レ成二御下知一者。可二忝存一之由。内々言上。(以二祐阿一申上之。)いかゞたるべき哉之由。各被二尋下一之。然者衞門に請文をさせられて。御下知可レ被レ成事。可レ然存候。其上にて子細あらば。定爲二山門一可レ有二言上一候。もし又さもなくて。押而申付候共。衞門理運之儀ならば。一旦さやうに候共。可レ被二仰詰一之段勿論也。然者御下知不レ致二承引一者。衞門各山門へ罷向候て。可二相支一之由申候段は。不レ可レ然候通各言上之。日行事手日記に加二稱名一者也。　一此比に日行事承候。肥前國有馬御字(祿。)望申につきて。大友雜掌勝光寺以二書狀一(佐方へ也。)言上。彼有馬は少貳被官人にて候由申之。可レ爲二如何一哉之由被二尋下一之。如レ此被官人於二事實一者。御字儀不レ可レ然候哉。宜レ爲二御衆議一之由申之也。　一御弟若公樣供御方御事。先度宮内卿殿各へ承候。納殿方之内にて。可レ有二御下行一之事。上意には太不レ可レ然被二思食一之由。堅固に被レ仰之由。宮内卿殿承候。其分可レ有二存知一旨承也。尤令二存知一之由申之也。

九日。壬申禁中御門役事内議。

大館日記云。日行事(攝。)より各へ折紙在レ之。明後日より御門役事たれ〳〵に可レ被二仰付一哉の事。重而細川播州へ可レ被レ仰候也。惣別和泉守護は。もと〳〵より花御所四足。一季(三ヶ月。)づゝ相勤申候事にて候と存候。既只今御事かけ候間。今月中被二勤申一候やうにと。以二御門役奉行一可レ被レ仰歟と存候由申也。　一攝州來入。仍明後日より御門役事。重而細川播州へ可レ被レ仰之段御内談也。先今月中御事也。以二御門役奉行一(松對。)可レ申之云々。

十日。癸酉大友五郎獻物。仍給二御書一。

大館日記云。佐方より承候。大友五郎御太刀一腰。御馬一疋。黄金三拾兩進上仕につきて。被レ成二御内書一。御太刀一振被レ下之也。仍副狀案文事申間。則調遣之也。將又同若公樣へ御太刀。段子三端進上之。若公樣へは始御禮云々。是又被レ成二御内書一。(大御所樣より。)御太刀被レ下之。副狀案文事同承候間。則調進之。何も晴光可レ申由。御内書御文言也。御日付二月三日也。

十一日。甲戌自二此日一。内裡御門役細川播磨守元常奉レ之。

大館日記云。今日より御門役事。細川播州被二勤申一之云々。

十三日。丙子賀二新春一。畠山右衞門督在氏獻物。

大館日記云。御太刀一腰。(持。)畠山右衞門督殿より。年始爲二御禮一進上之。若公樣へも同前。

十七日。庚辰御沙汰始。

大館日記云。今日御沙汰始也。仍御内談衆も毎年御太刀(金。)進上也。然間御太刀(金。)御申次(細豆州へ。)進入候て。如二摠次一預二御披露一者。可二長入存一候由申之。(使者松下兵衛也。)一奉行衆治部河内守。松田丹後守。松田豐前守。飯尾中務大夫。飯尾大和守。松田對馬守。飯尾彦左衛門尉。治部兵衛大夫。中澤播部助。松田八郎各來入。今日御沙汰始珍重之由被レ申也。行少不二合期一候へ共。そと對面申也。公人奉行(諏信。)は少所勞氣にて。先直に被二罷歸一候。追而可レ有二來入一由。以二飯中大一被レ申之也。各何もかたぎぬ也。公人奉行一人はゑぼし上下にて出仕候云々。

廿日。癸未御臺所渡二御近衛家一。

大館日記云。今日(辰下刻。)御臺樣近衛殿へ御成在レ之云々。御供土岐石谷孫三郎。進士九郎兩人乘馬にて參勤。御こしぞいの分に。御被官松井。小林小五郎兩人御あとに參勤。御こしのきはに。御さきへは地下公人番頭等參勤也。むかしはめしの御中間と申て。御中間數多參候也。當時はまた御中間無レ之云々。

廿二日。乙酉九州秋月種方請レ列二御供衆一。

大館日記云。今朝(早イ)佐來入。内々申云。九州人秋月事。内々御供衆儀懇望之。但申請分にてはなくて。大内大友和與事。國さかいにて遲分令二聽走一。如二上意一無事に相調可レ申候。か樣之忠功分にて。被二仰出一候やうにと申之云々。其かどある事也。此儀諏信取次て佐へ申候。仍伺申處。各可レ令二内談一候由被二仰下一之云々。

廿三日。丙戌普廣院殿百年忌事内議。

大館日記云。播州より各へ折紙在レ之。(今日日付也。)就二普廣院殿樣百年忌之儀一。彼院より鹿苑院への書狀。仍鹿苑院より蔭涼軒への書札進覽候て。被二申入一之。仍公文之事可レ被二仰付一歟。然者自餘を被二停止一候はゞ難レ調候。次國役被二仰付一哉由冒上也。就レ其上意者。國役之事は。去々年禮拜講御勤役之時。依レ被二相懸一之。御作事方にも不レ被二仰出一候條。無二御分別一候。可レ爲二如何一哉。各存分可レ被二申入一候。御内談之由在レ之。仍愚意は。去々年其分候間。只今御作事方へも不レ被二仰出一候條。無二御分別一由御事。尤無二餘儀一存候。何に御百年忌一段之御儀候間。公帖之事可レ被二仰付一候哉。其内にも依二子細一。自然御談合儀も可レ有之歟。何爲公帖可レ被レ寄御事。可レ然奉レ存候。次かやうの御佛事には。諸大名各御香奠進上候事にて候間。其段は不レ及レ被二仰出一候て。もと〳〵進上候と存候。然間鹿苑院より爲二心得一にと候て。各へしらせ可レ被レ申候歟。宜レ爲二御衆議一候。

廿五日。戊子一日千句連歌。右京兆興行。

大館日記云。於二右京兆一。今日一日千句御連歌有レ之云々。

廿八日。辛卯朝倉宗淳入道歲首獻物。

大館日記廿六日條云。越前朝倉方より今夕人を上進之云々。年始御禮儀也。○廿八日條云。御太刀。(持。)青銅三千疋。越前朝倉爲二年始御禮一進上之。佐取次也。

廿九日。壬辰河原院獻二卷數一。

大館日記云。御卷數三枝(三御所樣へ進上之也。)河原院よりまいる。仍申次當番(伊肥云々。)(申入之也(使又五郎也。)

三月大

朔日。癸巳參賀如レ例。

大館日記云。今朝參賀衆如レ常云々。一御門役。今日より伊因被二勤申一之云々。昨日迄は細川播州被二勤申一之也。

三日。乙未桃節群賀。

大館日記云。今朝參賀衆。公武。右京兆已下如二例式一云々。御鳥合在レ之。如二例年一云々。

六日。戊戌木澤左京亮長政獻物。

大館日記云。御太刀一腰。(持。大御所樣へ。)木澤左京亮爲二當番一御禮二進上之。一同同。(持。若公樣へ。)進上之同前。

八日。庚子御參内。○安賀庄公用進納。

大館日記云。安賀庄御公用(去年分。)只今五万疋進上之。飯和來入候て被レ申之。則御倉へ納申之也。一御參内在レ之。正月十日雖レ爲二例年御儀一。御風物御足に御座候て無二其儀一。近日御本復之間今日如レ此。御興也。御ちよくろ如レ常。御供衆細川(御名代)三郎四郎。佐々木民部少輔。伊勢守。祐阿共四騎也。走衆飯川能登守。安東平次郎。沼田三郎左衛門尉。清四郎。眞下。大和小三郎。已上六人如レ常。御小者六人如レ常。御物奉行歲阿御さきへ參也。御出奉行諏方信濃守。松田丹後守これ又御さき。御物よりはあと也。各乘馬。ゑぼし上下也。

九日。辛丑半井宮内太輔明英申二請渡唐事一。

大館日記云。日行事(豆州。)より各へ折紙在レ之。典藥半井宮内大輔明英申。爲二醫學一渡唐仕べし。仍御判事以前申上候處。就治被レ申事に。惡林院殿樣よりかんがうを大内に被レ下たる事候條。大内存知候はては不レ可レ然存候旨。被レ申候より先打たかれ候。然に重而申請。大内方へかかわり候べき事あらず候よし申候。可レ爲二如何一哉。各御尋候由承候間。總別さら〳〵無二別儀一事と存候旨申之也。此事は御樣樣執御申也云々。

十二日。甲辰飯尾大和守堯連被レ命ニ江州御使一。

大館日記云。今朝飯和來入。今日爲二御使一。六角霜臺へ罷下候。自然御用候べき哉云々。只今用事無レ之旨申也。只今下向之儀は。內裏御修理事被レ仰候。可レ爲二如何一哉。次當年普廣院殿樣御百年忌御佛事之儀。いかゞ候而可レ被二相調一哉之段。六霜に御談合之御事也。此儀に朽木民部少輔を被二差下一候。巨細朽民可レ申由被二仰出一之云々。以二細豆州一被二仰出一也云云。朽民ははや今朝罷下云々。

十四日。丙午衆二議御門役事一。

大館日記云。佐方より各へ折紙在レ之。御門役事。伊因明日まて十五日可二勤申一。明後日はあけ可レ申由被レ申也。可レ爲二如何一哉云々。十五日ときりなさゝれ候はずば。如レ此被レ申事太不レ可レ然候由。爲二御門役奉行一。伊因へ堅申候て。可レ然存候由申之也。

廿三日。乙卯從二今日一。觀世大夫勸進能興行。

大館日記云。今日より觀世大夫勸進猿樂在之。在所。(西陣芝の藥師近邊也云々。)丹波守護波多野取もちて如レ此也云々。京兆も棧敷へ御出云々。○廿八日條云。勸進猿樂今日迄在之云々。

此月。依二洛中上下申請一。被レ行二德政一。

室町殿物語云。諸國就二愈劇一。分國に新關を立。往還の旅人安からず。さるによつて都鄙の賣人をのづから途絶しけり。是に付て京方の工商家職をむなしくせり。道日糧つきければ。家財をたくわへたる者は賣物に入てしばらく妻子をはごくむ。財寶なき者は行衛なく逐電しけるものおほかりけり。角表ふるによつて。公方役地子役かつてすゝむるにあたはず。催促きびしといへども。大方賣物に拂底しければ。詮かたなくて上下一同に。撿斷所に訴狀を上る。

近年京都之諸商賈。一圓に不レ得二其掉一。內證迷惑仕候。さるに付て家財を賣物に入。又は沽却を致し候て。年を經るといへども猶以糧盡。已に飢渴になよび申候。是によつて不レ克二御公儀役勤一。此度の儀に御座候條。被レ加二御慈悲一被レ成二德政一。御赦免被レ下候者。有難可レ奉レ存よし言上す。

則老中披見ありて。被レ達二上聞一ける。公方つくづく御覽じて。翌日人々をめして仰られけるは。在地人等近年家業の利をうしなひ。飢渴におよぶのよし尤不便なり。それ士農工商は。晝夜心骨をさゝみて上を育。上は又下の豐ならん事を日日にあらためて安全を守る。然るといへども當世衰亂せしかば。政道も又なきがごとし。それに付て德政を望む事。もとより米錢に富たる者は。利倍のために賣物を取る程の族は。たとへその財寶をことゝくとるゝといふとも。飢渴になよぶほどの事はあらじ。有德のものは百人に一人二人ならん。しかれば小をころして大をすくふは是法也。其上に先規なきにしもあらず。常德院。法住院の例にまかせて急德政をなこなひ。貧窮を甘ようと被二仰付一ければ。人々承はつて則評定所にて案文をかゝれける。新規にもあらず。大方先法のもとし。

德政。　城州。

一借錢借米之事。　廿四ヶ月。

一於二武具之類一者。　十二ヶ月。

一絹布之類者。　十二ヶ月。

一佛具給賛之物家器之類者。

一家質縱沽券に仕り。證文正數言有レ之。於レ加二利辨一者可レ爲二借錢同前一事。

右五ヶ條。以二本銀之十分一。白賴に取可レ申候。若違犯之族於レ有レ之者。曲事たるべきのよし被二仰出一候。仍下知如レ件。

天文九年三月日　光俊　貞長　長高在判

去程に賣物を入たる輩。九年の旱魃に大雨を得たるおもひをなして。よろこぶ事大方ならず。質屋の內外に人の出入はかぎりなし。かゝる所に洛外に蟄居しける一業所惑の者共。よきさいはいと悅びて。五人十人づゝ押込。賣物に事よせて財寶をうばひとり。異儀におよべば猛藉仕るによつて。質屋方めいはくし此旨を訴訟す。諸奉行きゝ給ひて。重而高札を擧られける。今度被レ免二除德政一之處に。在々所々に令二隱住一。牢輩等。質屋かたへ押込を仕り。資財をうばいとるのよし其聞候。向後其近邊の猥雜而致二手合一。即時に出合。隨分打留可レ申候。生捕におゐては。大切之儀候之條。侍におゐては何にても叶レ望。平民に到ては當座之褒美として。料足貳百文可レ被レ遣候。仍下知如レ件。

月日　在判如レ前。

右の高札。洛中を初在々所々不レ殘被レ立ける也。

## 後鑑卷之三百九

義晴將軍記第二十下　起二天文九年四月一訖二十二月一

天文九年庚子

四月小

朔日。癸亥參賀如レ例。

大館日記云。今朝參賀衆如レ常云々。右京兆御出仕云々。一今朝參賀。藤中納言殿。烏丸殿。日野殿。右京太夫殿。播州。奥州。勢州。杤木民。晴光。高信已下。申次節朔衆也云々。大名幷外様衆。ゑぼし上下。御供衆はかたぎぬ。こばかま也。如レ此出仕衆。兩御所様御對面也云々。

二日。甲子就二新年献物幷山門祈禱事一。給二御書於朝倉宗淳一。

御内書案載

爲二年始祝儀一。太刀一腰。青銅三千匹到來。目出候。仍太刀一振(國友。)遣之。猶晴光可レ申也。

卯月二日　御判

朝倉彈正左衛門入道どのへ

於二山門一別而祈禱事。聞以申付之。巻數到來。尤神妙。猶晴光可レ申候也。

卯月二日　御判

朝倉彈正左衛門入道どのへ

大館日記八日條云。昨夕被二仰出一。朝倉方へ御内書致二調進一之。御案文備二上覽一。尤可レ然被二思食一之由。被二仰下一候也。

十二日。甲戌伊豫國河野彈正少弼通直謝二相伴衆一献物。

大館日記云。御太刀幷二千疋。伊與の河野彈正少弼被レ召二加御相伴衆一御禮として進上之由承及也。若公様へは御馬御太刀進上之云々。

廿一日。癸未從二内裡一。改元事有二勅問旨一。

大館日記云。從二禁裏様一以二傳奏一(廣橋。)被レ申二當時改元之事一也。去年諸國水損。當年は世上病事以外之間。早々に改元可レ然被二思召一。今日禁裏御德日にて御座候へ共。急事候間被二仰出一候云々。

廿二日。甲申改元事奏聞。

大館日記云。日行事(本常。)佐々被二相副一て仰には。當年號は凡可レ然様にさた共在レ之歟。殊御入洛も候。又若公様御誕生も候。旁以先此分にて。もし猶いかゞの事共候はゞ。其時可レ有二改元一歟。内々昨日關白殿へ尋被レ申も如レ此被レ仰候。

廿四日。丙戌蘆名遠江守盛舜献二大鷹一。仍給二御書及御太刀一。

大館日記云。蘆名遠江守かたより。大鷹一本進上仕候間。可レ被レ成二御内書一と被二思食一候。

御内書案載。

大鷹一居到來。自愛不レ斜。仍太刀一腰(次守。)遣之候。猶晴光可レ申候也。

卯月廿日　御判

蘆名遠江守殿へ

廿八日。戊子御門役被レ命二曾我海老名兩人一。

大館日記云。御門役事。佐方より内々申候。海老備は速御請被レ申候。曾我上野介は被レ申二子細一候由。日行等(本常。)より被レ申云々。

廿九日。辛卯河原院献二巻數一。

大館日記云。御巻數三枝。三御所様へ。河原院より今朝進上之。將又春日御師より。先日兩御所様へ。御巻數二合進上之。何も今朝申次(細刑部。)へ申入也。

五月小

朔日。壬辰參賀如レ例。

大館日記云。今朝參賀。飛鳥井殿。藤中納言殿。細川播州。左衛門佐。勢州。兵庫頭。其外申次已下云々。兩御所様御對面云云。今朝申次富番伊勢肥前守云々。

二日。癸巳山門僧徒献二巻數一。○伊勢國司献二劍馬一。賀二歳端一。

大館日記云。御巻數三合。山門松禪院。正教坊。金藏坊より進上之。御太刀一腰。(持。)御馬一疋。伊勢國司北畠殿より爲二年始御禮一進上之。此御馬は代にて參る。三百疋也。御倉へ納申之云々。

三日。甲午依二新年献物一。給二御書於北畠晴具卿一。

御内書案載

爲二年始祝儀一。太刀一腰。馬一疋到來。喜悦候。猶常興可レ申之狀如レ件。

五月三日　御判

北畠殿

四日。乙未施餓鬼事内談。

大館日記云。御内談儀在レ之。一世上相煩様に候間。大施餓鬼事。於二内野經堂一。爲二右京兆一可レ被二執行一之由々被レ申之。然者。諸五山僧可レ被二罷出一候條。鹿苑院より以二蔭涼軒一御案内被レ申之。いまだ不レ及二御返事一。可レ爲二如何一事候哉。

五日。丙申群二賀蒲節一。

大館日記云。今朝參賀衆。藤中納言殿。坊城殿。日野町殿。飛鳥井少將殿。右京大夫殿。細川播州。細川奥州。左衛門佐。細川三郎四郎殿。兵庫頭。勢州。杤木民部少輔已下。申次等也云云。御對面兩御所様云々。一今朝申次。伊勢肥前守云々。

一御太刀一腰。(持)畠山二本松治部少輔殿爲二年始御禮一遣上之。

十二日。癸卯佛事料事。令レ下二知北畠家一。○此日。於二内野經王堂一張二行大施餓鬼一。依二天下疫死一也。

大館日記云。北畠殿(伊勢國司也。)へ被レ成御下知一遣給レ之候。普廣院殿樣御百年忌御佛事料。爲二國役一三千疋。來月十日已前に可レ有二其沙汰一之由御下知也。一内野之經王堂にて大施餓鬼今日在レ之云々。諸五山僧衆被二露出一て被レ行之云々。

相國寺記云。五月十二日。大將軍命二五岳僧侶一。於二内野經王堂一。設二大施餓鬼會一。于レ時燒香鹿苑梅叔知尙。首唱子建西堂。蓋茲歲。諸國往來者餓死于道路。不レ遑二收舉一。右京兆邊二上聞一故也。

長享年後錄内兵亂記云。九年。天悉疾疫(下痢病)。人民多死。天子御惱。相公若公病。五月十三日於二北野經堂一。諸五山大施食。筒井家記云。此歲ノ春夏天下大疫癘。諸人多死セリ。順昭諸士ニ命ジ。金銀米穀ヲ出シテ。病ヲ救ヒ葬リヲ助ケリ。

十四日。乙巳洪水。

大館日記云。今夜夜中より洪水。諸家板敷をこす也。

長享年後錄内兵亂記云。同十四日夜。洛中大洪水。上京家屋多流。人民死。

十九日。庚戌就二御年忌一。有レ被レ下二知能州守護一旨。

大館日記云。日行事攝州より。普廣院殿樣御百年忌御佛事錢。禁裏樣御修理御要脚兩條御下知。(兩通也。)能州へ之儀。常興副狀仕て給候へ。今日杤民へ可二渡遣一之由承候間。そへ狀兩通相調之。攝州へ遣之也。

廿日。辛亥依二姫君御平快一。給二御書於鹿苑院一。

大館日記云。爲二御使一祐阿來臨。去十六日如二例年一於二殿中一大般若經在レ之。然に姫君樣御もう〳〵。其砌より御げんに御さゝきと〳〵と被二思食一事候間。一昨日又大般若經講讃させられ候へば。いよ〳〵すき〳〵とよく御座候。一段さとくと被二思食一候。仍鹿苑院へ被レ成二御内書一。寺家へも心へ可レ被レ申候へ旨被レ仰と。被二思食一候にいかゞ存候哉。可レ然と存候はゞ。其趣御内書可レ致二調進一候由。被二仰下一候也。今度大般若經。一段殊勝儀共候。感悅此事候。寺家へも可レ有二傳語一候。恐惶敬白。

五月廿日　　御判

鹿苑院



廿三日。甲寅鎮守八幡宮湯立。

大館日記云。於二鎮守八幡宮一。御湯立在レ之。御見物云々。

廿五日。丙辰安西堂拜謁。○荒川式部少輔有二言上旨一。○從二陽明家一被レ傳二叡慮旨一。

大館日記云。安西堂參賀。御對面云々。陸涼軒同道云々。申次伊肥たりとい〈共さうはくにて。左衛門佐參勤也云々。進物は御香合并引合十帖也云々。一此内荒川禮部冒上。同名太郎。民部少輔兩人跡事。越中國候間。當時雖レ非二可二事行一儀。爲二後證一。御下知申請度之。太郎はちくてん。民部少輔は先年御敵〈參候由被レ申之。次荒川惣領儀。同御下知申請度之。先祖石見國守護職被二仰付一候。ほうけう院殿さま御判以下備二上覽一之云々。一近衛殿より以レ佐申候。從二禁裏樣一被レ仰候。世間相煩之事候。未レ休之由不便至。一段不レ可レ然事候間。於二禁中一爲二御祈禱一。みしほを可レ被レ行候。仍御要脚事四千疋之由申候〈共。三千疋可レ有二御進納一候。其外は又爲二禁裏一可レ被二仰付一之。然に時分柄御座候はゞ候。地下之倉方へ御借用候はゞ。可レ然之由仰也。此趣以二御奏一可レ有二御申一候〈共。雖レ屆被二思食一候間。以二近衛殿一御申由仰也。

廿七日。戊午於二近衛殿一有二楊弓戲一。

大館日記云。右京兆近衛殿へ被レ參。やうきう在レ之。仍左衛佐門同參。播州同被レ參云々。

六月

十三日。癸酉自二北畠家一獻二御佛事錢一。

大館日記云。三千疋伊勢國司北畠殿より進納之。普廣院殿樣御百年忌御要脚事被二仰出一候間。進納之云々。

十四日。甲戌令レ催二促上樣御料公用一。○依二獻物一給御書於畠山北畠兩家一。○佐竹義篤叙二從四位下一。任二右馬頭一。

御二内書案紙

爲二年始祝儀一。太刀一腰。白鳥。海鼠。昨到來。被二聞食一訖。猶常興可レ申候也。

六月十四日　　御判

畠山修理大夫入道どのへ

就二普廣院百年忌一。三千疋到來訖。喜入候。猶常興可レ申之狀如レ件。

六月十四日　　御判

北畠殿

官途之事。可レ被レ任二右馬權頭一候。猶晴光可レ申候也。

六月十四日　　御判

佐竹右馬權頭どのへ

爲二始之禮一太刀一腰。馬一匹到來。目出候。仍太刀一振(即宗。)遣之。猶晴光可二傳語一候也。

六月十四日　　御判

佐竹右馬權頭どのへ

歴名土代云。從四位下。源義篤。同九六十四。元從五位下。同日右馬權頭。

大館日記云。上樣御料所加州七ヶ御公用(去年分。)千疋。(去三月。)運上之後は一向無音。曲事也。相殘分早々可二進納一之由。うす非に可二申屆一段。正實方江可レ申旨。此間連々申儀也。

廿四日。甲申渡二御普廣院一以二百年忌辰一也。

大館書狀案云。六月廿四日。普廣院江御成在レ之。今日普廣院殿樣御百年忌。仍爲二御燒香一也。　一參賀。雲興軒。鹿苑院。普廣院。　今日渡御之御禮也。仍御對面在レ之。

大館日記云依二普廣院將軍百年忌辰一於二本院一有二御供養一。相國攷記云。六月廿四日。普廣院殿樣一百年忌。府君義晴就二普廣院一營二辨佛事一。大乘妙典顛寫漸寫印寫若干部。圓通妙儀。水陸妙供。戒等各一會。特命二本寺堂頭梅叔和尚一拈香。更請二鹿苑汝雪和尚一陞座說法云々。

大館書札案文歟

就二普廣院殿御百年忌一。御經并三千疋參候。仍被レ成二御內書一候。尙得二其意一可レ申由候。恐々謹言。

六月廿四日　　左衞門佐晴光

謹上　朝倉入道殿

七月小

朔日。辛卯參賀如レ恒。

大館日記云。參賀衆如レ常。但右京兆(佐二所勞氣一)不レ被二參上一云々。

三日。癸巳赤松晴政言二上入國由一。

大館日記云。今日赤松晴政方より使者をさし上也。伊勢守并三淵攝部頭兩人江以二書狀一入國事言上之。書狀兩通。　一赤松方より使者。雖波豐前守と申號也云々。

六日。丙申大友修理大夫子八郎申二請御諱字一。○佐々木定賴獻二草花一。

大館日記云。大友修理大夫言上。次男八郎に晴御字申請度候由申之。各被二尋下一。尤無二別儀一。御事之旨申之。加二證名一申也。　一草花(壺有之。)七夕爲二御佳例一。佐々木霜臺より進上之。及レ晚霜臺より御佳例三籠瓜并十籠瓜進上之。

七日。丁酉夕參賀。

大館日記云。今朝右京兆已下出仕也云々。

九日。己亥武田献物。奉レ謝レ賜二御鷹一。

大館日記云。武田方へ先日御鷹を被レ下候。其御禮として段子五段。御盃。御太刀進上之。依可レ被レ成二御內書一にて候。

十一日。辛丑定賴献レ瓜。○被レ議二姬君若公生見玉事一。

大館日記云。六角霜臺より佳例三十籠瓜。同五十籠瓜。以二兩通書狀一(日付九日十日。)進上之。　一及二夜陰一。宮內卿殿御局より御使(烏羽。)在レ之。姬君樣は入江殿へ御けいやく。御おとゝ若公樣は一乘院殿へ御契約也。いまだこなたに御座候也。然に御生見玉御申あるべき事候て。先以不レ可レ及二其儀一事歟。先規趣被二尋下一之由。被二仰出一候旨承之。いまだ於レ無二御入室一者。御生見玉御事。まづ〳〵不レ及二御申一由存候旨申入之也。もし又御まかない已下。悉皆御入室の分にて御さ候はゞ。可レ隨二其御事一候旨。此段は御使まて申也。

十五日。乙巳勢州沙二汰踊興一。

大館日記云。明日右京兆おどりを可レ懸二御目一之由被レ申候。自身もおどられ候べきと被二思食一候。就レ其御酒を被レ下候事はいかゞたるべき哉。將又御見物は御みすをかけられ候て可レ然歟云々。　一今夜。勢州。朽民。佐各被二申合一。おどり在レ之云々。公方樣へ參。次右京兆へ參候。　一近衞殿。入江殿へも參也云々。

十六日。丙午右京兆踊御覽。

大館日記云。今夕。右京兆數十八相具。おどりに被二參上一云云。　諏方信濃守も。夜前其人數にて在レ之云々。次神左衞門尉は千秋萬歲を仕也云々。仍今夕。右京兆又如レ此張行也云云。　一諏信は布うりの躰也云々。

廿日。庚戌有二楊弓興一。

大館日記云。今日。御楊弓。一獻及二深更一云々。佐退出夜半過也云々。今日御人數。公方樣。近衞殿。大覺寺殿。一乘院殿。久我殿。藤中納言殿。右京大夫殿。其外御供衆少々已下。又進藤筑後も同御人數也云々。　一京兆御被官衆少々。伊勢被官衆於二庭上一うたい被レ申云々。板被レ數也云々。○廿一日條云。昨日御楊弓御矢。公方樣近衞殿御矢をば祐阿給之云々。其外御人數矢をば。歲阿松阿給之云々。癸者松平也。

廿五日。乙卯依二大友八郎賜一御字一献物。

大館日記云。以レ佐內々被二尋下一候大友次男八郎。御字を申請候て。御太刀并千疋爲二御禮一進上之。仍可レ被レ成二御內書一也。就レ其御太刀を可レ被レ下耶。可レ爲二如何一哉之由仰也云云。尤御太刀被レ下て可レ然令レ存候由申之也。

廿六日。丙辰御參內。

大館日記云。今日御參內云々。子細者。此間御なうの御事にて御座候につきての御儀也云々。一細川伊豆守。本鄉常陸介兩人。昨日出仕をとめられ候云々。今日就二御參內御儀一。昨日於二殿中一。御內談御儀御座候に。此兩人存外之樣躰候ける。御のゞきありて被二御覽一之如レ此云々。一御參內御供之事。左衞門佐。朽木民部少輔。伊勢守。春阿三騎也云々。走衆。御小者二人。一時半時計御逗留。鑑而遲御云々。

廿七日。丁巳夜中相國寺僧徒蜂起。○給二御書於大友八郎一。依二献物一也。

大館日記云。今夜半計に。相國寺はや鐘在レ之。大衆おこりて如レ此云々。○廿八日條云。夜前相國寺事。普廣院へおし寄。及二取相一けろ云々。

御內書案紙

爲二字禮一。太刀一腰。(國友。)馬一匹到來。目出候。猶晴光可レ申候也。

七月廿七日　御判

大友八郎どのへ

廿九日。己未河原院奉二卷數一。

大館日記云。御卷數三枝。河原院より三御所樣へ進上之。

八月小

朔日。庚申依二献物一。給二御書并虎皮於朝倉宗淳入道一。

御內書案紙

馬一匹(河原毛。)到來。自愛不レ斜。仍虎皮一枚進之候。猶晴光可レ申候也。

八月朔日　御判

朝倉彈正左衞門入道どのへ

十一日。庚午大風雨。

二條寺主家記云。八月十一日大雨風烈。城州八幡塔上重吹落。其外所々破損云々。春日木宮嶽五町計崩。

長享以來畿內兵亂記云。八月十一日。大風。

九月大

朔日。己丑參賀如レ例。

大館日記云。今朝參賀衆如二例式一云々。公家廣橋殿。藤中納言殿。飛鳥井殿。(御方。)大名右京太夫殿。并細川摂州。御供衆左衞門佐。勢州。兵庫頭。朽木民部少輔。其外中次已下。仍兩御所樣御對面在レ之云々。一御祓。祭主持參。御對面同前云々。



二日。庚寅緣阿奉二尼子方御使一。

大館日記云。緣阿爲二御使一。尼子民部少輔かたへ之御內書。(御文箱に被レ入之。)并御太刀(則國。)もたせ被レ下之。仍海老備。朽民。常興兩三人請取奉ろ也。

四日。壬辰佐々木左京大夫發二向勢州一。

大館日記云。六角左京大夫殿伊勢國へ出陣(長野取相也。)につきて。可レ被レ下二御使一哉。然者御使仁林たれ〳〵にて可レ有レ之哉由。各へ被二尋下一之云々。

七日。乙未畠山修理大夫献二佛事錢一。

大館日記云。能州匠作より。書狀(七月廿三日付也。)并遊佐豐後守狀。海老名備州よりもたせ給候。普廣院殿樣御佛事錢五千疋到來候。

九日。丁酉菊節拜賀。

大館日記云。今朝參賀衆公家少々。右京太夫殿以下如二例式一。仍御對面。兩御所樣如レ常云々。一今日申次當番左衞門佐云々。

十一日。己亥就二建武式目一。有下尋二大館常興一給事上。

大館日記云。建武式目一卷爲二上意一。昨夕以レ佐拜見させられ候事在之。仍今朝以レ佐返上之仕也。參存候旨申入之也。此儀御內書などに內談衆事を宿老衆と被レ遊候べき事。此式目に宿老衆と在之間。無二別儀一由內々被二尋下一間。無二別儀一旨言上仕也。

十八日。丙午山門僧徒進二卷數一。

大館日記云。御卷數三枝。山門松禪院。正教坊。金藏坊進上之。

廿三日。辛亥於二伊勢守亭一楊弓興行。○本鄉常陸介蒙二御勘氣一遁走。

大館日記云。今日於二勢州一楊弓之會候に。朝倉右衞門大夫入道同參候。就レ其本鄉常州も其人數にて遊ばん也。其樣躰共御耳に入て。本鄉常陸介事生涯させられ候べき段被二仰出一之。まい〳〵上意之趣。委細乍レ有二存知一。如レ此働一段曲事由仰也。次伊勢守事も朝倉右衞門太夫如レ此參合。種々儀曲事候間。御ぎゞつ也。但伊勢守事は。かれて不レ被二仰聞一候條。さも候べき歟。然共上意分は。其謂あるまじき事にて候處。如レ此段曲事之由仰也云々。次本鄉常州は今夜ちくゝん也。

廿四日。壬子伊勢國司献二八朔儀物一。

大館日記云。御太刀一腰。(持。)御馬一疋。爲二八朔祝儀一伊勢國司北畠殿より進上之。

廿八日。丙辰朝倉宗淳入道進二献內裡御修理料一。

大館日記云。爲二禁裏樣御修理料。百貫文朝倉入道進上之云云。一五十貫文。公方樣へ進上之云々。一四十五貫文安賀庄御公用去年未進分。熊谷方より進納之。

晦日。戊午河原院例献。

大館日記云。御卷數三枝。御三御所さまへ。河原院より進上之。

是月。毛利元就依レ屬二大内義隆一。尼子晴久出レ兵攻二藝州吉田城一。

安西軍策云。天文九年元就朝臣近年尼子民部大輔晴久ニ。樣樣慎ル事有ト。大内義隆。陶入道々麒謂及。樟流ト悅テ。大内ノ幕下被レ屬ナバ。以來水魚ノ思ヲ成申サント。厚レ禮和レ言テ申越ル。元就朝臣如何思給ヤ頓テ領掌シ。藝州ニ在シ尼子一味ノ侍共ノ城一時貴ニ五ケ所乘崩シ。晴久ト手切ノ色ヲ立給。因レ茲晴久吉田ヘ發向ノ旨僉議シ。祖父經久ヘモ聞セ申テコソト思。シカシカノ由被レ申ケレバ。經久吉田出張ノ儀無益タルベシ。先石備兩國ヲ隨。國人ヒノ人質取堅メ。深固ノ利ヲ專トソ。其後吉田ヘモ可レ爲二出陣一ト。理ヲ盡シテ申サレケレドモ。經久老耄シ給ヘバ。御異見至理ニ存候ト謹テ申サレナガラ。内ニハ臆シタル仰哉ト思。一面吉田ヘ出張ノ用意而已也。既近國ノ同志ノ侍共ヲ召集。出陣ノ吉日ヲ撰ケル折節。伯耆ノ大山ヨリ奇特ノ告共アリケレドモ留リ給ズ。頓テ大山ヘ使者ヲ立。今度ノ合戰勝利ヲ得シメ給ヘトテ。緋威ノ鎧。太刀一腰寶前ニ籠ラレ。彌吉田發向ノ儀ニ定リヌ。サアラバ南條行松等能透間ト本領ヘ打入事モヤ有ナントテ。吉田筑後守。舍弟左京亮ニ二千餘騎差添。伯耆ノ押ニ置レケリ。扨藝州ヘ推入ンズル道ハ。幸三吉式部少輔味方ニ屬シケレバ三吉口ヨリ入ベシ。事之樣躰ヲ伺見ヨトテ。尼子杞伊守。同下野守。同式部大輔ヲ大將トシテ三千餘騎。天文九年六月下旬ニ備後國三吉ヘ差向ラル。同國志和地八幡山ニハ三吉カ郎等中村石見守ヲ籠置ケレバ。雲州勢彼山ニ在陣ス。此所藝州ノ境ニテ河一ツ隔テタリ。河ノ向三十町過テ岩屋ト云城アリ。彼ハ尖戸安藝守カ領地ナリケレバ。舍弟深瀨彈正忠隆兼ヲ籠置ケリ。新宮黨彼城ヲ攻落ント。川耳マデ打出ケレドモ。深瀨モ去勇士ナレバ散々ニ防ケル。折節水カサマサリテ河ハフカシ。向ニハ敵手强防。爰ニテ勢ヲ損ン事無益トヤ思ケン。本ノ八幡山ニ引退。其ヨリ出雲ヘコソ打入ケル。同八月尼子民部大輔晴久朝臣藝州吉田ヘ發向ス。尼子下野守。同子息孫四郎。新宮黨ニ。尼子杞伊守國久。嫡子兵部大輔。二男式部大輔。三男左衛門大夫ヲ先トシテ。伯耆。播磨。美作。備前。備中。備後。隱岐ノ國侍。尼子ニ有レ志者共我不レ劣ト相隨。都合其勢四萬八千餘騎。八月下旬ニ富田ヲ打立。九月四日ニ安藝ノ吉田ニ着。青野鼻。三猪口ニ陣取。湯原彌次郎。湯信濃守ハ三千餘騎ニテ本陣ノ左ノ方。高尾豐前守。黑正神兵衛尉。吉川治部少輔興經ハ右ノ方ニ陣ヲ居ウル。元就朝臣譜代ノ家人ノ次男三男ノ。尼子旨テジウザル者ドモヲ内々尼子家ヘ奉公サセ置。何篇内通サセラレケルガ。此度モ彼者共樣々内通申ケルト也。又尼子モ二三年以前ヨリ。内別作助四郎ト云近習ノ者ヲ虛勵氣シテ出シ。毛利家ヘ入置ケリ。元就朝臣存知ノ者ナリケレバ頓テ心得給ヒ。底意ハ許シ給ズ。表向如何ニモ目懸給樣ニ召仕ハレケリ。今度尼子吉田ヘ出張ト云沙汰有ケル折節。元就家子ドモニ語リ給フハ。晴久此地出張アラバ衰甲山ニ陣ヲ取レヨカシ。若三猪ノ口ニ陣ヲ張レナバ。周防ヘノ通路ヲ遮ラレ。味方ノハタラキ何トモ成マジキ間。一先山口ノ方落行。大内ヲ頼ミ重テ防戰ニ及ヨリ外ノ事ハ有マジト。隱密ニ悔ム振ヲ。内別作ガ略阿ヤウニソシ給ケル。案ノ如ク助四郎或夜逐電ス。元就朝臣サテコソ此度ノ軍ハ勝利ヲ得タルソ。衰甲山ハ當城ヲ目ノ下ニ見下。クツキヤウノ所ナレバ。何ト防トモ可レ離レ協。三猪ノ口ハ平場ナレバ。如何ニモ輸キ事ナリ。一定尼子三猪ノ口ニ陣ヲ据ベシト喜シメ給フ所ニ。スコシモ不レ遮三猪ノ口ヘ出張セラレケリ。武田刑部少輔信實兼テ本領案堵願ニ付テ晴久ヘ與セラレタル事ナレバ。牛尾遠江守相共ニ佐藤ノ鍵山ヘウチ入ケルニ依テ。毛利家ヨリ兒玉周防守ヲ擬使トシテ。熊谷伊豆守信直。香川又左衛門尉光景已下七百餘騎サシ向ラレ。カノ地ニオイテモ日々足輕セリ合アリ。毛利家與力ノ藝陽ノ侍共モ勝負ヲ窺居テ。元就ニ與スル者モ無所ニ。尖戸安藝守我身ハ居城五龍ニ居ナガラ。嫡子雅樂頭隆家ニ軍卒百餘差添テ。吉田郡山ノ城ヘ差籠ラル。マタ小早川又太郎已ハ風氣煩ケレバ家子小早川中務ヲ五百餘騎ニテ差出サル。郡山ヘハ中々可レ入樣モナキニ依テ。先吉田ノ阪ニ控タリ。同六日尼子勢打散テ民屋放火シ。其後ニ二手ニ分テ押ヨセ。太郎丸ヲ燒ハラハントスル所ヲ。城中ヨリモ打出散々ニ戰。即時ニ敵ヲ追クヅシ足輕數十人討トリ。手每ニ堤提阪リケリ。湯原彌次郎ハ小早川ガ控タル坂ヘ押寄戰處ニ。防州ヨリ杉次郎左衛門尉馳上リ相加ル。又城中ヨリモ三百計援ケ來リ終日戰。日暮ニ及ビケルガ。如何シタリケン。湯原深田ニ馬ヲ乘落進退途ケル處ニ。山懸彌三郎馳寄遠矢ニ射落シ頸取テケリ。吉川興經此時ハ尼子方ニテ向ハレケルガ。家人栗屋與三右衛門。羽仁藤兵衛。佐武善左衛門等無二比類一働シテケリ。

毛利家譜云。天文九年庚子秋。尼子民部少輔晴久。(後修理大夫ト改ス)僅二雲伯因石備前備中備後美作安藝中國三萬勢。九月四日陣於藝州多治比風越山。攻二吉田郡山城。元就籠城拒

レ之。同廿三日晴久易二陣於青山三塚山。於二所々一合戰。〻〻

十月大

朔日。己未參賀如レ恒。

大館日記云。今朝參賀衆如二例式一。但右京兆目所勞ニヨリ不レ被レ參云々。公家藤中納言殿。武家細川播州已下云云。御對面在レ之云云。

四日。壬戌依二禁中御惱御平復一。被レ進二樽折一。

大館日記云。今度禁裏樣御不例御本復珍重候。就レ其御折十合。御樽十荷御進上候。傳奏へ爲二御使一可レ令二持參一。仍御申詞事。愚老相尋之候て。可レ申由仰也。可レ得二其意一旨承之。御不例早々被レ得二御驗一候。千秋萬歲珍重候。仍見たてなく候へ共。十合十荷御進上之候。御心得候て。可レ被二奏聞申一候はば。可レ被二悅思食一候由被レ仰て。可レ然存旨申之。只今傳奏禁裏に祗候之由候間。早々被レ參候。此十合十荷。昨日六角進上之云云

五日。癸亥亥子御祝。

大館日記云。伊勢肥州來入。今夜御亥子。申次當番にて候。仍御對面之次第。むかしのちうもん見せられ候。無二別儀一存候由申之也。一御殿重一つゝみ高信申出之給之也。一御臺樣御殿重は。佐かたより申出之。給之也。

八日。丙寅依レ献二内裡御修理料一。給二御書於朝倉宗淳入道一。

大館書札案文載

今度禁裡御修理料萬疋事。早速御進上。一段御感候。仍被レ成二御内書一候。猶得二其意一可レ申由。被二仰出一候。恐々。

十月八日　左衛門佐晴光

謹上　朝倉入道殿

就レ御同名右衛門大夫方無二御許容一儀。御太刀一腰。青銅五千疋御進上候段。則致二披露一候。仍被レ成二御内書一候。尙得二其意一可レ申由候。恐々。

十月八日　左衛門佐晴光

謹上　朝倉入道殿

十七日。乙亥又亥子御祝。

大館日記云。今夜御亥子。御殿重共同前。

廿日。戊寅河原大藏献物。

大館日記云。御太刀一腰。(持。)河原大藏大輔。(二番衆也。)當年御禮ニ進上之。

廿二日。庚辰右京兆献二馬於若君一。

大館日記云。爲二御使一摂州來臨。從二右京兆一若公樣御馬御すき候由承候間。ちいさき御馬。(青毛。)並御鞍をかけられて。內々以二播州一進上之。播州。海老備以被二申入一候。御鞍もたせ被レ下。拜見させられ候。御鞍同御鐙ちいさく被二調申一候。一段見事也。

廿六日。甲申關白稙家公若公可レ爲二御猶子一由議定。

大館日記云。以二宮內卿殿一被二仰出一候。當年六月。關白殿御息(若公也。)をまうけ被レ參候を。慈照寺殿御弟子に可レ被二成申一候。然者任二先例一。公方樣可レ爲二御猶子一由申候。いかゝあるべく候哉。御尋之云云。

廿八日。丙戌細川播磨守元常奉二一献一。

大館日記云。今日。細川播州一献被レ申之云云。

廿九日。丁亥佐々木左京太夫義賢自二伊勢一歸陣。

○又亥子御祝。

大館日記云。以二宮內局一被二仰出一候。六角左京兆伊勢より歸陣之由候間。霜蟹(鷹鳥可レ被レ遣候。次に目出候由被レ仰。御捶風情可レ被二下遣一哉。然者御折などは事薄候間。鷹鳥の外。大なるまんちうの御折に。御樽十荷可レ被レ遣歟。御談合也云云。一今夜。御亥子。御殿重共同前。

十一月小

八日。丙申依二祇園會事一。奉行人傳二仰於彼社執行一。

祇園社記載

祇園祭禮之時。鉾相勤之役者中。導寺地下人悉爲二神人一哉否事被二尋仰一候訖。可レ被二申上一之旨。被二仰出一候也。仍執達如レ件。

天文九年十一月八日　粗康判　貞廣判

祇園執行御房

十二月大

廿七日。甲申山名祐豐叙二從五位下一。任二右衛門督一。

○依二若公御祝一。朝倉宗淳献物。仍給二御内書一。

歷名土代云。從五位下。源祐豐。天文九十二廿七。同日右衛門督。

大館書札案文載

就二若公樣御祝言之儀一。御太刀一腰。御馬一疋。大御所樣江御進上候。則致二披露一候。仍被レ成二御内書一候。猶得二其意一可レ申由候。珍重候。恐々謹言。

十二月廿七日　左衛門佐晴光

謹上　朝倉入道殿

就二若公樣御祝言儀一。御太刀一腰。御馬一疋(鶴毛)御進上

候。則致二披露一候。仍被レ成二御内書一候。猶得二其意一可レ申由被二仰出一候。恐々謹言。

十二月廿七日　左衛門佐晴光

謹上　朝倉入道殿

廿九日。丙戌朝倉入道献物。仍賜二御書一。

大館書札案文哉

就二御同名右衛門大夫御成敗候儀一。重而御太刀一腰。（國長。）御馬一疋。（鹿毛。）青銅百疋御進上候。則致二披露一候。仍被レ成二御内書一候。猶得二其意一可レ申候由被二仰出一候。恐恐謹言。

十二月廿九日　左衛門佐晴光

謹上　朝倉入道殿

晦日。丁亥依二歳暮献物一。大館晴光傳二仰於朝倉入道一。

大館書札案文哉

貴札令二拝見一候。仍為二歳暮之御礼一。御綿三十把。御絹二十疋（上中。）御進上。珍重候。則致二披露一候處。得二其意一可レ令レ申由被二仰出一候。恐々謹言。

十二月晦日　左衛門佐晴光

謹上　朝倉入道殿

# 後鑑卷之三百十

義晴將軍記第廿一　起二天文十年正月一訖二十二月一

天文十年辛丑

正月大

元日。戊子三元賀儀。公武參謁。

大館日記云。公武出仕。兩御所様御對面云云。公家廣橋殿。藤中納言殿。烏丸殿。日野殿。町殿。藤兵衛佐殿。大名右京太夫殿。細川播磨守殿。御供衆上野殿。細川三郎四郎殿。伊勢守殿。朽木殿。伊勢因幡守殿。左衛門佐。此外申次已下。如二例年一云云。御盃如二例年一云々。今日申次當番。佐々木朽木民部少輔也云々。

二日。己丑拜賀衆同レ昨。

大館日記云。參賀衆同前云云。

三日。庚寅又有二賀謁一。

大館日記云。參賀衆同前云云。

四日。辛卯出仕如レ例。

大館日記云。出仕衆如二例年一云云。右京兆は參賀無レ之云々。



惣別は。三職以下諸大名も今日も出仕也。

七日。甲午人々參賀。○外郎献二御藥一。

大館日記云。參賀衆同前云云。御藥一折。外郎進上之。今日持參。御賀例也。

十日。丁酉御參内。

大館日記云。今日。（午刻下。）御參内也。（年始如二例年一。）御供衆左衛門佐。上野與三郎。伊勢守。春阿。　走衆飯尾能登守。大和彦次郎。沼田三郎左衛門尉。飯川彦九郎。石谷孫三郎。安威兵部少輔。　御小者六人。　一御物奉行絲阿。　一御出奉行諏訪信濃守。松田丹後守。はるかに兩人御前へ參上也。各乘馬也。　已下ゑぼし上下也。

十一日。戊戌河原院卷二數献上。○六角定頼献二初鮒一。

大館日記云。御卷數三枝。河原院より進上之。仍今朝申次（佐云々。）申て。令二披露一之也。　一初鮒十。六角霜臺より。為二年始御祝儀一進上之。

十二日。己亥六角献二物若公一。

大館日記云。雁一。荒卷五。若公様へ進上仕也。

十三日。庚子若公御方一献御宴。

大館日記云。今日若公御節。御一献在レ之云云。　一うたい申させろ。觀世太夫云云。

十五日。壬寅諸人參二賀上元一。

大館日記云。參賀衆同前云々。

十六日。癸卯祇園祠官上二卷數一。

大館日記云。祇園大政所御卷數二枝進上之。

十九日。丙午伊勢因幡守奉二八幡代使一。

大館日記云。今日。八幡へ御代官參。伊勢因幡守被レ參云々。

廿二日。己酉畠山右衛門督。木澤左京亮長政歳首献物。

大館日記云。御太刀二振。（持。）畠山右金吾より。為二年始御禮一。兩御所様へ進上之。　一御太刀二振。（持。）木澤左京亮。兩御所様へ同進上之。

是月。尼子毛利兩家。於二備後一合戦。

高代寺日記云。正月十三日。尼子晴久討死ス。出雲守護タリ。毛利記云。大内義隆元就へ加勢トシテ。陶中務少輔後卷ニ被二差出一。陶五千餘騎白大豆峠國司山ニ陣ヲ取郡山ヘ相談ス。天文十年正月十二日尼子陣へ切懸。尼子晴久伯父尼子下野守ト云者有レ之申ケルハ。雲州ヲ打立候時元就武略ノ達者

名譽ノ弓執ニテ候。晴久勝利ヲ可レ得段不定ニ覺候ト申ケレバ。晴久ヲ始其外各下野臆病異見ト承候。カホド見懸タル陣ニ。味方誰有テ一戰可レ仕覺悟モ見エ不レ申候。臆病下野下合一合戰仕ベク候。各見物有ベキ也ト三猪ノ鼻ヲ下ス。續テ三澤藏人下ス。其外尼子人數無レ殘下アイ合戰有レ之。右ノ下野守三澤藏人兩人鑓下ニテ討死。其外尼子人數以下ノ者討死其數ヲ不レ知。又陶方ニモ深野平左衛門尉。宮川尊左衛門尉討死ス。彼兩人名譽ノ者ト申候。其外以下ノ者數人討死ス。又元就内波多野源兵衛。内藤九郎左衛門。三戸與五郎。井上源左衛門鑓下ニテ討死ス。此衆中モ名譽ノ者ドモ也。其外以下ノ者數人討死ス。又元就内波部太郎左衛門。兒玉三郎左衛門。國司右京。桂右衛門太夫。栗屋縫殿助。同名掃部。同名右京。同名源次郎。井上又右衛門。同豐後。兒玉丞丞。同内藏允。佐藤彦三郎。三戸小三郎。此衆中名譽ノ鑓高名也。又元就ヨリ。右同日ニ宮ノ尾ニ陣取。南條井小鴨ガ陣ヘ。手當ノ衆志道上野介。口羽通吉。天野隆重。桂元澄。赤川左京。此衆中三合力無ニ比類一候。南條ガ内山縣ヲ攻。支藩充討執。其外以下ノ者大分討捕互ニ引退。左候テ終ニ尼子不ニ相叶一。同十七日ニ敗軍ス。

毛利家譜云。天文九年庚子十二月三日。大内左京太夫義隆援兵將陶五郎隆房。（後尾張守晴久。）率二一万兵一陣二於同國山田一。同十年辛丑正月十三日。元就率二精兵一。切二崩宮崎長尾敵陣一。擊二取宗徒者二百餘人一。同日陶隆房切二崩三塚山本陣一。擊二取尼子下野守久幸以下一。晴久敗軍。逐至二石州江河一。

## 二月大

朔日。戊午參賀如レ例。

大館日記云。今朝參賀衆如二例年一云々。

五日。壬戌議ニ定初卯連歌宴。

大館日記云。來十日。初卯御連歌事。以二宮内卿殿一伺申候處。いかにも可レ有二御座一候。如二去年一。御人數可二相觸申一之由被レ仰旨承レ之也。

六日。癸亥御發句被レ示ニ大館入道一。

大館日記云。爲二御使一。祐阿來入。來十日初卯御連歌。御發句三御さた。御草案を被レ下て。此内何にてもなをし可二申上一候由被二仰下一之。

かつさきて春ふかくみん家ざくら。

朝ぼらけ猶一しほのさくらかな。

春ごとにさけばさくらのときはかな。

おくの御發句一段殊勝に奉レ存候。樓のときは無二比類一令レ存候。此趣御私迄言上。可レ然樣可レ被二申入一事所レ仰候。



十日。丁卯御連歌會如ニ例年一。

大館日記云。早朝出仕申。今日御連歌也。先以下津屋方ヘ罷出候て御かゆ在レ之。細川播州以下御人數盡以如レ此候也。御かゆ已後則殿中ヘ各祗候。御座鋪御對面所にて御ざあり。執筆すゝみて御盃かけられ。御前ヘ向奉て在レ之。一方座頭に播州。一方座頭に常興祗候。其外執筆のうしろのとたりにひしと祗候也。五十いん過て御とき在レ之。不二合期一候間。御ときなば殿中へもたせられ候也。於二殿中一常興にはいぜんは同朋衆也。万阿。絲阿など也。一御人數。細川播州。攝州。紀民。細豆州。同刑部。二階堂。曾我。小坂。安威兵部少輔。飯川與次郎。諏訪信濃守。治部河内守。松田丹後守。春阿。正實。周桂。宗敬。常興。執筆飯川彦九郎也。（御連歌過て。御食籠にて御酒在レ之。御酌春阿也。）

十六日。癸酉殿中有レ宴。

大館日記云。於二殿中一。御てうし事在レ之云々。

十七日。甲戌御沙汰始。

大館日記云。今日御沙汰始。如二例年一云々。仍御内談衆も。御太刀（金。）進上之間。愚老も同進上之。

廿四日。辛巳三宅出羽守國村。毛氈鞍覆。白笠袋御免。

大館日記云。もうせん鞍おほい。井白笠袋。三宅出羽守御免云々。京より晴光ヘ御使（飯兵。）在レ之。依二披露一之如レ此云云。

廿五日。壬午右京兆亭連歌興行。

大館日記云。今日。右京兆御連歌。如二例年一云々。

## 三月小

## 四月大

十九日。甲戌渡ニ御近衛家一。

大館書狀案云。六月十九日（天文十。）御成。（申刻在レ之。）近衛殿。太閤御所勞尋御申之儀也。三獻參云々。

## 五月小

是月。大内義隆攻ニ武田信實銀山城一拔レ之。

大内義隆記云。義隆ノ一代に。安藝國武田ガ城金山。嚴島神主ガ城櫻尾。備後國ニハ山名宮内少輔理興城神島モ切取テ。備中備前ニ到ルマデ。ナビカヌ武士ハナカリケリ。彼銀山ト申セシハ持世ヨリ義興マデ。六七代ハ攻ケレドモ。終ニ落去モナカリシヲ。同十年四月五日ハ櫻尾ヲ切取テ。同五月上旬

ニ銀山ヲ攻落シ云々。

六月小

七月大

十二日。丙申仍ニ慈福寺敷地事。奉行人傳ニ仰於其他百姓。

古文書載

上様御祈願所慈福寺敷地事。松田彌六號ニ無主之地。雖ニ申給一之。法住院殿御代文龜三年并永正二年殿重帶ニ御下知。當住持雖申之條。如レ元被ニ返付一之訖。早退ニ彌六競望。地子錢如ニ先々一可レ沙ニ汰于彼代。更不レ可レ有ニ雜濫一由。所レ被ニ仰出一之狀如件。

天文十　七月十二日　盛秀　晴長

當地百姓中

十九日。癸卯此日。於ニ關東一。北條左京太夫氏綱卒。

子氏康襲レ家。

關東管領記云。天文十年夏頃ヨリ。北條氏綱遊例逐日不レ快。然處同七月十九日小田原城ニ卒去。則早雲寺ニ葬。法名號ニ春松院快翁活公居士。嗣子新九郎氏康相ニ家督。任ニ左京太夫。

東亂記云。天文十年ノ夏ノ頃氏綱不豫ノ事アリシガ。次第ニ重リ終ニ同七月十九日空ク成玉フ。一門ノ歎キ申計ナシ。湯本早雲寺ニテ一返ノ烟トナシ奉ル。別稱ハ春松院殿快翁活公居士ト名付申ス。七日々々ノ作善菅葉ニモ演カタシ。四十九日ニ當ル日。小田原中ノ僧綱ヲ集メテ一千部ノ頓寫アリ。結願ノ願文ヲバ氏康自筆草案アリ。每レ物曳レ愁添レ悲。秋色光陰不レ待レ人。無常迅速ナル理。貴モ行賤モ行。皆古ニ成ヌル哀サ。專師富樓那ノ辯舌ヲ借テ數刻演說シ玉ヘバ。一門舊臣ハ申ニ不レ及。簾中ノ女房遠聽聞ノ爲ニ參リ集リシ道俗男女皆袖ヲゾシボリケル。

北條系圖云。氏綱。新九郎長氏子。左京大夫。從五位下。天文十年七月十九日卒。五十五歲。法名快翁活公。號ニ春松院。

廿七日。辛亥此日。明船着ニ于豐後。

歷代鎭西要略云。今年七月廿七日。大明船着ニ于豐後神宮寺一也。所レ乘明人二百八十人。所ニ持來一綾羅錦繡猩々皮以下。珍物品多云云。

八月小

朔日。乙卯八朔佳節拜賀如レ恒。○六角定賴進ニ儀物一。

大館日記云。右京兆以下出仕。如ニ例年一云々。一六角霜臺より。爲ニ八朔祝儀一。如ニ去年一種々以ニ目錄一進上之。御太刀一腰。(金ぶくりん作り也。)御練貫五重。(代也。千五百疋。)樽紙十帖。(引合也。)御馬一疋。(鹿毛。)此分進上之也。

二日。丙辰細川元常就ニ諸牢人事一。有ニ言上旨一。

大館日記云。摂州(日行事也。)より各へ折紙在レ之。細川播州冒上候。到ニ泉州一。諸牢人亂入候企有レ之條。被レ對ニ根來寺一被レ成ニ御下知一者可ニ奈存一候。去年も如レ此雖ニ相企候一。於ニ手前一令ニ退散一候。只今又致ニ其企一候由候間。如レ此可ニ申請一趣候。細川刑部少輔。海老名備中守兩人へ之播州中狀也。今日之日付也。播州被ニ申請一候旨にまかせられ。急度可レ被レ成ニ御下知一事。可レ然存候由申之也。

五日。己未八朔御返下ニ給定賴。

大館日記云。六角霜臺江之御返。今朝日行事(摂州。)もたせられて御出候也。御太刀一腰。(國長。)御香合一。(堆朱。)御盃一枚。(珪璋。)已上三種也。

十日。甲子奉行等議ニ日向伊東官途事。

大館日記十四日條載手日記

日向伊藤望申一官之事。島津非ニ被官人一趣。貞孝證申。既義之御字被レ下之上者。大膳太夫御執奏。尤可レ然奉レ存候旨各申之。

天文十年八月十日　元造　高久　晴光　常興

十一日。乙丑大風。

高代寺日記云。八月十一日大風。宮城門々倒ル。

長享年後畿內兵亂記云。八月十日夜大風。內裏。公方。建仁。相國伽藍吹倒。其外民屋倒。

二條寺主家記云。八月十一日曉。自ニ寅初一大風。六時分迄吹了。春日御間大木倒。石燈以下ニ。其外御拜殿上。拜屋上。大宮殿御廊坤角木倒懸。并民屋僧房以下令ニ破損一。奈良中田舍人多死了。

十二日。丙寅常陸國岩城重隆申ニ請官途事。

大館日記云。佐方より內々被レ尋。ひたちの國岩木。官途左京大夫望之候。可レ有ニ如何一候哉云々。彈正少弼に任候。又もともと左衞門督にも任たる由。彼雜掌申之云云。仍左京大夫事左衞門督よりはかろき官にて候。然者無ニ別儀一存候よし令ニ返答一申之也。使富左也。

十三日。丁卯大友修理太夫義鑑献ニ長刀一。

大館日記云。以レ佐被二尋下一候。只今御長刀大友進上候。金具こがねにて。ゑを半分は白金。半分は青貝に仕候。

十四日。戊辰十市兵部少輔八朔献物。

大館日記云。御太刀一腰。(持。)自二十市兵部少輔方一。爲二八朔御禮一進上之。

十五日。己巳給二八朔返物於十市一。

大館日記云。御太刀。(持。)十市兵部少輔方へ。爲二御返一被レ下之。(やがて進上。御太刀也。)

十七日。辛未麻生兵部少輔献二内侍所修理料一。○大友義鑑次男献物。

大館日記云。麻生兵部太輔より。内侍所御修理料三万疋(金十兩。)進上之。大友修理太夫次男御字を申請候御禮に。唐錦二端。豹皮一枚進上仕候。可レ被レ成二御内書一哉。次父修理大夫長刀進上申候。これも可レ被レ成二御内書一歟由仰也云々。

廿一日。乙亥御臺所令レ沙二汰御一献一給。觀世大夫作レ伎賜レ服。

大館日記云。今日。上様より御申御一献につきて。佐女中。御折五合。御樽五荷進上候。本郷常陸介御使宣之段。從二御臺様一可レ有二執御申一候由。被二仰聞一候間。忝次第候よし各被レ申之也。一今日御いんこん。觀世に猿樂させられ候云云。一四の御門役右京兆被二申付一之。うちの御門伊勢守被二申付一之。おくやけいこ佐申付之云云。一上様より。からおり物御ふく。觀世に被レ下之云々。のうなかば。きやうげん之時。如レ此伊勢守役之云々。

廿二日。丙子畠山匠作八朔献物。○本郷常陸介御免出仕。

大館日記云。御太刀一腰。(持。)五千匹。爲二八朔御禮一。能州畠山匠作より進上之。一本郷常陸介殿夜陰來入。御免候て出仕候禮云云。奏者松平也。

廿三日。丁丑奥州岩城重隆叙二從五位下一。任二左京太夫一。

歷名土代云。從五位下。奥州岩城平重隆。天文十八廿三。同日左京大夫。

廿八日。壬午日向伊東義祐叙爵。○大館晴光傳二仰於朝倉氏一。

歷名土代云。從五位下。日向伊東藤原義祐。天文十八廿八。同日大膳太夫。

大館書札案文載

就二八朔御祝儀一。御太刀一腰。御練貫三重。御馬一疋御進上



候。則致二披露一候處。得二其意一可二申入一旨被二仰出一候。仍爲二御返一。御太刀一振(勝光。)御給之候。珍重候。恐々謹言。

八月廿八日　左衛門佐晴光

謹上　朝倉入道殿

就二氣比社御遷宮之儀一。御太刀一腰。青銅二千疋御進上之段。令二披露一候處。被レ成二御内書一。猶得二其意一可二申入一由。被二仰出一候。珍重候。恐々謹言。

八月廿八日　左衛門佐晴光

謹上　朝倉入道殿

就二氣比社御遷宮一。勅使御下向珍重候。仍公方様江。從二一社中一御卷數并御太刀一腰。青銅十匹進上候。令二披露一。得二其意一可レ申由。被二仰出一候。仍端(ヤハ)民部少輔御對面候。目出候。恐々謹言。

八月廿八日　左衛門佐晴光

謹上　彈正左衛門入道殿

就二氣比社遷宮一。勅使御下向珍重候。仍禁裡様從二一社中一御卷數。并御太刀一腰。青銅千疋進上候。則被レ遂二御執奏一候。猶得二其意一可レ申由被二仰下一候。恐々謹言。

八月廿八日　左衛門佐晴光

謹上　朝倉入道殿

就二氣比社御遷宮一。從二一社中一。御太刀一腰。御馬一疋。若公様二進上之令二披露一候處得二其意一可レ申由被二仰出一候。珍重候。恐々謹言。

八月廿八日　左衛門佐晴光

謹上　朝倉入道殿

就二氣比社御遷宮之儀一。御太刀一腰。青銅二千疋御進上之段。令二披露一候處。被レ成二御内書一。猶得二其意一可二申入一由。被二仰出一候。珍重候。恐々謹言。

八月廿八日　左衛門佐晴光

謹上　朝倉入道殿

就二氣比社御遷宮一。勅使御下向珍重候。仍公方様江。從二一社中一御卷數并御太刀一腰。青銅十匹進上候。令二披露一。得二其意一可レ申由。被二仰出一候。仍端民部少輔御對面候。目出候。恐々謹言。

八月廿八日　左衛門佐晴光

謹上　彈正左衛門入道殿

就二氣比社遷宮一。勅使御下向珍重候。仍禁裡様從二一社中一御卷數。并御太刀一腰。青銅千疋進上候。則被レ遂二御執奏一候。猶得二其意一可レ申由被二仰下一候。恐々謹言。

八月廿八日　左衛門佐晴光

謹上　朝倉入道殿

就二氣比社御遷宮一。從二一社中一。御太刀一腰。御馬一疋。若公様二進上之令二披露一候處得二其意一可レ申由被二仰出一候。珍重候。恐々謹言。

八月廿八日　左衛門佐晴光

謹上　朝倉入道殿

廿九日。癸未出羽大寶寺小四郎晴時叙二從五位下一。任二左京太夫一。

歷名土代云。從五位下。大寶寺小四郎藤晴時。天文十八廿九。同日左京大夫。

九月小

朔日。甲申八朔御返下給畠山修理大夫一。

大館日記云。能州畠山匠作へ御返。御太刀。(持。)御香合。(堆朱。)御盃。(同。)日行事(播州。)より渡給之。

六日。己丑三好孫四郎範長等攻二鹽川伯耆守多田一藏城一。

細川兩家記云。細川兩家の儀常桓御跡目晴國御生害の上は。世上靜謐候はんずるかと諸人申候へば。三好筑前守元長の息三好孫四郎範長と申。同名神五郎政長。波多野備前守相談。天文十年辛丑九月六日に打立て。多田一藏城に鹽川伯耆守たて籠。內儀常桓方と申事候哉。取卷數日を送り云々。

足利季世記云。多田一藏ノ城ヲ鹽川伯耆守ハ。內室高國ニッ

ヅキケル間。三好方セメラレント思ヒ。和州衆木澤左京亮。齋藤山城。杉原石見守ヲ賴ミケレバ。此人々島山ヲ殺シ主ナシニ成リテ。頓テ鹽川ニ一味シ三好ニ敵ヲナス。遊佐河内守三好ト一味シテ。本澤ト一味セザリシカバ。木澤等一味同心シテ。遊佐ヲ打ベキヨシ聞エケレバ。遊佐長敎故主ノ植長ノ根來寺ニカクレテ御座シケルヲ呼出シ。高屋ヘ返ルベキ由ヲ牒セラル。植長大ニ悅ビ舊功ノ人々ヲ促サル、。此時故三好筑前守元長ノ子息孫四郎範長。(後ニ修理大夫長慶改名。)同神五郎政長。(後ニ法名宗三ト號。)波多野備前守ヲ引卒シテ。多田一藏ノ城ニ鹽川伯耆守籠リケルヲ。天文十年九月六日ヨリ押寄取卷テ攻ラル、。

十五日。戊戌依レ献ニ新鴻。大館晴光傳ニ仰於朝倉入道。

大館書札案文戴

貫札令ニ拜見一候。仍ニ初鴈一ツ進上候一。則致ニ披露一候處。得ニ其意一可レ申由被ニ仰出一候。尙富森越後守可ニ申入一候。恐々謹言。

九月十五日　左衛門佐晴光

謹上　朝倉入道殿

十八日。辛丑依レ進ニ初鮭初鱈。晴光重傳ニ仰於朝倉宗淳入道。

大館書札案文戴

初鮭壹尺御進上候。則致ニ披露一候。得ニ其意一可レ申由被ニ仰出一候。尙信春可ニ申入一候。恐々謹言。

九月十八日　左衛門佐晴光

謹上　朝倉入道殿

初雪魚三御進上候段。則致ニ披露一候處。得ニ其意一可ニ申入一旨。被ニ仰下一候。尙信春可レ申候。可レ得ニ御意一候。恐々謹言。

九月十八日　左衛門佐晴光

謹上　朝倉入道殿

廿九日。壬子伊丹。三宅。木澤諸人援ニ多田一藏城。依レ之三好等解レ圍退散。

細川兩家記云。伊丹次郎親興。三宅出羽守國村は。鹽川方と內緣により相談。河內國住人木津左京亮は。當時人數持にて候間。たのみ申さるゝに同心あり。先勢は弟左馬允立られける。是は伊丹の聖なり。同廿九日に一藏へ後卷の爲。諸勢共伊丹城際へ集りたれば。一藏へ寄手衆叶はじと思ひ。その日三好孫四郎。同神五郎越水城へ打踏られ候なり。波多野は丹波へ歸陣也。池田は我城へたて籠。



惟房公記十月二日條云。傳聞。摂州多々鹽川城郭。近日三好。波多野以下賀向之處。木澤翻レ旗之條。三好以下陣所悉以敗北云云。右京大夫進退如何。天下又大亂之基歟。

十月大

朔日。癸丑出仕如レ例。○就ニ三好政長事一。木澤。三宅。伊丹等有ニ言上旨一。

大館日記云。今朝出仕衆如ニ例年一云云。但京兆は不レ被レ參。此間嵯峨に逗留云云。　一就ニ三好神五郎身上儀一。三宅出羽守。木澤左京亮。伊丹次郎三人以ニ書狀一申候。內輪事候間。異なる儀あるべからず候とい(共。御案內申上之旨申之。(昨日書狀也。))則以レ佐申入之。冒上越尤に候被ニ思食一也。乍レ去幾重對ニ京兆一。可レ令レ申事肝要被ニ思食一候由仰也。其通三人江之返狀相調之也。昨日(九月廿九日。此返札佐方へ遣なり。)日付なり。　一細川豆州來臨。佐同。左京兆此間嵯峨に逗留候。早々歸參候へ之由。被レ立ニ御使一候樣にと。女中より以ニ關白殿一內々被レ申候。可レ爲ニ如何一哉。就ニ三好神五郎事一。三宅出羽守。木澤左京亮。伊丹次郎書狀。昨日以ニ伊勢守一京兆へ見せ被レ遣候由仰也云々。

二日。甲寅尼子民部少輔給ニ御諱字一。

大館日記云。治部大輔來入。仍尼子民部少輔申候。御字(晴。)被レ遊て被レ下之云云。尤珍重候也。　一來九日。嵯峨へ之御成事。京兆方ざうせつ時分候間。可レ有ニ御延引一歟之由。(下畧。)

三日。乙卯本願寺献ニ龍蹄。仍給ニ御書一。○柳辻災。

大館日記云。早朝に以ニ晴光一被ニ尋下一。今度本願寺より。可レ然御馬進上候間。可レ被レ成ニ御內書一也。　一勢州より使(河合。)在レ之。先日三宅。木澤。伊丹書狀之儀右京兆へ申處。被ニ仰下一旨忝長存候。通心得候て申入候へと被レ申候。只今如レ此御返事被レ申候間。側令レ申候。一未刻時分。柳原火事。二丁計也云云。手あやまち也云云。

惟房公記云。柳厨子邊火事。五十間計燒失。

四日。丙辰右京大夫晴元自ニ嵯峨一歸京。

大館日記云。京兆嵯峨より被レ歸候云云。

五日。丁巳木澤左京亮長政贈ニ書於大館常興一。

大館日記云。木澤左京亮方より書狀在レ之。三好神五郎事。京兆へ申旨候。ことなる儀あるべからず候。自然爲ニ路次等一。勢州申付。御けいこに可ニ上置一趣申候也。

六日。戊午右京兆執ニ木澤使者一。々々遁去。

大館日記云。木左へ昨日返札則先以可レ遣候とて。相調候處。

京兆より木左使可レ有二成敗一分被二申付一候間。則にげくだりたる由候間。不レ及二返礼一也。如レ此儀も。若又雜説哉覽は不レ存事也。

七日。己巳 細川晴元又往二嵯峨一。

大館日記云。右京兆嵯峨へ被レ出云々。あたゝ參詣之由其沙汰あり。然に於二有馬郡一三好神五郎子打死旨注進候由。其沙汰有レ之。雜説候哉不レ知事也。

八日。庚申 下二給年始御書於尼子晴久一。

大館日記云。尼子民部少輔方（只今御内書井御太刀（國長。）被二下遣一之。年始の御儀也。委細常興可レ申由御文言也。

十一日。癸亥 亥子御祝。

大館日記十二日條云。夜前（御いのこ。）御げんてう。公方樣井上樣兩御所さま御分。二ツゝミ拜受之。

惟房公記十二日條云。細川家逆亂未二靜謐一。日々風聞雖レ勝レ計。○十八日條云。今夜新大納言（實世卿。）嫁娶云云。能州畠山九郎息女也。○廿日條云。畿内少々今日納所之事相論。云云。細川邊家僕等對二申曽一徘徊云々。

十三日。乙丑 木澤左京亮長政警固事言上。

大館日記云。木澤方より書狀（昨日日付也。）來。京都御警固儀。可二申付一由申之。此狀以レ佐備二上覽一候也。

廿三日。乙亥 春日御師捧二符籙一。

大館日記云。御卷數二合。（春日御師。）刑部少輔進上之。（取次松平也。）

廿八日。庚辰 頃日騷擾。

大館日記云。世上雜説。物さはがしき也。

廿九日。辛巳 細川晴元遁二退北岩藏一。

大館日記云。大梅長老御物語旨。公方樣自然何方へも御出候はゞ。御留守儀相國寺より可レ有二其沙汰一由。以二薩凉軒一被二仰出一候。いかゞ御返事被レ申候哉は不二存知一候由。御物語也。一右京兆先以北岩倉へ退出候云云。木澤は勢衆打出之云云。仍先以無事也。京都御けいこの分云云。

惟房公記云。木澤左京亮謀逆之事。自二昨夜一又興盛。自二魂天一天下騷動。今日細川右京大夫亟二東岩藏山本館一取退了。室町殿頻可レ奉二供奉一之由雖レ申之。無二御同心一。

晦日。壬午 相川左馬助御免出仕。○此日令レ立二退于慈照寺一給。

大館日記云。相川左馬助事。宮内卿殿へも佐方へも以二急札一申候て。此砌被二召出一候やうにと申て。則被レ出之。出仕也。

今日。慈照寺へ渡御の御供。如二恕菴一被レ參也。

惟房公記云。今日。大樹至二慈照寺一御沒落。

十一月大

朔日。癸未 將軍家及若公。御臺所自二慈照寺一渡二御坂本一。

大館日記云。昨日慈照寺（東山。）へ御成。一夜御逗留にて。今朝坂本へ渡御也。如レ此之段。六角少弼に御談合にて。依二霜臺意見一渡御。如レ此由承及候也。霜臺へ御使は朽木海老名兩人也云々。非レ慥候。一坂本にては先年の御座所に御座也。一若公樣并御臺樣も同渡御也。一久我殿。藤中納言殿兩人は若公樣之供奉申也。すこし引さがられて公方樣出御也。

二日。甲申 坂本御滯座。

大館日記云。坂本に御逗留也。一幸阿江州へ御使に罷下。今日上洛云云。仍如レ此坂本へ御成の事。少弼は更不二存知一事にて候由。被レ申けゝる由承候旨。富森八郎物語仕也。聊爾儀覽存候也。

四日。丙戌 北畠晴具卿献二八朔賀物一。○木澤左京攻二原田城一。聞二三宅出羽守屬二細川晴元一。解レ兵退散。

大館日記云。御太刀一腰。（持。）御馬一疋。爲二八朔御禮一國司（北畠殿。）より進上之。

細川兩家記云。木澤左京亮長政大和河内催候て。同十一月四日に打立て。池田城。原田城は三好方と一味なるにより。先原田城へ取懸責る所に。三宅出羽守京の晴元へ歸參之儀有により。木澤方聞原田城打置て。一夜陣取て河内へ歸られける。

五日。丁亥 三福寺献物。

大館日記云。三福寺來臨。こぶ十面被レ献之。

六日。戊子 近臣等往二岩藏一謁二右京兆一。

大館日記云。右京兆岩倉に御入候。明日可レ被二參候一由候。仍少々被二參申一旨。其御沙汰候間。佐方より以二使者一（富左。）音信申候也。

七日。己丑 九州探題澁川申二請御字及官途等事一。

大館日記云。從二一條殿一申次（伊勢次郎。）方へ以二御書一。今度坂本へ御座之事。可レ有レ參御申候へ共。御不辨之間。申次迄御申越候。一佐方より承候。九州たんだい澁川殿（只今の名乘貞基。）御禮被二申上一候。御太刀。御馬。青銅二千疋進上之。次御字（義。）事。官途（左兵衛督。）事被レ申之。次肥前國人

人。御敵同意御下知事。次諸事出世事。條々伊勢守方へ申狀也。(八月十五日付也。)何も大内左京兆より副狀(八月廿四日付也。)在レ之。仍各被二尋下一間。御字并官途事何も無二別儀一存候。御敵同意御下知事は。以二證狀一重而可レ有二言上一。

八日。庚寅　右京兆出仕。

大館日記云。右京兆今日出仕云云。(當所穴生に寄宿云云。)

十日。壬辰　右京兆歸二岩藏一。

大館日記云。右京兆今日岩倉へ御歸也云云。此間寄宿所也。

十二日。甲午　朝倉民部少輔方レ書候二御安否一。

大館日記云。朝倉民部少輔方レ書狀到來。(一昨日付也。)坂本へ被レ移二御座一段。無二御心元一奉レ存候由被レ申之也。

十五日。丁酉　相川左馬助下國。

大館日記云。相川左馬助殿一兩日出京。今日下向也。仍唐納豆(號二池田唐納豆一)十給之。

十八日。庚子　細川晴元請下給二山名仁木兩家一御書上。

大館日記云。右京兆より被レ申候て。木澤左京亮御敵にふせられ候て。御下知共被二申請一候。就レ其山名伊賀仁木方已下へは。御内書之事被二申請一候間。御案文愚老に可レ有二談合調進一由仰也云云。

對二右京太夫一。木澤左京亮及二稲鉾一由申候條。晴元可レ令二合力一事神妙候也。

京兆を可レ致二合力一之段。被二仰出一やうにと被レ申之云云。仍凡如レ此。京兆官上儀。若近衛殿執被レ申候哉。

十九日。辛丑　給二御書於右京兆一。

大館日記云。木澤方へ愚札可レ遣候由。以レ佐被二仰出一。案文を被レ下候間。令二調進一也。委細江州より可レ被レ申由文言也。京兆一切木澤事無二同心一之由也。

廿日。壬寅　佐々木定頼沙汰一献。

大館日記云。及晩て六角霜臺祗候。一獻申沙汰之云云。仍及二深更一退出云云。いまだ當津に逗留也云云。

廿三日。乙巳　又有二一献一。

大館日記云。六角霜臺今夕出仕。一献申沙汰之云云。

廿五日。丁未　畠山修理大夫奉レ書候二御氣色一。

大館日記云。能州畠山匠作より。以二飛脚一書狀在レ之。到二坂本一被レ移二御座一候由。靈奉レ存候旨被レ申候也。

廿六日。戊申　九州探題澁川義基叙爵任二左兵衛督一。

○伊賀國人放二火笠置城一。

歴名土代云。(九州探題澁川)從五位下。源義基。天文十一　廿六。同日左兵衛督。

多聞院日記云。今朝伊賀衆笠置城へ忍ビ入テ。少々坊舍放火。其外所々小屋ヲヤキ。三ノツキノ内一ツ居取ト云。或ハ二ト云。箇々也。木澤方ノ城大將右近ガチキニ。江州カウノモノ也云云。人數僅七八十在レ之云云。彌勒ノタクチキル所ニ。彼山ニハ一向水無レ之間經レ程可レ落歟。寶川小柳生竹トウラガヘルト云云。筒井衆少々ウシロツメニ立了云云。事之樣體諸國相調。六角殿右京兆へ可レ有二御合力一之由一定一定。攝州三宅先日降參申シ。伊丹ハ色々雖レ有二懇望一。無二御承引一。雖レ然三好方物云。無二一途之儀一。近日御屋形ニハ卒二於人數一。池田ガ城へ被レ寄二御馬一。木澤可レ有二御退治一云々。如何可二成行一哉。奈良中前方安否之說也。

廿八日。庚戌　笠置城合戰。

多聞院日記云。於二笠置一有二合戰一。木澤方城ヨリ。手ニ作テ打出ニ悉以打殺。伊賀皆以退散了云々。人數廿餘人打死云云。先以安堵事。

廿九日。辛亥　佐々木定頼歸國。

大館日記云。六角霜臺今朝歸國也云々。

十一月小

二日。甲寅　勅使來二候坂本一。

大館日記云。緣阿爲二御使一來入。從二禁裏一被一當時御二在坂本一之御儀。御懇之御使被レ進候間。御對面候て。御盃被レ下候て。御使山科家へ。御太刀を可レ被レ下候と被二思食一候。但それまても御座候まじき事候哉。被二尋下一候由仰也。遠路はるゝと御使に被レ參候御事候間。御太刀被レ下候て。可レ然奉レ存候由申上之。

七日。己未　朝倉入道献二歳暮賀物一。

大館日記云五百疋。(朝倉方より。爲二歳暮祝儀一被レ献之。例年儀也。

八日。庚申　細川晴元爲二木澤退治一出軍。於二芥川城一合戰。○猿澤池水變二赤色一。

多聞院日記十二月十五日條云。去八日細川晴元殿爲二木澤對治一。攝州芥川ノ城マデ被レ寄二御馬一。合戰アリト云々。依レ之城州牢人衆。井手マデ悉以出張云々。昨今種々口遊物ナカクシ物恐無二是非一。咲止々々。如何可二成下一哉。治承ノ炎上モ十二月廿一日也キト。古老之衆被レ申云々。　一近般猿澤池水轉反シテ赤水トナルト云。心ぼそき事共也。

十一日。癸亥　畠山修理太夫献二海鼠鵬鯖子一。

大館日記云。脊鵬。鯖子各五十桶。畠山匠作(能州より。)進上之。○十七日條云。初このわた五桶。(如二毎年一箱入被レ封之

也。)能州畠山匠作より進上之也。

十八日。庚午 土御門有春朝臣献二新暦一。

大館日記云。新暦。有春より被レ献之。

廿一日。癸酉 右京兆言上 上攝州屬二無爲一由。

大館日記云。從二右京兆一。以二長盧一近衛殿へ被レ申云。攝州邊儀。大がい成敗調候條。御入洛可レ然存旨。言上之由風聞在レ之。

廿二日。甲戌 自二道祖千代一。献二御番錢一。

大館日記云。道祖千代方より。御番錢三百疋進上之云々。

廿五日。丁丑 被レ遣二御書於青蓮院宮一。

大館日記云。以レ佐被二仰下一候。今度坂本御さにつきて。青蓮院殿より以レ佐被レ申候。御書佐かたへ給之。仍可レ被レ成二進御内書一歟否之由仰也。然者御案文可レ令二調進一候旨仰也云云。

就二當津逗留儀一。恐札本望候。猶晴光可レ申候。恐々謹言。

月日　御名　御判

青蓮院殿

廿六日。戊寅 自二能州畠山一。献レ物。候二御起居一。

大館日記云。能州畠匠作より。京都無二心元一存候由にて。使者飯川肇人助被二差上一之。隨而青銅二千疋進上之也。

廿七日。己卯 大内左京大夫義隆叙二從三位一。

公卿補任云。從三位多々良義隆。十二月廿七日叙。大貳如レ元。

廿九日。辛巳 河原院献物。○大館常興献二歳暮美物一。○三宅出羽守屬二細川晴元一。

大館日記云。河原院より進上御卷數三枝。春日社御師進上御卷數二合進上之。御申次細刑也。一歳暮御美物。常興進上。鱈一折。海老一折。政所へ納申之。

細川兩家記云。同十二月に三宅出羽守風聞のごとく。晴元へ歸參申さるゝ也。伊丹はいまだ御免なし。この時の由來により。三好孫四郎方。遊佐河内守と相談。木澤方と取合に及なり。



# 後鑑卷之三百十一

義晴將軍記第二十二上起二天文十一年正月一訖二同三月一

天文十一年壬寅　正月大

朔日。壬午 伊勢守貞孝出仕。

親俊日記云。貴殿御出仕。如二恒例一。

二日。癸未 勢州奉謁。○御乘馬始。

親俊日記云。貴殿御出仕也。　公方樣御乘馬始。御沓鞦進上之。

三日。甲申 貞孝出仕。

親俊日記云。貴殿御出仕。

四日。乙酉 御謠始。

親俊日記云。觀世太夫祗候仕云々。御謠始之。太夫四郎御服拜領之。

五日。丙戌 大内晴持叙二正五位下一。

歴名土代云。正五位下。多々良晴持。天文十一正五。

七日。戊子 貞孝下二向若州一。○晴元參二謁坂本一。○諸寺献二符籙一。

親俊日記云。貴殿若州へ御下向。　一細川殿坂本へ御出仕。一幡根寺御祈禱札。玉泉寺同札。御茶進上之。

十一日。壬辰 晴元上洛。

親俊日記云。細川殿御上洛云々。

十二日。癸巳 從二内裡一賜二御鏡等於坂本一

親俊日記云。坂本へ。御鏡。節分祝物被レ下之。

十三日。甲午 若君進二御一献一。

親俊日記云。若公樣。大御所へ。如二恒例一御一献云々。

十四日。乙未 幡根寺献札。

親俊日記云。幡根寺修正御札。貴殿披露之。

十九日。庚子 小笠原民部少輔奉二厄神代使一。

親俊日記云。厄神へ御代官參。小笠原民部少輔。二郎兵衛。如二恒例一まいらする。

廿二日。癸卯 依二御動座一。尼子民部少輔晴久献レ物。

親俊日記云。公方樣今度依レ被レ移二御座一候。尼子民部少輔御禮申之。

廿六日。丁未 南御所御事始。

親俊日記云。南所御事始。

二月大

朔日。壬子春日御師献二卷數一。○給二物於大館常興一。

○伊勢守披二露唐船歸朝由一。

大館日記云。兩御所樣江。御卷數二合。春日社御師進上之。一さたう一桶拜領之。常興好物由きこしめされし間。被レ下之旨。被二仰下一之也。一段身に餘忝次第也。

親俊日記云。唐船歸朝。大内殿御進物目錄別紙在レ之。貴殿御出仕御披露之。

二日。癸丑上下京人諍鬪。

親俊日記云。昨日。下京へ江州高洲衆鑓貫罷出候。及二喧嘩一。人數損之。又上京衆も喧嘩あり。北白川日中燒失。十二三間。

四日。乙卯御連歌始。

大館日記云。今日初卯也。御連哥於二殿中一在レ之。御人數細播州。奥州。同三郎次郎。細豆州。吉總州。本當□上小坂城□□春阿。正實。飯川與。(御氣色儀在レ之。)早朝に於二下津屋所一。御人數御かゆ在レ之。ひる御とき同在レ之。一公方樣御發句。御脇常與に申させらる。毎年如レ此也。

五日。丙辰勅賜二御樽一。

親俊日記云。從二禁裏樣一。公方樣へ御拜まいらせらる。今日各へ一可レ有二御拜領一之由。被二仰出一之。御祇候云々。

十日。辛酉依レ有二辻切一。頒二下五條制約一。

親俊日記云。先度辻切有レ之。然間五ケ條被二仰出一之。博奕。饗湯。遊船。夜行。遠射。

十二日。癸亥下二給唐物於朝倉入道一。

大館日記云。今度就二渡唐船歸朝一。錦一匹。羅一匹。紗一匹爲二上意一。朝倉彈正左衛門入道方へ被二下遣一之。

就二渡唐船歸朝一。到來之間。錦一疋。(赤紋四季花。)羅一疋。(紺。紋雲機金。胸背麒麟。)紗一疋。(萌黃。紋雲機金。胸背麒麟。)遣レ之候。猶晴光可レ申候也。

二月十一日　御判

朝倉彈正左衛門入道どのへ

一今度唐船に猿樂の裝束に成つべき物御座候間。させられて觀世に可レ被レ下と被二思食一候由。内々御尋也云々。尤可レ然奉レ存候由各冥上云々。

十三日。甲子細川播磨守元常下二向和泉一。

大館日記云。細播州分國(泉州。)くろい候間。成敗の爲御暇被レ申。下國之由風聞在レ之。慥不二存知一之也。

十五日。丙寅赤松晴政献物。



親俊日記獻

爲二御内書御禮一。御太刀一腰。(則房。)御腰物(信國。)進上之旨。令二披露一候。尤以目出候。

二月十四日

謹上　赤松左京大夫殿

爲二當年御禮一。御太刀御馬進上之。

十七日。戊辰御沙汰始。諸人進二太刀一。

大館日記云。御太刀(金。)晴光方へ令レ付進入之。可レ預二披露一候旨。以二書狀一申之。今日御沙汰始如二例年一。仍御太刀進上之也。若公樣へも同御禮同前也。御太刀(金。)進上之也。一越前朝倉方より。如二例年一。晴光方へ一人を上せ。公私御禮申上之云々。鱒三尺進上仕云々。晴光申次也。

廿五日。丙子江州諸士陣替。○給二御書于青蓮院一。

親俊日記云。三雲白川陣替云々。○廿六日條云。蒲生白川へ陣取。

伊勢家書獻

三合三荷拜受。尤以祝着候。猶晴光可二申入一候也。恐惶謹言。

二月廿五日　義晴

青蓮院殿

廿八日。己卯地震。

惟房公記三月三日條云。去月廿八日。午刻亥刻地震云々。在富卿進二勘文一云々。天下御愼云々。坂本殊更鳴動云々。

三月小

三日。甲申依二動座一。無二鬪鷄御儀一。

大館日記云。今日の御鳥合御座なく候。如レ此邊土に御逗留によりて也。

六日。丁亥夜中地震。○細川晴元捧レ狀謝レ賜二唐物一。

大館日記云。今夜。いぬの刻に。地しん兩度在レ之。

親俊日記云。細川殿。貴殿へ御狀御使(長塩。)まいる。先度唐船歸朝。進物御拜領御禮也。一細川殿御被官人眞壁左衛門御事。當方被官人生害仕候間御成敗。然處種々眞壁御詫言申條御赦免云。

九日。庚寅河州合戰。齋藤山城守等敗北。

親俊日記云。遊佐色を立。齋藤山城いち〻生害候。註進云々。高ツキ城落着云々。

多聞院日記云。於二河州高尾一。由坐方トシテ。齋藤山城守父子令二生害一了。爰許物忩口遊共也。備州來十三日ニ。從二紀伊

國。熊野衆。龍神。山本。玉木。抽皮。アキソ。一ノセヲ大將トソ人數一万騎。根來。高野。粉川三ヶ寺ノ衆各一味同心。宇治。サキ。四クサノ大將其勢一万餘騎。都合人數三万騎ニテ。河州ヘ可レ有二入國一旨一定〳〵ノ間。由坐方致二同心一。日比齋藤木澤ヲ贔負ソ。長政弟中務ガ所ヘムスメヲ遣ノ親子ニナリ。種々遣意ノ間。備州ヘノ色立ニ生涯云々。木澤ニモ以外恐怖也云々。

十日。辛卯給二御書於畠山尾張守稙長一。

大館日記云。畠山彌九郎殿御敵ニふせられ候分。御内書之事京兆より御申云々。然バ彌九郎殿はや被二取退一候付。木澤城ヘ入城之間。其分六角霜臺に御尋候處。無二分別一樣ニ。一途の御返事無二言上一候。可レ爲二如何一哉之由の御事也云々。如二上意一。此上者無二別儀一御事と存旨各言上也。　一佐方より内々申。尾州近日可レ爲二出張一候ついて。被レ成二御内書一候。晴光そへ狀を可二調進一候。被二仰出一候間。案文所望之由申候也。

近日出張之由。尤目出候。猶晴光可レ申候也。

三月十日　　御判

畠山尾張守どのへ

十二日。癸巳禮拜講被レ行。○大和筒井順昭依レ繼レ家献レ物。

親俊日記云。禮拜講及レ晚在レ之。當年者公樣被二指申一之處。無二御勤仕一之間。種々申事條々。

大館日記云。大和の國筒井代がはり御禮。御馬御太刀進上任候。六角霜堂より執次申候て。以二伊勢守一被二申入一候。

十三日。甲午領二給唐物於伊勢國司一。○建二金剛寺制札一

大館日記云。北畠殿(伊勢國司。)ヘ被レ遣候唐物。宮内卿御局より藤波かたヘ被二仰付一之御下也。

諸寺文書纂藏

禁制　　金剛寺

一軍勢甲乙人等亂入狼藉事。

一伐二採竹木一事。

一相二懸兵粮以下課役一事。(付就レ有二預物一競望事。)

右條々。堅被二停止一之旨。若有二違犯之輩一者。速可レ被レ處二殿科一之由。所レ被二仰下一也。仍下知如レ件。

天文拾壹年三月十三日　　備後守判

十六日。丁酉依二献物一。大館晴光傳二御謝詞於朝倉入道一

大館書札案文藏

爲二年始御禮一。御太刀一腰(持。)鷲眼參千疋御進上候。則致二披露一候處。被レ成二御内書一。御太刀御拜領候。珍重候。尙得二其意一可レ被レ申旨。被二仰出一候。恐々謹言。

三月十六日　　晴光

謹上　朝倉入道殿

鱧三尺御進上段。令二披露一候處。得二其意一可レ令レ申由。被二仰出一候。目出候。恐々謹言。

三月十六日　　左衞門佐晴光

謹上　朝倉入道殿

於二山門一。公方樣御祈禱御卷數御進上候。致二披露一候。仍被レ成二御内書一候。珍重候。尙得二其意一可二申入一候由候。可レ得二御意一候。恐々謹言。

三月十六日　　左衞門佐晴光

謹上　朝倉入道殿

十七日。戊戌公卿參二謁坂下一。○河州太平寺合戰。

木澤左京亮長政以下戰死。

親俊日記十八日條云。昨日(十七申刻。)河内國高屋城ヘ木澤取懸。數多打取之。注文在二別紙一。

東寺過去帳云。天文十一年三月十七日。於二河内國一合戰時。討死軍卒數輩。并木澤左京亮長政等。其外出雲。石見。備中國合戰之時。死亡人數等云々。

大日本傳畠代記云。三月十七日。河州落合ニ戰。木澤左京亮討死。双方弐百死。頸内裏ヘ參。四位少將ニ被レ任之。

二條寺主家記云。十七日。河州太平寺合戰。長政生害。同夜信貫山。尼山兩城沒落。

足利季世記云。河内ノ高屋ヘ畠山植長歸入由。遊佐河内守舊功人々ヘフレ送リ。齋藤山城ヲモタバカリテ呼寄。高屋城ノ大手不動坂ニシテ打取ケル。木澤モ杉原モ大ニイカリ。頓テ尼上嶽ノ城ニ籠リ。高屋ヲ攻ベキヨシ評定ス。一揆井堤川方ヘモフレ送リ不日ニ打立。若狹ノ武田方。粟屋ヲ初メテ加勢アリ。河内國落合上畠ト云所ヘ出張ス。遊佐河内守長教。三好筑長。同神五郎方モ加勢アリ。是モ落合上畠聽向ヒケル。天文十一年三月十一日河内衆ノ侍大將 譽田山城ガ子ニ三寶院ト云法師武者一陣ニスヽミ。譽田川ヲノリコシ合戰ヲ初メケル。木澤三千騎ハ城ニ留。七千餘人散々ニ攻戰。終木澤方打負。同名右近ヲ初メ。粟屋父子。其外ヨキ侍三百餘人打レ首トラレケル。長政ヲバ河内衆三木午之介ト云モノ首トリテ聽來ル。杉原ハ落行テ。後ニハ三好方ヘ牢人シテ三好ノ家來ト成トカヤ。同日信貫城尼上嶽モ落ニケリ。殘リケルハ飯盛計ナリ。(中略)尼上嶽ニ殘タル軍勢皆落行ケレバ。植長モ頓テ入城セラル。

惟房公記云。參二室町殿御陣所一。肩衣袴體也。予。宣治朝臣合ニ

同道ニ參之。今日申次朽木民部少輔也。此後右府被レ參之。假被レ引ニ廻屏風一。予等其次祗候。先右府御見參。申次資將朝臣也。次予參之。依ニ東衆一自ニ御座數一參之。朽木民部少輔申次也。次宣治申之。同東衆也。○十八日條云。昨日申刻。於ニ河内岡太平寺邊一ニ戰。木澤左京亮信貫城ニ上。飯盛等城郭之人數五千餘人相引打出之。高屋城人數。遊佐新次郎。此外泉人數井三好神五郎等八千餘人隔ニ落合川一及ニ二戰一。木澤左京亮首遊佐被官小島捕レ之。此外百餘人打死。木澤一陣須臾之間敗北。少々近邊爲ニ灰燼一云々。盛者必衰之理。更不レ堪レ驚者也。木澤首及レ晩自ニ細川右京大夫方一召ニ進室町殿一。明旦可レ持ニ下坂本一云々。

多聞院日記云。七打過ギニ從ニ諸方一中坊ヘ注進。今朝木澤左京亮自身河州ヘ打廻ニ出ル處ニ。チチアキテ有ニ合戰一。木澤人數々多打死云々。左京亮モ行末チ不レ知云々。奈良田舍諸方隱物。上ヘ下タ返了。誠ニ子チ逆ニ負ト申スハ此時節也。則夕部六之時分ヨリ信貫城悉以燒了。自ヤキニテ由佐方打上テヤク歟。兎角ハシラズ。猛火天ニ郷キ畢。上下万民ノサワギ不レ能ニ是非一。是併閉門ノ故歟。筒井モ千騎計今朝木澤方ヘ被レ立之說モアリ。不レ爾。一向人數ハ不レ立ト云人モアリ。綺々也。何トモアレ筒井郷奈良中ノサワギハ。神慮ヨリ事起ル歟ト萬人申アヒ了。如何可ニ成行一ナラン云々。○十八日條云。奈良中悉以遁散了。明日山城衆奈良中ヘ打入云々。爲ニ防禦一。秋篠超昇寺。賢來。郡山。辰巳。古市。各々奈良中ニ陣取了。安否之最中也。　一木澤ハ打死之由。諸說其沙汰アリ。一定也云々。　一信貫城ハ昨夜六打之前ヨリ。及ニ曉天一悉以燒了。尼上城モ四打之過ヨリ悉燒了。　一福智堂ノ城ハ。人數千五百計ニテ取廻シテ證。不レ得ニ相離一。今ニ貫レ之云々。　一柳本ノ城ハ。今曉自燒シテ被レ離了。　一信貫守十郷大略燒レ之了。

十九日。庚子細川晴元進ニ覽木澤長政。遊佐又五郎等首級。

親俊日記云。木澤左京亮坂本ヘまいらせらる。使山中橋左衛門。河州太平寺言所にての合戰也。御内書細川殿ヘなさるる。

於ニ河州太平寺一。合戰之時。長政遊佐又五郎首到來。尤神妙候。併靜謐基候。獨貞孝可レ申候也。

三月十九日

右京大夫どのへ

多聞院日記云。昨夜ヨリ大雨降了處に。福智堂城後夜ノ時分ニ落居了。人數十四五人打殺了云々。　一木澤左京亮チハ高屋小島ト云物。組テクビチ取了。依レ之由佐より。三十石ノ所領チ被レ與云々一定歟。　一同舍弟中務。尼上ノ大將ハ越智ヘ遁入處ニメ。岡ニテ又五郎打取。クビチ高屋ヘ遣由沙汰アリ。ウソ也。

廿日。辛亥賜ニ物於大館常興一。

大館日記云。川みゐ一折。公方樣より被レ下之。一段忝畏存候旨。言上仕也。御使松阿也。仍松阿方ヘ以ニ書狀一申入之。則被ニ申入一候也。

廿四日。乙巳細川右馬頭入洛。○有ニ御發句一。○右京亮以レ使奉レ謝ニ前日御書一。且言ニ上御入洛事一。

親俊日記云。細川右馬頭殿爲ニ御入洛一御使御參候。

大館日記云。早朝祐阿來入。御發句三句御さた候て。此内意見ゑ可レ申由被ニ仰下一之。

こけのむす老木も花のさくらかな。

春遠くさきつゞく花のさかりかな。

朝ぼらけ猶一しほのさかりかな。

何も千万殊勝。猶以さきつゞく花。一段殊勝に令レ存候旨。言上仕候也。　一此御發句は江州さんたいじ(御うぶすな也。)御法樂。毎年如レ此御事也云々。　一右京兆より木澤左京亮退治について内書被ニ成下一候。忝存候旨。勢州井佐以ニ兩人一書狀にて御禮被レ申之也。　一木澤落居候間御入洛可ニ目出一之由。以ニ御狀一。右京兆より佐勢州以ニ兩人一被レ申之也云々。

廿六日。丁未大館入道常興入洛。

大館日記云。今日先以御さきへ上洛仕也。如レ此之段佐方より公儀へも申入承レ之也。珍重。公方樣ハ明後日御入洛也。

廿七日。戊申蜷川道運以下入洛。

親俊日記云。明日御入洛付而。道運。丹波衆。高屋將監。同左京。同二郎左衛門。同八郎左衛門。小早川三郎。豐島源右衛門。同小法師名代山本神六さかもとへ罷下云々。

廿八日。己酉兩御所御入洛。○畠山尾張守入ニ高屋城一。

惟房公記云。柳營今日自ニ坂本一御入洛。御乘馬也。以ニ相國寺法住院一假爲ニ御所一。被レ宛ニ吉方一故云々。若公御假輿。同渡ニ御相國寺一也。御輦御方同前。暗明前闕白塗輿。資將朝臣騎馬也。供ニ奉之一。大光寺門跡(直綴之體也。)乘馬。久我中納言(肩衣。小袴。)同乘馬。諸大夫兩人騎馬召具之。右京大夫等今日自ニ坂本一上洛也。自ニ摂州一ニ昨日上洛。昨日(廿七日。)至ニ坂本一參ニ御迎一云々。天下之體先似ニ太平一者哉。

親俊日記云。御物奉行――三上越前。道大津越也。　一大御所樣御馬。御供細川右馬頭。上野與三郎殿。萬阿。藤中納言

殿。一若公樣御板輿。御供大館左衛門佐殿。佐々木小原殿。大館治部大輔殿。佐々木民部少輔殿。真孝。藤阿。相國寺法住院御座也。辻固者藥師寺柳本以下也。及レ晩大内へ貴殿爲二御使一。十荷十合御進上之。貴殿御劍御拜領之。

二條寺主家記云。廿八日尾張殿高屋へ御入城。

長享年後畿内兵亂記云。三月二十八日公方樣自二坂本一入洛。

廿九日。庚戌此日。於二鎭西一。千葉介喜胤卒。

歷代鎭西要畧云。春三月廿九日。肥前牧千葉別駕平喜胤卒。年四十四。(自二先祖千葉介常胤一至二喜胤一十五代也。)少貳氏胤賴相二續其家一。

閏三月大

五日。乙卯御一献。細川晴元進レ馬。○十市兵部少輔賀二御入洛一献物。

親俊日記云。殿中御一献在之。細川殿鵜毛御馬進上之。近年見事御馬候。

大館日記云。御太刀。(金。)御馬一疋(代也。)十市兵部少輔進上之。御入洛之御禮也。同名平七を爲二名代一。上候て申上之也。則佐に申て申入之。仍平七御對面也。

八日。戊午三宅出羽守國村謝二毛氈鞍覆一献物。

大館日記云。御太刀一腰(持。)三宅出羽守方より以二使者一献レ之。今度佐申候故にてもうせん御免。忝存候由の禮也。公方樣へは御馬御太刀。三千匹。以レ佐進上之云々。

十日。庚申富森松本二人奉二御使一。下二向越能兩國一。

大館日記云。富森左京亮越前國へ罷下。朝倉方へ御要脚御所望御餞也。佐方より差下也。一松本平兵衛尉能州畠山匠作へ罷下。これも御要脚御所望之御餞也。

十一日。辛酉頒二御書於佐々木定賴一。被レ賞二其勞一。

○殿中有レ宴。

大館日記云。爲二御使一。攝州來入。今度於二坂本一馳走候間。只今少弼(定賴。)へ爲二御使一。細川與州をさし下さるべき也。仍御内書御案文。可レ令二調進一候へ之由。被二仰下一候云々。

就二今度入洛一。至二坂本一。種々馳走。尤神妙。仍差二下尹隆一之間。可二演說一候也。

月日

佐々木彈正少弼どのへ

親俊日記云。於二殿中一。御盃まいる。御供衆へ觴申之。

十二日。壬戌渡二御相國寺一。○被レ令二撰錢事一。

親俊日記云。相國寺塔頭。々々へ御成。御代々御燒香。段子一端ヅヽ被レ遣之。一撰錢事。任二先例一。執事代へ被二仰出一之。

十三日。癸亥左京兆奉二一献一。

親俊日記云。細川殿御一献御申候。曉更まて御酒なり。

大館日記云。今日。右京兆御いんこん御申さた也云々。

十六日。丙寅殿中有レ宴。

親俊日記云。於二殿中一御一献在レ之。細川殿御祗候。御鷹御進上之。

十七日。丁卯御不例。

親俊日記云。公方樣御虫被レ發候。

十八日。戊辰畠山尾張守植長献二太刀一。

大館日記云。太刀一腰。尾州より給之。入國之御餞につきて也。

親俊日記云。畠山殿より御禮被レ申候。遊佐藏人器上也。

廿日。庚午殿中一献。

親俊日記云。於二殿中一御一献在レ之。細川殿御出頭也。

廿一日。辛未富森左京亮歸洛。

大館日記云。富森左京亮越前より上洛仕候也。朝倉三萬疋致二進上一候由。物語仕也。

廿三日。癸酉御成。○被レ議レ日野家息可レ爲二御猶子一之事。

親俊日記云。公方御成之儀。以二細川豆州一被二仰出一之。

大館日記云。日野殿御子息を爲二御猶子一。出家に成被レ申べき事。攝家清花などにて御入候はれ共。不レ苦御事候哉云々。更くるしからぬ御儀候。もと〳〵もさやうに御座候つると存候。和泉守護息などを。むかし妙善院殿御猶子として。出家になし御申候事も御座候し。くるしからぬ御儀と存候旨。御返事言上仕也。

廿六日。丙午御庭經營。

大館日記云。公方樣(本御所。)御普請に。私よりは中間三人。孫兵衛。又五郎。新五郎三人進上申候也。御臺より石をひかれて水をうゑさせられし也。御作事奉行は結城殿。杉原殿兩人。祐阿也云々。

# 後鑑卷之三百十二

義晴將軍記第二十二下　起二天文十一年四月一訖二十二月一

天文十一年壬寅

四月小

朔日。辛巳伊勢守出仕。○有レ宴。

親俊日記云。貴殿出仕也。御所へは御禮被レ出候。近衛殿。藤

中納言殿被レ持二御樽一。終日御酒在レ之。
大館日記云。四條來臨。餅已下被レ献之。　一高信來入。白さたう献之。

二日。壬午御普請始。
親俊日記云。公方樣御普請初之。御成被二御覽一之。
大館日記三日條云。公方樣に昨日より御普請。堀をほらせられ候よし承及候。人足は五十餘郷へ被二仰付一之云々。

四日。甲申奥州二本松某賀二歳首一献物。
大館日記云。御太刀。二本松殿より年始御禮進上之。

五日。乙酉自二四條一献二粽子一。
大館日記云。さゝちまき并からすみ。四條より被レ献之。

六日。丙戌營築如レ例。
親俊日記云。公方樣御堀。貴殿より今日十間被二仰付一之。白川郷。東梅津。深草人數也。
大館日記云。梅ぼし一づゝみ。こまおち(ろイ)献之。かまぼこ十。佐女中より被レ献之。

七日。丁亥眞如堂御成。○畠山右衛門督申二請木澤左馬助御免事一。
親俊日記云。眞如堂開帳。頓戒在レ之。（智恩院長老。）後柏原院御十七年。膏薬院。（于レ時座主。）眞如堂（被レ成候。御禮申之。御盞被レ下之。　一明日御還御觸日記調之候訖。
大館日記云。畠山右金吾より書狀在レ之。木澤左馬助（左京亮弟云々。）御免之事被レ申之。

八日。戊子從二相國寺一還御。
親俊日記云。從二相國寺法住院一御還御。（未刻。）先貞孝御殿（移申以後。可レ有二御成一之由候間。待被レ申之。御一献貴殿御申。御太刀進上之。御劍御拜領之。細川殿出仕之。若公樣へ小馬御進上之。
大館日記云。今日（未刻。）還御也云々。御輿。仍御供衆者御劍役左衛門佐。其外上野典三郎。細川三郎四郎。佐々木民部少輔。伊勢守。同朋春阿。何もかちにて參勤。ほどちかきにより てなり。　一今日如レ是還御事。六角霜臺依レ被レ申也云々。

十日。庚寅是日。於二鎌倉一。北條氏康建二立由井濱大鳥居一。
東亂記云。其後氏康ハ先考ノ遺願ナモ果シ。且ハ武運榮久ナモ祈ラン爲ニ。鶴岡八幡宮ノ大鳥居ヲ建立アリ。天文十一壬寅年卯月十日修造終リシカバ。先例ニマカセ一切經ヲ轉讀アリ。諸國ノ僧綱。清淨ノ僧侶。別而南都七大寺。高野山。横ノ尾。三井寺。鎌倉五山家。當ノ下ノ院家衆。極樂寺。稱名寺ノ律宗衆集リテ勤レ之。近代未聞ノ作善也。

十一日。辛卯若公御遷徙。諸人献二太刀一。
親俊日記云。若公樣御移徙。貴殿より御太刀御進上之。御一献申之。御太刀。御馬御拜領之。
大館日記云。公方樣御堀ほらせられ候につきて。白雲事(金イ)當時無足之寺にて候へ共。よく〳〵被申付一之候御ほうびに。一東一本ふぢい。可レ被レ遣事いかゞ御ざ候べきよし御尋旨。佐方より申レ之。もと〳〵さやうに御ほうびにても被レ遣候御事に不レ及レ承候き。只御詞にて御ほうびは勿論之御事候云々。

十二日。壬辰朝倉入道參洛。
大館日記云。越前の朝倉入道方より書狀（卯月五日日付也。）有之。今度御入洛御禮只今致二言上一候云々。仍私へ太刀一腰（持。）被レ献之也。

十三日。癸巳爲二御方違一。渡二御相國寺一。○依二營築一。給二下劍馬於諸人一。
親俊日記云。今度堀之儀付而。各へ爲二上意一。御太刀御馬被レ遣之。　一爲二御方違一。相國寺へ御成在レ之。
大館日記云。三上。こほ二郎方。（山名振州息也。）今日始出仕云云。

十四日。甲午赤松晴政賀二御入洛一。献物。
親俊日記云。赤松殿。今度御入洛御禮申之。御太刀。御馬（代也。）正實房へ渡之。

十六日。丙申伊勢守參洛。
親俊日記云。從二若州一。貴殿□御上洛。

十九日。己亥渡二御相國寺一。
親俊日記云。公方樣御斗方違相國寺。

廿日。庚子三好政長丹波開陣。
親俊日記云。丹波宇津城。波多野。三好甚五郎（入道半隱齋宗三。）貴寄之。一向被レ出候。今日開陣云々。

廿二日。壬寅此頃。建二撰錢高札一。
親俊日記云。松田丹後守殿へ撰錢事付て。上下京酒屋土倉中賀物之事申間。賦遣之書狀案文
撰錢事。今度被レ定二御法一。被レ打二高札一訖。於二向後一者。守二(單イ)彼札一。可レ致二商賣一候。但至二賀物一者。借主約諾次第可二相渡一之由。賭土倉酒屋中へ。可レ被レ成二御下知一候。□
卯月廿二日　松田丹後守殿

廿四日。甲辰給二馬於勢州一。○治部大輔献レ鮎。
親俊日記云。貴殿御馬拜領之。（河原毛。雲雀毛。）あゆ一折。

治部大輔方より献之。

廿八日。戊申 經營如レ例。○依二撰錢事一有下被レ令二赤松一旨上。○畠山左衛門督進レ物。謝コ申先回御禮。

大館日記云。今日。殿中御普請在レ之云々。

親俊日記云。就二撰錢之儀一。赤松殿へ御下知なさるゝ。一畠山殿へ先度爲二御禮一。御太刀。御馬(鹿毛。)被レ遣レ之。

廿九日。己酉 立賣災。

大館日記云。今朝曉立うりの邊火事在レ之。しばらくありて。やがて打つけ也。

五月大

朔日。庚戌 勢州出仕。

親俊日記云。貴殿御出仕。御服御拜領之。

二日。辛亥 越智又八郎賀二御入洛一献物。○令レ調下給二大内義隆一御書上。

大館日記云。佐方より被レ申候。今度就二御歸洛一。越智又八郎御太刀。御馬(栗毛かすけ。)爲二御禮一進上之。その返札云云。大内方より。去年世上之儀風聞。其趣承之。可レ致二其覺悟一由。佐方へ以二書狀一(舊冬日付也。)被レ申之。仍可レ被レ成二御内書一御案文。可レ致二調進一由。被二仰出一之。去年世上之儀依二風聞一注進趣。一段神妙。仍至二當年一無二別儀一候。委曲晴光可レ申候也。

月日　大内大宰大貳殿

如レ此御案文令レ調進上也。

五日。甲寅 左京兆出仕。○長床坊献レ札。

大館日記云。今朝。京兆以下出仕在レ之。御對面云々。一所禱之御札等。長床坊より被レ献之。

七日。丙辰 畠山二本松賀二御入洛一献物。

大館日記云。御太刀一腰。(持。)御馬。(黑毛無紋。)二疋。能州匠作より。御入洛御禮に進上之。御太刀一腰(持。)畠山二本松殿進上。御入洛御禮。一鹽引二尺。飯川筆人(能州より の使者也。)献レ之。一鳥子百枚。牛隱齋より被レ献之。

八日。丁巳 自二八幡一献二香水。御札一。

親俊日記云。八幡梅坊。當月御香水御札到來之。

大館日記云。御香水。善法寺殿。井橋坊兩所より參ろ。

十日。己未 營作如レ常。

親俊日記云。公方御普請。相國寺芝運衆。大智院衆僧喧嘩仕云々。彼寺過半打破之。

十二日。辛酉 賜二物於大館常興一入道一。

大館日記云。ほしうり一折爲二上意一拜領之。畏而ちやうだい仕候。

十三日。壬戌 伊勢守被レ命二營築一。

親俊日記云。貴殿。公方樣御普請被二仰付一之。

十九日。戊辰 朝倉入道献物。依二營作一也。

大館日記云。今度。就二御作事儀一。朝倉入道三万疋進上仕候。

廿一日。庚午 若公粟田口天王御參。○大内氏献物。

大館日記云。あはだぐちの天王社へ若公樣御參詣云々。仍晴光御供に參勤也云々。一段子二段。大内殿より被レ献之。

親俊日記云。感神院新宮へ若公樣御成。大左。杤本。貞孝御供也。

廿二日。辛未 議下定賜二道服於畠山入道一事上。

大館日記云。能登守護畠山匠作入道だうふく御免事。内々御尋云々。

廿四日。癸酉 朝倉宗淳奉二作事料足一。

大館日記云。就二今度作事方儀一。三萬疋朝倉入道進上之につきて。御こし物。御太刀可レ被下候。晴光副狀案文事承候間。則書遣之也。

就二今度殿中御普請之儀一。三萬疋進上之。尤神妙之段。被レ成二御内書一。御太刀并御腰物御拜領候。得二其意一。可レ令レ申由。被二仰下一候。御面目至珍重候。恐々謹言。

月日　左衛門佐晴光

謹上　朝倉彈正左衛門入道殿　うら書大館

廿六日。乙亥 春日御師献レ札。

大館日記云。御卷數二合。兩御所樣へ春日社御師刑部少輔進上之。

廿七日。丙子 武田女房下向。依レ之給二過書一。

親俊日記云。若州武田殿女房衆下向過書事。治部河州へ申遣之。

廿八日。丁丑 下京有二鬪爭事一。

大館日記云。於二下京一。けんくわ在レ之。伊勢守かた被官うたれ候云々。

六月小

四日。癸未 御惱。

親俊日記云。公方樣御虫發之。

八日。丁亥 六角使慈光院上洛。

親俊日記云。江州霜臺爲レ使慈光院上洛云々。唐船勘合事也。

十三日。壬辰芥川孫十郎毛氈鞍覆白笠袋御免。

親俊日記云。芥川孫十郎毛氈鞍覆白笠袋御免之。

十八日。丁酉伊丹次郎親興御免。

親俊日記云。攝州伊丹爲二上意一被二仰出一候。細川殿御免。貴殿爲二御使一被二召具一之。

細川兩家記云。同年六月に伊丹次郎親興御免にて京上也。

廿三日。壬寅細川晴元出仕。依二營造竣功一也。

親俊日記云。細川殿今度御普請今日終之。御出頭也。

廿九日。戊申依レ献レ鷹。給二御書於勢州長野某一。

親俊日記云。長野かたへ御内書被レ成之。今度御鷹進之儀付也。貴殿御調進之。

七月大

四日。壬子御臺所渡二御近衛家一。

親俊日記云。御臺樣近衛殿へ御成也。

八日。丙辰生見玉御祝。

親俊日記云。公方樣御生見玉。

九日。丁巳被レ下二御鷹於左京兆一。

親俊日記云。諸奉公衆知行分。細川殿被二仰付一之由候間。爲二御祝儀一。御鷹被レ遣之。御使貴殿。

十日。戊午細川晴元出仕。奉謝。

親俊日記云。細川殿昨日爲二御鷹御禮一御祗候。貴殿御披露之。御盡まいる。

十三日。辛酉宗讃岐守晴康謝レ賜二諱字一。献レ物。

親俊日記云。對馬國宗讃岐守晴康御禮申次第。公方樣へ御字御禮。太刀一腰。(持。)金一端。(地赤。)毛氈一枚。(赤。)虎皮一枚。鳥目三千疋。以上。一受領御禮。御太刀一腰。(持。)唐錦一端。(地紺。文唐草人形。)鞍覆一个。(赤。)以上。一貴殿御太刀一腰。(持。)豹皮一枚。鳥目千疋。以上。親俊かたへ。太刀一腰。油布二端。鳥目三百疋。又公方樣へ。宗彦七。(讃岐息也。)御太刀一腰。(持。)高麗硯二面。(文蒲萄。文梅竹。)鞍覆一个。(赤。文在二雲行給。)段子一端。(地赤。文紫唐草。)豹皮一枚。以上。貴殿。御太刀一腰。毛氈一枚。(赤。)親俊かたへ。彦七殿より。御太刀一腰。照布一端。以上。

天文十一年
三月廿七日　平田右衛門大夫　盛國判



十九日。丁卯近衛稙家公會二宴左京兆亭一。

親俊日記云。細川殿へ近衛殿入御。觀世能在レ之。

廿日。戊辰渡二御近衛殿一。○此日。信濃諏訪頼重於二甲州一自殺。

親俊日記云。近衛殿へ御成。明日慶雲院殿百年忌。當年御成始。御寺如何之間如レ此云々。

諏訪神長守矢氏書記云。頼重は討死をとげべきとて。兄弟三人うちものをとつて。切ていてんと仰候所に。甲州がたより彼城を御ひらき候はゞ。和談なされ歸陣あるべきよし被レ申候間。此方衆何も其いけんを被レ申候。頼重御納德候て甲州へかうさんいたし。武田殿へ人數を申うけ。同名信濃殿に腹を切せべき段々おぼしめし。無二相違一城をひらき。七月五日に甲州へ御越。御うんのすへに候つる哉。同廿日夜坂垣のゑげにて御腹めされ候。彼時ちせいの歌候。

自らかれはてにけり草のはの主あらばこそ又も結ばめ。

此のとくあそばし候てさけさかなをこはせられ候。酒は持たせ候。肴は無之候と申。さては武田の家に。腹きる樣躰は御存ぢなきや。さかなとはわきざしの事に候とて。わきざしをこひ。十もんじにきりせられ。三刀めに右のちのもとへつきたて。てんもく程くりおとし。さてうしろへ御ころび候。此以前に我等ほどのさむらひに。はらをきらせられ候事は。武田の家にはじめたるべきとおぼせ候。然間諸人のおしみ申およばず候。

甲陽軍鑑云。天文十三年甲辰二月に。晴信公信州諏訪へ打出給ふ。坂垣信形武略をもつて。晴信公御舍弟典厩信繁をひきいれまいらせ。諏訪頼茂と晴信公と無事の扱ありて。頼茂甲府へ出仕の約諾候て。三月晴信公御歸陣なされ。さて又諏訪頼茂とはやうあり。甲信はつたきりになり。甲府へ出仕致され。三度目に御中間頭の狭原彌右衛門に仰付られ。頼茂を御成敗也。其後頼茂跡にて。諏訪衆盡敵になりて。れんぼを大將にいたし。又甲信取あひをおこす。

廿一日。己巳依二慶雲院將軍百年忌一。渡二御彼院一。

親俊日記云。御成御供上野殿。朽木。貴殿。万阿。

相國攷記云。七月廿一日。慶雲院殿一百年忌。府君就二于慶雲院一設二大法會一。特命二廣德惟高和尚一拈香。讃二揚佛事一。(見二于于蕃日記一。)

廿二日。庚午宗彦七謝レ賜二諱字一。献物。

親俊日記云。對馬國宗彦七御字申二御禮一。御太刀一腰。(持。)金一端。(青。)鞍覆一个。(赤。)鳥目二千疋。貴殿へ御太

刀一腰。鞍覆。(青。)五百疋。御字義。御自筆被レ遊之。則今日出レ之。左京大夫殿御局御披露。肥前殿御取次之。御局へ沈進献之。私へ太刀三百疋到來之。

廿七日。乙亥放鷹御成。

親俊日記云。御成。(鷹野へ。)

廿九日。丁丑有馬修理大夫。大村丹後守献物。

親俊日記云。肥前國有馬修理大夫晴純御禮。御太刀。(國久。)御馬。鎧金一端。(赤。)唐錦一端。(紋唐草。)段子三段。(青黄摶皮。)毛毬五枚。貫殿江御太刀。段子一段(青。)同有馬太郎晴直御太刀。御馬。黄金廿兩。貫殿。御太刀。島目千疋。使僧正寧寺慥長老。島織物一端。(赤)大村丹後守。島織物一端。波多一岐守貫殿。段子一端。(茶。)景光。□□面革。百疋。

八月小

朔日。己卯御憑如レ例。

大館日記云。八朔祝儀共在レ之。如二例年一也。一御太刀。(持。)御練貫五重。(代。)御馬一疋。(栗毛。)六角霜臺就二八朔一進上之如二例年一。(別紙注之。)

御湯殿上日記云。御たのむいつものとくまいる。武家兩御所より御馬御たちまいる。○二日條云。御たのむの御返し。きのふ御とく日にて。けふ武家へもまいる。

二日。庚辰大内義隆献物。

大館日記云。大内太宰大貳殿より。段子二端被レ献之。祝着之由返札今日遣レ之。日付は七月二日に調之也。

六日。甲申放鷹御成。

親俊日記云。公方樣鷹山へ御成。貫殿於二北白川一御一献。御剣御拜領之。島三執之。

七日。乙酉賜二八朔御返於六角定頼一。

大館日記云。御太刀。(持。)御香合(堆紅。)御盃(堆朱。)六角霜臺へ爲二御返一被レ遣之也。

十二日。庚寅御放鷹。

親俊日記云。鷹山へ御成。猪出之。本郷治部少輔被官人三人留レ之。被レ疵云々。

大館日記云。今日御鷹山へ御成之由。拜レ及レ承之也。御供衆は一騎も不レ被二召具一云々。

十四日。壬辰觀音堂御發句。

親俊日記云。二度。觀音堂万句。公方樣發句。

千世の秋かぞへつゝ見ん一葉かな。

廿三日。辛丑細川典厩献レ雁。



親俊日記云。公方樣。初雁典厩御進上之。貫殿昨日鳥御進上。

廿六日。甲辰佐々木大藏大輔献レ鮒。

大館日記云。鮒二十。佐々木大藏大輔殿より献之。

廿七日。乙巳被レ引二諸寺花石一。

親俊日記云。公方樣御普請。相國寺より石引レ之。一眞木島。三好甚五郎亂入。中御料人來云々。○廿八日條云。公方御庭石引之。

大館日記云。南禪寺に梅花木在レ之。今日殿中へひかせられ候由。拜レ及レ承也。御番衆井伊勢守衆被二仰付一之。

廿九日。丁未有馬使僧献レ物。○諏訪信濃守奉レ使。下二向南都一。

親俊日記云。有馬殿使僧公方樣へ御禮被レ申之。進二上引合段子一。

八多聞院日記云。公方より御使トメ。諏訪信濃守當坊へ供。目代タル間被レ來了。人數廿人計。一船如レ此在レ之。

九月小

朔日。戊申細川晴元出仕。

大館日記云。今日。右京兆御出仕以後。左衛門佐所へ御出候也。一献在レ之。

四日。辛亥淵田新介下二向肥前有馬一。

親俊日記云。淵田新介肥前國有馬へ罷下。今度御禮御返事。息太郎被御字被レ下之。御内書。父子へ御剣二振。

五日。壬子朝倉入道八朔献物。○御鷹野。

大館日記云。太刀一腰。朝倉彈正左衛門入道方より。八朔禮として被レ献之。一御卷數三枝。山門三院(御加持衆也。)より。當月別而奉二祈念一候由にて進上之也。御鷹野へ渡御之間。遲御候て可レ令二披露一之也。

六日。癸丑赤松晴政注二進雲州事一。

親俊日記云。雲州之儀。赤松殿より御注進在レ之。

九日。丙辰勢州出仕。○依二鞍馬祭一被レ出二御具足一。

親俊日記云。貫殿御出仕也。一鞍馬御神事見物之。參詣之。具足祭。公方樣御具足被レ出之。

十二日。己未安威兵部少輔被レ執。

親俊日記云。安威兵部少輔論田上原若藏二人被二召籠一之。此儀付而御厩孫左衛門尉御闕所云々。

十三日。庚申日向伊東献レ鷹。

親俊日記云。卜雲福山。日向國上洛云々。伊東鷹上之。上意へ一連。貫殿へ大小二連。

十月大

三日。己卯晴元滯ニ留嵯峨。

親俊日記云。細川殿丹州下向。今日者嵯峨御逗留也。

四日。庚辰細川晴元男兒誕生。

親俊日記云。細川殿御子今日誕生云々。

六日。壬午御一献。

親俊日記云。殿中御一献在レ之。

十日。丙戌依ニ加州御料所事一。奉行人傳ニ仰於其地名主等。

親俊日記十八日條載

伊勢守貞孝申御料所加州長瀧事。國錯亂以來。于レ今令ニ無沙汰一云々。以外次第也。所詮年貢諸公事物。如ニ先々一(由イ)殿密可レ沙ニ汰一被貞孝代一之旨所レ被ニ仰出一之狀如レ件。

十月十日　晴秀

貞孝

當所名主沙汰人中

十五日。辛卯以ニ日向國大光自國禪寺一。爲ニ十刹列一。

御内書引付載

日向國大光自國禪寺事。可レ令レ爲ニ十刹列一之狀如レ件。

天文十一年十月十五日　御判

當寺住持

廿一日。丁酉奥州白川某申ニ請官途事一。

親俊日記云。奥州白川御字官途望申之。右京亮。奥州儀いづれも貫殿迄執被レ申候。今度も大夫殿御書にて被レ仰之。御字義被レ下之。官途左京大夫に任之。御自筆被レ遊之。

廿五日。辛丑依ニ治部光任知行事一。奉行人傳ニ仰旨一。

古文書載

治部兵衛大夫光任知行方城州西岡馬[illegible]跡事。於ニ代官職一者。帶ニ度々補任一。數十年無ニ其煩一處。治部河内守一旦存知之砌。角田源七號ニ約諾一。及ニ毎度違亂一。剩今度相ニ語三好神五郎被官人海沼一。押妨之條。猥雜之至。前代未聞次第也。所詮早被レ退ニ角田歎望一上者。至ニ彼代官職一者。彌不レ可レ有ニ相違一之由。所レ被ニ仰下一也。仍執達如レ件。

天文拾一年拾月廿五日　對馬守判

散位判

廿六日。壬寅白川某任ニ左京大夫一。賜ニ諱字一稱ニ晴廣一。○三好元長有下入ニ大和一風聞上。

親俊日記云。白川御字并官途事。細川殿爲ニ御申沙汰一。貫殿御披露之。御字晴廣。官途左京大夫。　細川殿爲ニ御使一。筒井藏人。宮松與一被ニ差下一之。入視別當。自國使也。白川殿。班目十郎。舟田式部少輔。和知右馬助兩三人かたへ。親俊書狀遣レ之。

多聞院日記云。於ニ南圓堂一。一時一雲夜在レ之。出了。近般三好孫三郎當國可ニ亂入一歟之由種々造意。則山城マデ松永彈正以下人數近日罷越了。仍調伏被レ修之了。

十一月大

十三日。己未伊勢守貞孝奉ニ御使一。參ニ詣春日一。

親俊日記云。貫殿奈良御社參。御腹卷。(紺糸。)御太刀。御馬御奉納。(積藏院。)被ニ請取一之。若宮へ御神馬。御太刀。柑子。八幡へ御太刀。

多聞院日記十五日條云。去十三日。公方樣御代官トソ伊勢守御社參。人數上下三四百人アリト云々。御宿新禪院ノ通也。輕害ハラマキ也云々。社頭ハ御神物。ハラマキ一兩。甲一例。神馬一疋。太刀一振。以上。太宮殿へ。若宮殿へ神馬ノ代三貫文。太刀一ツヽ。御師社中西殿被レ給了。百貫計ノ足ト云云。一自ニ寺門一。樽(五筒。)折一合。マンヂウノ蓋一。使節ハ寶光院。龍雲院ナリ以御禮被レ申了云々。

十四日。庚申筒井順昭献ニ御太刀一。

親俊日記云。筒井御太刀。御馬まいらする。

廿日。丙寅若公爲ニ近衛家御養子一。今日南都一乘院入室。

親俊日記云。御兒御所樣一乘院殿御入室。杤木御供云々。二條寺主家記云。此年。公方若公近衛殿御養子被レ召。南都一乘院殿へ御下向。

廿三日。己巳細川晴元上洛。

親俊日記云。細川殿丹州より御上洛云々。

廿四日。庚午大上樣渡ニ御御里一。

親俊日記云。大上樣御里へ御出云々。龍藏法印一周忌。

十二月小

朔日。丁丑伊勢守右京兆出仕。

親俊日記云。貫殿御出頭也。細川殿御出頭也。

十四日。庚寅礒田社人献ニ歲暮卷數一。

親俊日記云。礒田八幡宮歲暮御卷數上進。三十疋到來。公方樣歲暮爲ニ御祈禱一。御卷數上進之旨。令ニ披露一訖。同一合送給候。嘉悅之至候。彌御懇念之儀肝要候。恐々。

十二月十四日　親俊

礒田八幡宮年預　御返報

一幡根寺歳暮御卷數上進之。

廿日。丙申此日。於下野國。大關彌五郎增次戰死。

大關家譜云。美作守宗增子。彌五郎增次。天文十一壬寅年十二月二十日。於在所野州黒羽。石井澤。與太田原備前守資清及矛盾。討死仕候。于レ時二十五歳。法名久遠院超山道宗。同所石井澤葬。

廿一日。丁酉伊勢國司献美物。

親俊日記云。伊勢國司御美物如恒例。進納之。

廿三日。己亥若公御參内。

親俊日記云。若公樣(御七歳。)御參内。御供衆細川右馬頭殿。一色殿。細川三郎四郎殿。上野與三郎殿。貴殿。綠阿。御出奉行諏訪信濃守。松田八郎左衛門尉。御走衆飯川能登守。彦部。沼田。飯川彦九郎。宇治大路。水主。

廿六日。壬寅此日於三河國岡崎城。東照宮御降誕。

武德大成記云。天文十一年壬寅十二月二十六日東照大神君參河岡崎ノ城ニ御誕生マシマス。御幼名ハ竹千代。御母ハ刈屋ノ城主水野右衛門大夫忠政ノ女ナリ。

是歳。美濃守護土岐左京大夫頼藝爲其臣齋藤利三被レ追。

土岐歴代記云。土岐左京大夫頼藝ハ。山城守佞臣ナルヿヲ知リ玉ハズ。朝夕ヒザモトヲハナサズ寵愛シ玉フ。然所ニ山城守年來國家ヲ奪フベキ志深キ故ニ。諸將ヲナグケ國中ノ諸士ニ心ヲムツビ隨ヘ置。太守ヲ疏ム樣ニ仕ナシケレバ。革手ノ城中ニテハ君臣ノ間モ心々ニ成テ。太守ヲウトムノアリサマ成ケレバ。秀龍時分ハヨシト潛ニ大軍ヲ集。天文十一壬寅年稻葉山ノ城ヲ打立革手城ニ寄タリケリ。革手ニハ思ヒヨラヌヿナレバ。周章フタメキ散々ニ成テ落行ケル。太守頼藝防ギ戰フニモ不レ及落玉フ。寄手城ニ火ヲ掛ケル。悲哉先祖頼康ヨリ八代ノ在城一炬ノ灰燼トナル(中略)カクテ太守頼藝尾州古渡ノ城ニ入テ織田備後守ヲ賴ミ玉フ。信秀則熱田ノ一向寺ニ入居。夫ヨリ濃州ノ國侍不破河内守。稻葉伊豫守。安藤伊賀守。氏家常陸介等ト示シ。多勢ヲ以テ濃州ニ打入ントシ玉フヿヲ聞。山城守不レ叶トヤ思ケン和談ヲ乞。揖斐五郎。同弟與三左衛門ハ清水島兩下屋敷ニソ退キケル。其後信秀ノ計ニテ。頼藝ト秀龍ノ間ヲ和睦サセ玉フニヨリ暫ク國穩ナリ。

# 後鑑卷之三百十三

義晴將軍記第廿三起天文十二年正月迄十二月

天文十二年癸卯

正月大

元日。丙午日蝕。

御湯殿上日記云。日しよくにて。せちゑは二日の日なり。

二月小

十四日。己丑此頃。觀世太夫於南都興行薪能。

依レ之下給小袖。○織田信秀修營内裏四面築地。

多聞院日記云。今度觀世太夫薪能ニ罷下ニ付テ。去年燒失ニ逢テ。裝束悉以失墜ノ處。公方樣御申ニヨリテ。内裏ヨリ金ラン鈍子以下ノ裝束十七具調テ被レ下之。雖有事也。舊冬唐土之王ヨリ。金紗金襴以下ノ物百廿端被レ送了。以レ之沙汰之云々。依公方ハ小袖十重。坐衆二重ツヽ被レ下云々。美麗無レ極者也。或人内裏ノ四面ノ築地ノ蓋ヲ。尾張ノヲダノ彈正ト云物修理シテ。進上可レ申之由申者也。料足四千貫許上了云々。於事實者。不思議之大營歟。

三月大

四月大

五月小

是月。大内義隆與尼子晴久合戰。義隆敗北。

其子新介晴持戰死。

中國治亂記云。大内義隆卿今度雲州ニテ尼子ヲ討留ズ。隆房敗北ヲ聞テ無念ナリトテ。明ル天文十一年ノ春大内雲州ヘ發向シテ。舍人ト云處ニ陣取リ。富田ノ城ヲ攻ラルベキ評定セラル。田子兵庫頭申ハ。富田ノ城ノ向ニ經瓦木ト云山ニ御陣ナメサレ可レ然ト申ス。毛利元就ハ先ヅ五三里此方ニ被ニ陣取一調略ヲメクラシ。次第々々ニ國人ヲ味方ニナシ給ハバ可レ然存ズ。晴久若シトイヘドモ大勢ナレバ。老功ノ弓取數多分國ニ候間。中々力攻ニハ難落。程遠ニ陣ヲトリテ可レ然ト申ケレドモ。唯兵庫申ヤウ大内ヨキト心得。經瓦木山ニ陣ヲ取リ數日攻戰ケレドモ城モ不レ落。國人ドモ在々ヨリ通路ヲ塞ギケレバ。兵粮運送ナクシテ忽大内方難儀ニ及ビ。同年五月七日ニ義隆卿敗軍也。此時八杉ノ浦ヨリ舟ニ乘リ。阿陀加江ト云處ニテ。義隆ノ養子ノ家督大内新介晴時ハ舟ヲ

乘沉メテ逝去ス。此人ノ死體ヲ浦ノ者トリ上ケ。首ヲトリテ富田ヘ送リケレバ。亡靈アレテ浦ノ者ヲ罰シ殺シ。光物飛メグリ往來ノ人ヲ惱シケル間。近邊ノ野人村老。新介殿ヲ一社ノ神ニ崇メ。新宮ト號シテ錦之浦ト中所ニアリ。常盤堅盤ノ祭祀今ニ不レ絶ト聞エシ。不思議ノ事ドモ也。此人ハ土佐ノ一條殿房基卿ノ次男ナリシヲ。義隆ノ初メ子ナカリシカバ養子トシテ。去ル天文八年六月十九日十六才ニテ左兵衛佐正五位ノ下ニ任シ。初メハ植持ナリシヲ。公方ノ一字ヲ玉ハリ晴持ト改名シ。今年十九歲。花貌紅顏美麗ニテ比類ナキ兒ナリケルヲ。惜ヌ人コソナカリケル。

歷名土代云。正五位下。多々良晴持。天文十二五七卒。

六月大

廿三日。丙申 今川治部大輔義元献ニ内裡御修理料一。

古簡雜纂載

就ニ禁裡樣御修理之儀一。日野町殿御下向。御内書頂戴。忝畏入奉レ存候。則島目五萬疋調進仕候。可レ然之樣。御取成所レ仰候。强々謹言

六月廿三日　治部大輔義元

謹上　大館左衞門佐殿

七月小

廿五日。戊辰 泉州堺合戰。細川氏綱敗走。

多聞院日記云。伊勢長野方合戰シ。スクリ人數數多打取了。一今度就ニ細井戸之儀一。從ニ方歲一以ニ三好神五郎ヲ一。屋形之儀被レ嘱。禮物ニ大海ヲ被レ出。雖レ然及□切ニ御合。御下知之儀雖レ被レ申。無ニ是非一ニ失ニ面目一了。依落書ニ云。

淺猿や世はさかさまに成にけり細井の中へ出づる大海。

細川兩家記云。同十二年(癸卯)七月廿五日細川次郎殿氏綱と申候は。常桓御跡目と申て諸浪人集。泉州玉井取立申。境南庄へ打入。芦原口にて松浦肥前守此津に有と出合一戰に及に。氏綱衆玉井衆負て甘人計討死して引退也。松浦方今度の働京田舍そのかくれなき也。

足利季世記云。松浦急ナル軍ニ勝ケル無双ノ働ナリトテ。晴元三好三郎ヲ御使ニテ。御感ノ御褒美也。

八月大

十四日。丙戌 法住院將軍卅三回忌於ニ本院一供養。

相國攷記云。八月十四日。法住院殿三十三年忌。陞坐拈香轉經等。

十六日。戊子 三好範長出ニ陣堺浦一。

細川兩家記云。晴元より三好孫三郎範長へ被ニ仰出一。同八月十六日堺へ出陣候て。手遣候得バ。玉井ハ泉州へ引退也。

是月。西洋人始傳ニ鐵炮一。

高代寺日記云。八月鉄炮始テ九州ノ種子島ヘワタル。

豐府紀聞云。同十二年癸卯八月七日。大明船五艘來ニ豐後一。船主率ニ種島鐵炮于義鑑一。

南浦文集鉄炮記云。隅州之南有ニ一島一。去レ州一十八里。名曰ニ種子一。我祖世々居レ焉。古來相傳。島名ニ種子一者。此島雖レ小。其居民庶而富。譬如下播種之下ニ一種子一而生々無ニ窮一。是故名焉。先レ是天文癸卯秋八月二十五丁酉。我西村小浦有ニ一大船一。不レ知下自ニ何國一來上。船客百餘人。其形不レ類。其語不レ通。見者以爲ニ奇怪一矣。其中有下大明儒生一人名ニ五峯一者上。今不レ詳ニ其姓字一。時西村主宰有ニ織部丞者一。頗解ニ文字一。偶遇ニ五峯一以レ杖書ニ於沙上一云。船中之客不レ知ニ何國人一也。何其形之異哉。五峯即書云。此是四南蠻種之賈胡也。粗雖レ知ニ君臣之義一。未レ知ニ禮貌之在一。其中一是故其飲也杯飲而不レ杯。其食也手食而不レ箸。徒知ニ嗜欲之慑一。其情一。不レ知ニ文字之通一。其理也。所レ謂賈胡到ニ一處一。輒止。此其種也。以ニ此所レ有易ニ其所レ無而已。非ニ可レ怪者一矣。於レ是織部丞又書云。此去十又三里。有ニ二津一。津名ニ赤尾木一。我所ニ由賴一之宗子世々所レ居之地也。津口有ニ數千戶一。戶富家昌。而南商北賈往還如レ織。今雖レ繫ニ船於此一。不レ若ニ要津之深而且不レ速之愈一也。告ニ之於我祖父惠時與ニ老父時堯一。時堯即使ニ扁舟十艘一之。至ニ於二十七日己亥一。入ニ船於赤尾木津一。丁ニ斯之時一。津有ニ忍首坐者一。日州龍源之徒也。欲レ聞ニ法花一乘之妙一。寓ニ止津口一。終改レ禪爲ニ法華之徒一。號曰ニ住乘院一。殆通ニ經營一。揮レ筆敏捷。偶遇ニ五峯一。以ニ文字一通ニ言語一。五峯又以爲。知己之在ニ異邦一也。所レ謂同聲相應。同氣相求者也。賈胡之長有ニ二人一。一曰ニ牟良叔舍一。一曰ニ喜利志多佗孟太一。手携ニ一物一。長ニ二三尺。其爲レ體也。中通外直。而以レ重爲レ質。其中雖ニ常通一。其底要ニ密塞一。其傍有ニ一穴一。通レ火之路也。形象無ニ物之可ニ比倫一也。其爲レ用也。入ニ藥於其中一。添以ニ小團鉛一。先置ニ一小白於岸畔一。親手ニ一物一。修ニ其身一。眇ニ其目一。而自ニ其一穴一放レ火。則莫レ不ニ立中一矣。其發也如ニ掣電之光一。其鳴也如ニ驚雷之轟一。聞者莫レ不レ掩ニ其耳一矣。置ニ一小白一者。如下射者之接ニ鵠於侯中一之比上也。此物一發而銀山可レ摧。鐵壁可レ穿。姦宄之爲ニ仇於人之國一者。觸レ之則立喪ニ其魄一。況於ニ麋鹿之禍於苗稼一者乎。其用ニ於世一者不レ可ニ勝數一矣。時堯見レ之。以爲ニ希世之珍一矣。始不レ知ニ其何名一。亦不レ詳ニ其爲ニ何用一。既而人名爲ニ鐵炮一者。不レ知。明人之所レ名乎。抑不レ知。我一島者之所レ名乎。一日時堯重譯謂ニ二人蠻種一曰。我非レ曰レ能レ之願學レ焉。蠻種亦重譯答曰。君若欲レ學レ之。我亦磬ニ其蘊奥一以告レ焉。時堯曰。蘊奥可レ得聞乎。蠻種曰。在ニ正心與ニ眇目一而已。時堯曰。正心者。先聖之所ニ以教

人。而我之所以學之之也。大凡天下之理。不從事於斯。動靜云爲。自不能無差矣。公之所謂正心。豈復有異乎。眇目者。其明不足以燭遠。如之何而眇其目乎。鑞種答曰。夫物要守約。守約者以博見爲未至矣。眇目者。非見之不明。欲守其約以致中之遠也。君其察之。時堯喜曰。老子之所謂見小曰明。其斯之謂歟。是歲重九之節日在辛亥。消取瓦屋。試入妙藥與小團鉛於其中。置二小白於百步之外。放之火。則其殆庶幾乎。時人始而驚中。而恐而畏之。終翕然又曰。願學。時堯不言其價之高而難及。而求鑞種之二鐵炮。以爲家珍矣。其妙藥之搗節和合之法。令小臣篠川小四郎學之。時堯朝磨夕淬。勒而不已。鑞之殆庶者。於是百發百中。無一失者矣。於此之時。紀州根來寺有杉坊某公者。不遠千里。欲求我鉄炮。時堯愍人之求之之深也。其心解之曰。昔者徐君好季札劒。徐君雖口弗敢言。季札心已知之。終解寶劒。吾島雖褊小。何敢愛一物。且復我不求自得。喜而不藏。十襲秘之。而況求而不得。豈復快於心歟。我之所好。亦人之所好也。我豈獨私於己而韜匿而藏諸。卽遣津田監物丞持以贈其一於杉坊矣。且使之知妙藥之法與放火之道也。時堯把玩之餘。使鐵匠數人熟視其形象。月餘年錬。新欲製之。其形製頗雖似之。不知其底之所以然也。其翌年鑞種買胡復來於我島熊野一浦。浦名熊野者。亦小廬山小天竺之比也。買胡之中幸有二人鐵匠。時堯以爲天之所授。卽使金兵衛尉清定者學其底之所以然。漸經時月。知其卷而藏之。於是歲餘而新製數十之鐵砲。然後制造其鑿之刑制與其飾之如鑞鑰者。時堯之意。不在其鑿與其飾。在乎可也用之於行軍之時也。於是乎家臣之在遐邇者視而效之。百發百中者。亦不知其幾多矣。其後和泉界有橘屋又三郎者。商客之徒也。寓止我島者一二年。而學鐵砲者殆熟矣。歸旋之後人皆不名。而呼曰鐵砲又。然後畿內之近邦。皆傳而習之。非翅畿內關西之得而學之而已。關東亦然。我嘗聞之於故老曰。天文壬寅癸卯之交。新買之三大船將南遊大明國。於是畿內以西富家子弟。進爲商客者。殆乎千人。機師篙師之操舟如神者數百人。艤船於我小島。望而待天之時。解纜齊挽望洋向。若不幸而狂風掀海。怒濤掩蓋。坤軸亦欲折。呼時耶命耶。一買船檣傾機摧化爲有去。二買船漸而達大明國寧波府。三買船不得乘而回我小島。翌年再解其纜。遂南遊之志。飽載海貨蠻珍。將歸我朝。大洋之中黑風忽起。不知西東。船遂飄蕩。達於東海道伊豆州。州人掠取其貨。商客亦失其所。船中有我僕臣松下五郎三郎者。手携鐵砲。既發而莫不中其鵠矣。州人見而奇之。竭伺做效。有多學之者矣。自茲以降。關東八州壓率土之濱莫不傳



而習之。今夫此物行乎我朝也。蓋六十有餘年矣。鶴髮之翁猶有明記之者矣。是知瓢之變種二鐵砲。我時堯求之學之。一發而聲動於扶桑六十州。且復使鐵匠知製之之道。而徧於万畿七道。然則鐵砲之權與於我種子島也明矣。昔者採二種子之生々無窮之義。名我島者。今以爲符北識矣。古曰。先德有善。不能昭昭於世者。後世之過也。因而書之。

## 九月小

此月。於關東。上杉憲政攻武州川越城。

東亂記云。天文十二年ノ頃。關東管領上杉兵部大輔憲政ト駿河國司今川刑部大輔氏親ト相談シテ。駿河勢小田原衆ノコモリタル長久保ノ城ヲ責ルト聞ヘケレバ。北條氏康長久保ヘ加勢ヲ遣スベキ由擬セラレケル所ニ。兩上杉長久保ノ後詰ノ躁ニ。北條殿ノ城武州河越ヲ攻落スベシトテ。兩上杉東八ケ國ノ勢ヲ拂ヒテ。八萬餘騎ニテ同年九月廿六日發向シ。憲政ハ砂窪ニ旗ヲ立テ。先勢ヲ以テ河越ノ城ヲ稻麻竹葦ノ如クニ取卷タリ。河越ノ城ニハ北條左衞門大夫コモリケル。元來無雙ノ猛將ニテ。關東伊豆駿河甲州境ニ每度魁殿ノ働。以ル寡勝レ多。万死ヲ出テ一生ニ逢フ。其上氏康ヘ無二ノ寵臣タリシカバ。元ハ福島左衞門ナリシヲ。近年北條ヲ賜リ北條左衞門大尖ト云。後ニハ上總介トゾ申ケル。彼人ノ指物ニハ。黃色ノ練ヲ四ノ四方ニシテ。八幡ト大文字ニ書ケレバ。時ノ人地黃八幡ノ左衞門大夫トゾ名付ケル。サレバカヽル大剛ノ兵ナレバ。伊豆相摸ノ兵僅ニ三千餘騎。上杉勢八万ヲ引請。夜昼暮ニ戰ヒケル。其勢ヒ暴漲來テ平地忽江河ト成リ。大山崩テ海ヲ埋ムトモ。敢テ頭ヲ動カスベカラズト見ヘケル。其比古河ノ公方晴氏殿ヘ憲政使者ヲ發ラセ。今度管領ヘ御合力有テ河越ヘ御動座ナナサレ。氏康ヲ御退治アラバ。公方ヲ鎌倉ヘスヘ奉リ仰ギ率ルベキ由言上ス。此公方故氏綱ノ御聟ニテ。氏康トモシタシク御座シカバ。氏康モ代官ヲ以テ被申上ケルハ。如何ニ管領被レ申ト云ヒ。只今何ノ科ニヨリテ當家ヲ御退治アルベキヤ。公方樣ハタトヘ如何ナル事有トモ御動座有ベカラズ。今度ノ合戰味方勝トモ敵ノ勝テモ。皆公方ノ御家人ニテ御下知ヲ請ル事ナレバ。一方ヘノ御加勢謂レナシト細々ト被言上ケレバ。公方聞召テ。上杉ヘノ御合力ハナカルベシト定ケル間。氏康モ悅ビヤガテ後詰ノ勢ヲ出シ。上杉ヲ追落セト評定アル所ニ。難波田彈正小野三河守古河殿ヘ參言上シケルハ。今度氏康言上ニ付テ。管領ヘ御合力ナキ由承候。實ニテ候ハヾ甚以テ不可レ然存ズル也。抑公方管領ハ尊氏將軍ヨリ以來。代々君臣水魚ノ忠德ニテ終ニ絕ザリシニ。長巷院殿ノ御代ニ君臣不快アリシ後。加樣ニ關東ノ亂トナリ。誰カ安全ニ渡ラセ玉フ。今度タ

マダマ君臣合体ニテ管領關東ヲ治メ。君ヲ御代ニ付ケ奉ルベキ由ニテ已ニ打立候ヘバ。早々御加勢アッテ御動座然ルベシ。氏康御緩者ニテ不便ニ思食事最ナレドモ。祖父早雲ヨリ三代ニ至ル迄。伊豆相摸武州ニ及ビ國郡ヲ治ルトイヘドモ。何レノ所カ公方ヘ率テ候ヤ。已ガ威勢ノ募ルニ任テ。公方管領ヲ滅シテ。關東ヲ治ント計候ナレバ。今度彼ヲ御退治有テ。御世ヲ持セ玉フベキ由。シキリニ冒上アリシカバ。公方則納得有テ。天文十二年十月廿七日河越ヘ御動坐有テ御旗ヲ立玉ヘバ。關東分國ノ御勢馳集リ。河越ヲ取卷テ食攻ニコソシタリケレ。去程ニ籠城ノ兵ドモ兵粮運送ノ道ヲフサガレ。已ニ飢ニ及ントス。迚モ死ナン命ヲ打テ出テ。花ヤカニ討死スベキ由各申ケル所ニ。氏康モ左衛門大夫ヲ賞落サレテ叶マジ。急ギ後詰ノ勢ヲ出シ上杉ヲ追散スベシ。乍レ去敵ニ味方ヲクラブレバ九牛ガ一毛ナレバ。尋常ニ戰テハ叶フマジ。謀アルベシ。其間ニ籠城ノ兵ドモガコラヘ兼打テ出ナバ專ナシ。ヨク〳〵城ヲ堅固ニ持テ後詰ノ軍ヲ待ベシト。城中ノ兵ドモニ知セ度思ヘドモ。通路ナクレバ叶ハジ。如何セント宣フ處ニ。彼左衛門大夫ガ弟福島弁千世トテ。生年十七歳ニナリケル兒容儀骨柄美麗ニソ。氏康秘藏ノ小姓也ケルガ。進ミ出テ申ケルハ。此事城中ヘ知セザランハ由々シキ御大事也。如何ナル人ナリトモ左右ナク通リガタシ。某敵陣ヲタバカリ。城ヘ懸入テ申スベシ。又余ノ御使者ナラバ。敵ニモシ生捕レテ白狀スルコトモアルベシ。弁千世ニナイテハ縱身ヲズタ〳〵ニサカレ。骨ヲ寸々ニ碎カルトモ此事ヲ云ベカラズ。哀自ガ參ルベシトテ氏康ヘ最後ノ暇ヲ乞。只一騎敵ノ中ヲ靜々ト打テ通リ。大手ノ門前ヘ懸寄タレバ。敵モ城中ノ兵ドモ、。コハイカニ敵カ味方カト見所ニ。城中ニコモリシ木村ト云モノ見知テ。爰ヘ歩マセヨルハ弁千世殿ニテ御座ソヤ。馳向テ引入申セトテ。十騎計リ馳出ケル。弁千世諸鎧ヲ合テ馳入テ虎口ノ難ヲ逃レ。大將ノ謀ヲ細細ト申ケレバ。左衛門大夫ヲ初メ。伊豆相摸ノ兵ドモ大ニ勇ミ悅ケル。氏康ハ小田原。長久保。三浦ヘモ五百騎三百騎軍兵ヲ合テ。馬廻手勢カケテ八千餘騎。先武州砂窪ヘ打テ出テ敵陣ヲ見渡セバ。公方管領ノ御勢霊霞ノ如クニ滿々タリ。然レドモ氏康モ軍勢モ。大敵ヲ見テ不レ恐小敵ヲ見テ不レ欺。世祖光武ノ心根ヲウツシタリシ兵ナレバ。是ヲ事トモセズ靜ニ手分ヲセラレケル。氏康ヨリ謀ニ公方ヘ被二申上一ケルハ。河越籠城ノ兵ドモ已ニ飢ニ及ビ候間。命計御助ニ預ラバ。城井ニ領地ヲバ公方樣ヘ進上スベキ由。再三歎キ申シケレバ。公方聞召。汝ガマイラセズトモ明日ハ已ニ城ヲ攻落シ御支配アルベシ。其上伊豆相摸ノ強兵ドモ三千人コモリケレバ。是ヲ皆被レ誅ナバ氏康小田原ニモコラヘ難カルベシ。一人モ助ケバ後ノ禍ト成ルベシ。只皆討取テ氏康ヲモ退治有ベシト聞ヘクレバ。氏康又常陸國小田ノ政氏ノ陣代管谷ト云者ヲ賴ミ。如レ此取圍マレスベキ樣ナシ。御邊ヲ賴候間。如何ニモシテ籠城ノ左衛門大夫ヲ助玉ヘ。サモアラバ河越ヲバ其方ヘ明渡スベシ。其上意改トモ無事ニシテ叛ルベシ。合戰ヲナサバ多勢ニ無勢離レ叶ト侘ケレバ。管谷。此由ヲ披露ス。上杉是ヲ聞テ。サレバコソ氏康小田原勢若干ナラン。我等ガ片手ノ小指ニモ不レ及ト欺キテ物ノ數トモセズ。此條耳ニモ不レ入。只河越ヲ攻ベシト評定定シケル。

十月大

十二日。癸未細川氏綱出陣。

細川兩家記云。十月十二日氏綱郡内喜連杭全（くまた）といふ處へ御出張候へども。泉州横山合戰。玉井總じて引退く。

十九日。庚寅細川氏綱班ゝ軍。

細川兩家記云。同十九日に氏綱も御歸陣なり。然れば世上しづかなり。

十一月小

此月。於二淡路一安富筑前守卒。

讃岐國大日記云。天文十二年十一月安富筑前守。於二淡州一死亡。

十二月小

是年。尼子民部少輔經久卒。其子晴久襲レ家。

高代寺日記云。今年。尼子經久沒ス。晴久家督。

# 後鑑卷之三百十四

義晴將軍記第廿四　起二天文十三年正月一訖二十二月一

天文十三年甲辰

正月大

四日。癸卯御謠始如レ例。賜二時服於猿樂大夫一。

伊勢貞助記云。正四御音曲始アリ。但太夫ハ不レ致二祗候一。四郎左衛門音曲申之云々。大夫ニ被レ下御服ヲバ被レ下之云々。

七日。丙午細川右京亮出仕。

伊勢貞助記云。正七右京亮初テ出仕。依二所勞一今日出仕ナリ。

十日。己酉御參内。○此日。黑川隆尙叙二從五位下一。

伊勢貞助記云。正十御參內初。御物奉行松丹。諏訪左。御立石マデ罷出也。御板輿。御小者六人。御走衆同前。(沼田安兵。)已下也。一御供衆大左。朽民。伊三人。(こすわう。)卷阿。御供きやはん仕之。

歷名土代云。從五位下。黑川刑部少輔多々良隆尙。天文十三年正十。

十一日。庚戌自梅尾。久喜卷數進上。

梅尾舊記云。正月十一日公方樣へ。恒例久喜卷數進上之事。一大御所樣へ。(十六之桶ニダイアリ。)御卷數。一若君樣へ御卷數一枝。一大和守へ桶一(サミノ。)卷數一枝。狀アリ。一彌八方へ小桶一。(常住ナリ。)折紙アリ。一御屋形樣へ久喜桶一。(サミノダイアリ。)兵部方へ桶一。卷數一枝。狀アリ。

二月大

十八日。丁亥此日。於關東。大關美作守宗增卒。

大關家譜云。常陸介增雄子美作守宗增。(剃髮。沙彌道圓。)天文十三甲辰年二月十八日卒。八十二歲。法名月峯道圓。

三月小

五日。甲辰北畠具政叙從五位下。

歷名土代云。從五位下。源具政。天文十三三五。故後花園朝贈官右大臣具次男

廿三日。壬戌遊佐長教叙從五位下任河內守。

歷名土代云。從五位下。遊佐藤長教。天文十三三廿三。同日河內守。

四月大

廿日。戊子此日。於關東。北條氏康援川越城。上杉憲政敗走。

東亂記云。氏康ハ敵ヲ謀リスマシ。天文十三年四月廿日上杉ヲ夜討ニスベシトテ。先笠原越前守ヲ以テ敵陣ヘシノビヲ遣テ林ヲウカゞヒケルニ。上杉衆小田原勢ノカヽルベシトハ思モ寄ス。氏康ハ定テ明日カ明後日ハ遊テ行ベシ。河越ヲ攻ントシテ後ニ小田原ヲモ取ベシトテモアリ。又氏康ハ內通シテ音信ニ及ブモアリ。中々合戰ヲ胸ニ持タルハスクナシト申ケレバ。時分ハヨキソヤカヽレトテ。皆一同ニ打立ケル。比ハ四月二十日宵過ル程ナリシカバ。月モヤウ〳〵出シカドモ天晴リサダカナラズ。小田原勢アザト松明ヲバ不レ持シテ。紙ヲ切テ鎧ノ上ニカケ。肩衣ノヤウニシ。相言葉ヲ定メ。皆ヲモキ指物馬鎧ヲ不レ懸。首ヲ不レ可レ取切捨ト約束シ。前ニアルカトセバ後ヘ廻リ。四方ニ變化シテ一所ニヨルナト下知シ玉ヒ。子ノ刻計ニ打立砂窪ヘ切テ入ル。管領ノ勢ハ小田原衆ヲアナドリテ油斷シケレバ。俄ニ周章フタメキ懸合ケルガ。小田原勢四方ニ馳込。前後ヨリ切テ入。氏康ハ大道寺ヲ初トシテ。印波。荒川。諏訪。橋本鑓ヲ投入投入。十文字ニ懸破リ巴ノ字ニ追廻シ。太刀ノ鍔音矢叫ノ音天地ヲ轟シ。前後ニ入亂左右ニ散ジテ攻戰フ程ニ。上杉憲政ノ旗本ヘ追付。小野播州。本間江州。倉賀野三河守。難波田彈正左衞門。(私曰。彈正ハ灯明寺口ノ古井ヘ落テ。水ニ溺レテ死ト云云。)子息隼人佐。勢儀入ヲ初トシテ。究竟之兵三千餘人討死シ。大將憲政不レ叶敗北シケレバ。氏康勢追カケ〳〵打取ケル所ニ。多目周防守ハ氏康ノ旗本ニアリシガ。アゲ螺ヲ吹立ケレバ。諸軍皆引返シテ集リケレバ。周防守申ケルハ。今夜ノ軍不思儀ニ味方御勝也。其故ハ敵八万餘騎ニ味方八千餘騎。十カ一ニ不レ及勢ニテ。加樣ニ勝利ヲ得ル事古今タメシ少シ。若敵取テ返サバ。又味方ノツカレタル處却テ敵ニ利ヲ付ナン。夜曉天ニ及アナレバ。明ナバ各勝テ甲ノ緒ヲシメ。松山ノ城ヘ引コモツテ今日ノ休息スベシト評定シテ。四方ヲ駈廻リ士卒ノ機ヲ勵シケル所ニ。左衞門大夫城ヲ拂テ切テ出テ御所ヲ追散ス。一陣破ヌレバ殘黨不レ全。公方勢モ頼切タル上杉ヲ追散サレテナジカハコラフベキ。一支モ不レ支落行ケル。去程ニ上杉普代大石源左衞門。藤田右衞門佐以下悉ク氏康ヘ降參ス。氏康彌大勢ニ成テ。龍ノ雲ヲ得タルガ如ク。虎ノ林ニ放タルニ異ナラズ。氏康左衞門大夫ヲ召シ。今度河越ニテ苦勞ノ段不レ淺所也。一心ノ智謀深キ故ニ則敵ヲ退治シ。拔群ノ功東國無雙ノ働也ト御感不レ紙。其後氏康輕部豐前守ヲ使ニテ古河殿ヘ言上ス。其狀ニ云。

連々公方樣御刷。偏難ヲ無二其曲一奉レ存候。既骨肉同性。被レ參二宣仕一候上。若君樣御誕生以來者。猶以忠信一三味。令二遮蔽一候所。去年號二長久保一之地。自二駿州一被二取詰一所。憲政爲二後詰一河越取卷。御動座之儀頻被二申上一由。其聞候得者。氏康事御除下不二罷有一候得者。以二代官一度々言上。此刻一方向御怨切。可レ爲二迷惑一候。唯何方へも。無二御發向一候者。互善惡ニヨリ如何樣御威光可レ仰由申上候所。過半有二御納得一。御書句之御書。謹而頂戴。再三經二拜讀一。奉レ成二安堵思一所。難波田彈正。小野因幡守以下依二申上一。頼而聽二上意一被レ出二御馬一。及二兩年一被レ立二御旗一之間。城中三千餘人籠置候者共。逆根川路塞之間。各及二離儀一由承付。而河越籠者共。身命今明計御赦免候者。要害明渡可レ申由申上所。御納得御返答之上。氏康武州砂窪之地ヘ打出。以二諏訪右馬助。小田政治代官谷隈岐守一。雖二未聞不見仁一候。從二御備中一招出相頼。河越籠城者共被二相扶一候者其方爲二險固要害一。只今明渡可レ進。氏康被二召出一由申上處。御腹立以外之間。伊豆相摸者共。悉此城ニ集置事。自掛二天網一來間。一人不レ可レ漏候ト御腹立ニテ。如レ此之段。再不

レ可二申上一之由。斷々返答。重而者難レ遂二上聞一之由。中使挨拶候。時節不レ移。諸軍下二立砂筮一被二押寄一之間。氏康時節到來。難レ遁二一戰一。兩口同時切勝。憲政馬廻爲レ始。倉賀野三河守三千餘人討捕。就レ中此度之諸軍之謀間之根本人難波田彈正左衛門尉。小野因幡守討留。散二累年宿望一事。唯氏康心底正路之儀。天道之撰不レ空故。開運不思議次第候。然間先年亡父氏綱以二若干計儀一。內々御賴候間。諸侍背二無レ心義明樣一奉二退治一。抽關東諸士勵二忠勤一事。都鄙無二其隱一所候。無幾程一其先忠御忘可レ給哉。可レ被レ絕二其子孫一事。君子逆道何事也。不二善與レ善。不二惡與レ惡。臣以レ何可レ奉レ仰哉。爰許能々爲二御分別一。令二啓達一候。恐惶謹言。

五月日　平氏康判

進上　築田中務大輔殿

晦日。戊戌細川晴元猶子下二向泉州一。

三條寺主家記云。和泉屋形御實子。細川殿御猶子也。然處和州越智依レ無二子息一。申請讓二家督一。四月廿日下向。木津丹兩人御供也。

此月。釋壽光入明。

異稱日本傳云。嘉靖廿三年四月。使僧壽光等百五十人來貢。

驗無二表文一。且以レ非レ期却レ之。

五月小

十九日。丁巳從二梅尾一獻レ茶。

梅尾舊記云。五月十九日。公方樣ヘ進上。御茶目錄。地藏院一袋。田中坊二袋。東坊三袋。中坊二袋。入江坊一袋。

巳上十袋。

月日　兩知事判

六月大

七月大

六日。癸卯佐々木彈正少弼定賴上洛。

長享以後戡內兵亂記云。七月六日公方樣。細川殿依二和睦一佐佐木少弼殿上洛。

九日。丙午洛中洪水。死傷頗多。

大日本傳皇代記云。七月九日大洪水。洛中室町人多溺死。山王ノミツ橋。高雄。愛宕橋ナガル。東寺ノ南大門ニ船ヲツナグ。寺中ヘハ水不レ入。黑谷ノ鐘鳥羽マデナガル。山法師十六人。其內御兒三人ナガル。

公卿補任云。七月九日洛中洛外大洪水。禁中築垣崩倒。陸地如レ行レ舟。山中草木漂流。前代未聞。田舍諸國云々。

皇年代略記云。同十三七九洪水。陸地如レ行レ舟。前代未聞。

筒井家記云。七月九日山城大和大雨洪水シテ。陸地ニ船ヲ行カ如シ。大和ニテハ筒井飯田等ノ諸將各力ヲ盡シテ是ヲ妨ケ。諸國モ又然リ。

長享以後戡內兵亂記云。七月九日大洪水。山岳崩裂。

十一日。戊申島津長忠叙爵。任二大隅守一。

歷名土代云。從五位下。薩州島津藤長忠。天文十三七十一。同日大隅守。

八月小

九日。丙子奉行人有下令二洛中巷所一旨上。

伊勢家書戒

公方御料所分并奉公方知行分巷所事。被レ除之上者。不レ可レ有二其沙汰一。但相給在所在レ之者。向後以二御紀明一可レ被二相究一之條。此旨可二存知一之由狀。如レ件。

天文十三　八月九日　爲信

洛中所々　巷所百姓中

廿六日。癸巳近衛太閤尙通公薨。

公卿補任十二年條云。前太政大臣從一位藤尙通。前關白。准三宮。四月廿七日落髮云々。天文十三八廿六薨。（七十三歲。）法名大證。號二後法成寺一。

二條寺主家記云。八月廿六日。近衛殿太閤御閉眼。九月七日。於二東海寺海藏院一御葬禮。

九月大

十七日。癸丑參議中將藤原公兄任二中納言一。以二御執奏一也。

公卿補任云。權中納言正三位藤公兄。五月十八日。元叙爵左中將。同九月十七日。依二大樹御執奏一。賜二去天文二十二十八正位記一。

十九日。乙卯管領傳レ仰。命二土岐次郎一。令レ發二向佐佐木六郎館一。

古證文載

今度佐々木六郎依レ致二不義一。被レ加二退治一訖。彼館江令二進發一。可レ被レ抽二忠節一之由。被二仰出一候也。仍如レ件。

天文十三年九月十九日　左京大夫

土岐次郎殿

十月小

十一月大

十三日。戊申依二小舍人等給物事一。奉行人傳二仰於赤松晴政一。

伊勢家書狀

小舍人等給物事。（天文十三十一十三。）

爲二國々地頭御家人役一之條。事舊訖。而近年或稱二當參奉公一。或號二守護被官一難儀云々。太不レ可レ然。早任二先規一。不レ謂二未領新恩分一。隨二多少一。不レ論二惣領庶子一。人別壹貫文宛可レ致二其沙汰一。若於二異儀之族一可レ處二罪科一爲。次小舍人（新兵衛、與三左衛門。）在二國備前一。資二緣事一。可レ爲二守護役一也爲。云レ使云二小舍人一。寄二事於此役儲促一。致二非法一之罪科同前。

小舍人等給物事。事書如レ此。早任二先例一。可レ致レ被二其沙汰一之由被二仰出一候也。仍執達如レ件。

天文十三十一月十三日　盛秀判　光俊判

赤松殿

是月。大德寺一休和尚寂。

〔引書闕〕

閏十一月小

十一日。丙子大內隆豐叙二從五位上一。

歷名土代云。從五位上。多々良隆豐。天文十三後十一十一。

是月。日野前黃門晴光卿下二向肥前有馬一。

歷代鎭西要略云。今月。有馬晴純賜二宣命一。任二修理大夫一。勅使日野中納言下向。有馬晴純迎二勅使於岩崎一。於二松丘神社一拜二受宣命一云々。

十二月大

# 後鑑卷之三百十五

義晴將軍記第廿五起二天文十四年正月一訖二十二月一

天文十四年己巳

正月小

朔日。乙丑元三拜賀。公武參謁。

大館日記云。公家。大名。御供衆。御部屋衆。申次。節朔。走衆以下出仕。（若公樣（も進上之）御太刀一腰。（金。））右京大夫殿。（例年）同同。尾張守殿。（同同）仍御二御所樣御對面在レ之。數御盃如二例年一。

二日。丙寅拜賀如レ昨。御乘馬始。

大館日記云。公家。大名。御供衆。申次以下出仕。（若公樣（も進上之）御太刀一腰。上之）右京大夫殿。（例年）御所樣。（金。）御太刀一腰。尾張守殿。（同同）仍御二御所樣御對面在レ之。數御盃如二例年一。

三日。丁卯參賀如レ例。

大館日記云。公家。大名。御供衆。申次。以下出仕。御太刀一腰。（若公樣（も進上之）金。）右京大夫。御太刀一腰。尾張守殿。（同）仍御二御所樣御對面在レ之。數御盃參如二例年一。

四日。戊辰諸人賀二謁御謠初一。

大館日記云。公家。大名。御供衆。申次。節朔奉行衆。仍御二御所樣御對面。（於座上被御覽云々）一觀世太夫。一御謠初在レ之。三獻參。

五日。己巳陰陽頭賀茂在富候二御身固一。仁木右馬頭奉謁。

大館日記云。御身固在レ之。在富。御祓。吉田侍從。御卷數。所所。一出仕。仍御對面在レ之。仁木右馬頭。御卷數。（久喜二。桶）（高過仍例）尾崎坊。

六日。庚午諸寺獻二卷數御札一。

大館日記云。御札。大獸喜寺。（御太刀被下）一御卷數。和州塚念佛寺。一大經師愛菊。一御隨身。一若榮松尾東。一御通在レ之。外樣右筆方。

七日。辛未人日賀儀如レ恒。○外郎。田樂。千秋萬歲謁見。

大館日記云。公家。大名。外樣。御供衆。申次。節朔（以下。）出仕仍御二御所樣御對面在レ之。一御太刀一腰。（金。）右京大夫殿。一御太刀一腰。（持。）尾張守殿。一數御盃參。如二例年一。一芳藥五種。外郎。一御太刀一腰。（持。）右京大夫殿。仍御對面在レ之。御盃參。（於座上被御覽云）一田樂。一御太刀一腰。（持。）被レ下レ之。千秋萬歲一

八日。壬申寺社獻物。

大館日記云。梅漬一桶。三寶院殿。一參賀。理性院殿。一參賀。尊勝院殿。一御扇一本。杉原十帖。（若公樣（も進上之。）梅松院。一御卷數。御手水。因幡堂。一卷數。知恩院。一卷數。三宅若王子。仍若公樣御對面在レ之。

九日。癸酉近衞家獻物。

大過日記云。一御卷數。所々。一三合三荷。近衞殿。

十日。甲戌諸家奉謁。○加茂在富役二御身固一。御參內。

大館日記云。攝家。淸花。法中以下。仍御對面在レ之。一御身固。在富。一御太刀一腰。（金。）典藥兼秀。有脩。（始而出

仕之御禮。）一御扇一本。杉原十帖。（同）願。若公樣御對面在レ之。一御袴内如二例年一。
一御太刀一腰。（金。）御供衆。（如二對面在之一）一同上。走衆。一同上。（三種）
御出奉行。一同上。廣橋殿。一同上。藤中納言殿。一御
祓。柳三荷。大覺寺御門跡吉侍從。一御卷數。（御黄水。）八
幡善法寺。一御盃參。各御通被レ下云々一御卷數。所々。

十二日。丙子寺社獻物。○土岐五郎奉謁。

大館日記云。一久喜二桶。梅漬。梅むき。字治大路越中守。
一御卷數。（若公樣（も）進上之。）三福寺。仍御對面在レ之。
一御卷數。（同）。清和院。（年始之御礼）一御卷數。（同）。所々。一御太刀
一腰。（持）。土岐五郎。一御卷數御檀供本菩提院。一御太
刀一腰。（持）。御折十合。柳十荷。本願寺。（年始之御禮。）
一御卷數。（若樣公（も）。）牛王箕面寺。

十三日。丁丑殿中一獻。諸寺獻二卷數。

大館日記云。一御卷數。眞性院。一卷數。賀茂社務。一卷
數。同氏人日吉太夫。（於二庭上一懸二御目一。）嵐。一獻在レ之。如二
例年一。

十四日。戊寅武田伊豆守謁見。

大館日記云。一御卷數。（八幡宮）神主延村。一御太刀一腰。（持。若公
樣（も。）武田伊豆守。（年始之御礼）

十五日。己卯上元拜賀。

大館日記云。公家。大名。外樣。御供衆。申次。節朔以下出仕。
仍御對面在レ之。

十六日。庚辰大般若轉讀。

大館日記云。一大般若經。鴨衆。一同上。清。一同。法恩
寺。一同上。知恩寺。一同上。東福寺。一同上。龍眠菴。
一同上。安國寺。一同上。所々。一同上。御祓。吉田侍從。

十七日。辛巳僧徒獻物。○渡二御陽明家一。

大館日記云。一御卷數。鯛廿枚。善法寺。一御卷數。御鏡。御
檀。桑實寺圓實坊。仍御對面在レ之。御二成近衛殿一。

十八日。壬午水主兵庫助獻物。

大館日記云。一壺立。寥蕘。水主兵庫助。

十九日。癸未公卿參賀。

大館日記云。參賀。柳原殿。水無瀬殿。中山殿。仍御對面在
レ之。一御卷數。樹下。（御對面在レ之。）一御卷數。御扇。杉
原十帖。（若公樣（も參。）實菩提院。一御卷數。同。石山寺。
一御卷數。粟生觀音寺。

二十日。甲申四條上人以下謁見。

大館日記云。一四條上人。一御太刀一腰（持。）執當。一山
門三院。御加持衆。一使節。御卷數。所々。仍御對面在レ之。

廿一日。乙酉御放鷹。

大館日記云。御二成鷹山一有レ之。

廿四日。戊子興福寺獻二卷數一。

大館日記云。一御卷數。南都興福寺。

廿六日。庚寅勸修寺門跡奉二御加持一。○惣撿校拜謁。

大館日記云。一三合三荷。寶光院御加持。御盃二參。勸修寺御
門跡。仍御對面在レ之。一惣撿校。（御對面在レ之。）

廿八日。壬辰日吉神主樹下式部卿獻二卷數一。

大館日記云。一御卷數。（兩御所樣（參。）樹下式部卿。

廿九日。癸巳加茂在富役二御身固一。

大館日記云。一御身固。在富。一御卷數。御撫物。有修。一
同上。（勸修寺殿。所々。）

二月小

朔日。甲午公武參賀。

大館日記云。公家。大名。外樣。御供衆。申次以下出仕。仍御二
御所樣御對面在レ之。一御祓。祭主。白鳥。熒斗蛆千本。天野
五荷。尾張守殿。（例年之儀。）

二日。乙未仁木右馬頭出任。

大館日記云。一出仕。仁木右馬頭。一御太刀一腰。（持。）平
井重殿。（年始之御禮。）一綿二把。衛長老。

三日。丙申佐々木中務大輔獻物。

大館日記云。一御卷數。法花山寺。一雁一。鯛一折。伸蛇五
百本。御檀五荷。佐々木中務大輔。

五日。戊戌賀茂在富。安倍有脩候二御身固一。

大館日記云。御身固。在富。一同。有修。一御祓。吉田侍
從。一御卷數。松梅院。一同上。三大神御師。一同上。五
辻星輪院。一御撫物。御香水。御卷數。善法寺。

七日。庚子八瀨御放鷹。

大館日記云。到二八瀨御鷹山一御成在レ之。清光院。

八日。辛丑寺社獻物。

大館日記云。御香水。八幡善法寺。一鯉一桶。粟田口天王。

十六日。己酉堯長老謁見。

大館日記云。御香合。御盃。引合。入院御禮。堯長老。一御扇
一本。杉原十帖。同御禮。同前。仍御對面在レ之。

十七日。庚戌御沙汰始。

大館日記云。一獨活一折。沼田三郎右衛門。一御卷數。圍城寺。一御沙汰始在レ之。仍御太刀(金。)各進上之。

廿日。癸丑觀音寺献二卷數一。

大館日記云。一御卷數。粟生觀音寺。

廿四日。丁巳武田伊豆守献物。

大館日記云。一鱗一桶。武田伊豆守。

廿五日。戊午金山三郎献物。

大館日記云。一御太刀一腰。(金。)金山三郎。(上洛御禮。)

廿八日。辛酉遍照心院拜謁。

大館日記云。參賀。遍照心院。(於二御鷹野一御盃參。)一御扇一本。杉原十帖。宗乘。(初而對二御目一。)

廿九日。壬戌加茂在富役二御身固一。○諸寺献二卷數一。

大館日記云。一御身固在レ之。在富。一御卷數。御撫物。勸修寺殿。一御卷數。所々。一餅籠二。禪智院殿。

三月大

朔日。癸亥參賀如レ例。

大館日記云。公家。大名。外様。御供衆。申次以下出仕。仍御對面在レ之。御二御所様。一御杪。祭主。

三日。乙丑上巳御祝。○鬪雞御覽。

大館日記云。公家。大名。外様。御供衆。申次以下出仕。一鶏合在レ之。仍御對面在レ之。御二御所様。

四日。丙寅佐脇刑部少輔始謁。○安威兵部少輔光脩謝レ任二美作守一。○渡二御入江殿一。

大館日記云。一御太刀一腰。(持。若公様へも進上之。)佐脇刑部少輔。(始而出仕御禮。)仍御對面在レ之。一御身固在レ之。在富。一御成在レ之。午刻。入江殿。一御太刀一腰。(金。)安威兵部少輔。(任二美作守一御禮。)

五日。丁卯在富。有脩二人候二御身固一。寺社献物。

大館日記云。一御身固。(在富。有脩。)一疏御銘。薩涼軒。一御卷數。所々。一御卷數杪。吉田侍從。一御香水。御撫物。御卷數。善法寺。一花。鞍馬寺。(御宿坊進上之。)

六日。戊辰上巳御人形御身固。

大館日記云。御身固。上巳御人形。(在富。有脩。)

八日。庚午万松軒。善法寺献物。

大館日記云。一御折三合。柳三荷。万松軒。一御香水。(御二御所様へ。)善法寺。

九日。辛未東北院献二卷數一。



大館日記云。一御卷數。東北院。(南都。)

十日。壬申御身固。諸寺献二卷數一。○此日。於二關東一。里見刑部少輔義政卒。

大館日記云。一御身固。(在富。有脩。)一御杪。吉田侍從。一御卷數。長福寺。同上。盛神院新宮。同上。常施寺。同上。善法寺。

里見系圖云。義政。左馬頭義堯子。刑部少輔。久留利城主。與二兄義弘一不和。依二同レ被レ談之由一退出。則常陸行方左右蹇築レ城住居。號二非關一。號二里見左右之蹇之屋方一。從者等之中許二非關一。天文十四年乙巳三月十日卒。

十三日。乙亥畠山四郎時熙謝二繼レ家及賜一字一。献二劍馬一。

大館日記云。一御太刀一腰。御馬一疋。畠山四郎。(代替。)一同上。同人。(御字御禮。)

十四日。丙子南禪寺謝二入院一。○大内義隆謝二勸合一献物。○本郷新九郎。長野宮内大輔俱謁。

大館日記云。一御扇一本。杉原十帖。南禪寺。(入院之御禮。)仍御對面在レ之。一御太刀一腰。(持。)御給之幅。(落雁。牧溪。)大内太宰大弐。(勸合之御禮。)一段子。(花段子。)仍御對面在レ之。一御太刀一腰。(金。)本郷新九郎。(出仕之御禮。)仍御對面在レ之。一獎斗蟠千本。長野宮内少輔。(例年。)

十五日。丁丑沼田某献二薯蕷一。

大館日記云。薯蕷一折。沼田三郎左衛門。

十七日。己卯清原三位業賢献二太刀一。

大館日記云。一御太刀一腰。(金。)清侍從。

廿日。壬午粟生觀音寺献二卷數一。

大館日記云。一御卷數。粟生觀音寺。

廿一日。癸未北野松梅院献二卷數一。

大館日記云。一御卷數。松梅院。

晦日。壬辰在富献二卷數一。

大館日記云。一御身固在レ之。在富。一御卷數。所々。

四月小

朔日。癸巳公武參賀。

大館日記云。公家。外様。御供衆。申次以下出仕。仍若公様御對面在レ之。一御杪。祭主。

二日。甲午公卿參賀。

大館日記云。一參賀。一條殿。持明院殿。仍御對面在レ之。

四日。丙申有ニ御身固一。○寺社献ニ卷數一。
大館日記云。一御身固在レ之。(在富。有修。) 一御卷數。三大神御師。 一御祓。吉田侍從。 一御卷數。松梅院。 一御卷數。五辻長福寺。 一疏御銘。蔭涼軒。 一御卷數。星輪院。

六日。戊戌御身固。
大館日記云。一御身固。(此御身固。大御所樣。若公樣計也。) 在富。

八日。庚子若王寺献ニ卷數一。
大館日記云。一御卷數。若王寺。

九日。辛丑此日。關東佐竹大膳大夫義篤卒。
佐竹系圖云。舜子。(マヽ)大膳大夫。天文十四年四月九日卒。年三十九。法名月光。道號溪心。(イ四位左馬頭)

十日。壬寅御身固。
大館日記云。一御身固在レ之。在富。 一御祓。吉田侍從。 一御卷數。盛神院新宮。 一同上。五辻長福寺。

十三日。乙巳攝津中務大輔及三浦新介拜謁。
大館日記云。一御太刀一腰。(持。)攝津中務大輔。(出仕之御禮。) 一同上。三浦八板新介。(初而出仕之御禮。)仍御對面在レ之。

十六日。戊申加茂社人献レ葵。
大館日記云。一葵。(若公樣へも進上之。)鴨社務。

十七日。己酉此日以後大旱。
高代寺日記云。七月。中旬始而雨降。コレ去四月十七日ヨリ大旱。百十餘日タリ。民大ニ苦ム。

廿日。壬子三浦新介晴三謝ニ叙爵及賜ニ字献物。
大館日記云。一御太刀一腰。(持。)三浦八板新介。(被レ任ニ大藏大輔一御禮。) 一御太刀一腰。(持。)御馬一疋。同人。(御字之御禮。) 一同上。(若公樣へも進上之。)同人。
歴名土代云。從五位下。平晴三。天文十四廿一。同日大藏大輔。(三浦)

廿一日。癸丑進藤山城守献ニ劍馬一。
大館日記云。一御卷數。松梅院。 一御太刀一腰。御馬一疋。進藤山城守。

廿二日。甲寅橋本某謝ニ代替一献物。
大館日記云。一御太刀一腰。(金。) 橋本與三郎。(代替之御禮。)仍御對面在レ之。

廿八日。庚申細川典厩献レ瓜。
大館日記云。一白瓜一折。細河右馬頭。(例年。) 一御卷數。



鞍馬寺。

五月大

朔日。壬戌公武參賀。
大館日記云。公家。大名。御供衆。中次以下出仕。御二御所樣御對面在レ之。 一御祓。祭主。 一御卷數。(若公樣へも。)松尾社。

二日。癸亥仁木右馬頭出仕。
大館日記云。一出仕。仁木右馬頭。 一同上。近藤。仍御對面在レ之。

四日。乙丑御身固。○細川陸奥守献物。
大館日記云。一身固在レ之。在富。 一根菖蒲。(御二所樣へ參)細川陸奥守。(例年。)

五日。丙寅蒲節參賀。勅賜ニ藥玉一。○攝津掃部頭謝ニ叙任一献物。
大館日記云。公家。大名。外樣。御供衆。中次以下出仕。御二御所樣御對面在レ之。 禁裏樣より 一御くす玉。 一御身固。在富。 一御祓。吉田侍從。 一御卷數。(三大神御師。星輪院。) 一同上。松梅院。 一同上。五辻長福寺。 一御太刀一腰。(金。)攝津掃部頭。(官途之御禮。)

七日。戊辰東福泉涌寺献物。○伊勢守献レ瓜。
大館日記云。一御扇一本。杉原十帖。東福寺。 一參賀。泉涌寺。 一白瓜一折。伊勢守。(例年。) 一御祓。鰹鮑一折。伊勢守。

八日。己巳右京兆献レ鷄。○八幡社務献ニ卷數一。
大館日記云。一御卷數一合。八幡宮。京極寺。 一御香水。(兩御所樣(進上之。)八幡社務。 一鷄一途進上之。右京大夫殿。仍御對面在レ之。御盃參。

九日。庚午御身固。寺社献ニ卷數一。
大館日記云。一御身固。在富。 一御卷數。長福寺。 一同上。粟田口天王。 一同上。大興寺。 一御祓。吉田侍從。 一御卷數。御香水。普法寺。(八幡)

十一日。壬申在富献ニ撫物一。
大館日記云。一御護。御撫物。在富。御身固同人。

十二日。癸酉光淨多田兩院献ニ卷數一。
大館日記云。一御卷數。光淨院。 一同上。(若公樣へ參。)光淨院。 一同上。多田院。

十四日。乙亥北野三井献ニ卷數一。
大館日記云。一御卷數。北野宮社能薫。 一卷數。御二御所

樣。三井寺日光院。

十五日。丙子畠山尾張守植長卒。

東寺過去帳云。畠山尾張守植長。天文十四年五月十五日。畠山系圖云。植長。尾張守尚順子。右衛門佐。尾張守。法號覺源晤公。天文十四年五月十五日卒。歲四十二

足利季世記云。畠山植長天文十四年五月十四日四十二歲ニテ逝去アリケレバ。子息ナクシテ弟播磨守政國ヲ。遊佐河內守計トシテ家督ニ居テ。高屋ノ城ヘ入ケリ。

十六日。丁丑大般若轉讀。○寺社獻ニ卷數。

大館日記云。一大般若經在レ之。　一御卷數。(若公樣へも。)俗別當。　一同上。(若公樣へも。)盛神院新宮。　一同上。(若公樣へも。)鴨社務。　一同上。天王寺。　一同上。妙行寺。　一同上。尾崎坊。　一御祓。吉田侍從。　一御卷數。清水寺慈心院。　一御慈。日吉別當。　一御札。法住院。　一御卷數。五辻長福寺。

十七日。戊寅山城六左衛門賀ニ新歲。進ニ太刀。

大館日記云。一御太刀一腰。山城六左衛門。(當年御禮。)

十九日。庚辰觀音寺獻ニ卷數。

大館日記云。一御卷數。粟生觀音寺。

廿一日。壬午松梅院進ニ卷數。

大館日記云。一御卷數。松梅院。

廿四日。乙酉興福寺奉ニ卷數。

大館日記云。一御卷數。南都興福寺。　一同上。(若公樣へも。)興福寺。

廿五日。丙戌星輪院獻ニ卷數。

大館日記云。一御卷數。星輪院。　一同上(若公樣へ參。)星輪院。

廿七日。戊子寺社進ニ卷數。

大館日記云。一御卷數。加茂社。　一同上。同御師。　一同上。山門三院。

廿八日。己丑卷數如レ昨。

大館日記云。一御卷數。鞍馬寺。　一同。(二御所樣へ參。)日吉樹下。

卅日。辛卯御身固。諸所獻ニ卷數。

大館日記云。一御身固在レ之。　一御卷數。大覺寺殿。　一同上。法勝寺。　一同上。神護寺。　一同上。松梅院。　一同上。河原院。　一同上。北野外會所。　一同上。六條八幡宮。　一同上。御靈社別當。　一同上。江州長法寺。　一同上。妙法院御門跡。　一同上。勸修寺殿。　一同上。日吉社樹下。

六月大

朔日。壬辰公武賀謁。

大館日記云。公家。大名。外樣。御供衆。申次以下出仕。仍御二御所樣御對面在レ之。　一御祓。祭主。

二日。癸巳一條左府房通公自ニ土佐一上洛。任ニ關白。

高代寺日記云。六月一條左府房通土佐ヨリ上洛。關白ニ任ス。

公卿補任云。左大臣從一位藤原房通。在ニ國土州一。三月廿六日上洛。六月二日關白詔。

五日。丙申御身固。○卷數呈進如レ例。○松田九郎左衛門奉謁。

大館日記云。一御身固。在富。　一疏御銘。蔭涼軒。　一御祓。吉田侍從。　一御卷數。三大師。　一同上。星輪院。　一同上。松梅院。　一同上。長福寺。　一出仕。松田九郎右衛門(代替。)仍御對面在レ之。　一御卷數。御香水。善法寺。

六日。丁酉山名右衛門督以レ使獻ニ物兩御所一。○善法寺拜謁。

大館日記云。一御太刀一腰。(助包。)御馬一疋。(鞦毛。印雀目結。)三千疋。山名右衛門督殿。　一御太刀一腰。(國光。)御馬一疋。金□疋。御扇壹本。引合十帖。山名殿使僧。(明善寺。自分御禮。)　一干鯛一折。鹽鳥一折。瓜一折。御卷數。善法寺。仍御所樣御對面在レ之。

七日。戊戌松田三郎謝ニ恩賞方一。獻ニ太刀。

大館日記云。一御太刀一腰。(金)。松田三郎。(恩賞方奉勸御禮。)　一同上。(若公樣へ進上之。)同人。(御禮。)

八日。己亥卷數。香水進覽。

大館日記云。一御卷數。若王寺。　一御香水。(若公樣へも進上之。)善法寺。　一同上。(同。)八幡社務。

十日。辛丑在富候ニ若公御身固。

大館日記云。一御身固在之。(若公樣。)在富卿。　一御祓。吉田侍從。　一卷數。御香水。善法寺。　一同上。(東光寺。盛神院。)　一同上。(大與寺。長福寺。)

十二日。癸卯武田伊豆守元光進ニ上海松。

大館日記云。一海松一折。武田伊豆守。

十三日。甲辰勢州奉ニ黑鹽。

大館日記云。一黑鹽廿桶。伊勢守。(例年。)

十六日。丁未宇治大路始謁。十市藤勝丸謝レ繼レ家献物。謁見。

大館日記云。一御太刀一腰。(持。)宇治大路。(初而出仕之御禮)。一御太刀一腰。(持。)御馬一疋。十市藤勝丸。(代替御禮。同名平七申之。)一御太刀一腰。(持。)十市平七。(自分之御禮。)仍御對面在レ之。一瓜二籠。水主兵庫助。

廿一日。壬子依二若君御祈一。大般若經轉讀。

大館日記云。一大般若在レ之。(若公樣御祈禱。)一瓜二籠。遍照心院。

廿二日。癸丑南光院献物。

大館日記云。一御香水。御撫物。南光院。仍御對面在レ之。一またゝび一折。同人。一瓜拾荷。興福寺。

廿四日。乙卯武田元光献二海松於内裡一。

御湯殿上日記云。武田海松進上する。

廿九日。庚申御身固如レ例。

大館日記云。一御身固在レ之。(在富。有春。)一御撫物同人。一御卷數所々。

七月小

朔日。壬戌賀謁如レ恒。

大館日記云。公家。外樣。御供衆。申次以下出仕。仍御對面在レ之。一御祓。祭主。一御卷數。松尾社。

二日。癸亥仁木典厩出仕。

大館日記云。一出仕。仁木右馬頭。一御茶。梅尾寺。仍御對面在レ之。

五日。丙寅御身固。卷數。如レ例。○大崎義直叙二從五位下一任二左京大夫一。

大館日記云。一疏御銘參。一御祓。吉田侍從。一御卷數。(五辻。)長福寺。一同上。松梅院。(三大神御師。)一御身固。在富。一御卷數。星輪院。一同上。御香水。(八幡。)善法寺。

歴名土代云。從五位下。源義直。(奥州探題大崎)天文十四七五。同日左京大夫。

六日。丁亥御身固。

大館日記云。一御身固。在富。

七日。戊辰星夕賀謁。諸人隨レ例献二草花一。

大館日記云。公家。大名。外樣。御供衆。申次以下出仕。仍御對面在レ之。御盃參。一草花。右京大夫殿。一同。佐々木彈正少弼。一同上。藤中納言殿。一同上。陸涼軒。一御卷數。(御二御所樣。)寶幢三昧寺。



八日。己巳御生見玉御祝。

大館日記云。一御生見玉在レ之。一御卷數。若王寺。一御香水。(若公樣へも。)善法寺。一同上。八幡社務。一御身固。有春。

十日。辛未在富。有春役二御身固一。

大館日記云。一御身固在レ之。(在富。有春。)一御卷數。長福寺。一同上。粟田口天王。一同上。大興寺。

十二日。癸酉畠山修理大夫義綱卒。

高野山過去帳云。興臨院傳翁德胤。(畠山。)天文十四年七月十二日。

十三日。甲戌此日。於二關東一。結城左衛門督政朝卒。

結城系圖云。左衛門督。天文十四年七月十三日卒。六十九。法名永正寺宗明孝顯。

十四日。乙亥諸人献二毬燈一。

大館日記云。一御燈燈。右京大夫殿。一同上。上乘院。一同上。伊勢守。

十五日。丙子渡二御相國寺持兩刹一。

大館日記云。一御成在レ之。(相國寺。等持院。)

十六日。丁丑勸修寺晴右献レ劔謝二御下知一。

大館日記云。一御太刀一腰。(金。)勸修寺殿。(御下知之御禮。)

廿日。辛巳觀音寺上二卷數一。

大館日記云。一御卷數。粟生觀音寺。

廿一日。壬午松梅院献二卷數一。

大館日記云。一御卷數。松梅院。

廿二日。癸未殿中御禱。吉田侍從兼右勸レ之。

大館日記云。一御撫物。在富。一御所禱在レ之。吉田侍從。一安居作物。(御二御所樣へ參。仍御對面。)八幡社務。

廿八日。己丑鞍馬寺献二卷數一。○此日三好筑前守範長拔二丹波關城一歸洛。

大館日記云。一御卷數。鞍馬寺。

細川兩家記云。十四年乙巳夏比。氏綱方の内藤備前守。丹波國關といふ處へ出張して。山城を攝て横籠。波多野備前守より。三好筑前守範長へ加勢の義申されければ。當時聖の事なれば則勢を催し。同七月廿五日にかの關の城へ。範長同名神五郎。入道有て宗三と申も取よせられければ。則廿七日夜半に城落けり。然ば範長宗參同廿八日歸陳也。波多野方本望にて。矢上へ歸られける也。三好方も歸陳也。

廿九日。庚寅御身固。

大館日記云。一御身固在レ之。(在富。有巻。) 一御撫物。勸修寺殿。 一御巻數。大覺寺御門跡。 一同上。(法勝寺。河原院。) 一同上。(神護寺。松梅院。) 一同上。(御靈別當。八幡善法寺。)

八月大

朔日。辛卯公武參賀。○廣橋兼秀卿爲二勅使一來府。

大館日記云。公家。大名。外様。御供衆。中次以下出仕。仍御二御所様御對面在レ之。 一御祓。祭主。 一御巻數。(若公様へも進上之。)稻荷社。 一同上。松尾社。 一參賀。(禁裏様御使。)廣橋殿。仍二御所様御對面在レ之。

五日。乙未御身固巻數如レ例。

大館日記云。一御身固。(在富。有巻。) 一疏御銘。陸涼軒。 一御巻數。三大神御師。 一同上。尼輪院。 一同上。長福寺。 一御祓。吉田侍從。 一御巻數。御香水。善法寺。

六日。丙申御成。

大館日記云。一御成在レ之。午刻。 一御身固有之。(在富。有巻。)

八日。戊戌若王子献二巻數一。

大館日記云。一御巻數。若王寺。

九日。己亥渡二御大館左衛門佐晴光家一。

大館日記云。一御成在レ之。大館左衛門佐亭。

十日。庚子護身巻數如レ例。

大館日記云。一御身固在レ之。有巻。 一御巻數。粟田口天王。 一御祓。吉田侍從。 一御巻數。五辻長福寺。 一柿一籠。 實相院御門跡。 一御巻數。大興寺。 一巻數。御香水。善法寺。

十五日。乙巳畠山播磨守献二物若君一。

大館日記云。一御太刀一腰。御馬一疋。(若公様へ。)畠山播磨守。(始而御禮。) 一御扇一本。杉原十帖。畠山。使僧靈泉寺。 仍御對面在レ之。

十六日。丙午就二喧嘩事一有二被レ令旨一。

伊勢家書狀

被二尋下一喧嘩事。

凡故戰防戰。御法在レ之。縱令於二一町内一。重科人出來之時。雖レ不レ知二子細一。及二隣三間一。有二御成敗一者哉。然惣町一同致二狼藉一者被レ處二其咎一歟。爰惠林院殿御代藤民部又三郎至二播州木津今宮間一。及二喧嘩一生害時。不レ謂二本人一。惣庄悉以被二發向一畢。毎度依二時宜一。隨二事體一。或本人或惣庄先々有二御成敗一矣。

天文十四年八月十六日

十八日。戊申巻數如レ例。

大館日記云。一御巻數。粟生觀音寺。 一御靈神供參。 一下御靈。

廿三日。癸丑此夕。天地變二黃色一。

足利季世記云。八月廿三日酉ノ刻天下一同ニ黃色ニナリ。草木色モ黃色ニ變シ。道ニ行逢人ノ面サナガラ黃金ヲ見ルガ如シ。不レ知。諸人成佛シテ金色ノ如來トナルガ如シ。前代未聞ノ不思議。夜ニ入ケレバ。次第ニ闇ク成行ケル。

廿四日。甲寅橋本與三郎献レ柿。

大館日記云。一柿弐籠。橋本與三郎。

廿七日。丁巳御鷹山。○右京兆佐々木刑部大輔献二魚物一。

大館日記云。御巻數。鞍馬寺。 一御鷹山御成在レ之。 一御鮭壹尺。右京大夫殿。 一鯉一折。佐々木刑部大輔。

廿九日。己未沼田三郎左衛門進レ鮭。

大館日記云。一鮭一尺。沼田三郎左衛門。(例年。)

晦日。庚申御身固巻數如レ例。

大館日記云。一御身固。御撫物。在富。 一御巻數。御撫物。勸修寺殿。 一御巻數。河原院。 一同上。大覺寺御門跡。 一同上。御靈別當。 一同上。神護寺。 一同上。法勝寺。 一同上。松梅院。 一御巻數。善法寺。

九月大

朔日。辛酉公武拜賀。

大館日記云。公家。大名。外様。御供衆。中次以下出仕。仍御對面。二御所様御對面在レ之。

八日。戊辰巻數。献物如レ例。

大館日記云。御巻數。御香水。八幡社務。 一御巻數。善法寺。 一同上。若王寺。 一鮭二尺。祐乘法印。 一御巻數。六條八幡。 一柿一折。醍醐寶光院。 一栗一籠。八幡社務。 一柿一籠。同人。

九日。己巳重陽賀儀。

大館日記云。公家。外様。御供衆。中次以下出仕。仍御二御所様御對面在レ之。

十日。庚午御身固。

大館日記云。一御身固。在富。

十二日。壬申多田院献二卷數一。佐々木義賢献レ鮭。
大館日記云。一御卷數一合。多田院。　一鮭一尺。佐々木左京太夫。

十三日。癸酉朝倉入道宗淳献二雪魚一。
大館日記云。一初鰹二。朝倉彈正左衛門入道。

十四日。甲戌渡二御鞍馬寺一。○陽明家献物有レ數。
大館日記云。御成。辰刻。鞍馬寺。　一饅頭一折。粟餅一折。御肴臺一。　一御樽十荷。近衛殿。　一三種五荷。圓頓坊。　一御卷數。三種三荷。鞍馬守。

十六日。丙子大般若轉讀。
大館日記云。一大般若經在レ之。　一御祓吉田侍從。　一御卷數。所々。　一御供米。日吉。瓦御子。

十七日。丁丑稲荷社献二卷數一。
大館日記云。一御卷數。稲荷社。

十八日。戊寅諸人献物。○片岡大和守謝二燧袋御免一。献二太刀一。
大館日記云。一椎一折。武田伊豆守。　一鮭一尺。上野民部大輔。　一御卷數。祇園大政所。　一同上。春日御師。　一同上。北野能蔵。　一御太刀一腰。(金。)片岡大和守。(火打袋御免御禮。)

十九日。己卯貞孝献二粟盆籠一。
大館日記云。一御卷數一合。(若公様〈進上之。)伊勢守。

廿二日。壬午東寺献二松茸一。
大館日記云。一御卷數。賀茂。竹内。　一同上。青龍寺。　一松茸之折三合。東寺。(例年。)

廿三日。癸未大光寺献二松笠一。
大館日記云。一松茸一折。大光明寺。

廿四日。甲申觀音寺献二卷數一。
大館日記云。一御卷數。粟生觀音寺。

廿八日。戊子寺社献二卷數一如レ例。
大館日記云。一御卷數。(御二御所様〈。)日吉民部卿。(御二御所様〈參。)日吉民部卿。

廿九日。己丑御身固。卷數如レ恒。
大館日記云。一御身固。御撫物。在富。　一御卷數。所々。　一御卷數。御撫物。勸修寺殿。

十月小



朔日。辛卯公武參賀。
大館日記云。公家。御供衆。申次以下出仕。仍御對面在レ之。　一御祓。祭主。

二日。壬辰坊城長淳卿。牛井宮内大輔參謁。
大館日記云。一參賀。坊城殿。　一牛井宮内大輔。仍御對面在レ之。

四日。甲午結城七郎謝二御作事奉行一。捧二劍於兩御所一。
大館日記云。一御太刀一腰。(金。若公様〈同前。)結城七郎。(御作事奉行被二仰付一御禮。)

五日。乙未御護身卷數如レ例。
大館日記云。一御身固在之。在富。　一疏御銘。薩涼軒。　一御卷數。松梅院。　一同上。三大神。　一同上。五辻長福寺。　一御祓。吉田侍從。　一御卷數。星輪院。

八日。戊戌若王寺献二卷數一。
大館日記云。一御卷數。若王寺。

九日。己亥御嚴重御祝。公武拜受。○諸家献物。
大館日記云。一龍勢三十合。(例年。)善法寺。　一同上廿合。(若公様〈進上之。)同人。　一鮭一尺。金山三郎。　一蓼蕨一折。鰹二。沼田三郎左衛門。　一柿箱。土岐五郎。　一禁裏御殿重參。如二例年一勸修寺殿。　一公家。外様。御供衆。御部屋衆。申次以下出仕。仍御二御所様御對面在レ之。各御殿重項戴如レ例。

十日。庚子御身固。卷數如レ例。
大館日記云。一御身固在レ之。在富。　一御卷數。五辻長福寺。　一同上。[illegible]　一御祓。吉田侍從。

十一月大

朔日。庚申參賀如レ例。
大館日記云。公家。大名。外様。御供衆。申次以下出仕。仍御二御所様御對面在レ之。　一御盃參。　一御祓祭主。

四日。癸亥善法寺献二蘿蔔一。
大館日記云。一大根百把。善法寺。

五日。甲子御身固。卷數如レ恒。
大館日記云。一御身固。在富。　一御卷數。三大神。　一同上。長福寺。　一疏御銘。薩涼軒。　一御卷數。御撫物。御香水。善法寺。　一御祓。吉田侍從。

七日。丙寅僧徒献物。
大館日記云。一御扇竟木。杉原十帖。祐首座。　一蜜柑一折。

鯉一折。鮭一尺。御樽三荷。王藏軒。

八日。丁卯若王子献物。

大館日記云。一御卷數。若王寺。

九日。戊辰御身固。卷數如ノ例。

大館日記云。一御身固。在富。一御被。吉田侍從。一御卷數。所々。

十七日。丙子細川中務大輔晴經謝ニ足袋御免一献ノ物。

大館日記云。一御太刀一腰。(金。御二御所樣。)細川中務大輔。(足袋御免御禮。)

廿七日。丙戌梶井宮參賀。

大館日記云。一參賀。梶井御門跡。一三種三荷。同人候人常本院。麗務按察。一解毒五百粒。(同。)北坊大藏卿。一解毒三百粒。(若公樣へ進上之。)板坂法眼。仍御對面在ノ之。

十二月小

朔日。庚寅公武拜賀。

大館日記云。公家。大名。御供衆。中次以下出仕。仍御兩御所樣御對面在ノ之。一御被。祭主。

二日。辛卯仁木右馬頭出仕。

大館日記云。出仕。仁木右馬頭。仍若公樣御對面在ノ之。

三日。壬辰淨土寺宮謁見。

大館日記云。一折五合。御樽五荷。淨土寺殿。(初而御參賀。)仍御對面在ノ之。一御太刀一腰。(持。)淨土寺殿。一御扇一本。杉原十帖。天龍寺。仍御對面在ノ之。一御扇一本。杉原十帖。天龍寺。仍御對面在ノ之。畠山中務少輔。使僧中隆寺。

四日。癸巳本郷與三郎献ノ刀。奉ノ謝ニ足袋御免ニ。○畠山播磨守晴熙叙ニ從五位下ニ。任ニ伊豫守ニ。

大館日記云。一御太刀一腰(金。)本郷與三郎。(足袋免許御禮。)

歴名土代云。從五位下。畠山播磨守源晴熙。天文十四十二四。同伊豫守。

五日。甲午卷數護身如ノ例。

大館日記云。一疏御銘。薩涼軒。一御卷數。所々。一御身固。(在富。有修。)一御卷數。三大神御師。一御表。玉串。御被。吉田。一御卷數。御香水。御撫物。善法寺。

六日。乙未御身固如ノ例。

大館日記云。一御身固。(在富。有修。)

八日。丁酉卷數香水進献。

大館日記云。一御卷數。若王子。一御香水。善法寺。



十日。己亥護身如ノ例。

大館日記云。一御身固。(在富。有修。)一御卷數。御香水。善法寺。一同上。長福寺。

十一日。庚子富永五郎出仕。

大館日記云。一御太刀一腰。(持。)富永五郎。(初而出仕之御禮。)仍大御所樣御對面在ノ之。

十二日。辛丑多田院献ニ卷數一。

大館日記云。一御卷數。多田院。

十四日。癸卯廣橋兼秀卿奉謁。

大館日記云。一廣橋殿。(傳奏。)一御扇一本。引合十帖。理性院。仍御對面在ノ之。

十七日。丙午善法寺謝ニ社務一。献ニ物兩御所一。

大館日記云。一御卷數。三非寺光淨院。一御卷數。御太刀一腰。御馬一疋。善法寺。(就ニ社務職被ニ仰付一之御禮。)一同上。(若公樣へ進上之。)同人。仍御對面在ノ之。

廿日。己酉御身固。

大館日記云。一御身固在ノ之。在富。

廿二日。辛亥畠山左衛門佐義續謝ノ繼ノ家献物。其餘献物不ノ一。

大館日記云。一御太刀一腰。(一文字。)御馬一疋。(河原毛。)万疋。畠山左衛門殿。(代替之御禮。)一御太刀一腰。(行平。)御馬一疋(栗毛。若公樣へ進上之。)同人。一御扇一本。杉原十帖。畠山使僧自分御禮。盛神院。一同上。(若公進上之。)同人。仍御二御所樣御對面在之。一御太刀一腰。(持。)白馬一。鯛一折。熨斗鮑千本。御樽五荷。本願寺雜掌平野左衛門尉。一御太刀一腰。於ニ庭上一。同人。一御撫物在之。進士九郎。(懸ニ御目一御禮。)

廿四日。癸丑水主兵庫助献物。

大館日記云。一蕎薯堅立。水主兵庫助。(係年。)

廿五日。甲寅献物如ノ例。

大館日記云。一御卷數。五辻長福寺。一同上。御鷹別當。一御香水。八幡王藏軒。一小餅。白木。(若公樣へも進上之。)荒川又三郎。

廿六日。乙卯宇治大路越中守献物。遍照心院奉謁。

大館日記云。一御身固。在富。一御卷數。遍照心院。仍御對面在ノ之。一納豆五十。星輪院。一御星御卷數。積善院。一同上。若王子。(若公樣へも進上之。)一同上。眞性院。一同上。實相院御門跡。一御太刀一腰。(金。)沼部竹千世。一出仕。宇治大路越中守。一御卷數。所々。一御卷數。實

寺。

廿七日。丙辰自梅尾高山寺獻卷數。

高山寺日記云。十二月廿七日。公方樣（御卷數進上。大御所樣）一枝。若君樣（一枝。（花ナリ。）寺奉行）薪二荷。卷數。狀アリ。左將監ニ一荷。折紙有レ之。御屋形（卷數一枝。飯尾兵部）薪一荷。卷數。狀アリ。

不動供所

奉レ供

供養法廿一ヶ座

奉念

佛眼眞言二百二十一遍

大白眞言二千一百遍

本尊慈救呪二万一千遍

同火界呪二百二十一遍

降三世眞言二百二十一遍

軍荼利眞言二百二十一遍

大威德眞言二百二十一遍

金剛夜叉眞言二百二十一遍

一字金輪眞言二千一百遍

右奉爲護持大施主殿下御武運長久御願成就。一七ヶ日夜之間。所レ奉ニ勤修一如レ件。仍勤ニ遍數一謹解。

天文十四年十二月廿七日　梅尾寺僧

廿八日。丁巳諸所卷數獻上。○飛鳥井中將雅春獻レ鷹。

大館日記云。一御卷數。智惠光院。一同上。性久寺。一同上。戒光院。一同上。河原院。一同上。三輻寺。一同上。清和院。一同上。三條八幡宮。一御卷數。慈心院。一同上。圓福寺。一同上。八幡善法寺。一同上。眞如堂。一兄鷹一居。飛鳥井中將殿。仍御對面在レ之。一御太刀一腰。飛鳥井殿鷹匠ニ被レ下之。

廿九日。戊午歲暮賀謁。田村孫三郎初見。獻物不レ一。

大館日記云。一御身固在レ之。（御兩御所樣。）在富。一公家。大名。外樣。御供衆。中次以下出仕。仍御對面在レ之。一御卷數。御撫物。勤修寺殿。一御被。（若公樣（も進上之。）祭主。一御香水。因幡堂。一御卷數。所々。一御きつちやう玉。日野殿。（例年。）一御扇十本。右京大夫殿。御一白鳥一。雁二。鯉二。鮭二尺。海老一折。一炭十荷。同。（例年。）一雁一。鯛一折。大館左衞門佐。一鯛一折。蛤一折。畠山上野介。一雁一。鯛一折。海老一折。伊勢守。一參賀。相恩寺。一同上。鹿苑院。一御太刀一腰。（金。若公樣（も進上之。）



田村孫三郎。（始而出仕御禮。）仍御對面在レ之。一御筆五對。

祐永。（御太刀被レ下之。）一同上。福藤。（御太刀被レ下之。）

是年。天下飢饉。

會津四家合考云。夏蝗食レ稻。天下飢饉。

# 後鑑卷之三百十六

義晴將軍記第廿六　起ニ天文十五年正月一訖ニ十二月一

天文十五年丙子

正月大

七日。乙丑此日。於ニ關東一。千葉介昌胤卒。

千葉系圖云。昌胤。千葉介勝胤子。千葉介。天文十五年正月七日卒。年五十一。法名常天。法阿彌陀佛。

十五日。癸酉若公御參內。

御湯殿上日記云。室町殿若君御參內あり。前關白も御參あり。御盃年々のとく參る。御ひらざやまいる。供御の御陪膳三條大納言。若君前關白（の御陪膳飛鳥井中將。庭田右衞門佐。御參內申沙汰。傳奏廣橋大納言也。

二月小

七日。乙未自ニ今日一。於ニ南都興福寺一有ニ薪能一。

筒井家記云。二月七日ヨリ興福寺薪ノ御能アリ。順昭林小路別業ニ止宿シテ勤役アリ。

十三日。辛丑內裡申樂。

御湯殿上日記云。猿樂。武家より六角又仰付られて。近江の勢田の山岡大ゆふにて十三番能させらるゝ。

廿三日。辛亥就ニ御元服用脚事一。奉行入傳ニ仰於松田丹後守晴秀一。

伊勢家書戰。

御元服要脚越前國段錢事。爲ニ使節一。令ニ下向一。守ニ事書之旨一。守護使相共相ニ懸之一。來六月中。殿密可レ被レ致ニ執沙汰一之由。所レ被ニ仰下一也。仍執達如レ件。

天文十五年二月廿三日　摺部助

大和守

前丹後守

攝津守

松田對馬守殿

御元服要脚越前國段錢事。（天文十五二廿三）

次此要脚被レ付□訖。早除ニ三社領。北野社領井諸五山諸塔頭。等持寺。等持院領以下先々免除京濟地。令ニ支配一候。段別

五十文宛於二公田米一。六月中可レ被二究濟一之。若有二離澁之輩一者。爲レ被二罪科一。云三在所一云三領主一。交名可レ被二注申一之。

三月小

三日。庚申内裡鬪雞。細川晴元參候。

御湯殿上日記云。御鶏合いつもの如し。右京大夫鶏あまた持て參て。合せに見參に入らるゝ。小御所の御冠見參らせ度由。ほうにへ下さる。各一首づゝ仕度由申されて。御題を出さるる。忝由。

十日。丁卯陸奥黑川稙國叙二從五位下一。○此日。於二鎮西一。龍造寺山城守家兼卒。

歴名土代云。從五位下。源稙國。天文十五三十。

歴代鎮西要略云。春三月十日前山城守藤原朝臣龍造寺家兼卒。行年九十三云々。法名剛忠淨金居士也。

廿九日。丙戌細川晴元献二物内裡一。

御湯殿上日記云。右京大夫折廿合ゐて進上申。武家より伊勢守添られける。

四月大

十六日。壬寅月蝕。

御湯殿上日記云。月蝕にて御つゝしみあり。

廿五日。辛亥雨霰。

長享以後畿内兵亂記云。四月廿五日霰降。

五月小

五日。辛酉被レ献二藥玉於内裡一。

御湯殿上日記云。室町殿より御藥玉參るゝ。御使廣ばし。

八日。甲子被レ献二新瓜於内裡一。

御湯殿上日記云。室町殿より初うり參る。

十二日。戊辰此日。於二下野國五月女坂一。那須高資與二宇都宮俊綱一合戰。

那須記云。宇都宮下野守俊綱は二千計にて。喜連川五月雨乙女塚に陣しける。那須政資が家督太郎高資三百餘にて烏山を出馬し。天文十五年丙午五月十二日辰刻俊綱と矢合始り。後には入亂れ戰ひける。俊綱は伊王野にて鮎瀬助右衛門に討殺され終に敗軍す。然るに笠間が家人主に暇を乞て云。俊綱已に討れ給ふ。然處に笠間衆不レ殘手を空くして引退かん事。後代の恥たるべし。我一人戰死をとげ。永々笠間の家を清めんとて。轡を返し那須の陣中へかけ入。敵三騎と力戰し一騎を切て落し。討死し名を惜ぬ。斯て五月雨乙女塚に。俊綱の石塔を建ける。

大關家譜云。美作守高增。天文十五丙午年五月三日。於二下野國喜連川五月女坂一。那須修理大夫高資。與二宇都宮左衛門尉俊綱一合戰之節。高增以二下知一。速切崩得二勝利一。俊綱討取申候。

宇都宮系圖云。尙綱。下野守與綱子。從五位下。下野守。侍從。左衛門彌三郎。始俊綱。母小田濃岐守氏治女。天文十四年乙巳十月四日於二喜連川一。與二那須一一戰。芳賀對二與綱一而叛逆之事。依二不義之疑一。遂追討之。芳賀高經被レ捕。於二小田一繫レ獄。遂誅レ之。二男二郎於二宇都宮一繫レ獄。三年而遂誅レ之。三男沙彌出レ奔奥州白河一。其後經二十二年一。賴二於那須高資一。於二喜連川一合戰。天文十八年己酉九月廿七日。同所於二五月女坂一戰死。三十七歳。法名悅山長喜。

君島系圖云。廣胤。備中守胤家子。母玉生美濃守高宗女。天文十八年己酉九月廿七日那須合戰之時。於二五月女坂一討死。于レ時年三十三歳。法名道榮居士。

六月大

廿四日。己酉武田元光献二海松於内裡一。

御湯殿上日記云。武田海松進上する。

七月小

十五日。庚午被レ献二燈籠於内裡一。

御湯殿上日記云。武家より御とうろう參る。○十六日條云。とうろうの御返しどもあり。

十七日。壬申此日。於二近江一。淺井備前守亮政卒。

淺井系圖云。亮政。新次郎賢政二子。新三。次郎。備前守。永正四年十三歳。而仕二上坂治部大輔平泰貞一爲二侍臣一。天文十五年七月十七日卒。年五十二。法名敎外寺英徹高月。

廿七日。壬午若君御叙爵。奉レ稱二義藤一。

足利家官位記云。光源院殿。天文十五年七月廿七日叙爵。于レ時義藤。(十一歳。)

公卿補任云。源義藤。天文十五七廿七。從五下。(十一歳。)

歴名土代云。從五位下。源義藤。天文十五七廿七。十一歳。

御湯殿上日記云。室町殿若君叙爵申さるゝ。陣の儀あり。叙爵申さるゝ御禮に。御馬御太刀參る。若君より御馬御太刀度度に三度參る。夜の明方參る。

八月大

朔日。乙卯八朔儀物進献。

御湯殿上日記云。室町殿より御馬御太刀參る。若君よりも御馬御太刀參る。御返しども年々のとくめてたし〳〵。

十八日。壬寅細川晴元出二陣嵯峨一。

長享年後畿内兵亂記云。八月十八日右京兆晴元於二嵯峨一出

陣。

廿日。甲辰遊佐河内守長敎援ニ細川氏綱。氏綱出ニ陣堺浦。三好範長退レ兵。

細川兩家記云。十五年丙午夏の比より。畠山方の遊佐河内守氏綱を世に立申べき內議評定也。壁に耳岩のものいふ習なれば晴元へもれ聞。三好筑前守に被ニ仰出一。同八月十六日に人數境へ入られければ。則廿日に氏綱衆河內衆推入ければ。三好方は當時無人數也ければ。境合合衆曖にて三好方引退也。然ば大兵亂出來する也。則阿波讃坡淡路國へ注進ありければ。安宅方淡路國催候て上られける。十河民部大輔催して上られける。

興福寺略年代記云。細川氏綱出張。八月十九日河內へ被ニ取出一了。遊佐同心。廿日筒井與力衆被レ立。堺ノ東金田ニ陣取云々。天王寺山中ノ城ヲ持和泉堺ニ陣取。四國衆三好以下堺ヲ退。

大日本傳皇代記云。八月十九日氏綱高野ヨリ出陣。同廿日堺へ取出。河州兩方人數三万餘騎。

廿四日。戊申十合十荷內献。

御湯殿上日記云。武家より十合十か參る。

九月大

三日。丁巳攝州諸將多降。氏綱天王寺城開退。

細川兩家記。然るに晴元方に山中又三郎。天王寺大藤へ城搆て籠けるを。河內衆打立て攻候得ば難儀に成間。三好方同宗三衆淡洲衆かの城の後詰の爲。九月朔日に中島へ打渡。同三日に少々渡邊川を渡る處に。攝州上下の國衆三宅出羽守。池田筑後守初て悉氏綱へ歸參の儀。遊佐河內守相談て使を立られければ。川をこさずして諸人外方なき次第也。然ば天王寺城曖に成て明渡也。かゝりける處に伊丹次郎親興計。三好方へ一味の返事也。病人の藥を得たるごとく也と諸人申ける也。然ば其後晴元伊丹へ御入陣の時。今度の忠節に伊丹親興を賞に兵庫になされ。また曉に大和守になされける。先代未聞面目うらやまざる人はなかりけり。

興福寺略年代記云。河內衆玄蕃頭被ニ打入一。曖ニテ山中城九月四日迦。同中島三好宗三父子ハヅシ畢。

十日。甲子三好勢攻ニ池田城一。

細川兩家記云。然ば中島より諸勢同十日に尼崎へ打歸られける。則その日池田へ取懸。四の口より一番に三好加助入らるゝ。二番に淡路衆伊丹衆入らるゝ。則市庭を放火する也。合戰あり。池田衆十餘人討死也。寄手も七人討死す。先々尼崎へ打歸られける。

十三日。丁卯依ニ敵兵入洛一。將軍家令レ遜ニ坂本一給。

興福寺略年代記云。九月十三日京都へ。典厩玄蕃頭入洛。公方樣東山へ御退。御勢二千許。江州長原三千計ニテ御迎ニ參ニ戸津。坂本ニ陣取。細川嵯峨ヨリ高雄へ被レ迦了。大和衆一條ニ着陣。ヤガテ玄蕃頭以下淀へ陣替。

長享年後畿內兵亂記云。九月十三日河內勢衆同上玄蕃頭亂ニ入于洛中一。即同十四日嵯峨取懸。同十五日三好宗三高尾着陣。同十六日丹波江晴元御供。

十八日。壬申細川氏綱。遊佐長敎等攻ニ芥川城一。

足利季世記云。同九月畠山遊佐河內守。細川氏綱衆芥田川城ヲ攻ラルルニ。三好神五郎入道宗三丹波衆ヲ催シ。後詰ノタメ發同シ。畠山衆三木內匠ト名ノリ。一番ニ突テ出。宗三衆押マクリ切カヽル間。丹波衆宗三衆打負。七十人打死シ引返ス。同日曖有テ宗三モ歸リ。河內衆モ高屋へ返リケルカ。同十九日廿日ニ利倉原田ノ邊マデ下リケレドモ雜說アリ。一戰ニモ不レ及河內へ引返シケル。其頃氏綱ハ遊佐ヲ賴ミ河內ニアリ。故高國ト一所ニ打レシ細川和泉守護ノ子新和泉守モ。氏綱ニ力ヲ合セ高屋へ來リケルカ病死シケルカ。男子ナクシテ。畠山政國ノ弟ヲ遊佐ガハカラヒトシテ。彼ノ和泉守ガ聟トシテ名字ナツガセ。所領ヲ安堵シ細川刑部大輔ト號ス。

興福寺略年代記云。九月十八日芥河城ヲ河內衆攻了。晴元後攻一万計ニテ取籠。河內衆。主殿介。三實院以下合戰。晴元衆切負。侍分ノ頸五百餘。其外切捨八千計。芥河。伊丹以下降參。

皇代記云。九月七日山中城落。同十七八日芥川合戰。朝ノ合戰ニ河州衆五十計死ス。日中又丹波衆二百程死ス。宗三父子手負逃。九月廿日阿波衆上洛。

遊佐河內守贈ニ大館左衞門佐一書云。從ニ大學寺御門主樣一被レ成ニ下御書一候。誠過分至極。於ニ殿中一連々御執合之由。恐悦之至候。殊今度之題目。被レ成ニ御馳走一趣。委細蒙レ仰候。長存候。乍ニ憚御報申入候。宜樣御取成所望候。仍於ニ芥河一合戰之事。先日致ニ注進一候キ。双方討死之躰。以ニ交名一可レ致ニ言上一之由候。但文字不分明候間。到來頸數計相調。松璽齋上洛時可ニ申上一候。此方討死面々之事者。名字相記差上可レ申候。若猶共候之間。御披露之儀者用捨肝要候。可レ得ニ御意一候。恐惶謹言。九月二十五日。長敎判。

十月大

三日。丁亥勅使來賜ニ玄猪祝一。

御湯殿上日記云。武家へ御玄猪の御使。勸修寺。

七日。辛卯洛中騷擾。

御湯殿上日記云。一揆ども訴訟を申て物忿。是非もなき事にて。外様内々の輩も悉く祗候あり。

八日。壬辰從二此日一警二衛内裡一。

御湯殿上日記云。武家より御警衛參りて。あなたこなたより。御番衆ども參る。○九日條云。今夜も武家より御けいご參る。

十五日。己亥賜二玄猪一如二往日一。

御湯殿上日記云。武家へ御玄猪參る。御使頭辨。

廿二日。丙午三好豐前守參洛。

細川兩家記云。十月廿二日讃州三好豐前守上洛の上は。四國はことゝく上洛なり。則堺へ渡海あり。河内へ手遣也。其勢二万餘騎と申也。その年とかくして暮ければ。先河内はうち置。播州の諸城責べきと談合あり。

廿七日。辛亥玄猪如レ例。

御湯殿上日記云。武家へ御玄猪參る。御使勸修寺。

是月。於二關東一上杉憲政與二武田晴信一合戰。於二笛吹峠一憲政敗走。

關東管領記云。天文十五年十月上旬上杉憲政龍臣倉賀野六郎秀景爲二軍將一。上州ノ軍兵上田又次郎。三田五郎左衛門。小石。白井。深谷。前橋。新田。松枝。和田。沼田。安中。五竿長根。白倉ノ面々十八組。人數都合二万餘人信州へ相働ク。是甲州ノ武田太郎晴信今度川越合戰ノ節。古河御所御催促。並憲政ヨリ被二相觸一トイヘドモ。爲二加勢一不レ出二人數一。公方管領ノ御下知ヲ背ク儀不屆ノ間。爲二誅伐一被レ差二向討手諸勢一ト云云。是併其比晴信愛二癈病一難二出馬一ノ由風聞ニ依テ。上杉勢甲州信州へ相働キ。領地ヲ掠メトリ威勢ヲ顯シ。去比川越ノ負軍先敗ノ耻辱ヲ洗ント思フガ故ニ相企ル者也。然レバ即チ同月五日右件ノ上杉勢。上野信濃ノ境笛吹峠ニ到ル處。晴信分國甲州信州ノ人數ヲ催シ。當所ニ出向テ翌六日遂ニ合戰。上杉方悉ク敗北シ晴信得二勝利一。討捕首數四千餘級ト云云。今度諸勢進發ノ儀不了簡ノ由。憲政長臣長野信濃守業正先立テ難レ加二諫言一。三田上田等不レ用レ之。今及二敗軍一。是甚ダ比興ノ儀也ト。諸人嘲ルト云々。

十一月小

十八日。壬申奉行人建二上京室町制札一。

古文書

禁制（上京室町頭室町）

一寄宿事。

一相二懸非分課役一事。

右條々堅被二停止一訖。若有二違犯輩一者。可レ被レ處二殿科一之由。所レ被二仰下一也。仍如レ件。

天文十五年十一月十八日

對馬守平朝臣判

大藏丞藤原　判

十九日。癸酉義藤朝臣叙二正五位下一。任二左馬頭一給。

足利家官位記云。十一月十九日。叙二正五位下一。（越階。）同日任二左馬頭一。

歴名土代云。正五位下。源義藤。天文十五十一十九。（越階。）同日左馬頭。十一歳。

御湯殿上日記云。武家の若公左馬頭正五下の事。一おつかいなり。めでたき由申されて。此御所よりしろ御たち。武家へも若君へも參らるゝ。武家よりも若公よりも御馬御太刀參る。武家よりこん料三百疋參る。

是月。以二佐々木彈正少弼定頼一爲二官領代一。被レ命二御元服加冠役一。

足利季世記云。京公方義晴公御子御歳今年十一歳ニテ御元服アリテ。御家督御相續アルベシトテ。天文十五年十一月中旬ニ御沙汰アリ。加冠ノ役ハ代々三管領ノ中當職ノ役ナレドモ。今細川畠山最中ニテムツユンノ寂中ナリ。若輩ナリ微力ナリ。旁御請難レ申カルベシ。幸ニ佐々木彈正少弼定頼宿老ト云大名ナリ。最其仁ニ相當レリ。則管領代ニ比シ。勤仕可レ申旨再三被二仰付一ケル。定頼大ニ恐レ辭退被レ申ケレモ。シキリニ被二仰付一間。且ハ家ノ面目ナリトテ御請ヲソ被レ申ケル。

十二月大

十六日。己亥以二日吉樹下宅一爲二假御所一。六角定頼父子奉迎。

足利季世記云。日吉ノ樹下成保ノ宅。昔ハ皇居ノ例有トテ御殿ニ被レ用。十二月九日定頼ヨリ進藤山城守貞治ヲ差上普請アリ。數十箇年破壞シケルヲ不日修造アリテ。同月十六日定頼父子舟ニテ樹下ヘ參リ被レ奉レ待。御門役ハ目賀田次郎左衛門也。妙見寺前ヨリ辻固有。定頼ノ家老楢崎太郎左衛門。三上彌三郎。三雲左衛門。蒲生下野守勤仕シケル。

光源院殿御元服記云。樹下成保者。日吉社職者也。彼宅數十年難三破壞而無二正體一。昔日被レ成二皇居一例有レ之。一同十二月九日。定頼俄差二遣進藤山城守一。御作事被二仰付一。同十八日彼宅江可レ有二御成一云々。一同十二月十六日定頼義賢被

レ渡レ湖。於二樹下宅一被レ奉二待向一也。御門番固役目賀田次郎左衛門。辻堅同年寄檜崎太郎左衛門。三上孫三郎。三雲新左衛門。蒲生下野守令二勤仕一候事。

十七日。庚子佐々木彈正少弼源定賴叙二從四位下一。

歴名土代云。從四位下。源定賴。天文十五十二十七。

十八日。辛丑若公及大御所自二東山慈照寺一渡二御假御所一。

足利季世記云。未明二御迎一。定賴ノ一族佐々木越中刑部大輔孝俊。田中四郎兵衛賴長。東山慈照寺マデ千六百餘人引卒シテ參リ向フ。則同日巳刻東山慈照寺ヨリ御成アリ。淨土寺ヨリ南若王子ノ前ヲ南ヘ。南禪寺内ヨリ粟田口ヲ日ノ岡花山ヨリ。本願寺屋敷ノ丑寅ヲ東小山前大津ヘ御成。礒ヅタヒニ坂本四屋ヱ御成。十津ノ内兩社ヲノボリヘ。ツクリ道ヲ北ヘ。梅辻ヨリ樹下ノ宅ヘ。申刻二御下著アリ。御先ヘ御物奉行トノ伊勢守ノ被官蜷川新右衛門。三上與二郎等馬上ニテ弓ヲ持。ウツボヲ付。ハリカヘヲ持セケル。若君樣ハ御板輿。御縫物ノ御服メシテ。ウゲンノ下計ニ。御クシハサゲラルル。金ノ御基結ナリ。御簾ヲアゲラレ。見物上下ヲガミ申ス。大館左衛門佐晴光。朽木民部少輔稙綱。伊勢守貞孝。御同朋孝阿彌騎馬ニテ御供ナリ。次ニ藤中納言殿御供。其次ハ御走衆ナリ。其次御父公方樣。御肩衣袴ニテ御馬打ナリ。上野民部大輔信孝御劍ノ役。細川中務大輔晴經。大館治部大輔晴忠。御同朋春阿。各上下小袴。騎馬ニテ御供也。御走衆十人。其次ニカヘノ御輿ヲ通ス。御臺所。姫君樣。其外御供女中皆御輿也。巳上十二丁トキコエシ。サテ六角父子門外マデ祗候シ奉入。

光源院殿御元服記云。十二月十八日辛丑。公方樣幷若君從二東山慈照寺一。到二坂本一御成。于レ時巳刻也。爲二御迎一佐々木刑部大輔。同四郎兵衛尉。同日未明到二于東山一參向。一同日御先一番。御物奉行蜷川親俊。三上秀長各馬上。弓持。靱負。幷張替令レ爲レ持畢。行列嚴重云々。本關道逢坂也。一同日若君御先江御成也。御服縫物。御長絹。下計也。御下髮幷御本結金色也。被レ召二板輿一。被レ卷二揚御簾一事。御見物同前也。一御供衆三騎次第。大館左衛門佐晴光御劍役。但被レ納二御輿一也云々。著二足半一而御供也。朽木民部少輔稙綱弓持靱負。(貞孝)畜而供奉。伊勢守貞孝同レ之。三騎共張替被レ爲レ持之。(貞孝弓袋赤色云々。)皆々赤色琵鞍覆。白傘袋幷御同朋孝阿彌也。四人トモニ肩衣袴著レ之。其次藤中納言殿御參也。一若君樣御走衆六人。圖次第本江宮内少輔信富。杉原兵庫助晴盛。進士修理亮晴盛。沼田三郎左衛門尉光兼。安威美作守光備。飯河山城守信堅。帶刀。肩衣。四布袴。脚半著之。御小者六人。裝束同レ之。其次公方家御成也。御裝束者。御肩衣。御袴。褐色織筋御小袖也。御馬大黑毛。一御供衆三騎次第。上野民部大輔信孝御劍役。但帶二右方一云々。乘二栗毛馬一。著二足半一。御供也。細川中務大輔晴經。弓持靱負乘二青毛馬一。畜而供奉。大館治部大輔晴忠同レ之。但乘二鹿毛馬一云々。三騎共赤毛琵鞍覆。白傘袋。被レ爲レ持二張替一。御劍役者計。ユガケサヽレズ。幷御同朋孝阿彌供奉。四人共肩衣。小袴。取二返股立一云々。一公方御走衆十人。圖次第。伊勢肥前守盛正。伊勢次郎左衛門尉貞清。千秋刑部少輔晴季。石谷兵部大輔光政。海老名刑部大輔賴重。狩野孫三郎光茂。矢島次郎定行。眞下彌太郎晴弼。大和小三郎□。彦部雅樂頭晴直。各帶刀肩衣。四布袴著レ之。御小者六人。此内一人持二御弓一。一人著二御靱一。但虎皮云云。一人持二御張替一。但御弓袋白色云々。御力者持二御長刀一。御乘替馬小鞦毛。掛二鞍蓋一。御先引レ之。口付御厩者肩二掛替之御轡一。供奉云々。一御臺所幷姫君兩御所。其外女房衆御輿都合十二丁。皆被レ掛二下簾一。御跡御下向。一其跡御迎警固兩人。高島佐々木一類。越中刑部大輔孝俊。弓百二十張。太刀帶百人。馬上主從三騎。鎗二百本。人數以上千餘人。田中四郎兵衛尉賴長。弓百八十張。太刀帶六十人。馬上主從二騎。鎗百五本。人數以上六百餘人。裝束袖細革袴行列。一御成道路。從二淨土寺一南行。到二若王寺前一。從二若王寺前一南行。到二南禪寺一。時御下馬有レ之。從二日岡花山一。過二本願寺屋敷巽方一。到二東小山前一。到二大津一。於二新羅明神前一御下馬有レ之。從レ其礒傳到二坂本四屋一。登二戸津内兩社一。到二作道一北行。從二梅辻一著二御樹下宅一。于レ時申刻也。從二妙顯寺前一辻堅有レ之。其人數目賀多樹崎。三上。三雲。蒲生等。皆是定賴家老也。定賴父子御門外伺公。即參向。御盃頂戴。三盃賜レ之云々。一三寶院殿山科表御出向。附二御跡一被二參上一。先于是二同月十六日聖護院殿。(道增。)十七日近衛殿。(稙家。)到二坂本一御參向。一樹下宅著御以後。定賴被レ任二四品一。爲二其御使一。伊勢守貞孝被レ參二向定賴旅宿一。

十九日。壬寅義藤朝臣御元服。加冠六角定賴。理髮細川中務大輔晴經役レ之。

足利季世記云。同十九日御元服アリ。戌刻ニ被レ定。御名乘義藤。後ニ被レ改二義輝一。御加冠ハ彈正少弼定賴。今度御役勤仕ニヨリテ四品ニ被レ叙。面目身ニアマリテ見エシ。御理髮ハ細川中務大輔晴經ナリ。是ハ代々此役勤仕ノ家也。惣奉行摂津守元造。御元服奉行松田丹後守晴秀。飯尾大和守堯連也。定賴朝臣ヨリ。御馬。御弓。御征矢。御鎧。沙金等進上アリ。

光源院殿御元服記云。後奈良院天文十五(丙午)歳十二月十九(壬寅)日。於二坂本樹下宅一。公方左馬頭義藤朝臣。(後被レ號二義輝一。)御元服之次第。　役者之定。一御元服惣奉行摂